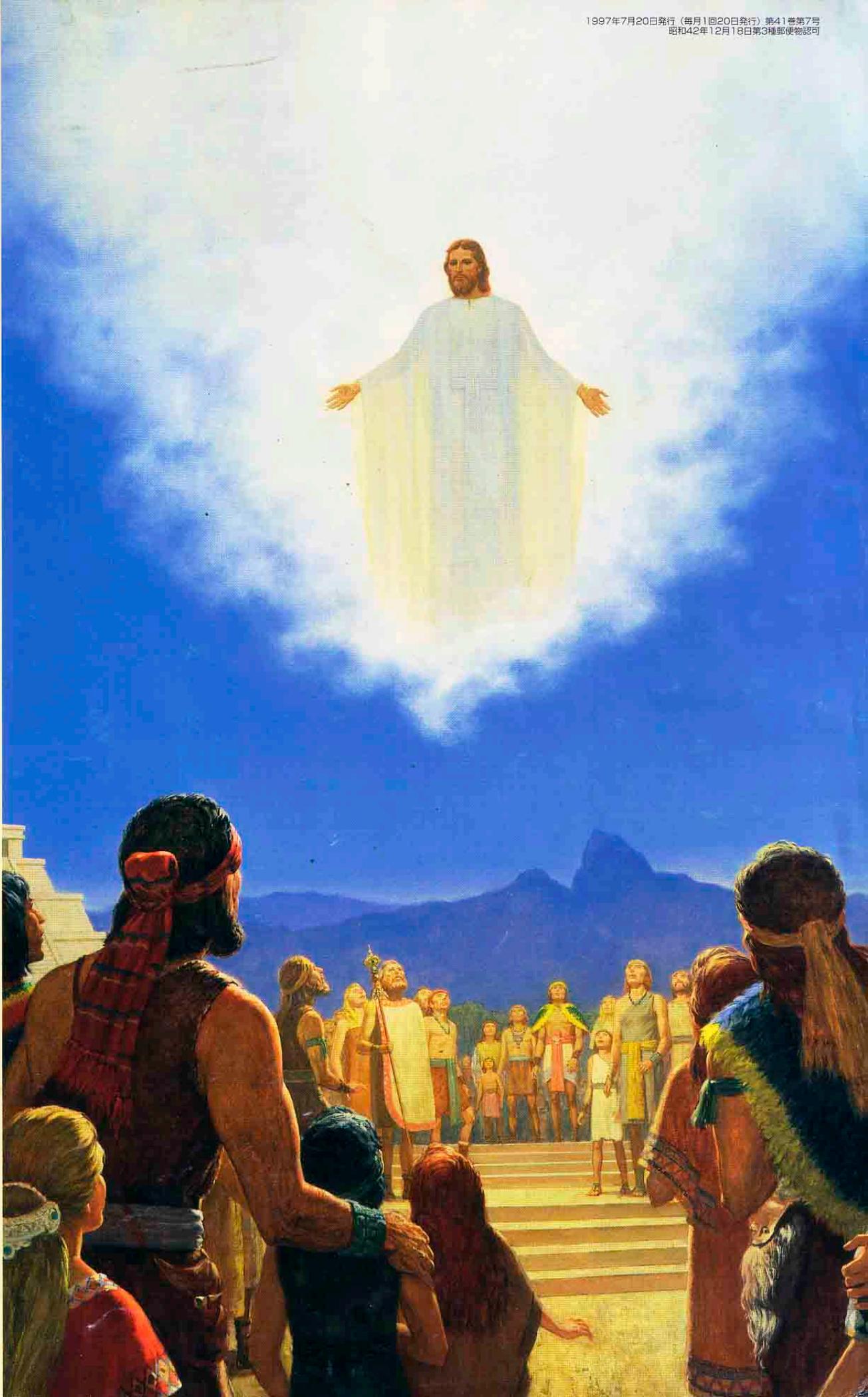


聖徒の道

7
1997

第167回
年次総大会報告

末日聖徒イエス・キリスト教会



十二使徒定員会



前列左から、ボイド・K・バックー十二使徒定員会会長代理、L・トム・ベリー長老、デビッド・B・ヘイト長老、ニール・A・マックスウェル長老。
後列左から、ラッセル・M・ネルソン長老、ダリン・H・オークス長老、M・ラッセル・バラード長老、ジョセフ・B・ワースリン長老、リチャード・G・スコット長老、
ロバート・D・ヘイルズ長老、ジェフリー・R・ホランド長老、ヘンリー・B・アイリング長老 (写真撮影/ジェド・クラーク)。

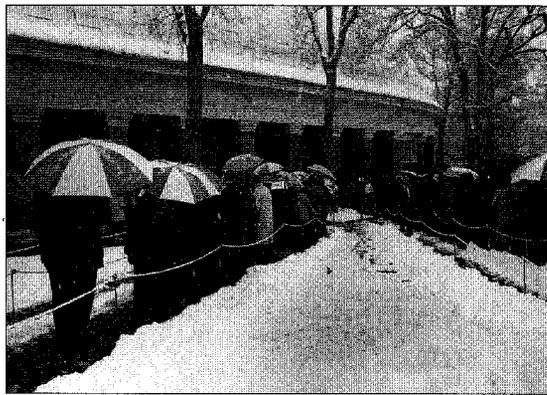
末日聖徒イエス・キリスト教会 第167回年次総大会報告

1997年4月5、6の両日、
ユタ州ソルトレーク・シティー、
テンプルスクウェアのタバナクルにおいて開かれた
年次総大会の説教とその模様

4月に開かれた年次総大会を通じての最大のテーマは「開拓者」であった。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は、日曜日午前の部会で次のように語った。「先人たちが成し遂げたことの偉大さとその意義について皆さんにお話ししたいと思います。……

主の導きの御手、また主の御声に耳を傾ける預言者の存在、自分の命よりもこの大義を愛した無数の聖徒の絶対的献身などを今に伝える大いなる受け継ぎにあずかれるというのは実に素晴らしいことです。この7月には何百万人もの教会員が、彼らに深く思いをはせ、その素晴らしい業績をたたえ、彼らが築いた土台の上に成し遂げられてきた奇跡的な成長を祝うことになると思いますが、それは少しも不思議なことではありません。……

1997年の今日、わたしたちの前途には未来が待ち受けています。……わたしたちは教育のための素晴らしい施設も持っています。家族の歴史についても膨大な量の財産があります。何千という礼拝堂もあります。様々な国の政府関係の方々もわたしたちに敬意と好意を示してくれています。メディアの扱い方も好意的です。このように今わ



たしたちは、好機に恵まれたすばらしい時期にいるのです。」

トーマス・S・モンソン第一副管長は日曜日午前の部会で、モーセ、ルツ、バプテスマのヨハネ、預言者ジョセフ・スミスなどの名前を挙げながら、開拓者と呼ばれるに値する人々について話した。

「聖文の歴史を最初から最後まで読み通すと、究極の開拓者、すなわち、イエス・キリストについて学ぶことができます。……主の伝道、人々の間で行われた教導の業、真理の教え、慈悲に満ちた行い、わたしたちに対する不変の愛について考えるとき、わたしたちの心は感謝の念で満たされ、心が熱くなります。世の救い主であるイエス・キリストは、神の御子であり、昔

も今も、究極の開拓者です。イエスが人々に先立って行かれ、ほかのすべての人たちに従うべき道を示されたからです。」モンソン副管長はそう語った。

ジェームズ・E・ファウスト第二副管長は、土曜日午前の部会で次のように述べた。「1846年2月3日、イリノイ州ノーブーが厳しい寒さに見舞われたその日、ブリガム・ヤング大管長は、日記にこう書きました。『もう儀式は行わないとわたしが発表したにもかかわらず、主の宮は一日中人でいっぱいであった。……』

こうして、神殿の業は午前1時半まで行われました。……ブリガム・ヤング大管長と開拓者たちがノーブーを去るとき、神殿の祝福を最後まで切に求めたのはこのためです。グレート・ソルトレーク盆地にたどり着いたヤング大管長が、神殿を建設して儀式を行うことにより、神の子供たちに永遠の祝福を再び得させたいと考えたのも、同じ理由からでした。

神殿を建設して礼拝するという究極の目的があったからこそ、開拓者たちは西部の辺境の不毛の地へと驚くべき移住をしたとき、進んで多くの苦難を受け、堪え忍んだのです。」——編集部

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語。季刊——チェコ語、ブルガリア語、ハンガリー語、アイスランド語、ロシア語。

大管長会: ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会: ボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オックス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング
編集長: ジャック・H・ゴズリンド
顧問: L・ライオネル・ケンドリック、ウィリアム・ロルフ・カー

教科課程管理部責任者
 実務部長: ロナルド・L・ナイトン
 企画・編集ディレクター: プライアン・K・ケリー
 グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイ
 ボーグ

国際機関誌スタッフ
 編集主幹: マービン・K・ガードナー
 編集主幹補佐: R・バル・ジョンソン
 編集副主幹: デビッド・ミッチェル、ティエーン・ウォーカー
 編集補佐: ジェニファー・グリーン・ウッド
 工程管理: メアリーアン・マーティンデール
 出版補佐: ベス・デーリー

デザインスタッフ
 機関誌グラフィックスディレクター: M・M・カワサキ
 アートディレクター: スコット・バン・カンペン
 デザイナー: シェリー・クック
 制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ
 制作: レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カービー、マシュー・H・マックスウェル

予約購読スタッフ
 ディレクター: ケイ・W・ブリッグス
 配送部長: クリス・クリステンセン
 マーケティング部長: ジョイス・ハンセン
 聖徒の道1997年7月号第41巻第7号
 発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
 〒106東京都港区南麻布5-10-30
 電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 リック
 定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
 半年予約1,200円(送料共)
 普通号/大会号200円

Copyright©1997 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1995年9月 翻訳承認—1995年9月 原題—International Magazines July, 1997. Japanese. 97987 300

●定期購読は、「『聖徒の道』予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて資料管理部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●【『聖徒の道』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ】〒133東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会資料管理部配送センター ☎03-5668-3391

The *Seifo No Michi* (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. and Canadian subscription price is \$14.00 per year. SIXTY days' notice required for change of address. INCLUDE ADDRESS LABEL FROM A RECENT ISSUE; CHANGES CANNOT BE MADE UNLESS BOTH OLD ADDRESS AND NEW ONE ARE INCLUDED. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P. O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA. SUBSCRIPTION HELP LINE: 1-800-453-3860, U.S. EXT. 2947; CANADA EXT. 2031. CREDIT CARD ORDERS (VISA, MASTERCARD, AMERICAN EXPRESS) MAY BE TAKEN BY PHONE. PERIODICALS POSTAGE PAID AT SALT LAKE CITY, UTAH.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O.Box 26368, Salt Lake City, Utah 84126-0368, U.S.A.

索引

●以下のテーマによる説教が、それぞれ右側のページに掲載されています。このリストは話者が採り上げたテーマを、すべて網羅するものではありません。

- あ 愛 14, 17, 28, 68, 81, 93, 97
- 証 31, 93, 109
- 贖い 9, 12, 17, 38, 40, 61, 65, 97
- アロン神権 46, 56
- 安全 28
- イエス・キリスト 4, 9, 12, 21, 25, 28, 31, 36, 38, 40, 46, 68, 78, 81, 88, 93, 106
- 意思疎通 91
- 祈り 12, 40, 91
- 戒め 14, 78, 93
- 永遠の命 21, 28, 68, 81
- 影響 46
- 選び 97
- か 改心 56, 93
- 開拓者 4, 17, 21, 40, 43, 68, 78, 97, 98, 100, 106, 109
- 家族 21, 40
- 家庭訪問 25, 85
- 神 9, 12, 14, 17, 21, 28, 34, 38, 40, 43, 48, 61, 65, 68, 85, 97, 100
- 感謝 38, 68, 74, 98, 100, 109
- 監督 25, 48, 88
- 管理の職 17
- 義 106
- 教会 4, 78, 97
- 教会の発展 4, 43, 46
- 教義 9
- 悔い改め 9, 17, 38, 93
- 啓示 31, 78, 97
- 元氣 97
- 現世 12, 28, 65
- 原則 43, 106
- 幸福 9, 48, 56, 65
- 幸福の計画 9, 12, 65
- 子供 14, 40, 91
- この世 36, 61, 65, 93
- さ サタン 28, 56, 81
- サマリヤ人 88
- 死 12, 21
- 仕事 17
- 七十人定員会 4, 7
- 十字架の刑 61
- 祝福 12
- 昇栄 106
- 将来 74, 97
- 助言 28
- ジョセフ・スミス 21, 61, 68, 74, 78
- 自立 25
- 試練 12, 36, 68, 81, 93
- 神権 17, 28, 46, 48, 53, 56, 78, 85, 93
- 信仰 4, 12, 17, 28, 53, 68, 93, 98, 106, 109
- 神殿 4, 17, 21, 34, 40, 65, 74, 106, 109, 17
- 真理 17
- 聖餐 9, 17
- 【聖書】 61
- 聖文 9, 93
- 聖約 14, 17, 21, 34, 65, 81

- 聖霊 12, 28, 36, 40, 68, 81, 46, 78, 91
- 宣教師 31, 53
- 前世 65
- 選択の自由 25
- 総大会 17, 28, 68, 97
- た 建物 4
- 断食献金 88
- 地域幹部七十人 4
- 父親 40
- 罪 9, 56, 61, 68
- 時 65
- は 背教 61, 78
- 母親 40
- バプテスマ 9, 53
- ビデオ 71
- フェローシップ 53, 56, 93
- 福音 17, 53, 74
- 福祉 88
- 扶助協会 4, 7, 85
- 復活 21, 38
- ブリガム・ヤング 48, 74
- 奉仕 38, 48, 88
- ホームティーチング 17, 25
- ま 召し 31, 48, 85
- 模範 93
- 【モルモン書】 61
- や 役員的支持 4, 7
- 優先順位 68, 81
- 誘惑 78, 81
- 預言者 28, 38, 46, 106
- 喜び 14, 68, 88
- 隣人 97
- 労働 81
- わ 若い女性 106

●今大会の話者(アイウエオ順)の説教が右側のページに掲載されています。

- アイリング、ヘンリー・B 28
- オックス、ダリン・H 25
- ゴズリンド、ジャック・H 46
- シモンズ、デニス・E 36
- ジャック、イレイン・L 85
- スコット、リチャード・G 65
- チャイルド、ジェルドン・F 34
- テラー、ジェラルド・L 38
- ネルソン、ラッセル・M 81
- パーキン、ボニー・D 98
- バートン、デビッド・H 88
- パッカー、ボイド・K 9
- パナー、クリスティン 103
- バラード、M・ラッセル 68
- ピアス、バージニア・H 100
- ピネガー、パトリシア・P 14
- ヒンクレー、ゴードン・B 4, 56, 74, 97
- ファウスト、ジェームズ・E 21, 48
- ブラウン、L・エドワード 91
- ブラフ、モンティ・J 31
- ヘイト、デビッド・B 43
- ヘイルズ、ロバート・D 93
- ベッカム、ジャネット・ヘルズ 106
- ペリー、L・トム 78
- ヘルナンデス、アレハンドラ 105
- ホランド、ジェフリー・R 40
- マックスウェル、ニール・A 12
- モンソン、トーマス・S 7, 53, 61, 109
- ラバタイ、フォノ 104
- ワースリン、ジョセフ・B 17

目次

末日聖徒イエス・キリスト教会第167回年次総大会報告…… 1

1997年4月5日(土)午前の部会

忠実かつ誠実に	ゴードン・B・ヒンクレー……………	4
教会役員への支持	トーマス・S・モンソン……………	7
洗われて清くなる	ボイド・K・パッカー……………	9
「愛の神、賛めよ」	ニール・A・マックスウェル……………	12
子供たちの霊を養う	パトリシア・P・ピネガー……………	14
「真理を守り」	ジョセフ・B・ワースリン……………	17
永遠、わたしたちの行く末	ジェームズ・E・ファウスト……………	21

1997年4月5日(土)午後の部会

教会監査委員会報告	テッド・E・デービス……………	24
1996年度統計記録	F・マイケル・ワトソン……………	24
「監督、助けて!」	ダリン・H・オクス……………	25
助言の中に安全を見いだす	ヘンリー・B・アイリング……………	28
聖なる召し	モンティ・J・ブラフ……………	31
証書と同じ効力	シェルドン・F・チャイルド……………	34
主の平安	デニス・E・シモンズ……………	36
感謝	ジェラルド・L・テラー……………	38
「彼女は母親だからさ」	ジェフリー・R・ホランド……………	40

1997年4月5日(土)神権部会

不変の基本原則	デビッド・B・ヘイト……………	43
「わたしは神の力によって何事でもすることができる」	ジャック・H・ゴーズリンド……………	46
神権の力	ジェームズ・E・ファウスト……………	48
彼らはやって来る	トーマス・S・モンソン……………	53
改宗者と若い男性について	ゴードン・B・ヒンクレー……………	56

1997年4月6日(日)午前の部会

道を示してくれた人々	トーマス・S・モンソン……………	61
贖い主イエス・キリスト	リチャード・G・スコット……………	65
旅について何も恐れる必要はない	M・ラッセル・バラード……………	68
信仰こめて、一歩ずつ——開拓者の大いなる旅路	……………	71
信仰に忠実に	ゴードン・B・ヒンクレー……………	74

1997年4月6日(日)午後の部会

善を行うように導く御霊	L・トム・ベリー……………	78
堪え忍び、高く上げられる	ラッセル・M・ネルソン……………	81
「小さな石」	イレイン・L・ジャック……………	85
「あなたも行って同じようにしなさい」	H・デビッド・バートン……………	88
「わたしの名によって常に父に祈らなければならない」	L・エドワード・ブラウン……………	91
「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」	ロバート・D・ヘイルズ……………	93
世界に宣言する証	ゴードン・B・ヒンクレー……………	97

1997年3月29日(土)中央若い女性集会

信仰こめて、一歩ずつ	ボニー・D・パーキン……………	98
時間をかけて歩き続ける	バージニア・H・ピアス……………	100
友人としてともに立つ	クリスティン・バナー……………	103
義にかなった選択	フォノ・ラバタイ……………	104
キリストに近づく	アレハンドラ・ヘルナンデス……………	105
現代の開拓者	ジャネット・ヘイルズ・ベッカム……………	106
人は皆開拓者です	トーマス・S・モンソン……………	109
指導者の言葉	……………	114
チャーチニュース	……………	116
ローカルニュース	……………	126

総大会写真撮影／クレイグ・ダイヤモンド、ジョン・ルーク、マレン・メッカム、グレッグ・フレイ、タムラ・ハンブリン、マット・ライヤー、ドン・ソープ、ブライアント・リビングストン、ジェド・コール。

忠実かつ誠実に

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

主は御自身の王国を見守っておられます。主は増え続ける会員に心を配るよう、指導者に靈感を与えておられます。



愛する兄弟姉妹の皆さん、初めてわたしから幾つかお話しします。全世界の皆さんを歓迎し、心からの愛をもって皆さんにあいさつの言葉を述べたいと思います。これは総大会であり、同時に世界大会でもあります。教会が創立されてから167年の歳月がたちました。創立以来今日に至るまで、教会は堅実に発展し、1996年度末の時点における会員数は約970万人に達しました。教会はこれほど多くの会員を擁するまでに成長してきました。今年度末には1,000万人に到達するはずで

す。この最初の話において、わたしは3つか4つのことについて簡単に触れたいと思いますが、皆さんが関心を寄せられるように願っています。

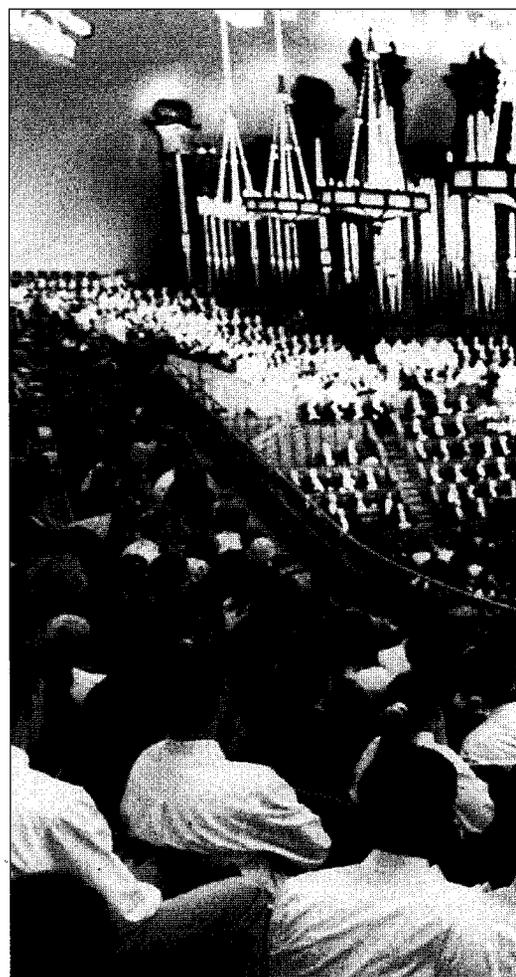
ここから遠く離れた地にいらっしゃる方々に申し上げます。わたしは今、ソルトレーク・シティのテンプルス

クウェアにある、由緒あるタバナクルから話しています。名前はまだ決まっていますが、7月24日に新しい集会場の用地の歙入れ式を行いたいと考えております。ともかくその集会場は、これから先長い間にわたって、総大会への出席を希望するすべての人を収容するための施設となります。それはテンプルスクウェアのすぐ北側のブロックに建設される予定です。このタバナクルの4倍の収容能力があります。

この新しい建物は総大会や、その建築目的にかなったほかの様々な用途に使われます。ステージでは大規模な演劇などもできる設計になっています。初めのうちは満席にならないことがあるかもしれませんが、長期間にわたる使用を考えて建築します。

このすばらしいタバナクルは、これまでほんとうによく役立ってきました。それはこれからも同じだと思います。タバナクル合唱団の放送は今後もここから行われます。また多くの集会もここで開かれます。この建物はほかの建物とは異なる特別なものです。ほかに例のないすばらしい建物です。今このタバナクルでは地域大会が開催されることがありますが、該当する6つか7つのステークだけで、このタバナクルの収容能力を超える多くの人々がいます。

教会の様々な建築計画について話すに際し、念のために、新しい神殿の建設が着々と進んでいることをお伝えしておきます。ミズーリ州セントルイス神殿の奉献が6月1日から5日にかけて行われる予定です。また秋にはユタ州バーナルの神殿が奉献されます。



大会時のタバナクル内部の様様。

イギリスのプレストン、コロンビアのボゴタ、エクアドルのグアヤキル、ボリビアのコチャバンバ、ドミニカ共和国のサント・ドミンゴ、ブラジルのレシフェ、スペインのマドリードでも神殿の建設が予定されています。マサチューセッツ州ボストンでも承認のための手続きが進行中です。遅れてはいますが、テネシー州ナッシュビルでも神殿の建築計画が進行しています。モンタナ州ビリングス、ニューヨーク州ホワイトプレーンズ、それにメキシコのモンテレーでも準備作業が行われています。ベネズエラでも適当な建設用地を探しているところです。今日はいずれの発表があります。教会はニューメキシコ州アルブカーキとブラジルのカンピナスで神殿用地を取得しました。神殿建設の必要性が高い地域です。そのほかにも検討中の場所が幾つかあります。わたしは教会員の皆さんが、あ



まり遠くまで行かなくても、参入できる場所に神殿を建設したいと考えています。

神殿の建設には日常的に接していますが、これはわたしにとって畏怖心を起こさせるすばらしいものです。わたしたちは神殿を全世界に建設しようとしています。主の宮として福千年の間もずっともちこたえ、その機能を果たすようにしようと考えています。

次に申し上げたいのは、中央扶助協会会長が今大会において解任されるということです。これらの姉妹たちは、これまで偉大で意義ある働きをしてきました。この姉妹たちは、自分のことを考えずに、持てる時間と豊かな才能をささげながら、8年以上奉仕してきました。3人の姉妹は教会の女性のために傑出した指導力を発揮し、ほかに割り当てを受けた管理会、委員会でも働いてきました。3人の姉妹に心から

感謝しています。この件については、モンソン副管長がわたしの話のすぐ後に、中央幹部、教会の中央補助組織会長会の名前を提示する際に、正式の手続きがなされます。

次に、七十人の兄弟たちについて話したいと思います。皆さんすでに御存じのように、教会には中央幹部として各地で管理の業に務めている二つの七十人定員会があります。第一定員会は70歳までの年齢の会員によって構成されています。わたしたちは今朝、4人の兄弟をこの定員会の会員として支持したいと思います。さらにわたしたちは教会で長年経験を積み、状況に応じてどこへでも赴くことのできる賢明で成熟した一団の兄弟たちを、七十人第二定員会として召しています。この兄弟たちは3年から5年の間、それぞれの任を果たします。彼らはあらゆる意味において、中央幹部として奉仕します。

また教会には、地域幹部として奉仕する忠実な兄弟たちがいます。彼らは教会が組織されているあらゆる地域で召されます。彼らも忠実で献身的な人々です。彼らは教会を愛し、様々な方面で奉仕しています。わたしたちはこれまで国の内外を訪問する中で、彼らの多くと働きを共にし、そのすばらしい能力に深い感銘を受けてきました。

主は中央レベルでは、大管長会、十二使徒定員会、七十人定員会、管理監督会を召しておられます。教会の各地のレベルでは、啓示によってステーク会長と監督が召されています。これまでしばらくの間、中央幹部と各地の地元役員の間には地区代表が召されました。そして最近では地域幹部が召されています。わたしたちは、この地域幹部の方々を七十人に聖任するよう今大会でその名前を提示することに決



テンブルスクウェアに据えられた像、「手車の開拓者」(トリーフ・S・ネイファス作)にも4月の雪が積もった。

定いたしました。彼らは今後、七十人会長会の管理の下に、定員会を構成することになります。彼らは地域幹部七十人として、何年かの間、各自が住む地域において、自発的な奉仕の務めを果たしていきます。彼らは大管長会によって召され、十二使徒定員会、七十人会長会、各自が住む地域の地域会長会から受ける全般的な指示の下に責任を果たします。

地域幹部は自分自身の職業を従来どおり続け、自宅に住みながら、教会への奉仕という形で責任を果たしていきます。ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オーストラリア、太平洋地域の方々は七十人第三定員会の会員となります。そして、メキシコ、中央アメリカ、南アメリカの方々は七十人第四定員会の会員となります。合衆国とカナダに住んでいる方々は第五定員会の会員となります。

地域幹部七十人には次のような責任が与えられる可能性があります。(a) ステーク大会の管理とステーク会長会の訓練。(b) ステークの新設・再組織とステーク会長会の任命。(c) 地

域会長会の中の副会長として働く責任。(d) 地区大会準備委員会の委員長。(e) 地域会長会が管理する地域評議会での責任。(f) 伝道部の巡回訪問と伝道部長の訓練。(g) そのほかの割り当ての遂行。

地域幹部は七十人として聖任されるのに伴い、定員会との間に明確な関係を持つ教会役員となります。地域幹部は定員会の集会で一つに集まるという機会はあまりないでしょう。しかし、七十人会長会が彼らと連絡を取り、指示を与え、報告を受けるようになります。このようにして、地域幹部はこれまでは経験したことのない帰属意識を持つようになるでしょう。また地域幹部は七十人として、啓示に定められているところに従い、福音を説き教え、主イエス・キリストの特別な証人となる召しを受けています。七十人はすべて、聖文に基づく同等の権能を持っていますが、第一定員会と第二定員会は中央幹部として任じられ、第三、第四、第五定員会は地域幹部として任じられます。

七十人の職への聖任には、任期があ

りませんが、定員会の中で働く召しには任期が定められます。任期が終わると自分が属するワード、ステークの活動に復帰し、大祭司グループとともに集うようになります。

わたしたちは、この兄弟たちを定員会の交わりと活動の中に心から歓迎いたします。わたしたちは彼らを信頼し、愛し、尊敬しています。

これらの定員会が定められ、必要に応じて全世界で召され機能する地域会長会と地域幹部七十人の組織ができたことにより、教会のいかなる成長にも対応できる態勢が整いました。

主は御自身の王国を見守っておられます。主は増え続ける会員に心を配るよう、指導者に靈感を与えておられます。わたしの話のすぐ後に、モンスン副管長が中央幹部、地域幹部、そして教会の中央補助組織会長会の支持の挙手の提議をします。わたしが言うまでもなく、これは非常に神聖で重要なことです。

わたしたちは主の御業の中のすばらしい時期に生きています。この業は成長を続け、ますます強くなっています。世界中に広がっています。そしてこの偉大な業の中で、わたしたち一人一人が大切な役割を担っています。様々な言語を話す160か国以上の人々が、天の御父とその愛する御子である贖い主を礼拝しています。これは神の大いなる御業です。神の大義であり、神の王国です。

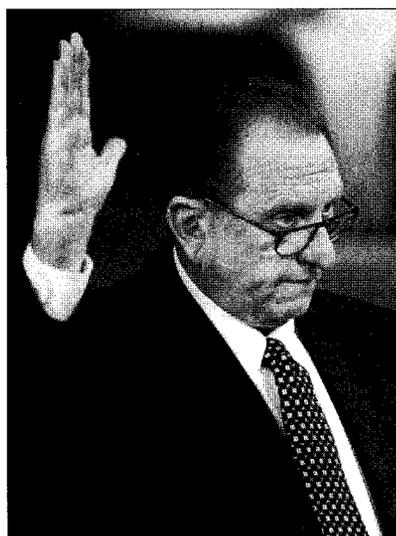
最後に、ヤコブの言葉を繰り返したいと思います。「しかし見よ、わたしヤコブは、心の清いあなたがたに述べたい。確固とした思いをもって神に頼り、篤い信仰をもって祈りなさい。そうすれば、神は苦難のときにあなたがたを慰めてくださる。また、あなたがたのことを弁護してくださり、あなたがたを滅ぼそうとする者たちに罰を下される。」(『モルモン書』ヤコブ3:1)

皆さんが、主の永遠の御業を前進させるために自らの義務を果たし、力の及ぶかぎり御父の子らに祝福をもたらし、忠実かつ誠実に生きられるよう、イエス・キリストの御名によりへりくだりお祈りします。アーメン。

教会役員の支持

第一副管長

トーマス・S・モンソン



兄 弟姉妹の皆さん、ヒンクレー大管長からの要請により、これから中央幹部、地域幹部、ならびに教会の中央補助組織会長会の方々の名前を提議しますので、皆さんに賛意の表明をしていただきたいと思います。

預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてゴードン・ビトナー・ヒンクレーを支持して下さるよう、また、大管長会第一副管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、大管長会第二副管長としてジェームズ・エスドラス・ファウストを支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方はその意を表してください。

十二使徒定員会会長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、十二使徒定員会会長代理としてボイド・ケネス・パッカーを、また十二使徒定員会会員としてボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、

ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホルランド、ヘンリー・B・アイリングを支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方。

大管長会の副管長、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方がいれば同じようにその意を表してください。

わたしたちは、ゲーリー・J・コールマン、ジョン・M・マドセン、ウィリアム・ロルフ・カー、カール・B・プラットの各長老を七十人第一定員会会員として支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方。

わたしたちは、リチャード・C・オールレッド、エラン・A・コール、リチャード・E・クック、デュエイン・B・ジェラード、ウェイン・M・ハンコック、J・ケント・ジョリー、リチャード・J・メインズ、デール・E・ミラー、リン・G・ロビンズ、ドナルド・L・ステーリー、リチャード・E・ターレー・シニアの各長老を七十人第二定員会会員として支持して下さるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方は同じようにその意を表してください。

わたしたちは、今日この会場に同席している134人の地域幹部が末日聖徒イエス・キリスト教会の七十人として、地域幹部七十人の職をもって働くことを支持して下さるよう提議いた

します。以下の方々です。

オスカー・H・アグワヨ
カルロス・E・アグエロ
フリオ・E・アルバラド
パウロ・C・F・アモリム
アドルフォ・アバロス
カール・W・ベーコン
ローウェル・C・バーバー

デビッド・A・ベドナー
ブレア・S・ベネット
ロバート・K・ビルズ
ブルース・B・ビンガム
O・ブレント・ブラック
ノーマン・C・ボーム
ハロルド・C・ブラウン
ドナルド・J・バトラール
ルネ・J・カブレラ

ダグラス・L・カリスター
アントニオ・カッピ
レイモンド・カステラーニ
ヒューゴ・A・カトロン
ビクター・D・ケイブ
賈居仁

V・フランシスコ・チンチェイ
ジュス・L・クリステンセン
ケイ・H・クリステンセン
クリストファー・N・チャンクウラー
L・ホイットニー・クレイトン
アンブロジーオ・C・コリヤード
ゴードン・C・コンガー

マックス・W・クレーナー
クラウディオ・クエラー
セザール・A・ダビラ
クレト・P・デ・オリベイラ
ホルヘ・L・デル・カステイヨ
ポール・L・ディール
リンゼー・T・デイル

ドナルド・D・ドーティ
デール・L・ドランスフィールド
アルビー・R・エバンス・シニア
エンリケ・R・ファラベラ
デビッド・W・フェレル
ローレンス・R・フラー
アルマンド・ガオナ

ルーベン・G・ガピス
ハーベイ・L・ガードナー
ダリル・H・ガーン
エドアルド・ガバレット
シルビオ・ゲシュバンドナー

ラリー・W・ギボンズ
 フランシスコ・G・ヒメネス
 クリストフェル・ゴールドマン・ジュニア
 ウォルター・F・ゴンザレス
 パウロ・R・グラール
 ジェームズ・E・グリフィン
 C・スコット・グロー
 エステバン・ゲバラ
 マリオ・E・グスマン
 ドナルド・L・ハルストローム
 ロナルド・T・ハルバーソン
 ロナルド・J・ハモンド
 ジョン・A・ハリス
 キース・K・ヒルビッグ
 トーマス・A・ホルト
 ピタ・F・ホポアテ
 クレイトン・S・フーパー
 ジョン・M・ハンツマン・シニア
 エルンスト・フス
 サロモン・ハー
 フリオ・H・ハラミヨ
 ロイド・W・ジョーンズ
 柏倉 仁
 湯沼 誠二
キムナヨンウル
金鐘悦
 リチャード・K・クライン
コウウォンヨン
高元龍
 プレント・H・コイル
 エドワード・A・ラマルティネ
 ジェームズ・K・ラーキン

シアンリオン
梁世安

デビッド・ロペス
 J・ウィラード・マリオット・ジュニア
 ゲーリー・松田
 ジョン・マックスウェル
 W・E・バリー・マヨ
 ハイド・M・メルル
 セザール・A・S・ミルダール
 P・ブルース・ミッチェル
 J・マイケル・メラー
 J・カーク・モイーズ
 ミッチェル・V・マイヤーズ
 カール・E・ネルソン
 ロドリゴ・オベソ
 ジェームズ・S・オルソン
 フリオ・E・オタイ
 グレン・A・オーバートン
 ウィリアム・W・パームレー
 アデルソン・デ・ボエラ・パレラ
 ウォルフガング・H・ポール
 スティーン・ペダーセン
 ホルヘ・A・ペドレロ
 E・イスラエル・ペレズ
 ウェイン・S・ピーターソン
 アラン・A・ペキオン
 スティーブン・H・ポンド
 R・ゴードン・ポーター
 ホルガー・D・ラコウ
 グスタボ・ラモス
 ユージン・F・E・W・リード
 マイケル・T・ロビンソン
 アレハンドロ・M・ロブレス
 セルバンド・ロハス
 リン・A・ローゼンバル
 クラウディオ・D・シニョレリ
 ホアン・R・C・マーティンズ・シルバ
 キース・L・スミス
 R・ロイド・スミス
 L・ダグラス・スムート
 イラハ・B・ソアレス
スーキオンタン
陳思強
 ホセ・A・テスクエアラ・ダ・シルバ
 エルナーニ・テスクエアラ
 オクタビオ・テノリオ
 D・リー・トープラー
 ジョーン・ウセダ
 トマス・バルデス
 カルロス・D・バルガス
 ホルヘ・W・ベンチュラ
 ヘクトール・M・ベルデューゴ

レムス・G・ビラレ
 クレイグ・T・ビンセント
 ブライアン・A・ワトリング
 ロバート・S・ウッド
 ホルヘ・F・ゼバロス
 クラウディオ・D・ズイビック

この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方。

わたしたちはこれまで中央扶助協会会長として働いてくださったイレイン・L・ジャック、チエコ・N・岡崎、アイリーン・H・クライドの各姉妹を感謝の挙手と心からの称賛の意をもって解任するよう提議いたします。わたしたちはまた、中央扶助協会管理会員を全員解任します。

わたしたちはまた、これまで中央若い女性第二副会長として働いてくださったボニー・D・パーキン姉妹を解任するよう提議いたします。パーキン姉妹はパーキン兄弟とともにイギリス・ロンドン南伝道部を管理する召しを受けました。

これらの姉妹の優れた働きに心からの感謝を表明してくださる方はその意を表してください。

わたしたちは新たにメアリー・エレン・ウッド・スムート姉妹を中央扶助協会会長に、バージニア・アーリ・ジェンセン姉妹を第一副会長に、シェリー・L・デュエ姉妹を第二副会長に支持するよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方はその意を表してください。

わたしたちはキャロル・アン・バーデット・トーマス姉妹を中央若い女性第二副会長に支持してくださるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方は同様にその意を表してください。

わたしたちは、そのほかの中央幹部、中央補助組織会長会を現状のまま支持してくださるよう提議いたします。この提議に賛成の方はその意を表してください。反対の方はその意を表してください。

提議は全員一致で賛意の表明が得られたようです。



洗われて清くなる

十二使徒定員委員会会長代理

ボイド・K・パッカー

贖いの実在とそれが日常生活において個人にもたらす実践的な価値観を理解したとき、慰めに満ちて開放感を伴う、高揚した気持ちが訪れるのを想像してみてください。



教 会の若い人々に向けて、今日は話したいと思います。自分の行いの基盤とすべき価値観もなく成長している若人について、わたしたちは大変憂慮しています。人の行いを変えるには、行動に関する話をするより福音の教義を研究した方が速効性があります。これはわたしの長年の信念です。

行動の研究は、標準や価値観と結びつけて考えると、いっそうはかどりませぬ。日々の生活に役立つ実際の価値観は聖文や聖文に示された教義の中に見いだせます。一例を挙げましょう。「わたしたちは、キリストの贖罪しよくざいにより、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得ると信じ」¹ています。

皆さんは、キリストの贖罪がすべての人類に適用されるものの、その影響力は一人一人に効果を現し、きわめて

個人的で、とても大切なものであることを若いうちに学ぶべきです。皆さんのように福音を知り始めたばかりの人にとっても、贖いへの理解は日々の生活ですぐに役立つ、とても実用的な価値観です。

50年以上前の第二次世界大戦中、わたしはある経験をしました。わたしたち爆撃隊はバージニア州ラングレー基地で最新発明の機器、つまりレーダーの使用法の訓練を受けていました。わたしたちは初め西海岸に行き、次いで太平洋諸島に赴任しました。

わたしたちは、屋根付きの貨物列車で移動しました。列車には幅の狭い折り畳み式ベッドが備え付けられていて、夜になると壁から起こして使いました。食堂車はありませんでした。その代わりに、貨物列車の中で野営用の食食用具が汚れた床の上にしつらえてありました。

わたしたちは、鮮やかな色をした夏物の制服を着ていました。荷物を積んだ貨車は別便だったため、6日間の旅行中に着替えはできませんでした。テキサスとアリゾナを横断したときはすごい暑さでした。エンジンが吐き出す煙と石炭の燃え殻には閉口しました。入浴することも、制服を洗うこともできません。ある朝、汚れた身なりのままわたしたちはロサンゼルスに到着し、夕方までに列車に戻るよう言い渡されました。

わたしたちは、まず食事のことを考えました。隊の中の10人でお金を寄せ集めて、その辺りでいちばんよさそうなレストランに向かいました。

店はとてもこんでいて、わたしたちは席に着くための長い列に並びました。10人中わたしがいちばん前になり、美しく着飾った婦人たちの後ろに立ちました。わたしの直前にいた品位ある女性は振り返らなくても、後ろにむき苦しいわたしたちのいることに気づきました。

彼女は振り返るとわたしたちを見ました。そしてもう一度振り返ると、わたしを頭のてっぺんから足のつま先までまじまじと見詰めました。わたしは汗臭く、汚れて、灰をかぶった、しわだらけの制服でじっと立っていました。彼女はうんざりした声でこう言いました。「まあ、何てだらしない人たちなんですよ。」皆がこちらを振り返りました。

彼女がわたしたちにそこにいてもらいたくないと思っていることは明らかでした。わたしもそうしたいと思いませんでした。わたし自身、見事な汚れようで不快であり、恥ずかしかったのです。

後にわたしが真剣に聖文を研究し始めたとき、霊的な清さについて述べた幾つかの聖句に気づきました。ある節にはこうあります。「聖なる公正な神の前に自分は汚れているという意識のあるままで、神とともに住むときの悲惨は、地獄で罰の定めを受けている者たちとともに住むときの悲惨よりもひどいであろう。」²

わたしにはそれがよく分かりました。ロサンゼルスであの日に感じた気持ち覚えていたからです。霊的な汚れは、あのとき感じたよりも恐らく計り知れないほど強烈な恥と屈辱をもたらすだろうと思えました。少なくとも8か所ある関連聖句は、「清くないものは神の国に入ることはできない」と告げています。³ これらの聖句が汚れた服や泥だらけの手について言っているのではないことは分かっていたのですが、わたしは常に霊的に清くありたいと決意しました。

ところで、その日わたしたちはグリフィス公園でカヌーを楽しみました。わたしたちはカヌーでばか騒ぎをし、もちろん転覆しました。わたしたちは泳いで無事岸にたどり着き、日光で体



大管長会、(左から) トーマス・S・モンソン第一副管長、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長。

を乾かしました。列車に戻るころには、わたしたちはすっかりきれいになっていました。

あるべき生活をしなければ、自分を霊的に清くするのはシャワーを浴びたり、清潔な服を着たり、カヌーから落ちたりするほどたやすくはないことをわたしは知りました。

また偉大な幸福の計画、わたしたちは試されるために地上に来たことについても知りました。わたしたちは皆、過ちを犯します。使徒ヨハネはこう教えています。「もし、罪がないと言うなら、それは自分を欺くことであって、真理はわたしたちのうちにない。」幸い、ヨハネはこう付け加えています。「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。」⁴わたしは「清める」という言葉に特に注意しました。

わたしは悔い改めは石けんのよう、頻繁に用いるべきであると思いました。過ちをわびれば、物事はよくなることも知りました。しかし過ちが深刻な場合、謝罪だけでは十分ではありません。時には解決できない場合もあります。大体においてこうした過ちが

大きなものでなくても、「罪悪感」と呼ばれる霊的な苦痛を避けることはできません。遅かれ早かれ、過ちは解決する必要があります。しかし、わたしにはどうすればよいか分かりませんでした。特に、自分独りでは修復できないものを壊したときがそうです。

皆さんのような若い人々の中には、ペテロが言ったように、「非道の者どもの放縦な行いによってなやまされてい〔る〕」人もいるでしょう。⁵ 教会の標準を軽くあしらって、行いを改める必要性を感じない人もいます。「皆がしている」からどうってことないさと、自分に言い聞かせているかもしれせん。

しかしそのような正当化は、役に立ちません。皆さんは本質的に善良だからです。「何か立派な行いをしたり、人を助けたりしたとき、とても良い気持ちができる。」皆さんはこれまでほかの人々がそのように言うのを何度も聞いたことがあるでしょう。自然に生じる気持ちや感情と同様、そのような反応は皆さんの生来のものです。皆さん自身もそれを経験しているはずです。幸福は慎み深い、清い行いと密接に結びついています。

預言者アルマは道を外れた息子に、

彼が罪を犯したので「幸福の本質に反する状態にある」、ことと、「悪事は決して幸福を生じたことがない」ことを、率直に告げました。⁶ 過ちを消し去るすべを知らない人々は、しばしば追い詰められたように感じ、反抗的になり、自分を見失ってふさわしくない生活をするようになります。もし皆さんが霊的に汚れた人々と一緒に人生を旅しているなら、わたしがあのレストランで感じたよりもさらにひどい苦しみを味わうでしょう。

ほとんどの過ちは、祈りと悔い改めを通じて、自分独りで修復できます。しかし深刻な罪には助けが必要です。助けがなければ、皆さんは洗ったり、入浴したり、きれいな服を身に着けたりできない人と同じようになってしまいます。皆さんが従うべき道は聖文に記されています。聖文を読んでください。キリストを信じる信仰が強められるでしょう。福音をよく知っている人々の話に耳を傾けてください。

皆さんは人の堕落、人生の目的、善と悪、誘惑と悔い改め、御霊の働き方が分かるようになるでしょう。悔い改めについてのアルマの言葉を読んでみましょう。「わたしはもはや苦痛を忘れることができた。まことに、わたし

は二度と罪を思い出して苦しむことがなくなった。』⁷

次の主の言葉にも耳を傾けてください。「見よ、自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。』⁸人の行いは、行動についての話を聞くより、教義を学ぶ方が早く変わります。

わたしが贖罪の力の、たとえ一部でも理解できたとすれば、それは聖文を読み、耳を傾けることによってでした。贖い主がわたしにどのような条件を課せられようとも従いさえすれば、霊的な汚れに対する苦痛を受けなくて済むことを知ったときのわたしの気持ちを、皆さんは想像できるでしょうか。贖いの実とそれが日常生活において個人にもたらす実践的な価値観を理解したとき、慰めに満ちて開放感を伴う、高揚した気持ちが訪れるのを想像してみてください。

皆さんは贖いの力が効力を発揮する前に、すべてを知っている必要はありません。キリストを信じる信仰を持ってください。そうすれば皆さんが助けを求めるその日に、贖いの力が効力を発揮し始めるでしょう。聖文は「福音の律法と儀式に従うこと」⁹について語っています。わたしたちは皆、律法に従うとはどういう意味かよく知っているはずです。では、どのようにして儀式に従う必要があるのでしょうか。

一般にわたしたちは、悔い改めを条件に、バプテスマの儀式はわたしたちの罪を洗い流してくれると理解しています。バプテスマを早く受けすぎたと感じている人が時々います。彼らは「今、バプテスマを受け、清い状態でスタートを切れたらなあ」と思うのです。しかし、その必要はありません。聖餐の儀式を通じて、皆さんはバプテスマのとき交わした聖約を新たにしています。たとえどんなに困難でも皆さんが悔い改めの条件をすべて満たすなら、皆さんは赦され、自分の背きのために心を悩ませることはもうないでしょう。

ジョセフ・F・スミス大管長は6歳のときに、父親のハイラム・スミスがカーセージの監獄で殺されました。ジ

ョセフは夫を亡くした母親とともに大平原を横断しました。15歳のとき、ハワイでの伝道に召されました。彼は途方に暮れ、孤独を感じてこう言いました。「わたしは……非常に苦しい思いをしたことがある。貧しく、文化の遅れた人々以外に友もなく、孤独感に襲われた時期があった。……貧しさと知恵と知識のない状態に非常に惨めさを味わい、〔人〕と顔を合わせる事ができなかった。」

そのような窮状について思い巡らしているとき、この若い長老はある「とても現実感のある」夢を見ます。夢の中で彼は旅をしていて、全力で急いでいました。彼は小さな包みを抱えていました。やがて目的地であるすばらしい邸宅に着きました。近づくと「浴室」という表示が目に留まります。そこで急いで浴室に入り、体をきれいに洗いました。彼が手にしていた小さな包みを開くと、真っ白な衣が出てきました。彼はこう言っています。「長い間目にしたことのないきれいな衣だった。」彼はそれを身に着けると、邸宅のドアの所に急ぎました。

彼はこう語っています。「ドアをノックして開けると、そこに預言者ジョセフ・スミスが立っていた。彼はしかるような目でわたしを見ると、こう言った。『ジョセフ、遅かったね。』……しかし、わたしは自信をもって言った。

『はい、でもわたしは清く、汚れがありません。』¹⁰皆さんにも同様のことが起こる可能性があります。

繰り返し言いますが、原則に関する知識と福音の教義が皆さんの行いに与える影響は、行動そのものについての話よりも、はるかに大きいのです。

わたしは多くの例の一つとして贖いという概念を用いました。イエス・キリストの福音には幸福な生活を築くための価値観があります。

皆さんにわたしの証を伝えたいと思います。天父は生きておられます。キリストの贖いは皆さんの生活に祝福をもたらします。贖いがわたしにとってどんなに大きな意味を持つか、言葉で言い表せたらと思います。かつてそれを試みたことがあります。それを紹介

して、わたしの話を閉じたいと思います。

昔らい病の患者が近くにいると、人々は「不浄」と叫んで警告を発した。「不浄、不浄」という言葉が響くと、皆が恐れて退いた。

らい病患者の手に触れることで、自分たちもらい病になることを恐れたのだ。当時は不治の病だった。絶望的な苦痛だった。

石けんも、鎮痛剤も、薬もこの病気や苦しみを取り除けなかった。彼らを元どりにできる特効薬も浄化するための浴室もなかった。

しかし、記録によれば、「ある御方に触れていただくだけで、清められた」とある。恐ろしい苦しみから解かれ、腐肉が元どりになるのだ。

その御方の訪れは、長い間、預言されてきた。数々のしるしとその誕生に先立ってある、と。神の御子が人間の母のもとに世界を清める力を携えて、お生まれになると。

その日、主は10人のらい病患者を癒された。その日、主は彼らを清められた。まさに主の業とその生涯の意義を象徴するかのよう。

どんなに偉大な奇跡でも、それは主の来られた目的ではない。主が来られたのはすべての魂を救うため。死から、罪から、恥辱から救うため。

主は言われた。もっと偉大な奇跡は、主の僕がこれからしていくことである、と。生けるものすべてを救うため、

わずかな人を癒すためだけでなく。

わたしたちは肉体の死からは贖^{あがな}われているが、今のままでは王国には入れない。あらゆるこの世の罪から清くなるまでは、ことごとく清められなければ。

清くなるために、何をする必要があるだろう。独りではできない。律法が、律法であるために、求める。清い御方が贖^{あがな}う必要があると。

主は説かれる。正義の要求は引き延ばされ、憐^{あわ}れみの要求が聞き届けられると。わたしたちが悔い改め、バプテスマを受け、すべての言葉に従って生きるなら。

見聞きしたすべてのことを理解できるなら、次の言葉にまさる神の賜物^{たまもの}はないことを知るであろう。その言葉とはこうである。「洗われて清くなる。」¹¹

イエス・キリストの御名^{みな}により、アーメン。

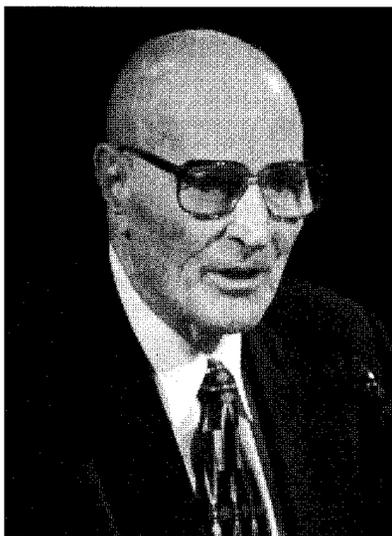
注

1. 信仰箇条1:3
2. モルモン9:4
3. 1ニーファイ10:21:15:34:アルマ7:21:11:37:40:26:3ニーファイ27:19;教義と聖約94:9;モーセ6:57参照
4. 1ヨハネ1:8-9
5. 2ペテロ2:7
6. アルマ41:10-11
7. アルマ36:19
8. 教義と聖約58:42;ヘブル8:12:10:17も参照
9. 信仰箇条1:3
10. ジョセフ・F・スミス『福音の教義』p.516
11. ボイド・K・バッカー「洗われて清くなる」

「愛の神、賛めよ」

十二使徒定員会会員
ニール・A・マックスウェル

愛にあふれた父なる神がこの宇宙に存在し、わたしたちを贖^{あがな}われるということは、……幸福の計画とともに神から与えられた真理で、ほかのあらゆる真理に勝り、優先します。



婦の皆さんに感謝します。天父は皆さんのふさわしい祈りと働きに確かにこたえてくださいました。これらの贈り物は、わたしを霊的に力づけてくれました。わたしはほんとうにそれらに値しない者ですが、感謝せずにいられません。わたしの心からの愛と感謝を皆さんにお伝えします。

わたしがヒンクレイ大管長から公に何度も聞いた説教の一つは、すべての栄光と称賛と栄誉を神に帰することです。これは今日^{きょう}を含めて、わたしがもっと頻繁に話したいテーマです。それに神の教えや祝福への感謝を付け加えたいと思います。

自分の寿命を知らないのは、だれにとっても人生の基本的な事実の一つです。ですからわたしたちは、心から願う祝福を信仰をもって祈り求めるべきですが、そのうえで「主から与えられたもので満足すべき」なのです（アルマ29:3）。人生の終わりを迎える方法とその時は、人によって明らかに違います。

ほかの人よりひどい苦しみを受けている人が大勢います。苦痛の中で死を迎える人、若くして亡くなる人、癒される人、さらに時間を与えられる人、長く患う人がいます。わたしたちの受ける試練は様々ですが、だれもそれを避けることはできません。聖文には、「燃える炉」や「火のような試練」とあります（ダニエル3:6-26;1ペテロ4:12参照）。様々な試練の炉をくぐり抜けてきた人々は、主が言われたように主の恵みを「十分」に味わったのです（エテル12:27参照）。たとえそ

この機会を与えてくださった大管長会に感謝します。御覧のように、わたしの頭がこの説教壇に幾らか趣の異なる光を添えています。わたしの病気については、現在までの治療が成果を上げてきました。「ここまで」（2ニーファイ31:19）来られたことを心から喜び、感謝します。

兄弟姉妹の皆さん、もしわたしに何であれ神の祝福に値することがあれば、そのささやかな事柄に対する報いは、これまでの神の惜しみない祝福により、ずっと以前に受けてしまったこととなります。

わたしは多くの人々の信仰と祈りに感謝します。特に、愛にあふれた優しい妻と家族、教会の幹部と伴侶の方々、わたしの秘書、そして大勢の教会員と友人の皆さんに感謝します。また、治療に当たった非常に有能な医師と看護



教会指導者の支持の模様。

うでも、兄弟姉妹の皆さん。そのように試練を脱した人が、さらに機会を求めて、もう一つ「燃える炉」の前に急いで並ぶことはしません。しかし、現世という学校は短いですから、教師である主は、わたしたちが短時間で必要なことをすべて経験できるようにしてくださいませ。

この世の状態の基本的な真理は、愛にあふれた父なる神がこの宇宙に存在し、わたしたちを贖あがなわれることです。それは幸福の計画とともに神から与えられた真理で、ほかのあらゆる真理に勝り、優先します。ほかの真理は、比較すれば、つかの間の事実すぎず、わたしたちはそれらを「常に学んで」いても、基本的な「真理の知識に達すること」はできません（2テモテ3：7）。

この世での経験はことごとく、イエス・キリストの贖あがないが人類の歴史の中心であることを示しています。知識と経験を積み重ねれば積むほど、わたしにとって主の贖あがないは、ますます驚くべき、万人のための無私むしの行為になっています。

わたしたちはイエスのくびきを負うなら、やがてはパウロが言うように「〔キリスト〕の苦難にあずか」ることを許されます（ピリピ3：10）。病気や

孤独、不当な扱い、拒絶など、わたしたちの比較的小さな苦難は、もし柔和であれば、その人に深い影響を与えてでしょう。そして、イエスの苦難だけでなく、その比類ない特質についても理解が深まり、主を崇拜して、模範に従おうという気持ちが高められます。

アルマの記録によれば、イエスはわたしたちの苦痛と病をすでにその身に受けられたので、そのような苦難の中なかにいるわたしたちを救う方法を明確に知っていらっしゃいます（アルマ7：11-12参照）。主は御自分で経験してそれを知り、憐れみあわれみを得られました。わたしたちはもちろん、そのことを完全には理解できません。主がこの世のすべての罪をどのように負われたかを完全には理解できないのと同様です。しかし、主が贖あがないという手段によって確かにわたしたちを救われたことを知り、わたしたちは安心するのです。

イエスが主権と力を帯びて再び来られるとき、主をたたえるあらゆる事柄の中で、特に主の「愛にあふれた優しさ」と「慈しみいつくしみ」とをたたえることに、何の不思議があるのでしょうか。しかもわたしたちは、永遠にわたって主をほめたたえ続けます（教義と聖約133：52。モーサヤ4：6、11；アルマ7：23

も参照）。わたしたちは自分から進んでそれを行うでしょう。

このように、神の贖あがないの力を認めることは非常に大切ですが、悲しいことに、肉の腕に頼る愚かさがそれを妨げています（2ニーファイ4：34；教義と聖約1：19参照）。ああ、傲慢な肉の腕よ。まるで、誇り高ぶるクォーターバックのようです。彼は投げる力が強いので、洗車機の中を通してボールが少しもぬれないと、自分の腕を自慢するのです。人の体力や精神力はひ弱で取るに足りないものであり、「現在のことをありのままに……未来のこともまた、ありのままに」とらえてはいません（『モルモン書』ヤコブ4：13）。

最後に、わたしは今日へりくだって、愛あふれる救いの計画を下された父なる神をほめたたえ、驚嘆すべき贖あがないをされた宇宙の主イエスをほめたたえます。また、わたしたちがあまり語っていない聖霊もほめたたえます。聖霊の多くの役割の中で、わたしが今日、個人的に特に感謝するのは、この御方が真夜中の闇の中なかでも慰め主であられることです。

イエス・キリストの聖なる御名みなによって、アーメン。

子供たちの霊を養う

中央初等協会会長

パトリア・P・ピネガー

子供たちを愛していること、子供たちを家族に迎えられて幸せであることを、子供たちに伝えてください。聖霊を通して導きを受けられるように自らを備えてください。



初等協会の会長としての召しを果たす年月が長くなるに従って、わたしは子供たちに対する関心がますます高まってくるのを感じています。子供たちは慈しみ深い天父からの神聖な贈り物です。「子供たちは神から賜わった嗣業であり」ます(詩篇127:3)。わたしは子供たちのことを考えれば考えるほど、両親のことが気がかりになります。

スペンサー・W・キンボール大管長は次のように言いました。「わたしたちの天父は、子供たちの衣食住の必要を満たし、十分なしつけと教育を施す責任を両親に課せられた。そして、ほとんどの親は住居を整えて風雨から子供たちを守っている。病気にかからないように気を配り、安全に快適に過ごすための衣服を与え、また健康と成長のために必要な食物を用意している。

しかし、子供たちの霊に対しては何をしているであろうか。」(「子供の教育」『聖徒の道』1978年8月号, pp.1-2)

わたしは、子供たちが将来、詩篇の作者が述べた次の言葉を心に抱くようになるのではないかと心配しています。「わたしは右の方に目を注いで見回したが、わたしに心をとめる者はひとりもありません。わたしには避け所がなく、わたしをかえりみる人はありません。」(詩篇142:4)

今日、わたしは教会のすべての両親と成人会員に向けてお話したいと思います。そして全員で一致協力して子供たちの霊的な面に関心を向けるよう呼びかけたいと思います。

数年前のことですが、わたしは庭仕事をしているときに、うずらの家族を見つけ、ほほえましい気持ちで眺めていました。よく見ると、雄の親鳥は塀の上に止まって家族の見張りをしていました。雌の親鳥は10羽の大切な子供たちを育てるのに大忙しで、地面の中から食べ物をついばむ方法を教えているようでした。わたしはすっかり夢中になっていました。そして、注意しながら静かに近づいて行きました。するとたちまち警戒中の雄の親鳥に見つかってしまい、雄は警告の声を発しました。雌の親鳥は懸命に子供たちを安全な塀の近くに寄せようとはしました。けれども警戒すべき人物であるわたしは、うずらの一家に近づきすぎていました。このため雌は不満を募らせ、気が動転して、飛び立つと塀の雄の横へ行ってしまいました。もちろんわたしはこの家族に害を与える気はありませ

んでしたから、素早く彼らの見えない所に退いて、体を隠しました。

わたしたちの家族の生活を脅かす危険は、わたしが経験したうずらの家族の場合とは違って、退いてくれません。サタンはわたしたちが不満を募らせ、動転することを喜びとしており、その影響力はわたしたちを取り巻いています。テレビのスイッチを入れます——これは家族向けのショー番組と言えるのでしょうか。子供部屋から音が聞こえてきます——これは音楽と言えるのでしょうか。映画を見ようとします——この内容はほんとうに上映を許可されているのでしょうか。

サタンは時々非常に微妙で、それと分からないような影響力を使います。そのため、わたしは次のような質問を自分に投げかけるようにしてきました。「わたしは福音の真理を教えていないために、子供たちを危険にさらしていないだろうか。」「御霊の励ましと子供たちが受けられる導きについて教えないために、子供たちの霊をないがしろにするようなことをしていないだろうか。」「子供たちに話していることと違う模範を示していたり、子供たち一人一人が心に深く感じられるような方法で愛を表していないために、子供たちを危険な場所に追いやってはいないだろうか。」

世の中には無残にも見捨てられた子供たちが大勢いるという事実が統計的データとして公表されており、またニュースで採り上げられています。幸いなことにすべての子供がこのような状態にあるわけではありません。子供たちに福音を教え、十分な関心を寄せている愛にあふれた家庭を、これまでわたしは訪れてきました。すばらしい信仰と献身を示しているひとり親を目にしてきました。家庭を持っている人々と積極的に交わり、親と子供たちの力になっている独身成人を知っています。子供たちや青少年に心からの関心を示し、その人生に大きな影響を与えている教師、指導者をはじめとする思いやり深い大人たちを知っています。

子供を持つこと、子供の世話を手伝うことによってもたらされる祝福はた

くさんあります。ヒンクレー大管長はこのように述べています。「人生の喜びの中で親としての喜びに勝るものはありません。わたしたちが取り組む責任の中で、これほど重要なものはありません。愛と安心感と信仰の中で子供を育てることは、何にも増して報いの大きいものです。そうした努力は、人生の中で最大の満足を与えてくれるのです。」(「子供たちに救いを」『聖徒の道』1995年1月号, p.62)

親であるということは、天父の子供たちが救いを得るために必要とされる神聖な責任であり、わたしたちが永遠の祝福を受けるための準備となる大切な責任です。子供たちを愛し、子供たちを養う機会が与えられていることを喜びとしてください。あなたが既婚者でも独身者でも、あるいは子供がいてもいなくても、御父は一人一人の子らについて、祝福と永遠の報いを用意しておられます。皆さんが置かれている環境はそれぞれに違うでしょうし、与えられている機会も様々だと思います。けれども、義に対して与えられる最終的な報いは同じです。すなわち、永遠に続く親子のきずなを持ち、永遠の生活を営むことです。わたしたちは子供たちの霊を養う手伝いをするによっても、この永遠の祝福を受けるための準備をすることができます。

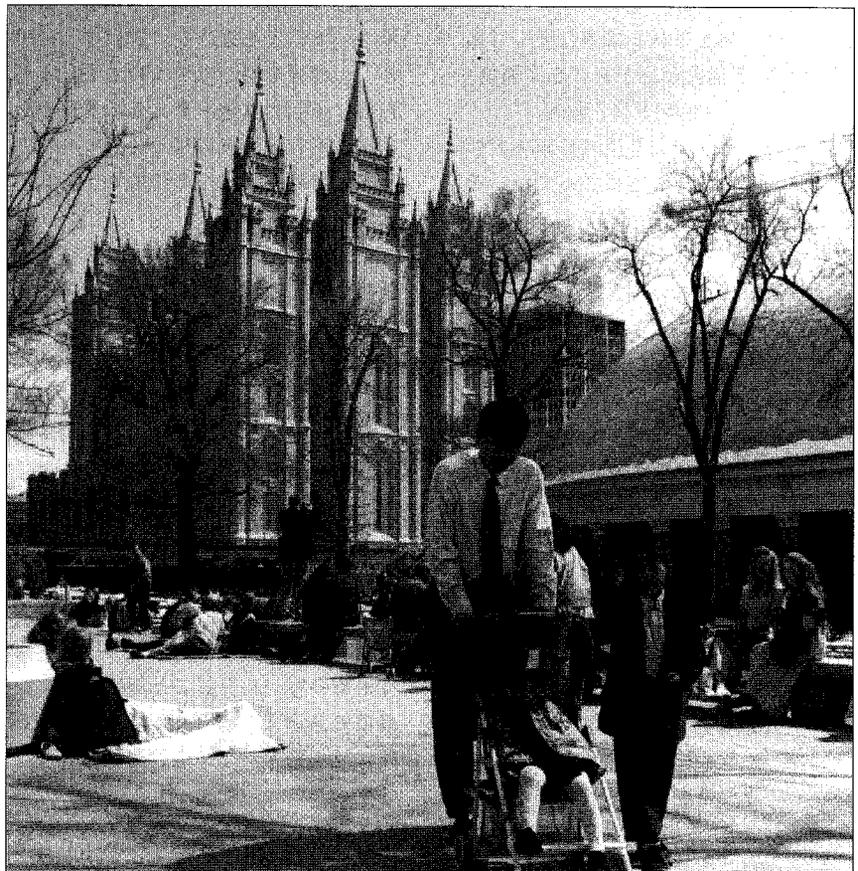
さて、わたしたちはどのような点について現在の状態を改善できるでしょうか。御父が御自身の子供たちにどのような関心を寄せておられるかを研究することは、わたしたちの進歩に役立つと思います。わたしたちが天父について知っていることは、天父がわたしたちの親であり、わたしたちを慈しみを込めて見守ってくださることに関連がある事柄ばかりです。天父は御自身の子ら一人一人を無条件で愛しておられます。わたしたちも自分の家族に対して同様にできます。天父が定められた幸福の計画は、子らが進歩して、天父の最大の祝福を受けられるように準備させるという計画です。わたしたちも家族が進歩できるような計画を立てることができます。天父は天上の大会議に子らを参加させ、選択の自由を使

うことを許してくださいました。わたしたちも家族会議を開いて、子供たちを会議の一員として積極的に参加させることができます。この地球はわたしたちが学び成長する場所として、天父の導きの下に備えられました。わたしたちも家庭を、子供たちが学び成長する幸福な場所にすることができます。天父は子らが天の家に通じる道だけを見据えて歩めるように、行いについての規則と戒めを与えられました。わたしたちも天父のみもとへ帰る道を歩むことができるように、家族の約束事を決めることができます。

御父の独り子であり、わたしたちの救い主であるイエス・キリストは、神のすべての家族をどのように愛し、祝福し、教えたらいかをわたしたちに示すために地上で教え導かれました。救い主は一人たりとも失ってはならないと教えられました。わたしたちは、家族を愛し、家族に祝福をもたらしことについて、また一人も失うことがないように全力を尽くすことについて、主が示された模範に従わなければなりません。

わたしはこのお話を準備するために、また子供たち一人一人にもっと関心を寄せる方法について答えを見つけるために、夫のエドとともに神殿に入りました。わたしはこの神聖な機会を心から感謝しました。わたしたちに約束されている数々の祝福を思い起こすことができたからです。わたしはこの聖なる場所で与えられる祝福が、子供たちを育てる現代のすべての親に必要な助けとなることに気がつきました。

たとえ神殿が近くになくて頻繁に参入することができないとしても、神殿に入るためにふさわしくなるよう努力して、神殿推薦状を受けてください。あなたの義によって大きな祝福があなたとあなたの子供たちにもたらされます。現在神殿推薦状を持っているのであれば、あなたが交わしている聖約をもっとよく理解できるように、探究し、祈り、頻繁に神殿に参入してください。父親と母親は皆、ヒンクレー大管長の勧告に従う必要があります。大管長はこのように言いました。「子育ては自分自身の知恵以上のものが求められま





す。主の助けが必要です。主の助けを祈り求め、与えられる靈感に従ってください。」(『信仰と証があやなす織物』『聖徒の道』1996年1月号, p.99)

聖約を守り、聖文と生ける預言者の勧告に厳密に従うことによっていっそう義にかなった者になるなら、わたしたちは、子供たちを義のうちに育てるうえで必要な日々の導きを天父と御子から受けることができます。

教会のすべての父親と母親の皆さん、子供たちを愛していること、子供たちを家族に迎えられて幸せであることを、子供たちに伝えてください。聖霊を通して導きを受けられるように自らを備えてください。聖文と「家族——世界への宣言」(『聖徒の道』1996年6月号, pp.10-11)を祈りの気持ちで研究するときに、御霊の励ましに耳を傾け、それに従ってください。サタンの影響力に注意してください。家庭で一生懸命に努力しても、達成感がなく、重要性を感じられないとしたら、その気持ちはどこから来ているのでしょうか。あなたが感謝されていな

いと感じたら、その気持ちはどこから来ているのでしょうか。神になるためのこの準備を楽しんでください。子供たちに王国の真理を教えるのを喜びとし、これらの真理に従うことから来る平安と喜びを子供たちが味わえるようにしてください。

教会の若い男性と若い女性に少しお話ししたいと思います。親になる日を楽しみにしてください。その日のために準備し、計画してください。ふさわしい父親と母親になる準備をしてください。将来の子供のことを考えていれば、正しい道を歩むことができます。もし地上での生活でこの祝福にあずかることができなくとも、あなたの準備と心の望みは、救い主のように神のすべての子らを愛し、育てるための備えとなります。あなたは永遠の家族という永遠の報いを得ることができます。最近のあるステーキ大会で、預言者は親に対して次のような勧告を与えています。

「この幼い子供たちは神の息子娘であること、皆さんは子供たちを保護す

る責任を託されていること、皆さんが彼らの両親になる以前から天父は彼らの親であられたこと、天父はこれら幼子に対する親としての権利を放棄したり、関心を失ったりしてはおられないことを忘れないでください。

どうか、幼い子供たちを愛し、世話をしてください。父親の皆さん、現在だけでなく将来にわたって、あなたの感情を抑えてください。母親の皆さん、あなたの声を荒げずに、穏やかに話してください。主の薫陶と訓戒に従って子供を育ててください。幼い子供たちを心を尽くして世話し、あなたの家庭に来たことを歓迎し、はぐくみ、愛してください。」(ゴードン・B・ヒンクレー、1996年11月3日、ソルトレーク・ユニバーシティ第3ステーキ大会；Church News『チャーチニュース』1997年3月1日付け, p.2)

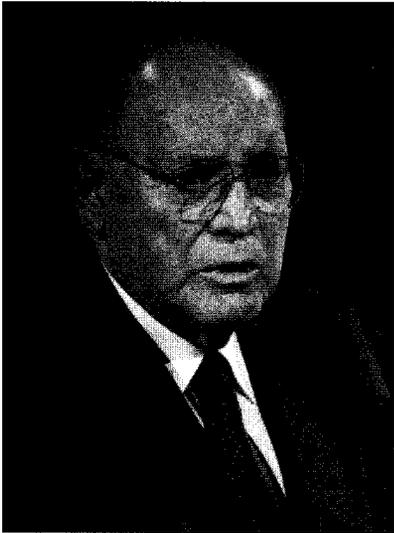
兄弟姉妹の皆さん、わたしたち皆が、子供を養う機会を喜びとすることができるように祈っています。イエス・キリストの御名によりお話しします。アーメン。

「真理を守り」

十二使徒定員会会員

ジョセフ・B・ワースリン

皆さんの最も大切な管理の職とは、自分自身の霊を見守り、養うという、天の御父から与えられた栄えある責任です。



わたしたちは皆、ニール・A・マックスウェル長老の美しいお話に感動いたしました。一つ付け加えさせていただきますと、彼は今や、オークス長老やわたしをはじめとする、光を添える人々の仲間となりました。しかし、何よりも増してわたしたちが感謝しているのは、マックスウェル長老の知恵と靈感、そして神の王国における偉大な指導者としての働きです。マックスウェル長老が今この場にいるのは、まさに奇跡です。主は彼を祝福され、わたしたちの祈りを聞き届けてくださいました。

総大会は、一年の中でもすべての教会員にとって霊の鼓舞される時です。わたしたちの目的は、「どのように…〔神の〕律法と戒めの要点を実行するかを知ることができるように、互いに教え合い、教化し合」う¹ことです。午前の大会でこれまでに味わってきた

御霊をこれからも引き続き保つことができるように、へりくだり祈りたいと思います。

今日、神の王国では偉大なことが起こっています。

教会はかつてなかったほどに世界中で発展を遂げています。「王国が、大きな山となって全地に満ち〔る〕²」という預言の成就に向けての目覚ましい発展をこの目で見られるのは、わたしたちに与えられた特権と言えましょう。

偉大なことが起こっているのは、大勢の皆さんが「〔神の〕律法の戒めと要点」を実行しておられるからです。わたしたちは主の教会を指導する者として、義にかなった多くの忠実な末日聖徒が善を行うのを見るとき、心が躍ります。わたしたちは、天の御父の助けがあって皆さんが御父と交わした聖約に忠実でいられるよう、いつもお祈りしています。そのことを知っていたきたいと思います。

信仰の道を歩む

ヒンクレイ大管長は、最近のメッセージの中で次のように促し、またチャレンジしています。「わたしと一緒に信仰の道を歩むようにお勧めします。そして、義と真実と善を守り抜くようにチャレンジします。」³ わたしたちの預言者は、信仰と勤勉の道を歩むことに対する揺るぎない決意と模範を示してくれています。わたしたちは日々、大管長の靈感に満ちた模範に従っているのでしょうか。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、「義と真実と

善を守り抜く」というチャレンジにこたえているでしょうか。愛唱の賛美歌を引用しながら、ヒンクレイ大管長はこう言いました。「〔真実〕でありましょう。『われら受けし信仰持ち、殉教者の持つ真理を信じ』ましょう。⁴

兄弟姉妹、わたしたちは「真理を守」っているでしょうか。

信仰箇条第13節に「わたしたちは…真実…であるべきことを信じる」とあります。賛美歌に描かれているように、回復された福音の真理は、「一番尊き宝……人も神も願ひ求む宝」であり、「悪を切り抜け、永遠に変わら⁵ないのです。

そうです。完全な福音はかけがえのない高価な真珠です。

わたしたちは才能を伸ばし、家族を養うように教えられていますが、気をつけなければならないのは、仕事に夢中になるあまり福音の道からそれることです。

わたしたちは「真理を守り」、「永遠の命に至る細くて狭い道」⁶にとどまらなくてはなりません。息子コリアントンへのアルマの訓戒を忘れないください。「どんなむなしなものにも、愚かなものにも惑わされてはならない。」「戒めを守る人を神は守り、導き」⁷ます。この世のいかなるものも、福音に生きる喜びにはかないません。世のどのような富や財産、名声や評価も、わたしたちの心や家庭にある、主の御霊による平安や温かさにとって代わることはできないのです。「福音のもたらす平安は麗しい」⁸ものです。成功に向けて努力するとき、「むなしなもの」や「愚かなもの」のために信仰の道からそれ、聖約に対して誠実さを欠くようになってはならないのです。

信仰を守る

わたしは真実という言葉が好きです。真実は、福音の基本概念を明らかにし、わたしたちの理解を増してくれます。

真実とは、「揺るぎないこと、忠誠、……正直、公正」など、生活の中ではぐくんでいかなければならないあらゆる

る徳を意味します。¹⁰

偽善と欺きを行うことなく

真実はまた、「表面に見えるものや推測したものではない、事物の〔真の〕有様」とも表現されています。すなわち、問題の核心や個人の真の姿について述べたものなのです。

わたしたちは真に福音に生きていますでしょうか。それとも、表面的に義を装い、周囲から忠実だと思われるようにしているだけで、ほんとうの心や隠れた行いが主の教えに不忠実ということはないでしょうか。

わたしたちは神を敬うさまをしつつ、神の力を否定していないでしょうか。¹¹

わたしたちは真に義にかなっているでしょうか。それとも、見られているときだけ従順なふりをしているでしょうか。

主は外見に惑わされることはないとはっきり述べておられます。また、主や他の人々に対して偽ってはならないと警告しておられます。主は、偽りの外見をもって、見せかけの輝きでその闇の実体を隠す者に用心するように言っておられます。わたしたちは主が外の顔形ではなく、「心を見る」¹²御方であられることを知っています。

救い主は「うわべで人をさばかない」¹³ように、また「羊の衣を着て……来る」強欲なおおかみに注意するように言われました。そして、「その実によって」¹⁴彼らを見分けることができると教えておられます。

ニーファイは、「十分に固い決意をもって……、神の前に決して偽善と欺きを行うことなく」¹⁵信仰の道を歩むように教えています。

「二心の者」は「すべての行動に安定がな」¹⁶く、わたしたちは「ふたりの主人に兼ね仕えることはでき」¹⁷ません。ロムニー副管長は賢明にもこう述べています。「〔あまりにも多くの人が〕悪魔に立ち向かおうとしないまま、主に仕えようとしている。」¹⁸

「主は心と進んで行く精神とを求め」¹⁹られます。それゆえ、十戒の最初は、「あなたはわたしのほかに、なにもの

をも神としてはならない」²⁰であり、救い主は「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛」²¹することを第一の戒めとして挙げておられます。わたしたちはすべてをささげ、高ぶりを克服し、信仰の道をそれることなく歩んで初めて、心から「主よ、わたしたちのささげる心からの献身を受け入れてください」²²と歌えるのです。

信仰こめて、一歩ずつ

「シオンの大義を起こして確立する」²³ため多大な犠牲を払った雄々しい開拓者たちは、肉体的に非常に困難な中、信仰の道を歩み、強靱な霊を培っていきましました。彼らは真理の大義を擁護しようとの真の決意を抱き、敵対するものや逆境に遭ってもしっかりと鉄の棒につかまっていました。彼らは「真理を守り」、回復された福音を広め、その教えに従うためにすべてをささげたのです。

聖約に真実であること

回復された福音がもたらした祝福の中に、天の御父と神聖な聖約を交わす特権が挙げられます。聖なる神権の効力によって結ばれる聖約です。バプテスマと確認を受けるとき、兄弟たちが神権に聖任されるとき、神殿に行って自身のエンダウメントを受けるとき、結婚の新しくかつ永遠の聖約に入るとき、これらすべての神聖な儀式において、わたしたちは神の戒めを守ること心から決意するのです。

わたしたちは謙遜に奉仕することとたゆまぬ従順さによって天の御父への愛を示すと聖約します。また、自分たちが「良い忠実な僕」²⁴であることを証明すると聖約します。

もしわたしたちが聖約に真実であれば、天の御父は「神のあらゆる賜物の中で最も大いなるもの」である「永遠の命」の祝福²⁵を与えてくださいます。「父の持つておられるすべて」²⁶が信仰の道を歩み、聖約に真実である人に約束されています。「義の業を行う

者はその報いを受ける、すなわち、この世において平和を、また来るべき世において永遠の命を受ける」²⁷のです。

永遠の管理の職

皆さん一人一人には、教会のいかなる役員であっても解任することのできない永遠の召し与えられています。それは、天父御自身がお与えになった召しです。この永遠の召しにおいては、他の召し同様、皆さんは管理の職にあり、「この世においても永遠にわたつても、主はすべての管理人の手より、管理の職について報告することを求め」²⁸られます。この最も大切な管理の職とは、自分自身の霊を見守り、養うという、天の御父から与えられた栄えある責任です。

いつの日か皆さんもわたしも、進み出て現世での管理の職について報告するようお求めになる主の御声を聞くこととなります。この申し開きは、「大いなる裁きの日に、すべての人が神の御前に立つ」²⁹よう召し出されるときに起こります。

地上での毎日は、永遠のほんの一部にすぎません。復活と最後の裁きの日は、わたしたち一人一人に必ずやって来ます。

そして天の御父は、悪を選んだために捨てられる人々、御父のみもとに戻るにふさわしくない人々のために、その偉大で気高い心をお痛めになることでしょう。しかしまた御父は、愛にあふれた御腕を伸べ、言い表しようのない喜びをもって「真理を守」った人々をお迎えになります。義にかなった生活と贖罪の恵みにより、わたしたちは御父の御前に清い心と澄んだ良心をもって立つことができるのです。

教会の指導者として、憐れみ深い御父の僕として、わたしたちは皆さん一人一人が御父の御前に戻れるように願っています。わたしたちは皆さんを愛しています。そして、皆さんが御父とともに、また皆さんの両親や子供たち、そのほかの愛する人々と、大いなる裁きの日に喜び合う姿を目にすることができるようにと心から願ってやみませ



タバナクル（右）の入り口にできた参加者の列。左の建物はソルトレーク神殿。

ん。そこでお尋ねします。「皆さんは真実でしょうか。」わたしたちは皆さんにヤコブの言葉を用いてこう勧告します。「義人に公正な報いが与えられるあの栄えある日、すなわち裁きの日のために、あなたがた自身を備えなさい。そうすればあなたがたは、ひどく恐れてしりごみしなくて済む。また、自分のひどい罪悪をことごとく思い出し[さ]なくて済む……。」³⁰

喜びをもって裁きの日を迎えるために、義と真理の狭い道にとどまる決意を固めるには何が助けになるでしょうか。5つの提案をしたいと思います。

第1に、主が教会においてふさわしさに関する面接をするように指示された基本的な理由は、わたしたちが自ら交わした聖約を守れるように助けるためです。つまり、この人生の試しの時期に自らを修め³¹、誠実であり、聖約に忠実になれるように訓練を受けるのです。ふさわしさに関する面接は、愛にあふれた神の息子、娘一人一人への

愛に満ちた思いやりの心から行われます。この面接は最後の裁きのリハーサルです。また、この面接は祝福であり、わたしたち全員に与えられた「自分自身や自分の思い、言葉、行いに注意を払」う³²という管理の職について、権能を持った主の僕を通して主に報告をするまたとない機会なのです。

第2に、主の教会では神聖な聖約を、聖餐を取る度に思い起こします。

第3に、わたしたちは神殿を訪れる度に、自身のエンダウメントのときに交わした聖約を思い起こします。

第4に、ホームティーチングや家庭訪問で、互いに仕えるという約束を思い起こします。³³

5番目に、主は御自身に、御父に報告をする責任があることを御存じでした。そのことを思い起こしましょう。主は「わたしをつかわされたかたのみこころを行」う³⁴ことが御自身の神聖な管理の職であると説かれました。偉大な執り成しの祈りの中で、主は御父

に「わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわざをなし遂げ」ましたと報告しておられます。³⁵

義にかなう生活をするにより、絶えざる祝福を受ける備えができていることを報告するのはうれしいものです。神権を受けることであれ、神殿参入の恵みであれ、若い女性の『成長するわたし』のプログラムの達成であれ、すべて同じです。

そのような現世での経験は、わたしたちに日々の行いを吟味する機会を与えてくれます。それらはすべて、最後の面接への備えとして、わたしたちが霊を鍛え、人格を高める助けをしてくれるのです。

「備えていれば恐れることはない」³⁶のです。

悔い改めが必要なとき、面接は時としてつらいものです。主はすばらしい監督やステーク会長、そのほかの神権指導者を召してくださっています。彼らの助けにより悔い改めて清くなり、



ケインズビルへの入り口，作者不詳。フレデリック・ピアシーの作品をモチーフに描かれている。1847年，末日聖徒の開拓者たちは，ここに描かれたアイオワ州ケインズビルにいた。そして，ネブラスカ州ウィンタークォーターズのみズーリ川を渡った。聖徒の多くは，西部に行く備えをしていた。今月では，開拓者にまつわる芸術作品（教会歴史美術館の厚意により掲載）と，歴史に名高い開拓者の旅を代表して幾つかの光景を紹介する。

「終わりの日に神の前に罪のない状態で立てる」³⁷のは，何という恵みでしょう。

ふさわしさに関する面接，^{せいさん}聖餐会，神殿参入，そのほかの教会の集会はすべて，主がわたしたちのために与えてくださっている計画の一部です。自分を高めて信仰の道にとどまっていられるように，自分の位置を絶えず確認する有益な習慣を養うためのものなのです。この定期的な「霊のチェック」は，わたしたちが人生で様々なチャレンジに遭うとき，導きとなります。

静かに自分自身についてじっくり思い巡らすとき，わたしは次の問いかけから多くの助けを得てきました。「わたしは真実だろうか。」

同じようにわたしたちも皆，礼拝と祈りの敬虔なひととときに，心の奥底を見詰めて「わたしは真実だろうか」と問いかけることにより，助けを得ようではありませんか。

この問いかけが真の力を発揮するのは，わたしたちがその問いかけに完全に正直に答え，悔い改めによって信仰の道を守ろうという思いを持つ時です。

天の御父がわたしたち一人一人を愛しておられることを証^{あかし}します。

真理を守り，勧告に従って預言者であるピンクレー大管長とともに信仰の道を進み，聖約を守るとき，わたしたちは「この世において平和を，また来るべき世において永遠の命を受ける」³⁸ことでしょう。天の御父が生きておられ，愛する御子がわたしたちの聖なる贖^{あがな}い主であられること，ゴードン・B・ピンクレー大管長は，導きに満ちたこの時代における預言者，聖見者，啓示者であることを証します。大いなる日に備えるわたしたちの努力が報われて，愛する人々と喜びに満たされながら御父のみもとに戻れますように。イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

注

1. 教義と聖約43：8
2. 教義と聖約109：72。ダニエル2：31-45も参照
3. ゴードン・B・ピンクレー「真理を守り」『聖徒の道』1996年9月号，p.5
4. ゴードン・B・ピンクレー「真理を守

り」『聖徒の道』1996年9月号，p.10

5. 「真理は何と言え」『賛美歌』175番
6. 2ニーファイ31：18
7. アルマ39：11
8. 「戒めを守る人を」『賛美歌』193番
9. "Sweet Is the Peace the Gospel Brings" 「福音のもたらす平安」『賛美歌』（英文）14番
10. Merriam-Webster's Collegiate Dictionary, 10th ed., s.v. "true" 『メリアン・ウェブスター・カリージエト英英辞典第10版』"true"の項による定義
11. ジョセフ・スミス—歴史1：19参照
12. サムエル上16：7
13. ヨハネ7：24
14. マタイ7：15-16
15. 2ニーファイ31：13。『モルモン書』ヤコブ6：5；モーサヤ7：33；3ニーファイ10：6；教義と聖約18：27-28も参照
16. ヤコブの手紙1：8
17. マタイ6：24。ルカ16：13；3ニーファイ13：24も参照
18. マリオン・G・ロムニー "Price of Peace" *Ensign* 「平和の代価」『エンサイン』1983年10月号，p.6
19. 教義と聖約64：34
20. 出エジプト20：3
21. マタイ22：37-38，下線付加36-40節も参照
22. 『賛美歌』（英文）107番
23. 教義と聖約6：6
24. マタイ25：21，23
25. 教義と聖約14：7
26. 教義と聖約84：38
27. 教義と聖約59：23
28. 教義と聖約72：3
29. 2ニーファイ9：22
30. 2ニーファイ9：46
31. アルマ34：33-37参照
32. モーサヤ4：30
33. モーサヤ18：8-10参照
34. ヨハネ4：34
35. ヨハネ17：4
36. 教義と聖約38：30
37. 教義と聖約4：2
38. 教義と聖約59：23

永遠、わたしたちの 行く末

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

靈的な力を維持することは、日々のチャレンジです。そして靈的な力の最大の源は、……わたしたちの神殿なのです。



愛する兄弟姉妹、友人の皆さん、わたしはこのお話の責任に心からへりくだっています。この世で得られる最大の祝福に関するわたしの話を靈的に理解していただければと思います。

1846年2月3日、イリノイ州ノーブーが厳しい寒さに見舞われたその日、ブリガム・ヤング大管長は、日記にこう書きました。

「もう儀式は行わないとわたしが発表したにもかかわらず、主の宮は一日中人でいっぱいであった。……また兄弟たちに、わたしは馬車に乗って出発するつもりだと伝えた。神殿から少し歩いている間に群衆がいなくなると思ったが、戻ってみると、神殿はまだ人であふれていた。大勢の聖徒たちを目にし、主の言葉に飢え渴いている彼ら

の切なる願いを知って、わたしたちは主の宮で引き続き熱心に働くことにした。」¹こうして、神殿の業は午前1時半まで行われました。

1846年2月3日、その日にノーブー神殿で儀式を受けた4番目のグループの最初の二人は、ジョン・アカーリーとジェーン・アカーリーで、その夜ノーブー神殿で自身のエンダウメントを受けました。二人は富や地位のない、謙遜な新しい改宗者でした。神殿の儀式は、ノーブーの家をたって西部に向かう彼らの最後の心配事でした。ヤング大管長が神殿の祝福を求める聖徒たちの願いをかなえてくれたのは幸いでした。ジョン・アカーリーはネブラスカ州のウィンタークォーターズで亡くなったからです。彼と4,000人以上の聖徒たちはロッキー山脈のソルトレーク盆地に着くことはできませんでした。²ウィリアム・クレイトン作の賛美歌「恐れず来たれ、聖徒」は彼らの信仰をよく表しています。「旅を終わず死すも すべては善し」³

1847年7月26日、ブリガム・ヤング大管長がグレート・ソルトレーク盆地に到着してから2日目に、神殿の発表はなされました。ヤング大管長がこの偉大な宣言をしたとき、聖徒たちはまだ家もなく、馬車で生活するか、地面に寝ていたのです。彼は地面にステッキを突き立て、「この場所に神の神殿を建設する」⁴と言いました。この神殿は完成までに、40年の歳月を要することになります。

ソルトレークに到着してから10年以

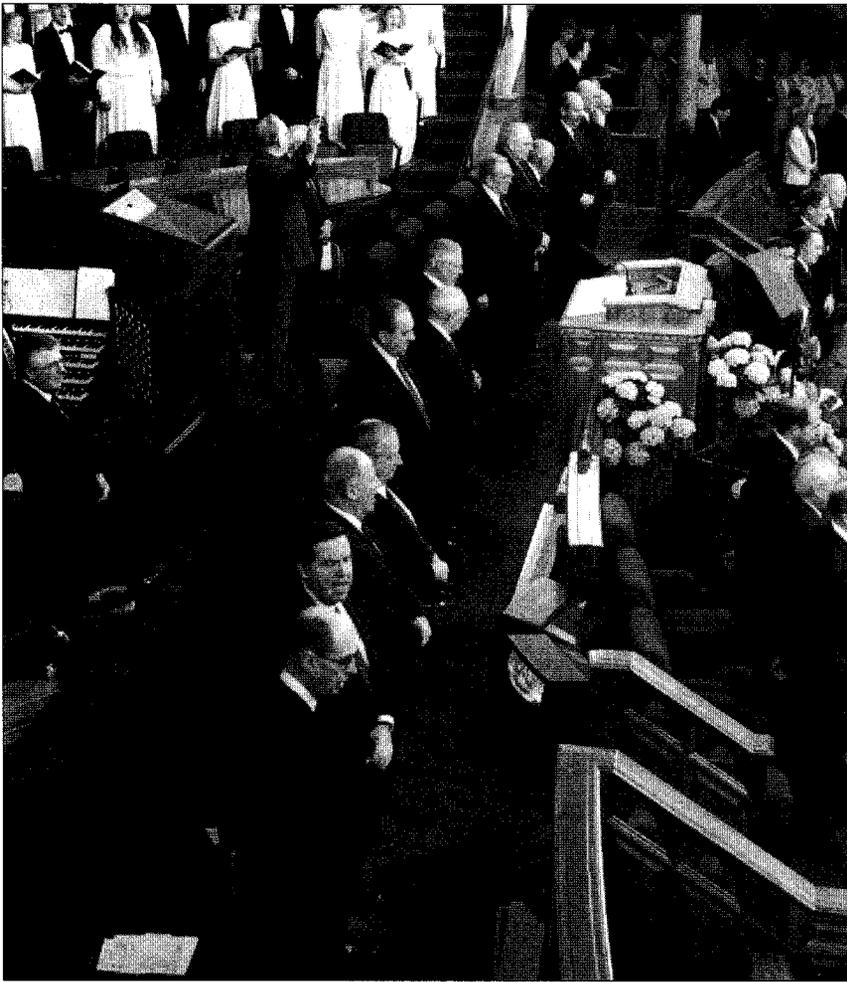
内に、聖徒たちはエンダウメントハウスを建設し、神殿の祝福の一部を受けられるようになりました。これについてブリガム・ヤングはこう説明しています。「聖徒たちは家を追われ、貧しい状況にあるので、主はわたしたちのしたこと、すなわち、このエンダウメントハウスを神殿の目的に使うことを許された。」⁵それは1855年5月5日に奉獻されました。アカーリー夫妻の娘、エルシー・アンは、1857年4月2日に夫のヘンリー・ジェイコブ・ファウストと永遠に結び固められました。

しかし、エンダウメントハウスでは行えない儀式があり、ソルトレーク神殿の建設は続けられました。福千年の間も地上に立つこの偉大な建物について、ブリガム・ヤングはこう述べています。「これはわたしたちが建てる唯一の神殿ではない。やがて何百もの神殿が建設され、主に奉獻されるであろう。」⁶

開拓者を西部へと駆り立てたものは、迫害から逃れたいという気持ちだけではありませんでした。彼らは「聖徒を悩ますもの」のない、祝福を受けられる地を求めていました。⁷ソルトレーク盆地へ彼らを導いた靈的な力には、じまされずに神殿で礼拝できる場所というビジョンがあったのです。開拓者の多くは確かに、ジョセフ・スミス・シニアの葬儀に参列し、預言者ジョセフ・スミス・ジュニアが、神殿で大祝福師である父親の受けた力と慰めについて、次のように話すのを聞きました。

「主の宮に長くいること、そして神殿で祈り求めること、それが父の毎日の喜びでした。父はそこで多くの祝福を享受し、天父との甘美な交わりに多くの時間を費やしました。人々から離れて、神殿の神聖な廊下を一人歩きました。……その聖なる場所で、天からの示現が心に開かれ、父の魂は永遠の富を味わったのです。そして柔和で謙遜な人々は父から教えを受け、夫を亡くした人や孤児たちは祝福師の祝福を受けたのです。」⁸

古代の預言者たちは、わたしたちの前途に広がる永遠について示現を受けました。確かに、礼拝と神聖な儀式の



ために特別な宮を建てる習慣は、何世紀にもわたる人類の歴史の一部になってきました。黙示者ヨハネは神殿の業に関する預言的な現れを受けて、こう記しています。

「長老たちのひとりが、わたしにむかって言った、『この白い衣を身にまとっている人々は、だれか。また、どこからきたのか。』

わたしは彼に答えた、『わたしの主よ、それはあなたのご存じです。』すると、彼はわたしに言った、『彼らは大きな患難かんなんをとおってきた人たちであって、その衣を小羊の血で洗い、それを白くしたのである。

それだから彼らは、神の御座の前におり、昼も夜もその聖所で神に仕えているのである。御座にいますかたは、彼らの上に幕屋を張って共に住まわれるであろう。』⁹

ウィルフォード・ウッドラフ大管長を含め、多くの聖徒たちが預言者ジョ

セフの次の言葉を聞きました。

「兄弟の皆さん、わたしは今晚聞いた皆さんの証あかしによってとても高められ、教えられましたが、主の御前みまへで申し上げたいことは、皆さんがこの教会と王国の行く末について、母親のひざの上にいる赤ん坊と同様、何も知らないということです。皆さんは理解していません。……今晚この場にいる神権者の数はわずかですが、この教会は南北アメリカ大陸に広がり、全世界を満たし……ロッキー山脈に満ちるでしょう。そして無数の末日聖徒がロッキー山脈に集合するでしょう。この民はロッキー山脈に入り、そこでいと高き者への神殿を築くでしょう。』¹⁰

この預言の言葉は、ことごとく成就しました。ブリガム・ヤングがソルトレーク神殿の場所をステッキで示してから24年後に、ユタ州セントジョージで独特の外観を持つ神殿くわいの鉄入れ式が行われました。さらに6年後には、ユ

タ州のマンタイとローガンで非常に美しい神殿の建設が始まりました。このときから現在まで、神殿建築の業は続いています。現在運営されている神殿は49で、世界のほとんどの地域に見られます。さらに、ヒンクレー大管長が述べたように、今年奉献される神殿や、発表や設計の段階にある神殿があります。

わたしたちが「いと高き者への神殿を築く」と言った預言者ジョセフの言葉は、なぜ重要なのでしょう。なぜこれらすべての神殿が多くの費用と犠牲によって建てられるのでしょうか。なぜ神殿の建築数が今も増加しているのでしょうか。それは、人の存在に関する深遠な質問の答えが神殿で与えられるからです。その質問とは、人はどこから来たのか、なぜここにいるのか、そしてどこへ行くのか、死にどう対処できるかなどです。この世の生活は、永遠の見地から考えなければ、論理的に意味のないものになります。天から授かるこの世と永遠の世の祝福は、神殿の聖なる建物の中で与えられます。救い主から人類への神聖な賜物たまものは、永遠の命を得る機会をわたしたちに与えることですが、もし、愛する家族がいなければ、永遠の命もわびしいものとなるでしょう。

この教会の基本となる永遠の真理は、家族がふさわしければ、永遠の関係を持てるということです。わたしたちにとって、両親や祖父母、永遠の伴侶、子供たち、そして子孫なしには、天国はあり得ないでしょう。この家族のきずなは、神殿の聖なる建物の中で、正当な神権の権能の下に、結び固めの力を通してもたらされます。

永遠の家族は、若い男女が神の聖なる宮の聖壇にひざまずき、互いに、そして神と聖約を交わして、最大の約束を受けるときに始まります。この結び固めに先立って各々が交わす聖約により、二人はふさわしいかぎり、この世においても、来るべき世においても、祝福されるでしょう。

父親と母親は、各々異なる役割を持った対等のパートナーで、不死不滅と永遠の命に至る旅路で、子供たちを養

い、教えます。人生が完全な意味を持つためには、永遠の段階のほかには何が必要でしょうか。

永遠に到達するプロセスの一つとして、わたしたちは死と呼ばれる経験をしなければなりません。もし不死不滅を信じて理解しなければ、人生はむなしなものになります。パウロは言いました。「もしわたしたちが、この世の生活でキリストにあって単なる望みをいただいているだけだとすれば、わたしたちは、すべての人の中で最もあわれむべき存在となる。」¹¹ 救い主の贖罪と復活は、不死不滅の扉を開く崇高な鍵です。これらの祝福の最大の成就是、わたしたちがふさわしければ、神の聖なる神殿の中でもたらされます。神聖な建物の中で、力と権能を持つ人が、地上でつなぐことを天でつなぐのです。この権能は、地上の神の王国のすべての鍵を有して行使する、教会の大管長によって授けられます。

神殿における礼拝の基本は、「神は人をかたよりみない」¹² という原則です。聖なる神殿の中では、役職や富、地位、人種、学歴などで区別されることはありません。皆が白い服を着ます。皆が同じ教えを受け、同じ聖約と約束を交わし、求められるふさわしさを保てば、皆が同じ天からの永遠の祝福にあずかるのです。創造主の御前にあってすべての人が平等です。自分に落ち度がないにもかかわらず独身の人は、ふさわしければ、その祝福にあずかり、望むならば、永遠の家族のきずなを得られるでしょう。

わたしたちは聖約を交わす民です。これらの永遠の祝福は、それをふさわしい状態で受けたいと望むすべての生者と死者のためにあります。神の憐れみにより、わたしたちは、この世で機会のないまま亡くなった先祖の身代わりとして、これらの祝福を受ける特権にあずかっています。もちろん彼らは、祝福を受け入れるかどうか選ぶことができます。わたしたちの務めは、先祖を探し出して、祝福を受ける機会を提供することです。預言者ジョセフ・スミスが述べたように、「神がこの世でわたしたちに課した最大の責任は、亡

くなった先祖を探求することです。」¹³

これらの神聖な祝福を受ける機会には、神の深い恵みにより、回復の偉大な預言者ジョセフ・スミスを通して、神から地上の人々に与えられました。ジョセフ・スミスはこの時代に万物の更新をする権能と責任を託されました。ブリガム・ヤング大管長と開拓者たちがノーブーを去るとき、神殿の祝福を最後まで切に求めたのはこのためです。グレート・ソルトレーク盆地にたどり着いたヤング大管長が、神殿を建設して儀式を行うことにより、神の子供たちに永遠の祝福を再び得させたいと考えたのも、同じ理由からでした。

神殿を建設して礼拝するという究極の目的があったからこそ、開拓者たちは西部の辺境の不毛の地へと驚くべき移住をしたとき、進んで多くの苦難を受け、堪え忍んだのです。喜ばしいことに、神は御心により、現在多くの国々にたくさんの神殿を建てられるようにしてくださいました。この神権時代にゴードン・B・ヒンクレー大管長ほど多くの神殿を奉献した人はいません。今ある49の神殿のうち、24の神殿を奉献しました。わたしたちが祈り求めることは、やがて神殿の祝福が世界中のさらに多くの神の子供たちに行き渡ることです。

ノーブー神殿で祝福にあずかった会員は、5,600人以上いました。ノーブー神殿で与えられた霊的なパン種は、今もわたしたちにとって計り知れない祝福になっています。それは世界中の主の宮に広がり、神の完全な言葉に飢え渴いたすべての人々を満たすことができるのです。

ジョン・アカーリー、ジェーン・アカーリー夫妻やほかの多くの人々は、荘厳なノーブー神殿に参入するためにいてつく寒さの中を待ち続け、その建物に入って、この世で主から受ける最大の祝福にあずかったのです。彼らは多くを堪え忍びましたが、それは始まりにすぎませんでした。神殿の祝福は、彼らに前途の苦難に耐える力を与えました。ウィンタークォーターズで家族と死に別れても、すべてに耐えることができました。1846年2月のあの寒い

夜に受けた祝福と彼らの信仰とがあったからです。

開拓者が日々のチャレンジに壮大なビジョンをもって取り組んだように、わたしたちも永遠の行く末について理解し、大きなビジョンを持つ必要があります。現在のチャレンジは微細であっても、昔と同じく厳しいものです。霊的な力を維持することも日々のチャレンジです。そして霊的な力の最大の源は、開拓者の時代もそうであったように、わたしたちの神殿なのです。

神殿の中で与えられる最も大いなる祝福にまだあずかっていない人は、そのためのふさわしさを身に付けるために必要なことをすべて行うようにお勧めします。すでにその祝福を受けた人は、自らを備えて、神の聖なる神殿の中で経験したことを再び味わい、人生は永遠であるというビジョンを心と思いと魂に刻み込んでください。このことを主イエス・キリストの御名により、へりくだり祈ります。アーメン。

注

1. *History of the Church* 『教会歴史』 7: 579
2. *Church News* 『チャーチニュース』 1996年12月7日付け, p.2
3. 『賛美歌』 17番
4. ヒーパー・J・グラントによる引用, *Conference Report* 『大会報告』 1921年4月, p.211. ウィルフォード・ウッドラフ, *The Utah Pioneers* 『ユタの開拓者』 p.23も参照
5. *Discourses of Brigham Young* 『ブリガム・ヤング説教集』 ジョン・A・ウィッツオー編, p.394
6. 『ブリガム・ヤング説教集』 p.395
7. 『賛美歌』 17番
8. 『教会歴史』 4: 194
9. 黙示7: 13-15
10. ウィルフォード・ウッドラフによる引用, 『大会報告』 1898年4月, p.57.
11. 1コリント15: 19
12. 使徒10: 34
13. *Teachings of the Prophet Joseph Smith* 『預言者ジョセフ・スミスの教え』 ジョセフ・フィールディング・スミス編, p.356

教会監査委員会報告

教会監査委員会

テッド・E・デービス提出

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会への報告

教会監査委員会は3人の会員で構成され、教会のあらゆる役員、職員、業務、部署、また教会が所有する会社および関連会社から独立しています。当委員会は大管長会に直接報告することになっており、託された責任を遂行するうえで必要なあらゆる記録類、および教会職員からすべての情報を入手しました。

教会にはあらゆる業務、部署から独立した教会監査部もあります。教会監査部は教会監査委員会から独立しており、職員は公認会計士など資格ある監査役員で構成されています。また監査部は、認可された専門の監査基準に従って教会のあらゆる業務を監査する方法を確立しております。これには地元教会ユニットからの献金と支出を監督することも含まれています。

教会監査委員会は教会基金の収支管理と保全のために、財務運営の方針ならびに方法について、また1996年12月31日までの1年間の予算編成、会計、報告および監査方式と監査報告書について検討いたしました。1996年度の教

会基金の支出は、定められた方針の通り、^{じゆうきん} 什分の一配分評議会で承認されたものです。同評議会は、啓示によって規定されたとおり、大管長会、十二使徒定員会および管理監督会で構成されています。承認された予算の管理は、予算承認委員会の管理の下、教会予算部によって管理されています。

教会が所有する会社は専任の職員によって管理され、それぞれ独立した取締役員会に報告します。取締役員会には中央幹部は含まれていません。これらの会社は標準的な実務処理方式に従って、個々に会計ならびに報告の制度を設けています。そして、教会監査部および独立した公認会計事務所、あるいはそのいずれかから監査を受けています。デゼレト管理会社の取締役員会は、教会が所有する会社のほとんどを監督する中央幹部で構成されています。ブリガム・ヤング大学および教会運営のそのほかの高等教育機関は独立した公認会計事務所から監査を受けています。

財務運営、予算、そのほかの方針ならびに方法、そして1996年中に提出された監査報告書やそのほかの回答を検討した結果、教会監査委員会では1996年12月31日現在の教会基金の収支に関するすべての事柄は、定められた教会の方針と手続きに従って運営され、会計処理されているという見解に達しました。

以上、謹んでご報告申し上げます。

教会監査委員会

テッド・E・デービス (委員長)

ドナルド・D・サルモン

フランク・M・マッコード

1996年度 統計記録

大管長会秘書

F・マイケル・ワトソン提出

兄弟姉妹の皆さん、大管長会は教会員の参考のために、1996年12月31日現在の教会の成長と現況を示す以下のような統計記録を発表しました。この統計は、今回の大会に先立って提出された報告書に基づいています。

教会ユニット

ステーキ数 2,296
地方部数 671
伝道部数 309
ワード数と支部数の合計 23,528
上記のユニットを有する地域は、140の独立国と21の属領地に及んでいる。

教会員数

総会員数 9,694,549
1996年にバプテスマを受けた記録上の子供 81,017
改宗者 321,385

宣教師数

専任宣教師 52,938

1996年4月以降に他界した 著名な教会員

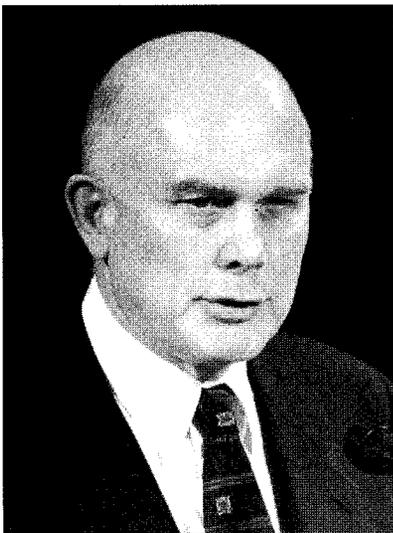
七十人会員のローウェル・D・ウッド長老、名誉中央幹部のロイド・P・ジョージ長老、七十人のジェームズ・A・カリモア長老夫人のフローレンス・スミス・プラウズ・カリモア姉妹、元大管長会特使ならびに元アメリカ合衆国財務長官のデビッド・M・ケネディ兄弟、元アメリカ合衆国教育長官のテレル・H・ベル兄弟、元中央初等協会副会長のフローレンス・ホルブルック・リチャーズ姉妹。



「監督，助けて！」

十二使徒定員会会員
ダリン・H・オークス

〔監督が〕背負う重荷は、ワードの役員と会員の支援がなければ果たせないほど大きいのです。



兄 弟姉妹の皆さん、わたしはまず約20年前にプロボのある大きなワードで起きた出来事を紹介してこの話を始めたいと思います。聖餐会中のことでした。一人の小さな男の子が全員の迷惑になるくらい騒ぎました。その子の母親は数分間、騒ぐ3歳の息子を何とか静かにさせようとしていましたが、ついにあきらめて前方の座席の通路側に座っていた父親に渡してしまいました。このときにはもう話者も聴衆もうわのそらになっていて、男の子の両親の苦境を推し量っていました。父親は母親ほど忍耐強くありませんでした。彼はすぐに息子を自分の肩に乗せると、立ち上がり、後ろのドアに向かって歩き始めました。父親の肩から後ろを振り返り、父親の断固たる歩き方に気づいた男の子は静かになり、自分がどういふことになるのかを悟りました。父親が礼拝堂の後ろのドアを開け

る寸前に、男の子は両手を壇上に向かって差し伸べると、叫びました。「監督，助けて！」

わたしたちの人生には例外なく、監督や副監督の助けを求めなければならない時があるものです。それは家族や仕事について靈感あふれる助言と指示を必要とするときかもしれません。福音やわたしたちの召しにかかわる務めについて、理解を深めたいと考えるときかもしれません。緊急時に物質的な援助を必要とするときかもしれません。進歩成長の道へ戻るために懲らしめを求めるときかもしれません。わたしたちは彼らの揺るぎない模範から多くの恵みを受けています。忠実で靈感に満ちた監督、支部長、彼らの補佐をわたしたちに与えてくださった神に感謝します。

監督（または支部長）には多くの務めがあります。アロン神権の会長として監督は自らワードの若い男性と若い女性のプログラムと活動を監督します。監督と副監督は特に正しい原則を教えることに重きを置いて、彼らを年に1度面接します。彼らは常に、神殿で聖約を交わす準備をするよう若人を励ましています。

監督は管理大祭司としてワードのすべての定員会、補助組織、活動、プログラムに対して指示を与えます。会員たちをワードの責任に召すのは監督の指示の下に行われます。ホームティーチング、家庭訪問、バプテスマなどの儀式を執行する責任なども同様です。監督はこれらすべてについて副監督の補佐を受けて実施するほかに、聖餐会を開く責任があり、ワードのすべての

クラスで福音が正しく教えられるようにする責任もあります。監督会は神権役員会とワード評議会を含むワードのすべての集会を指示する責任があります。

監督会は監督会の指示の下で働くワードのすべての会員が教会の責任を果たすためにどれほどの時間を使っているかを確認する責任があります。ワードが置かれている状況を把握したうえで、ワードの集会和活動および家族のために残された時間が適度なバランスを維持できるように配慮します。監督会はまた、日曜日の集会統合スケジュールの目的が正しく果たされるように配慮します。これは安息日に多くの集会を開けるようにすることが目的ではなく、家族がともに過ごし、個人の福音の研究と奉仕にもっと多くの時間を費やすことができるようにするのが目的です。

監督会（または支部長会）はユニットの財政についても責任があります。監督会は什分の一と献金（じゅうぶん）を受け取り、ユニットの予算と支出、基金の送金を監督し、記録が正しく記載されていることを確認します。監督は教会員の物質的な必要を満たすために教会の日用品と基金をどのように使うかを決める判士です。監督はまた貧しい人、乏しい人に配慮する責任があります。

監督は判士であり、羊飼いであって、識別する力と、羊の群れを導くための啓示と靈感を受ける権利を持っています。監督は神殿への参入、ワードの責任への召し、神権の職への聖任、宣教師の召しを承認するために、ふさわしさに関する面接を行う責任があります。監督は教会の律法に反した人に対して公式および非公式の処置を実施し、会員たちが処置を受けるような行為をすることのないように勧告し、助けます。

監督会の務めの一部については委任することができませんが、彼らはこれらの務めのほとんどを、彼らの指示の下で働く多くの人々の助けを借りて果たします。幹部書記、書記、定員会の会長会およびグループ指導者、補助組織の会長会、役員、教師です。監督は

権限の委譲を巧みに行うことができる人でなければなりません。さもないと、監督は責任の重圧につぶされてしまうか、果たしていない責任があまりにも多いために挫折感を味わうことになります。

わたしは監督と支部長のすばらしい働きに驚きを覚えています。わたしの家族もこれまでに多くの監督から指導を受けてきました。わたしたちはそれらの監督と副監督一人一人を愛してきました。また彼らから愛され、人生の様々な面で助けを受けてきたことを感じています。彼らはそれぞれの個性を持っていますが、全員が献身的な主の僕でした。わたしは責任という外套が彼らを大きく成長させるのを目にしてきました。そして彼らが人々に対して行ったすばらしい働きに喜びを覚えてきました。この教会の監督と支部長に神の祝福があるように祈っています。

監督についてお話ししておかなければならないことがほかにもあります。彼らは特定の分野だけを扱う専門家ではありません。青少年だけに関心を寄せる監督とか、高齢者、既婚者、虐待を受けている人、あるいは特定の職業に就いている人々、特定の人種グループだけに関心を寄せる監督はいません。監督は主の啓示と主の預言者の指示に基づいて、ワードを管理するよう聖任され、任命されます。このワードとは地理上の一定の範囲を指し、ワードの会員とはその地域内に住むすべての教会員を指します。このような理由から、監督は高齢者であれ若い人であれ、既婚者であれ独身者であれ、金持ちであれ貧しい人であれ、活発会員であるかあまり活発でない会員であるかにかかわらず、すべての教会員に対して配慮します。監督はこの責任を果たすために、群れをまとめることに力を尽くします。それは年齢、既婚未婚の別、家系、経済状態にかかわらず、わたしたちが聖徒のグループとして教えを受けるためであり、また奉仕を行うためです。監督はわたしたち全員が力を結集して、「一つとなりなさい。もしあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない」

(教義と聖約38：27) という救い主の戒めに従うことができるように導いてくれます。

主は初期の教会員に対して、主の僕たちの声は主の声であり、主の僕たちの手は主の手であると言われました(教義と聖約1：38；36：2参照)。わたしはこの原則が真実であることを証します。この原則によって教会員は指導者に忠実であること、彼らの指示に誠実に従うことを神聖な義務として負うこととなります。それらの義務を果たす人々を主が祝福されることをわたしは約束します。この教会で働く召しを与えられている人々もこの原則によって大きな責任を負うこととなります。指導者は「説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により」(教義と聖約121：41)、自分に与えられている神聖な権能を行使しなければなりません。

現在この教会には1万5,000人以上の監督と8,000人以上の支部長がいます。副監督、副支部長を数えると、監督会と支部長会で働く人々は6万5,000人以上になります。彼らは羊の群れのふさわしい羊飼いであり、イスラエルの判士であり、民の指導者、教師であり、愛を示す人であり、主イエス・キリストの下で羊飼いの助け手として働く人々から愛されている人々です。わたしたちは彼らを称賛し、心から尊敬します。これらの良き人々を神が祝福されますように。また、彼らの忠実な妻を祝福されますように。彼女たちの気高さと支持があればこそ、彼らは召しを果たすことができます。

この話の始めに「監督、助けて！」と叫んだ3歳の子供の言葉を引用しました。ここで、この言葉を逆にして、「監督を助けなさい」というわたしたち全員のチャレンジとしたいと思います。

初期の時代の監督、副監督、あるいは会員たちが経験した環境と、現在のわたしたちが置かれている環境は違います。今日では、世界のほとんどの地域に地元の指導者がいます。大都市にある多くのワードと支部ではその地域内に数十万あるいは数百万の人々が住んでいます。週日に仕事上で出張する

監督、職場までの長い距離を長い時間をかけて通う監督がいます。このため、彼らは週日のほとんどの時間、家族やワードの会員たちとの接触がありません。けれども、初期の時代には夢にも見なかったような通信と交通の手段が現代にはあります。こうした時の流れとともに環境は変わりましたが、地元の指導者の召しは本質において何ら変わっていませんし、彼らの報酬についても変更されていません。彼らはこの世の金銭という意味でまったく無報酬で働いています。彼らの働きに対する報酬については、すべて主が定められた給与規定に従います。

監督と副監督は召しにつける重責を苦しみながら果たすと同時に、生活のために収入を得なければならず、またそのほか家庭での責任も果たさなければならぬという意味において、かつての時代と変化はありません。彼らがこのようにするのは妻子を愛しているからだけでなく、彼らの群れにいる会員たちに見習うべき模範を示す責任があるからです。彼らが背負う重荷は、ワードの役員と会員の支援がなければ果たせないほど大きいのです。

さて、わたしたちはどのようにして監督を助けることができるのでしょうか。監督会の重荷を軽減するために、補助組織の会長会、メルキゼデク神権定員会の会長会とグループ指導者は、それぞれの召しにおいて求められる大きな責任を積極的にまた十分に機能させる必要があります。監督は召す責任がありますが、召しを受け入れてくれるように頼み込む必要もなければ、無理強いする必要もありません。わたしたちは皆、与えられる召しを受け入れて、勤勉に働かなければなりません。男性が受ける最も一般的な召しはホームティーチャーであり、女性は扶助協会の訪問教師です。これらの大切な責任が正しく果たされると、監督会の仕事量は大幅に軽減されます。ホームティーチャーと訪問教師は、監督の目と耳と手の働きをします。兄弟姉妹の皆さん、ホームティーチャーあるいは訪問教師として会員たちを訪問し、見守る責任を果たす際に、信頼に足るよう

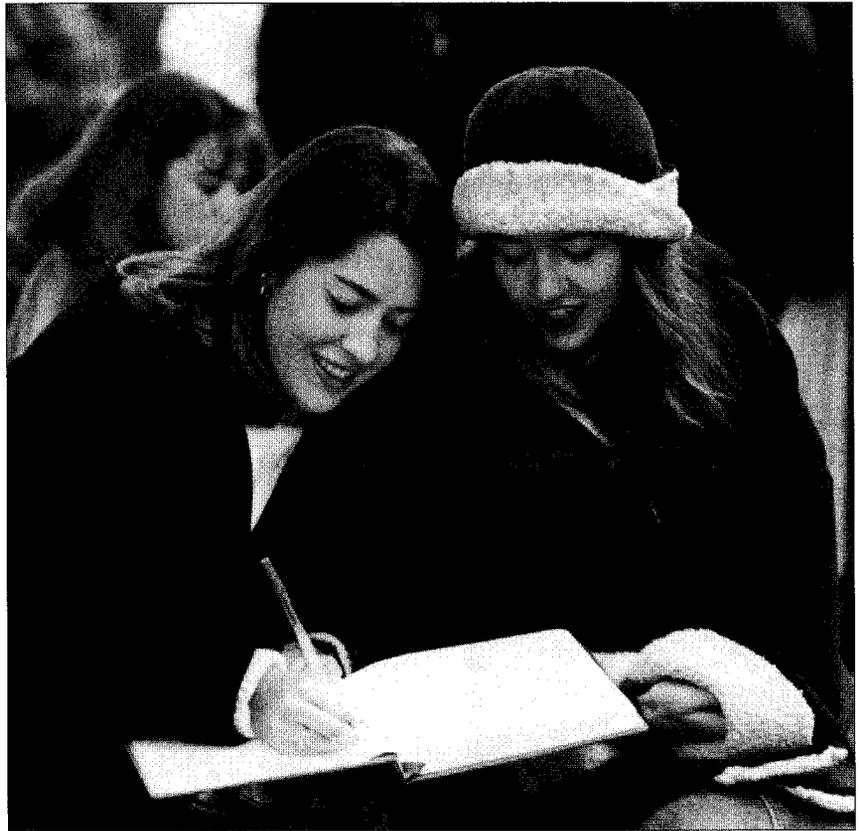
なまた忠実な働きをしてください。そうした働きによって、監督と副監督を助けてください。

わたしたちは福音が教える自立の精神にのっとり、一人一人が全力を尽くして自分自身と家族を物質的、霊的に養わなければなりません。そのうえで、援助を求める必要が生じたとしても、わたしたちはまず最初に自分にできるすべてを行ったという認識を持つことができます。これは家族と親戚しんせきに対して援助する場合も同じです。こうすれば、個人と親戚の間で当面処理できることについてまで、監督を煩わさずに済みます。

忙しい監督と副監督を助けるもう一つの方法は、ほかの人で処理できる問題を持ち込んで彼らの時間を取らないように注意することです。住所や電話番号を知りたいときや、ほかの日常的な事柄で助けを必要とする場合は、監督会の一員を煩わさないようにすべきです。監督会には監督会だけにしか処理できない重要な責任のために時間を使ってもらうようにしようではありませんか。ほかの人が処理できることについては、ほかの人に頼むようにしようではありませんか。

地元の指導者と連絡を取る必要がある場合に、彼らも仕事上の責任があることを考えなければなりません。ほんとうに緊急な場合を除いて、彼らの職場に連絡することは避けてください。指導者が職場にいらなくなるようなことをしないよう注意しようではありませんか。会員たちは指導者の職場の製品をもらおうなどと考えるはなりません。わたしたちの指導者は教会の奉仕をするように召されているのであって、彼らの専門的な知識やサービス、あるいは商品を会員たちに提供する召しを受けているわけではありません。

指導者も夫であり、父親であることをわたしたちは忘れてはなりません。彼らは一定の期間、監督または副監督として働きますが、家族の責任は永遠であってそれらの責任から解任されることはないのです。指導者は家族の責任も果たす時間を必要としています。わたしたちはこの点について思いやり



を持って、彼らを助けられます。

日曜日に聖餐会せいさんが終わった後、助けを必要としている会員のために6時間もの面接を行った監督である夫に、なぜそれほど長時間のカウンセリングをする必要があるのでしょうかと言った若い母親の話を耳にしたとき、わたしは心を痛めました。監督が自宅に帰ったのは午後6時でした。このような時刻まで帰宅できないことだけでも、十分によくはないのですが、特にこの日曜日はクリスマスでした。監督は援助を求められればそれにこたえなければならぬと考えていたでしょう。しかしわたしは、問題を抱えた会員がその問題の一部を保留にして、監督がこのクリスマスの午後に家族と一緒に過ごせるように考えてあげられなかったのかという気持ちになりました。確かにこれは極端な例ですが、こうした極端な例だけが問題なのではないことを、多くの監督と彼らの妻は気づいていると思います。

最近わたしがソルトレーク・シティーのあるワードに出席したときに、もっと身近な例を耳にしました。監督会

の一員の妻が聖餐会の話の責任を与えられて壇上に立っていました。彼女はワードの会員たちが月曜日の夕べに家に電話をかけてこないことを感謝していました。この時間は1週間で唯一、彼女と子供たちが彼らの夫であり父親を独占できる時間だと話していました。この自制はあらゆるワード、支部でも実施するとよいと思います。

兄弟姉妹の皆さん、監督、支部長、副監督、副支部長の職は、教会において神聖な職務です。これらの職にある人々は、主から尊ばれ、主の御霊みたまの靈感を受け、それぞれの職に必要なとされる識別の力を与えられています。わたしたちは彼らを敬い、愛しています。わたしたちはこの気持ちを、思いやりという形で彼らに示さなければなりません。

わたしは主イエス・キリストと、この教会が主の教会であること、彼らが主の僕であることを証します。会員と、中央と地元の教会指導者に主の祝福があるようにお祈りします。イエス・キリストの御名みなによってお話しします。アーメン。

助言の中に 安全を見いだす

十二使徒定員会会員

ヘンリー・B・アイリング

与えられた警告が主からのものかどうか知る方法は、証人、それも権威ある証人の律法にかなっているかどうか考えることです。預言者の言葉が、あることを繰り返し述べていると思われるとき、その事実はわたしたちの心に深く刻まれるのです。



救 い主からの守りを受け入れる人はいつも守られてきました。主は何度もこう言われました。「めんどりが羽の下にひなを集めるように、わたしはあなたがたを幾度集めようとしたことか。しかし、あなたがたは応じようとしなかった。」(3ニーファイ10：5)

主はわたしたちの神権時代においても、いろいろな方法でわたしたちを安全に守ろうとしてくださっていることを説明された後に、次のような同じ嘆きの言葉を語っておられます。

「わたしの僕たちの口により、また天使たちの働きにより、またわたし自身の声により、また雷の声により、ま

た稲妻の声により、また暴風雨の声により、また地震と雹を伴う大嵐の声により、また飢饉とあらゆる疫病の声により、またラッパの大きな音により、また裁きの声により、また終日続く憐れみの声により、また栄光と誉れと永遠の命の富の声により、わたしはあなたがたを幾度呼び、永遠の救いをもってあなたがたを幾度救おうとしてきたことか。しかし、あなたがたは応じようとしなかった。」(教義と聖約43：25)

わたしたちを安全に導こうとする救い主の願いには終わりが無いようです。また、わたしたちに安全な道を示してくださるその方法には一貫性があります。救い主は複数の手段を用いて、進んで受け入れようとする人々にその道が分かるようにして下さっているのです。そして、その手段にいつも含まれるのが、神の預言者の口を通してメッセージを送ってくださることです。これは、民が神の預言者を頂くにふさわしいときにはいつも行われてきました。権能を受けた僕たちは例外なく、民に警告を与え、安全への道を示す責任を与えられています。

ミズーリ州北部で緊張が高まった1838年秋、預言者ジョセフ・スミスはすべての聖徒たちに安全のためファーウェストに集合するように呼びかけました。当時聖徒たちの多くは、それぞれ個別に点在する農場や定住地にばらばらに住んでいたのです。ジョセフは

特に、「ハウズミル」と呼ばれた定住地の創設者であるジェーコブ・ハウンに勧告を与えました。当時の記録にはこうあります。「ジョセフ兄弟は製粉所の所有者であるハウンを通じてそこに住む兄弟たちに、そこを去ってファーウェストに移るよう伝えようとしたが、ハウンはそれを伝えなかった。」(フィロ・ディブル“Early Scenes in Church History” *Four Faith Promoting Classics*「初期の教会歴史」『信仰を鼓舞する4つの話』p.90)後に預言者ジョセフはこう記録しています。「今日に至るまで、神は勧告に従う人々を救う知恵をわたしに授けてこられた。」(*History of the Church*『教会歴史』5：137)そして、その後でジョセフは、人々が彼の勧告を受け入れ、それに従っていたら、ハウズミルで罪なき者の命が奪われることはなかったとの悲しい真実を記しています。

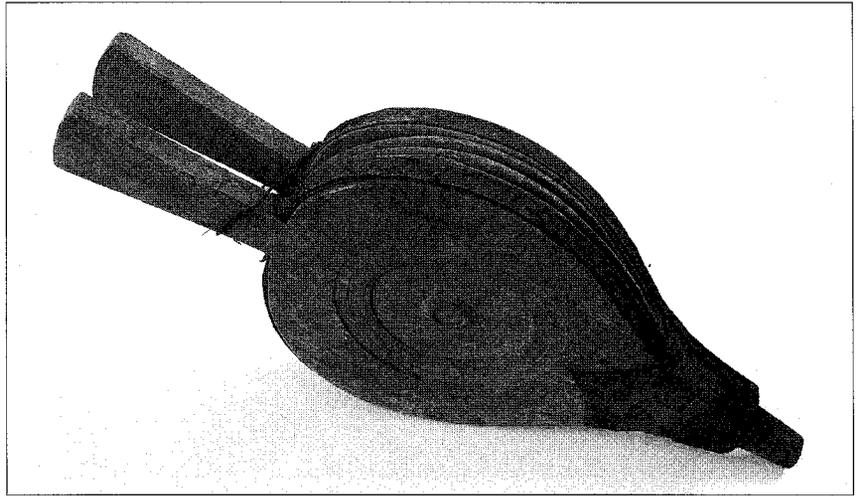
わたしたちの時代においても、罪や悲しみから逃れる道を教える警告の声が発せられています。そうした警告の声を聞き分ける一つの方法は、警告は繰り返し述べられるという点です。例えば総大会において、わたしたちの預言者が前任の預言者の言葉を引用して第2の、時には第3の証人となるのを一度ならず耳にしたことと思います。わたしたち一人一人は、母親が家庭にいることの大切さについてのキンボール大管長の助言を聞きました。そしてベンソン大管長がそれを引用し、さらにヒンクレー大管長がその両方を引用しました。使徒パウロはこう書いています。「すべての事がらは、ふたりか三人の証人の証言によって確定する。」(2コリント13：1)与えられた警告が主からのものかどうかを知る一つの方法は、証人、それも権威ある証人の律法にかなっているかどうか考えることです。預言者の言葉が、あることを繰り返し述べていると思われるとき、その事実はわたしたちの心に深く刻まれるとともに、そのような祝福された時代に生を受けていることへの感謝の気持ちに胸に満ちるのです。

信仰深い人々にとって、預言者の勧

告の中に安全への道を求めるのは当然のことです。預言者が語る時、信仰の弱い人々は単に賢人が良いアドバイスを与えていると考えます。ですから、その勧告が心地よく、理にかなっていて、自分の望みに合うようであれば受け入れます。でもそうでない場合は、その勧告を誤りであると決めつけたり、自分の置かれた状況はその勧告には当てはまらないと考えるのです。また信仰のない人は預言者の言葉を、利己的な動機で人に影響を与えようとしているとしか考えません。そしてコリホルという名の人物がそうであったように、預言者をあざけり、さげすむのです。『モルモン書』にはこう記されています。

「このようにしてあなたがたは、先祖の愚かな言い伝えによって、あなたがたの望むままにこの民を惑わしている。そしてあなたがたは、この民の労苦で飽きるほどに食べようと、まるで奴隷でもあるかのように民を抑圧している。そのため、民はあえて勇気を奮って頭を上げようとせず、またあえて自分たちの権利と特権を享受しようとしません。」(アルマ30:27)

コリホルの論拠は、世の初めから人が用いてきた偽りの論理でした。神の僕の勧告を受け入れれば、神から受けた自立の特権が奪われてしまうというのです。しかし、この論理は偽りです。現実を誤って解釈しているからです。神から来る勧告を拒んだとしても、外部からの影響力から解放されるわけではありません。別の影響力の方を選んでいるのです。それどころか、わたしたちに永遠の命を授け、御自身の持つものをすべて与え、主の愛の御手に導くことを目的としておられる、完全な愛と全知全能の天の御父とその愛する御子の守りを拒むことになるのです。主の勧告を拒むというのは、別の力から影響を受けるのを選ぶことです。それは、わたしたちを悲惨な状態にすることを目的とする、憎しみの力です。わたしたちには神からの賜物である選択の自由が与えられています。しかしこの選択の自由は、すべての影響力から解放される権利ではありません。



鍛冶屋は、夜に蹄鉄や車輪、幌馬車の部品を直すとき、この写真のようなふいごを使って、火を燃やし続けた。

ん。いかなる力であれ、わたしたちが選択したものに従う何のものにも侵されない権利なのです。

もう一つの誤った考えは、預言者の勧告を受け入れるか否かの選択を、良いアドバイスを受け入れて得をするか、それとも受け入れずに今の状態にとどまるかの選択と同列にとらえることです。しかし、預言者の勧告を受け入れないという選択をすると、わたしたちが立つ土台が変わり、わたしたちは今までよりもっと危険な状態にさらされます。預言者の勧告を受け入れなければ、後に与えられる靈感に満ちた勧告を受け入れる力が弱まるのです。ノアが箱舟を造ろうとしていたとき、それを助けようとの決断をする最良の時は、ノアが助けてくれるように求めた最初の時でした。その後は、求められては断ることを繰り返す度に御霊に対する感受性が失われていきました。そして、繰り返されるノアの警告が次第に愚かしく思えてきたところで雨が降り始めるのです。その時はもう手遅れでした。

自分の人生を振り返ってみると、靈感を受けた勧告になかなか従わなかったり、自分の場合は例外だと決めつけてしまったりしたときはいつも、自分を危険にさらしていたことが分かります。逆に、預言者の勧告に耳を傾け、祈りを通してそれを確認し、その教えに従ったときには、自分が安全な方向に向かっていることが分かりました。

そして、その道が自分のために前もって備えられていて、大変だと思われるような場所も難なく通過できることを発見してきました。神はわたしのために愛をもって道を備えてくださり、わたしを安全な方向に導いてくださいました。時にはその道は、かなり前から用意されていたのです。

『モルモン書』の最初の記述は、神の預言者リーハイについてのものです。彼も家族を導く人でした。彼は神から、愛する人々を安全な所に移すように警告されました。このリーハイの経験は、神が僕を通して民に勧告をお与えになる典型的なものです。リーハイの家族の中で迫り来る危険とそれを乗り越える安全への道の両方を見ることができたのは、信仰を持ち、自分で確認の啓示を受けた人たちだけでした。信仰のない人々にとって、荒野への旅は愚かのみならず危険なものであったのです。リーハイはほかのすべての預言者と同じように、安全な生活がどこで手に入れられるかを、死ぬまで家族に伝えようと試みました。

リーハイは、神権の鍵を託した者に対して救い主が責任を負ってくださることを知っていました。この神権の鍵によって預言者たちは勧告をする力を得、わたしたちに安全に至る道を示すことができるのです。この鍵を授けられた人々は、たとえ自分たちの勧告に耳を傾ける人がいなくても、絶えず警告の声を上げる義務があります。その



鍵は神権の系統を通して、預言者から次第に小さな教会員のグループを管理する人々へと受け継がれ、やがて家族や個人へと至るのです。これは、主がステーキを安全な場所となさる一つの方法です。例えば、わたしと妻は監督が招集した親のための集会に集まりました。監督はわたしたちの隣に住んでいる人ですが、子供たちが直面している霊的な危険性について警告をしたいと思ったのです。その集会でわたしが聞いたのは、賢い友人としての声以上のものでした。鍵を持ったイエス・キリストの僕が警告を与え、行動する責任をわたしたち親に託すことにより自らに授けられた責任を果たそうとする声だったのです。この神権の系統に属する鍵を、それを授けられている人の声に耳を傾け、その指示に従うことにより尊重すれば、わたしたちはどのような嵐に遭っても流されることのない命綱を得たことになります。

天の御父はわたしたちを愛しておられます。御父は独り子を救い主として遣わしてくださいました。御父はわたしたちがこの世で重大な危機に直面することを御存じでした。その最たるものは、狡猾な悪魔からの誘惑です。救い主がわたしたちに神権の鍵を授けてくださったのはそのためです。聞く耳を持つ者、従う信仰を持つ者が安全な場所に行けるようにしてくださいました。

聞く耳を持つには謙遜が必要が必要です。トーマス・B・マーシュへの主の警告を覚えているでしょうか。彼は当時十二使徒定員会の会長でした。主は

マーシュ会長を含む十二使徒の兄弟たちが試されることを御存じでした。そこで、勧告を受け入れることについて勧告をお与えになりました。主はこう述べておられます。「あなたは謙遜でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。」(教義と聖約112:10)

さらに主は、預言者に従おうとするすべての人に当てはまる警告を与えられました。「自分を高くしてはならない。わたしの僕ジョセフに背いてはならない。まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしは彼とともにおり、わたしの手は彼のうえにある。そして、わたしが彼に授け、またあなたがたにも授けた鍵は、わたしが来るまで彼から取り去られることはない。」(教義と聖約112:15)

神がわたしたちに勧告を与えてくださるのは、わたしたちの安全のためだけではなく、愛するほかの子供たちのためでもあるのです。そして、ほかの人々を安全な場所へと導くうえで自分が神の御手の器となったことが分かったときの慰めほど麗しいものはないでしょう。この祝福にあずかるには普通、困難な状況にあっても勧告に従う信仰を要求されるからです。教会歴史につづられた一つの例は、レディック・ニュートン・オールレッドの物語です。彼はウィリーとマーティンの手車隊の救出のためにブリガム・ヤングから派遣された中の一人でした。救援隊は猛烈な吹雪に遭いました。救援

隊のグラント隊長はスイートウォーター川のほとりに幌馬車を幾つか残して前進することを決めました。吹雪がさらにひどさを増し、天候が自分たちの生命をも危険にさらすような状態になると、スイートウォーター川のほとりに残った二人の兄弟が、その場に残っているのは愚かなことだという結論に達しました。彼らは、手車隊はどこかで越冬しているか全滅したかどちらかだと考えたのです。そして、ソルトレーク盆地に引き返すことに決め、ほかの人々をも説得しました。

しかし、レディック・オールレッドはその提案を拒否しました。彼は、自分はブリガム・ヤングから派遣され、自分の神権指導者からとどまるように言われているのだから残るべきだと考えたのです。ほかの隊員たちは幌馬車に必要な物資を積み、引き返し始めました。さらに不幸なことに、ソルトレークから応援に駆けつけたほかの幌馬車もすべて、戻る幌馬車と出会った時点で引き返してしまったのです。戻った77の幌馬車がリトルマウンテンに差しかかったころ、ブリガム・ヤングはようやく事のいきさつを知り、戻って来た隊に現地に引き返すように言いました。こうして、ロッキーリッジを必死の思いで越えたウィリー隊が発見されたとき、待っていたのはレディック・オールレッドと彼の幌馬車隊だけでした。(レベッカ・バーソロミュー、レオナルド・J・アーリントン、*Rescue of the 1856 Handcraft Companies* [1856年の手車隊の救出] pp.33-34)

皆さんはこの大会で、新しい教会員に手を差し伸べるという靈感に満ちた勧告を聞きました。レディック・ニュートン・オールレッドのような信仰を持つ人々は、新会員と親しくなるように努めることでしょう。たとえそれが必要でないと思えたり、効果がないと思えたりするようなときでもです。彼らは、決してあきらめません。新会員が霊的に疲れてきたときには、優しい言葉をかけ、手を差し伸べます。そうすれば、オールレッド兄弟が苦難に遭っている手車隊を発見したときに感じ

たと同じ、主からの承認を感じる事ができるでしょう。自分は困難なときにも勧告に従ったので、彼らに安全な場所を提供できるという確信です。

記録にこそ残されていないものの、わたしはオールレッド兄弟は待っている間に祈りをささげたと信じています。そして、彼のその祈りは聞き届けられました。そのとき彼は、信仰を堅固に保つという勧告が神からのものであったことを知ったのです。わたしたちも、そのことを知るために祈らなければなりません。そのような信仰の祈りは必ず聞き届けられることを、わたしは約束します。

時折わたしたちは、十分に祈って考えた後でさえ、受けた勧告が理解できなかったり、自分には当てはまらないと感じたりすることがあります。そのようなときでも、その勧告を無視せずに、心に留めておくようにしてください。もしだれか信頼する人から、どう見ても砂にしか見えないものを渡されて、金が入っているよと言われたら、賢明な皆さんでしたらそれをしばらく手に持った後、そっとふるいにかけてみることでしょう。わたしは預言者からの勧告を聞く度にこれを実践してきました。そしてしばらくすると、金のかけらが見え始めるのです。そのことに感謝しています。

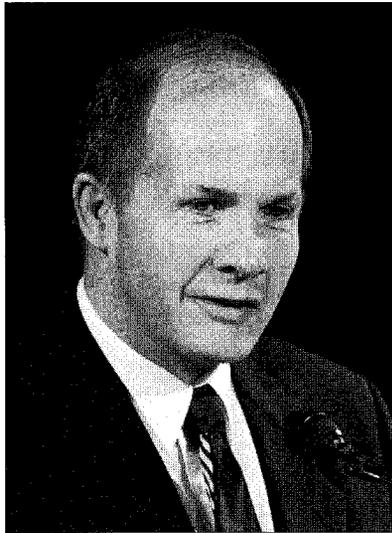
わたしたちは恵まれて、神権の鍵が地上に存在するときに生を受けています。また恵まれて、わたしたちを安全な場所に集めるとの主の約束を成就する声を、どこで見つけ、どこで聞けばよいか知っています。わたしも皆さんもへりくだった心をもって耳を傾け、祈り、忠実であれば必ず訪れる主の救いを待つことができるようにと祈っています。わたしは天の御父が生きておられ、わたしたちを愛してくださっていることを証します。この教会はイエス・キリストの教会です。主はわたしたちの教会の頭であり、わたしたちの救い主です。また、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長がすべての神権の鍵を保有していることを証します。イエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。

聖なる召し

七十人会長会

モンティ・J・ブラフ

各々の会員は、教会での自分の召しが神聖なものであることを知らなければなりません。



数年前、わたしは香港^{ホンコン}に管理本部のあるアジア地域会長会として、召される特権にあずかりました。下の4人の子供たちは、わたしたち夫婦と一緒に魅力的なその都市へ行き、とても興味深い3年間を過ごしました。子供たちはアメリカ西部の広大な地域に慣れていたので、香港では個人の生活や情緒面で、幾つかの大変な調整が必要でした。毎晩のようにわたしたちは、13階にある狭いアパートの食卓の周りに座って、学校や文化面での問題について子供たちを助けようとしていました。

ある晩、宿題を終えるために数時間熱心に勉強した後、当時8歳の末の娘カミーがこう尋ねました。「パパ、どうしてわたしたちが香港に来るように選ばれたの？」わたしの最初の返事は、少しおどけて「運が良かっただけさ」というものでした。しかし、この幼い

娘の真剣な表情から、質問に対してまじめな答えを求めているのが分かりました。そのとき、わたしは自分が受けた神権の召しのために娘に与えられているチャレンジについて考え、自分自身でもう一度答えを見つける必要があると思いました。

わたしは何年か前の日のことを思い出しました。電話を取ると、聞き慣れたスペンサー・W・キンボール大管長の声が聞こえ、伝道部長としての召しを注意深くわたしに伝えました。

電話の後、わたしは自分の不適格さに心を悩ませました。妻とわたしはまだ30代で、6人の幼い子供たちがいました。わたしは自分が伝道した当時の伝道部長に対して抱いていた、深い愛と尊敬の気持ちを思い出しました。今でもわたしは同じ思いを抱いています。キンボール大管長は、間違えたのでしょうか。わたしの状態をほんとうに理解していたのでしょうか。

数日後、レックス・D・ピネガー長老に会う機会に恵まれました。わたしたちは自分の気持ちを説明しました。ピネガー長老の言葉は、いつまでも忘れないでしょう。「ブラフ兄弟、預言者と教会の指導者が神から召されたという証がありますか？」

「はい、あります。」わたしはそう答えました。「小さい子供のころから、教会の指導者の神聖な召しを信じてきました。わたしは心の底から、スペンサー・W・キンボール大管長が預言者であると信じています。」

するとピネガー長老が言いました。「では、あなた自身の召しの神聖さについても証を得る必要があります。あ



なたもまた神から召されていることを知らなければなりません。」

使徒パウロは、自分とテモテの「聖なる召し」について自分自身の証を得、このように断言しています。「神はわたしたちを救い、聖なる招きをもって召して下さったのであるが、それは、わたしたちのわざによるのではなく、神ご自身の計画に基き、また、永遠の昔にキリスト・イエスにあってわたしたちに賜わっていた恵み……によるのである。」(2テモテ1:9, 10)

この力強い証はテモテに、「神の力

にささえられて、福音のために……苦しみを共に」するように求めたことでしよう(2テモテ1:8)。

わたしはカミーと一緒にこの聖句を読んだとき、彼女がほんとうに理解したかったことが分かりました。わたしは娘に、わたしたちに与えられた教会の召しには幾らかの「苦しみ」が伴うことを知ってほしいと思いました。わたしたちは家や家族から遠く離れていることについて話しました。そして、娘にとって新しい環境に慣れるのが大変であることを理解しました。

しかし、「なぜほかの人じゃなくて、わたしたちが選ばれたの」というカミーの質問に、わたしがまだ十分に答えていないのは明らかです。これはさらに難しい質問です。これらの召しや責任がほかの人でなく、その人に与えられるのはなぜでしょうか。わたしは、ヒンクレー長老から七十人に聖任されたときに受けた指示を思い出しました。「ブラフ兄弟、今から多くの人があなたについて良いことをたくさん言うでしょうが、信じてはいけませんよ。」

自分には教会の召しに対して権利があると思うのは、だれにとっても危険なことです。しかし各々の会員は、教会での自分の召しが神聖なものであることを知らなければなりません。わたしは、自分の初等協会教師のミルドレッド・ジェイコブソン姉妹が神からその責任に召されたと、子供ながらに自分が信じていたのを覚えています。わたしの青少年時代にリン・マッキノン監督とロス・ジャクソン監督は、多くの人の生活の中で、素晴らしい役割を果たしました。わたしは彼らが、パウロやテモテの場合と同じように、啓示という過程を経て神から召されたと信じています。

わたしたちは各々、将来与えられるかもしれないあらゆる奉仕の機会に自らを備え、個々の召しの基本が個人の願望ではなく、啓示であるという原則を受け入れる必要があります。『新約聖書』の次の話からそれについて多くのことが学べます。

「そのとき、ゼベダイの子らの母が、その子らと一緒にイエスのもとにきてひざまずき、何事かを願いました。…彼女が言った、『わたしのこのふたりのむすこが、あなた御国で、ひとりはおあなたの右に、ひとは左にすわれるように、お言葉をください。』」（マタイ20：20-21）

わたしはカミーに、ゼベダイの子とは使徒ヤコブとヨハネで、後にペテロとともに、一人はその右に、もう一人はその左に座ることになると説明しました。それから、イエスが献身的な母親にどう答えられたか、一緒に読みました。「わたしの右、左にすわらせることは、わたしのすることではなく、わたしの父によって備えられている人々だけに許されることである。」（マタイ20：23）

使徒たちはまた、イエスからこう告げられ、大切な召しについて教えられました。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。」（ヨハネ15：16）

わたしはカミーに、自分から困難な責任を求めたのではないから、わたし

たちは確かに主から選ばれたと説明しました。それから数日後に、この点はずっとはっきりしました。わたしたち夫婦は、宣教師大会のためにインドに行く割り当てを受けました。香港からインドのニューデリーへ向かう飛行機は、夜遅く出発し、午前2時ごろ目的地に着きました。深夜にもかかわらず、大勢のタクシートの運転手が客を求めて待っていました。一人の運転手を雇って、ホテルまでの40キロの旅が始まりました。夜中でしたが、道路は家畜や人や車で混雑していました。ある交差点を通過しようとしたとき、タクシートのエンジンが止まってしまいました。わたしは運転手がエンジンをかけようと焦っている様子を、不安な気持ちで見っていました。ついに、いろいろな運転手がわたしの方を向き、彼の言葉にある最上の英語で言いました。「タクシー、押して！」時間は午前3時で、妻もわたしも疲れ切っていました。わたしはタクシーを降りて、交差点の端まで押そうとしましたが、できません。そこで運転手は妻にも言いました。「タクシー、押して！」妻のルネットも外に出て、わたしと一緒に車を押し始めました。交差点からタクシーを出すのに苦労しながら、わたしは妻に言いました。「召しを受けたとき、理解していなかったことが幾つかあったね。」

わたしは1993年の6月に、中国の北京で開いた特別集会で経験したことを決して忘れないでしょう。そこには、北ベトナムとモンゴルで英語を教える予定の夫婦宣教師たちがいました。2日間の訓練と御霊にあふれた集会を、よく知られた次の賛美歌で閉じました。

山の上や、荒れる
海を越え行き
また戦の場にも
主は召したまわん
（「み旨のまま行かん」『賛美歌』172番）

歌っているときに、妻がもたれかかってわたしの耳にささやきました。「『山の上』かもしれない、『荒れる海』

かもしれない、『戦の場』かもしれないわ。」主は確かに、世界のこの興味深い地域で働く美しい人々を必要とされたのです。この素晴らしい夫婦宣教師たちは、アジアの国々に来ることを自分で選んだわけではありません。彼らの奉仕の結果を見ると、彼らはこの特別な召しのために、主から召されたことが分かります。

わたしたち家族はこれまでに4度、子供に伝道の召しと任地を告げる手紙を、わくわくしながら開けました。その度に、伝道地での彼らの様々な可能性について、胸を躍らせて考えました。本人の行きたい所があっても、「あなたの任地は___伝道部です」という言葉を見たとき、例外なく、家族一人一人が素晴らしい気持ちを感じました。わたしたちは、預言者が主に導かれて、4人の子供たちが喜んで出て行く場所を選んだことを知っていました。大勢の帰還宣教師たちも、自分の伝道の召しについて、この過程と神からの霊感があったことを証しています。

わたしは、幼いカミーのあの晩の質問に、満足な答えをまだ出していません。何年もの間わたしたちは、幼い子供が生活に少し押しつぶされそうになったあの夜のことを、思い出しました。あれ以来、ほかに聖文や多くの物語を読んで話し合いました。わたしたちは、救い主には選ばれた人々への素晴らしい約束を受けました。すなわち、「あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さる」のです（ヨハネ15：16）。

この約束は、わたしたちの祈りの答えであり、幼い子供にまで導きを与えてくれます。最近、それを改めて感じたのは、今は15歳になったカミーが、大人の友人からこう質問されたときのことでした。「子供のときに香港で生活するなんて、君はどうしてそんなに運がいいのかな？」カミーはわたしを見て、友人にこう答えました。「そうじゃないの、選ばれたのよ。」

個人への預言的な啓示は、教会での召しの固い基盤であることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

証書と同じ効力

七十人

シェルドン・F・チャイルド

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員にとって、「正直は唯一の策」です。



わたしはユタ州北部の小さな農場で育ちました。生計を立てるには十分と言えない広さでしたが、わたしのような少年に仕事を与えるには十分な広さの土地が我が家にはありました。両親は善良で熱心に働く、勤勉な人々でした。生計を立てるため、父は外に働きに出ていました。父は毎朝、出勤前に、その日の晩父が戻るまでに済ませておくわたしの仕事のリストを作っていました。あるときそのリストの中に、干し草用のくま手の壊れた箇所を鍛冶屋かじに持って行き修理する、という項目がありました。わたしはあまり気が進みませんでした。父がお金を置いていってくれなかったからです。どうしたらよいのでしょうか。わたしはその仕事をできるかぎり後回しにしました。でもほかの仕事を皆やり終えてしまうと、もうこれ以上先延ばしできないことが分かりました。父は、帰宅

したらくま手が直ったかどうか聞くでしょうし、修理を済ませておくのはわたしの責任でした。鍛冶屋まで1キロ半ばかりの道をとぼとぼ歩いたのを今でも覚えています。鍛冶屋に着いて、溶接の様子を見ていたときの落ち着いた気持ちまで覚えています。修理が済むと、わたしはびくびくしながら言いました。「お金がないんですが、父が後で払います。」鍛冶屋は心配を察してくれたようで、わたしの肩をたたいてこう言いました。「坊や、大丈夫だよ。君のお父さんの約束は証書と同じだからね。」わたしは、くま手が直った安堵感あんどと父が約束を必ず守る人として知られていることのうれしさから、家まで走って帰ったのを覚えています。

当時子供だったわたしは、言われた言葉がどういう意味を持つのか完全には理解できませんでしたが、それがすばらしい称賛であることは分かっていました。後年、「その約束は証書と同じ」と言われる人が、誠実で高潔な、信頼ごんにちされる人であることを知りました。今日、人や神と交わした言葉、約束、聖約を破ってまったく心にかけない人々がいます。信頼の置ける人と交際できるのは、何という祝福でしょう。

これに関する力強い模範は『モルモン書』の中に見いだせます。ニーファイと兄たちしんちゅうがエルサレムに行ってラバンから真鍮の版を手に入れるように、父親のリーハイから責任を与えられたことを皆さんは覚えていると思います。試みに失敗して、兄たちは荒野野にいる父親のもとに帰りたがりました。しかしニーファイは、自分たちに

は果たすべき仕事、成し遂げるべき務めがあることを知っていて、こう言いました。「わたしたちは主から命じられたことを成し遂げるまでは、荒野野にいる父のところへは下って行きませぬ。」¹彼らは再び試みましたが、今度も失敗しました。そこでニーファイは、「都に忍び込み、ラバンの家に向かって進んで行きました。」²ニーファイはそこでぶどう酒に酔っているラバンを見つけ、御霊みたまの声に従います。御霊はこう言われました。「この男を殺しなさい。主はあなたの手はこの男を渡された。……一人の人が滅びるのは、一つの国民が不信仰に陥って滅びてしまうよりはよい。」³それから、ラバンの服を身に着け、宝物蔵に入って、真鍮の版を手に入れます。ニーファイは派遣された目的を成し遂げました。

しかしわたしたちは、ラバンの召使いゾーラムの印象的な模範を見すごしてはなりません。ニーファイは宝物蔵を出るとき、ゾーラムについて来るように命じました。ニーファイが兄たちを呼んだとき、ゾーラムはようやく、自分の従ってきた人がラバンではなくニーファイであることを知りました。聖文にはこうあります。ゾーラムは「おのき始め、……逃げて……帰ろうと」⁴しました。ところがニーファイは彼を捕まえて、「恐れるには及ばない……もしわたしたちと荒野野へ下って行くならば、……自由の身になる」⁵と告げました。ゾーラムはそうすると約束し、誓いました。ニーファイはこう述べています。「ゾーラムがわたしたちに誓ったので、彼についての心配はなくなりました。」⁶ゾーラムは信用に値する人でした。彼の誓いには拘束力があり、彼の約束は十分に信用できるものだったのです。

誠実と高潔は、時代遅れの原則ではありません。それらは今日の世界でも通用する重要な原則です。わたしたちは教会で次のように教えられています。

何かを行うと言ったら、それを実行しなさい。

約束をしたら、それを貴びなさい。
召しを受けたら、それを果たしなさい。
何かを借りたら、それを返しなさい。

負債があれば、それを返済しなさい。
取り決めに結んだら、それを守りなさい。

N・エルドン・タナー副管長は次のような経験について述べています。「最近、ある青年がやって来てこう言った。『ある人に毎年何がしかのお金を支払うという約束をしました。でも今、生活が苦しくて支払いができません。支払えば、家を失います。どうしたらいいでしょう。』

わたしはその青年を見て『約束を守りなさい』と言った。

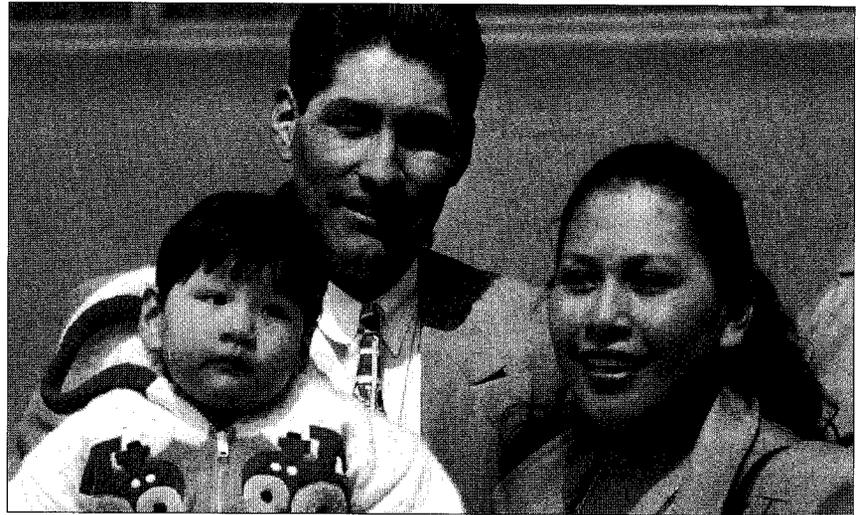
『家がなくなってもですか』と青年が聞き返すので、

わたしはこう答えた。『家のことについては何も言っていない。あなたの約束について話しているのです。あなたの奥さんも、家はあっても務めや取り決めや聖約を守らない夫と住むよりは、借家に住むことになっても約束を守り、責任を果たし、取り決めや聖約を守る夫を望んでいると思いますよ。』⁷

「正直は最善の策」とは、だれもが知っている言葉です。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員にとって、「正直は唯一の策」です。わたしたちは同胞^{はらから}に対し誠実でなければなりません。神に対してもそうです。神と交わした聖約を尊ぶとき、わたしたちは神に対して正直であると言えます。

わたしたちは聖約を交わす民です。わたしたちはバプテスマの水をくぐるときに聖約を交わします。⁸ また、ふさわしい状態^{せいざん}で聖餐を取り、毎週の聖約を新たにします。わたしたちは、キリストの名を受け、いつも御子を覚え、御子の戒めを守ることを約束します。それに対し主は、わたしたちがいつも主の御霊^{みたま}を受けられると約束されました。わたしたちは神殿に参入して聖約を交わします。その報いとして、わたしたちは天よりの聖約を守るという条件の下に永遠の命という約束された祝福を受けます。

神と交わす聖約を軽々しく考えてはなりません。『教義と聖約』の中で、主はこうおっしゃっています。「あなたがたがふさわしいと認められるよう



に、死に至るまでもわたしの聖約の中にとどまるかどうか、あらゆる点であなたがたを試す……。』⁹

『モルモン書』に登場するアンタイ・ニーファイ・リーハイ人は、聖約を守るという点で感動的な模範を示しています。アンモンと彼の兄弟たちは14年を費やしてレーマン人に福音を伝えました。何千もの人々が真理の知識へと導かれました。主に帰依した人々は「二度と道を踏み外さなかった」のです。¹⁰ 「彼らはすべてのことについてまったく正直でまっすぐであり、また最後まで確固としてキリストを信じ[まし]た。』¹¹ 彼らは神の憐れみに心から感謝していたので、主と聖約を交わし、「同胞の血を流すよりは自分の命を捨て」¹² ようとしました。彼らが武器を地に埋めてしまったのを、皆さんは覚えていらっしゃると思います。彼らは聖約に対してとても忠実だったので、レーマン人の軍隊が攻めて来たときでさえ、「出て行って彼らに会い、彼らの前で地に身を伏せて、主の名を呼び始めた」¹³ とあります。彼らは何の抵抗もせず、多くが殺されました。これらの人々は、主と交わした聖約を破るよりは進んで死を選んだのです。

神と同胞との交わりにおいて、誠実と高潔の模範とならうではありませんか。ジョセフ・B・ワースリン長老はこう言っています。「高潔であることの報いは計り知れません。その一つは、自分が正しい行いをしているという自覚から来る言い尽くせない心の平安が

あります。また、罪に伴う罪悪感や心痛から解放されます。高潔さがもたらすもう一つの報いは、高潔自体から生じる神に近づくための自信です。……高潔さの何よりの報いは、聖霊を常に伴侶^{はんにりよ}にできるという点です。……主がわたしたちに寄せてくださっている信頼にふさわしく生きようではありませんか。』¹⁴

神や同胞と交わした約束や聖約を貴んで、わたしたち全員が「あの人の約束は証書と同じです」と言われる人物になれますように、イエス・キリストの御名により、お祈りします。アーメン。

注

1. 1ニーファイ3:15
2. 1ニーファイ4:5
3. 1ニーファイ4:12-13
4. 1ニーファイ4:30
5. 1ニーファイ4:33
6. 1ニーファイ4:37
7. *Conference Report* 『大会報告』1966年10月、p.99。または、*Improvement Era* 『インブルーメント・エラ』1966年12月号、p.1137
8. モーサヤ18:8-10参照
9. 教義と聖約98:14
10. アルマ23:5-6参照
11. アルマ27:27
12. アルマ24:18
13. アルマ24:21
14. *Finding Peace in Our Lives* 『日々
の平安』 pp.193-194

主の平安

七十人

デニス・E・シモンズ

不安になったイエスの弟子たちが「もう一人の慰め主」から平安を与えられたように、今日のすべての男女は、毎日の生活の中でこのすばらしい祝福にあずかることができます。



救 い主は地上での働きの最後の数日間に、使徒たちへの教えを終えられました。主は3年にわたる務めの間、使徒たちとともにおられました。彼らが学ぶ能力を身に付ける速さに応じて、教訓に教訓、規則に規則を加えてきた主の教えを完了されたのです。

地上での働きの最後が近いのを知って、主は差し迫った別れについてこう言われました。「わたしはまだしばらく、あなたがたと一緒にいる。……『あなたがたはわたしの行く所に来ることはできない。』」(ヨハネ13:33)

恐れや失望、不安が謙遜な弟子たちを襲ったはずですが、イエスは彼らの守りであり、助けであり、光でした。主の導きや教え、模範、慰めなしに、弟子たちに何ができるでしょうか。

主は愛と哀れみを込めて約束されました。「わたしはあなたがたを捨てて

孤児とはしない。……わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。それは真理の御霊である。この世はそれを見ようとせせず、知ろうとしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。……聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。」(ヨハネ14:18, 16-17, 26)

イエスは友である使徒たちに、また信じるすべての人のために、最後に意義深い祝福を残されました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ14:27, 下線付加)

聖文が証しているように、時の中間における主の僕たちの生活の中で、この約束は成就しました。わたしたちは、この時満ちる神権時代においても、同じ約束が続けて成就していると証します。

注目すべきことに、イエスは世の与えるものとは異なる主の平安を約束されました。世の人々は、戦争や暴力、弾圧、不正、争い、疫病、貧困からの解放を叫び求めています。救い主がそのような世俗的な平和を考えておられたのではないことは、使徒たちに与えられた特別な教えの最後の言葉から明

らかです。「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ16:33, 下線付加)

この世において、悩みは続くでしょう。しかし、苦悩のさなかにあっても主に従う人は、主にある平安を得るでしょう。言い換えれば、周りの世界が崩れていっても、約束された慰め主は、真の弟子の報いとして主の平安を与えてくださるでしょう。究極の平安がもたらされるのは、もちろん、主がこの世に打ち勝たれたからです。しかし、たとえこの世では問題があっても、わたしたちは主の平安を得ることができます。主の平安とは、わたしたちが主に従って主の戒めを守ろうと努力するときに、慰め主である聖霊によって、心と思いに告げられる平安、落ち着き、慰めなのです。

「わたしに学び、わたしの言葉を聴きなさい。わたしの御霊の柔和な道を歩みなさい。そうすれば、あなたはわたしによって平安を得るであろう。」(教義と聖約19:23)

「義の業を行う者はその報いを受ける、すなわち、この世において平和を、また来るべき世において永遠の命を受ける……。」(教義と聖約59:23)

ヒラマンが戦いの最中に自分の「靈に平安を告げ」られたように(アルマ58:11)、またオリバー・カウドリが『モルモン書』の真実性について知りたいと心から主に願ったときに「心に平安を告げ」られたように(教義と聖約6:22-23参照)、真剣に求める人は皆、同じ平安を心に告げられます。この平安は、静かな細い声によって告げられた確信により、もたらされます。聖霊は靈の御方ですから、一般に、五感を通してではなく、心と思いに触れることで、人に語りかけられます。言い換えれば、考えや印象、気持ちを通して穏やかに語られるのです。

バッカー長老はこう述べています。「御霊は、叫んだり、強い力で揺すったりはしません。ささやきかけてくるのです。そのささやき方は、非常に静

かで、ほかのことに気を取られていると、まったく気がつきません。」(「主のともしび」『聖徒の道』1983年10月号, p.38)

ですから、多くの人は「声」を聞きません。むしろ、聞きたいとさえ思っていない。何でも自分でしたいと考え、決心しているので、自分の力や能力に疑問を抱かせるようなものを拒絶し、あざけるのです。「生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けられない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。」(1コリント2:14)

御霊は穏やかですが、大きな力をもって語られます。御霊を受けるには、ある意味で身をゆだねる必要があります。イエス・キリストの降誕の数年前、牢に閉じ込められたニーファイ人の預言者「ニーファイとリーハイは火のようなものに包まれ」ました(ヒラマン5:23)。二人を殺そうとした人々は、不信仰な群衆を覆った暗黒の雲の上から来るような声を聞きました(ヒラマン5:29参照)。大地が揺れ動き、その声は悔い改めを告げました。「彼らはこの声を聞いたが、それは雷のような声ではなく、大きな騒々しい音でもなく、まるでささやきのような、まったく優しい静かな声であり、それでいて心の底までも貫いた。

その声は優しくったにもかかわらず、見よ、大地は激しく揺れ動いたのです(ヒラマン5:30-31, 下線付加)。人々はキリストを信じて、悔い改めるように促されました。「そして見よ、神の聖なる御霊が天から降って、彼らの心の中に入られたので、彼らはあたかも火で満たされたかのようになり、驚くべき言葉を語ることができた。そして彼らに声が、すなわち、まるでささやくような快い声が聞こえた。『平安があるように。』」(ヒラマン5:45-47)

彼らは、従順な人々の心を貫く、目に見えない力に身をゆだねました。

パウロは御霊の実、すなわち御霊がもたらすものについて、述べています。「しかし、御霊の実は、愛、喜び、平



和、寛容、慈愛……であって、これらを否定する律法はない。」(ガラテヤ5:22-23) 言い換えれば、御霊は何でも貫くことができるのです。いかなる律法も、御霊がキリストを信じる従順な人々に働きかけるのを止めることはできません。聖文が教えるところによれば、御霊には次のような働きがあります。

- 人の思いを照らす(教義と聖約6:15参照)。
- 「善を行うように導く、すなわち、公正に行動し、へりくだって歩み、義になんて裁く……。」(教義と聖約11:12)
- 人の心を喜びで満たす(教義と聖約11:3; モーセ4:20参照)。
- 「すべてのことの真理」を表す(モロナイ10:5)。
- 御父と御子のことを証する(教義と聖約20:27参照)。
- すべてのことを知っている(教義と聖約42:17参照)。
- 確信を与える(教義と聖約100:8参照)。
- 知識を与える(教義と聖約121:26参照)。
- 「静かな細い声」で語る(1ニーファイ17:45)。
- 祈るように教える(2ニーファイ32:8参照)。
- 人に大きな変化を生じさせる(モ

ーサヤ5:2参照)。

- 保証を与える(アルマ58:11参照)。
- 「希望と完全な愛」で満たす(モロナイ8:26)。
- 自由を与える(2コリント3:17参照)。
- 慰める(ヨハネ14:16参照)。
- 「平安を告げ」る(アルマ58:11)。
- 求めにこたえる(教義と聖約6:14参照)。

不安になったイエスの弟子たちが「もう一人の慰め主」から平安を与えられたように、今日のすべての男女は、毎日の生活の中でこのすばらしい祝福にあずかることができます。仲間からのプレッシャーに悩む青少年も、抑え切れそうにない激情や感情にかき乱されている人も、孤独や絶望に陥った人も、飢えた人、抑圧された人、忘れられた人、おびえている人、虐待された人、虐待した人、うそをついた人、盗んだ人も、すべての人が主に身をゆだねて従い、主の業に従うならば、同じ平安を受ける資格があります。

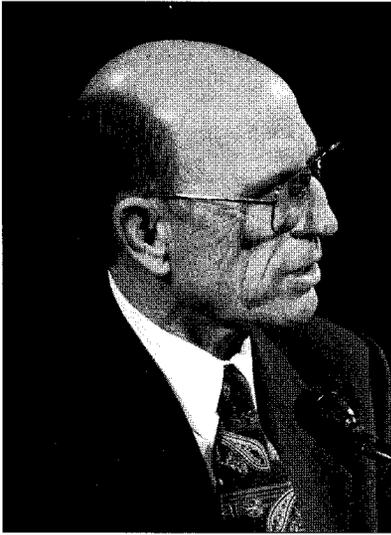
イエスはすべての人を招いておられます。「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」(マタイ11:28) これが真実であることを、イエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

感謝

七十人

ジェラルド・L・テラー

わたしはイエス・キリストとその贖罪しよくざいに感謝しています。主は神として存在しておられた天界を御自身の意志で離れ、この世に貧しい幼子として降りて来られました。



愛する兄弟姉妹の皆さん。今日は感謝についてお話ししたいと思います。第1に愛する家族に対する感謝、第2に生ける預言者に対する感謝、そして第3に、主イエス・キリストに対する感謝です。

ニーファイは「わたしニーファイは善い両親から生まれた」(1ニーファイ1:1)と述べています。わたしも同じことを言いたいと思います。わたしも善い両親から生まれたからです。わたしの父は神権を尊ぶ忠実な末日聖徒でした。愛する母はわたしがまだ小さいころに6人の子供を残して亡くなりました。その後父は、9人の子供を持つ、夫に先立たれた女性と再婚しましたので、わたしには5人の兄弟と9人の姉妹がいます。わたしの2番目の母はわたしを実の子のように愛してくれました。その模範に感謝しています。わた

しの兄弟と姉妹はわたしを愛し、支えてくれます。彼らは主と主の福音を愛しています。そのような兄弟姉妹を授けてくださった天の御父に感謝しています。ラントとテラーの家族が一緒になってもう54年が過ぎ、両親も他界しましたが、家族の一致と深い愛は今も健在です。また、祖父母やおじ、おばなど、親戚の者たちからの愛と支えにも感謝しています。

わたしは愛にあふれた献身的な妻シャロンと6人の子供たち、2人の義理の息子たち、それに5人の孫たちに感謝しています。詩篇の作者はこう言いました。「子供たちは神から賜わった嗣業しきょうであり……矢の満ちた矢筒を持つ人はさいわいである。」(詩篇127:3, 5)主から授かった子供たちに、また彼らの愛と支えに感謝しています。

わたしは生ける預言者ゴードン・B・ヒンクレイ大管長に感謝します。昨年11月、大管長はチリを含む多数の南アメリカの国々を訪問しました。時を同じくして、チリではラテンアメリカの国々のサミットが開かれていました。16の国から、大統領を含む政府の高官がチリを訪問していたのです。彼らの滞在先やサミットの会場の周辺の道路は立ち入り禁止になっていました。そして、会場を行き来する要人のために昼夜を問わずサイレンが鳴り、赤色灯が点滅して、交通規制が行われました。その喧噪けんそうの中にヒンクレイ大管長が到着しました。ファンファーレや特別な歓迎、特別な待遇は何もありません。2台のバンが空港からサンチアゴの町へ入って行きました。その

1台には主の生ける預言者がいたので、ホテルではサミット出席者のために警官や警備員が配備されましたが、ヒンクレイ大管長は家族や同行の人々とともに人知れずホテルに入りました。

わたしは遠い昔の馬屋での出来事を思い出しました。神の御子は、羊の群れを守る一握りの野の羊飼いで以外だれにも気づかれることなくお生まれになりました。地上の神の王国は、華々しく見える出来事の陰で静かに発展しているのです。

翌日、ヒンクレイ大管長は5万人を超える聖徒たちにキリストについて、またキリストの教会について証あかししました。集った人々は大管長の深い信仰を感じ取ることができました。ヒンクレイ大管長は出席したすべての人々に、「神は生きておられ、イエスはキリストであられる、とわたしゴードン・B・ヒンクレイが証したことを忘れないでください」と言いました。そして聖徒たちに、生活を正し、子供たちを主の道に従って教え、神殿で結び固めを受けることによって永遠の家族を築くようにと勧告しました。大会の終わりには、チリの聖徒たちは目に涙を浮かべ、地上に確かに主の預言者がいるとの証をもって、立ち上がって白いハンカチを振り、大管長に別れを告げました。ヒンクレイ大管長もポケットからハンカチを取り出し、愛を込めて別れを告げました。このチリの聖徒たちや世界中の大勢の聖徒たちと同じように、わたしもゴードン・B・ヒンクレイ大管長が地上における神の生ける預言者であることを知っています。わたしは大管長に、またその模範に感謝しています。

わたしはイエス・キリストとその贖罪しよくざいに感謝しています。主は神として存在しておられた天界を御自身の意志で離れ、この世に貧しい幼子として降りて来られ、マリヤとヨセフのもとに、馬屋でお生まれになりました。宿には彼らのいる余地がなかったからです。主は御父のほかの子供たちのために、御自身を顧みることなく奉仕の業まいしんに邁進なさいました。主の願いは、「人の不

死不滅と永遠の命をもたらす」(モーセ1:39)という御父の御心を成就することでした。

この世での生涯の終わりに、主はゲツセマネの園に入り、アダムに始まりこの世に生を受けることになる最後の人まで全人類の罪をその身にお受けになりました。主は「すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないように」されたのです(教義と聖約19:16)。主御自身の言葉にそのときの様子が描かれています。「その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大なる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。そしてわたしは、その苦い杯を飲まずに身を引くことができればそうしたいと思った。」(教義と聖約19:18)それから数時間後、主は裁判にかけられ、人に裁かれ、十字架にかけられたのでした。大なるエホバ、無数の世界の創造主は、へりくだって御自身を邪悪な者たちの手にゆだね、御父の御心を成就されたのです。

復活された主はアメリカ大陸の民にこう教えられました。「悔い改めて、わたしの名によってバプテスマを受ける者はだれであろうと、満たされるであろう。そして、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、わたしはその者を、わたしが立って世の人々を裁くその日に、わたしの父の御前で罪のない者としよう。」(3ニーファイ27:16)悔い改めに関する著作の中で、ボイド・K・パッカー会長は次のように語っています。「人間の心のやむことのない戦いの中で、悪魔はおびただしい数の捕虜を掌中に収めている。そして、多くの捕虜は逃れるすべを知らず、悪魔の手下として働かされているのだ。しかし、その罪と罪悪感の強制収容所にいるすべての捕虜の手には、外に通じる扉の鍵が握られている。それは悔い改めという名の鍵である。その使い方を知っているかぎり、悪魔は捕虜たちを捕らえておくことはできない。悔い改めと赦しという双子の原則は、誘惑者の恐



部会が始まる前に談笑する十二使徒定員会のデビッド・B・ヘイト長老(左)とニール・A・マックスウェル長老。

ろしい力をもしのぐ強さを持っているのである。」(The Things of the Soul『霊に関する事柄』p.114)

主はイザヤ書でこう言っておられます。「たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。」(イザヤ1:18)主はまた近代においてこう語っておられます。「見よ、自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。人が罪を悔い改めたかどうかは、これによって分かる。すなわち、見よ、彼はそれを告白し、そしてそれを捨てる。」(教義と聖約58:42-43)

イエス・キリストは全人類の裁き主です。「門を守る者はイスラエルの聖者である。聖者はここには使われられない。またその門を通る意外に、ほかの道はない。」(2ニーファイ9:41)もしわたしたちが主や主の御父とともに生活するにふさわしくない状態であれば、主は悲しまれるでしょう。兄弟姉妹の皆さん、悔い改めという名の鍵の使い方を知しましょう。そして、救い主の前に立つときに「父に対する弁護

者であって、父の前で〔わたしたち〕のために弁護者の言葉を聴くことができますように。主はこう言われます。「父よ、罪を犯したことがなく、あなたが御心にかなうとされた者の、苦しみと死を御覧ください。あなたの子が流した血、すなわち、あなた御自身が栄光を受けるために、あなたが与えになった者の血を御覧ください。」

そのために、父よ、わたしの名を信じるこれらわたしの兄弟たちが、わたしのもとに来て永遠の命を得られるように、彼らをお救いください。」(教義と聖約45:3-5)

わたしの願いは、ふさわしくなって永遠の命を得、イエス・キリストと、そして御父とともに生活することです。わたしたちすべてが同じ願いを持ち、その達成に向けて努力することができますように祈っています。

イエス・キリストが神の独り子であり、わたしたちの主であり贖い主であることを証します。主の復活に思いをはせるこの特別な季節に、主と主の贖罪に心から感謝いたします。イエス・キリストの御名により申し上げます。アーメン。

「彼女は母親だからさ」

十二使徒定員会会員
ジェフリー・R・ホランド

自分にできる限りの最上の親になるべく全力を尽くすなら、皆さんは人間としてなし得ること、神がなすように期待されることはすべてを行えるでしょう。



ビクトル・ユゴー（フランスの詩人・小説家。1802-1885）が書いたとされる次のような詩があります。

彼女はパンを二つにちぎり、二つとも子供たちに与えた。
彼女の子供はむさぼるように食べた。
「自分の分を残さないなんて……。」
軍曹がつぶやいた。
「腹がすいてないんでしょう。」一人の兵士が言った。
「いいや」と軍曹。「彼女は母親だからさ。」

この1年間、わたしたちはアイオワ、ネブラスカ、ワイオミングを横断する過酷な旅に取り組んだ人々の信仰と勇気をたたえますが、この時期にわたしは開拓者の母親に匹敵する現代の母親

たちを称賛したいと思います。開拓者の母親は乳飲み子の世話をし、子らのために祈り、にもかかわらずあまりにも頻繁に遠い道のりの途上でわが子を埋葬しなければなりません。わたしの話を聴いてくださっている女性で、母親になりたいと心から望みながらかなえられずにいる人々に申し上げます。このことで流した皆さんやわたしたちの涙が報われ、神はいつの日か「わびしき心にも希望を与え」¹てくださるでしょう。預言者らがこの説教壇から繰り返し説いてきたように、忠実な人々には、たとえ即座に与えられないとしても、最終的に「いかなる祝福も差し控えられることはない」²のです。さらには子供を養育する召しが実子に限られないことに、わたしたちは喜びを感じます。

母親について話すうえで、わたしは父親にあるきわめて重要な火急の役割をなおざりにするつもりはありません。とりわけ現代の家庭における父親の不在は「この時代の中心的社会問題」³とされています。実際、父親不在の問題は家庭に父親がいる家庭にさえあります。家で食べて寝るだけの、いわば意思を持たない「リモコン人間」のような父親の場合です。しかしこの話題は、別の機会に神権者^{きんけん}を対象にして話しましょう。今日わたしは、乳飲み子を揺りかごの中で育て、自分の子供たちに義を教え、主が地上の人間に定められた目的の中で大切な働きをする母親の手について、特にほめたたえたいと思います。

パウロはテモテの「偽りのない信仰」

を称賛し、こう語りました。「この信仰は、まずあなたの祖母ロイスとあなたの母ユニケとに宿ったものであった……。」⁴「[あなたは]幼い時から、聖書に親し〔んでいる。〕」⁵幼いときからそうした真理を教えてくれるすべての母親、祖母の皆さんに感謝します。

母親について一般的な話をするに際し、わたしはとりわけ若い母親の皆さんをたたえ、励ましたいと思います。母親の務めは重く、ほとんどの場合目立ちません。若いうちは、往々にして夫か妻あるいはその双方がまだ学生であつたり、生計を立てるために夫が働き始めたばかりで蓄えもなかったりします。わずかに収入があつたかと思えば、すぐに底を突いたりします。アパートの装飾は、普通、洗練された二つの選択肢のいずれか——デゼルト産業で購入した中古家具を据えるか、何もないか——です。車は、あつたとしてもタイヤの溝がすり減り、ガソリンは空っぽです。しかも、若い母親にとってはしばしば最もつらい深夜の授乳や夜泣きで疲労こんぱいします。この時期、母親は、わたしの知るかぎりどの年齢層のどのグループの人々より睡眠不足が続き、人のために働きの個人的な気分転換の時間が持てません。目の下のくまが時にはロードアイランド州くらいの大きさになっても不思議ではありません。

そしてもちろん皮肉なことに、このような姉妹に限ってわたしたちはワードやステーキの補助組織の責任に召したい——あるいは召す必要がある——と思う場合がしばしばあります。気持ちはお分かりいただけだと思います。ロイスやユニケの卵とも言える、このような模範的な影響力を持つ人々を責任に召したいと願わない人はいません。皆さん、知恵を用いましょう。まず家族を何より優先しなければなりません。子供が小さいうちは特にそうです。しかしそれでもなお、ほかの人々が皆さんや皆さんの家族に仕え、励ましを与えてくれるのと同じように、若い母親は教会で忠実に奉仕するすばらしい方法を見いだせるでしょう。

この忙しい時期に最善を尽くしてく

ださい。何をするにも、自分に託されたほかに比べるもののない役割を重んじてください。その役割のゆえに神は天使を遣わされ、皆さんと皆さんの子供たちを見守ってくださいます。教会の指導者やいろいろな方面での友人の方々はもちろん、特に夫の皆さんは妻によく協力し、心を配り、知恵を用いてください。「天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある」⁹ことを忘れないでください。

母親の皆さん、わたしたちは皆さんの「信仰こめて、一歩ずつ」歩む姿に感謝し、尊敬の念を抱いています。その姿がこれまでも、現在も、将来においても意味のあることを知ってください。皆さんが何らかの理由でこの勇気の要る務めを、夫の力を借りず独りで果たしているとしたら、わたしたちは皆さんのためにいっそう強く祈り、いっそう固い決意をもって助けの手を差し伸べたいと思います。

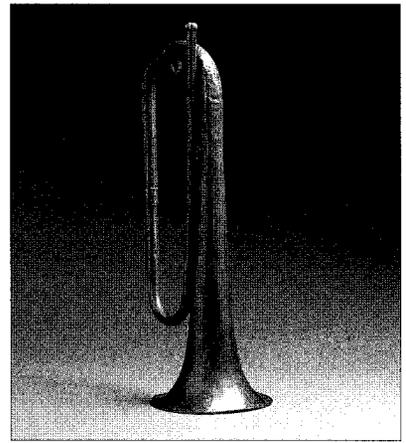
ある若い母親から最近手紙を頂きました。彼女の心配はほぼ3つに集約されると言います。1つ目は末日聖徒の母親の務めについて話を聞く度に、自分がふさわしくないか、期待される働きができるようにはならないという心配に駆られると言います。2つ目は子供が言葉を覚え始める前から彼らに読み書きやインテリアデザイン、ラテン語、計算、それにインターネットについて母親が教えるよう世間から期待されているように感じることです。3つ目は、人々の言動がほとんどの場合そういうつもりはないにしても、時折、恩着せがましい無益なものと彼女には感じられるということです。なぜなら、彼女が受ける助言や称賛の言葉でさえ、その中に神が望まれる母親になるために、あるいはなりたいと思うために時に必要とされる精神的な苦勞、霊的・情緒的な努力、終日終夜力のかぎり果たさなければならぬものが感じられないからだと言います。

それでも、一つのことが彼女に頑張りを続ける力を与えてくれたそうです。「これまでの様々な苦勞や悲喜こもごもを通して、心の奥底で自分は神の御業に携わっているという自覚がありま

した。母親の務めを果たすとき、わたしは神と永遠に手を取り合っていて働いているのです。たとえ一部の神の子供たちが主を悲しませても、人が親となることに神は究極の目的と意義を見いだしておられるという点に、わたしは深く感動しました。

結局、すべてが耐え切れなように思えたあの避けられない困難な日々には、わたしが思い起こすように努めたのは、この点でした。自分の力不足や心配のせいでは主を求めようになり、主の御力を受けられるようになるのかもしれませんが。もしかすると主は、わたしたちが不安になって主に助けを求めようになることを、ひそかに望んでおられるのかもしれませんが。だとすると、主はわたしたちを通じて、何の妨げも感じずに、子供たちを直接お教えられることができますと思います。わたしはこの考え方が気に入りました。」そして彼女は手紙をこう結んでいます。「そう考えると希望がわきまです。わたしが天父の御前に義にかなった状態を保てば、きっと何の障害もなく、子供たちに導きと与えられるでしょう。だとすると、これが主の御業、主の栄光の文字どおりの意味かもしれません。』⁷

この手紙を読むと、若い母親たちの目の下のくまの原因は乳飲み子や幼児の世話のためだけでなく、少なくとも、神が望まれるような子供を育てる能力を熱心に得ようと自分を吟味して眠れぬ夜を過ごしているためだと分かります。そのような献身と決意に感動して、わたしは主の御名により母親の皆さん全体に申し上げます。皆さんはすばらしい方々です。すばらしい働きをしていらっしゃる。皆さんにそのような責任が与えられているという事実そのものが、天父が皆さんに信頼を寄せておられる永遠の証拠です。皆さんが子供をもうければ、それですぐに全知の力を得て何もかも分かるわけではないことを主は御存じです。皆さんが夫とともに神を愛し、自ら福音に従って生活するように努めるなら、忠実な人々に約束された聖なる御業の導きと慰めを求めるなら、神殿に参入して男

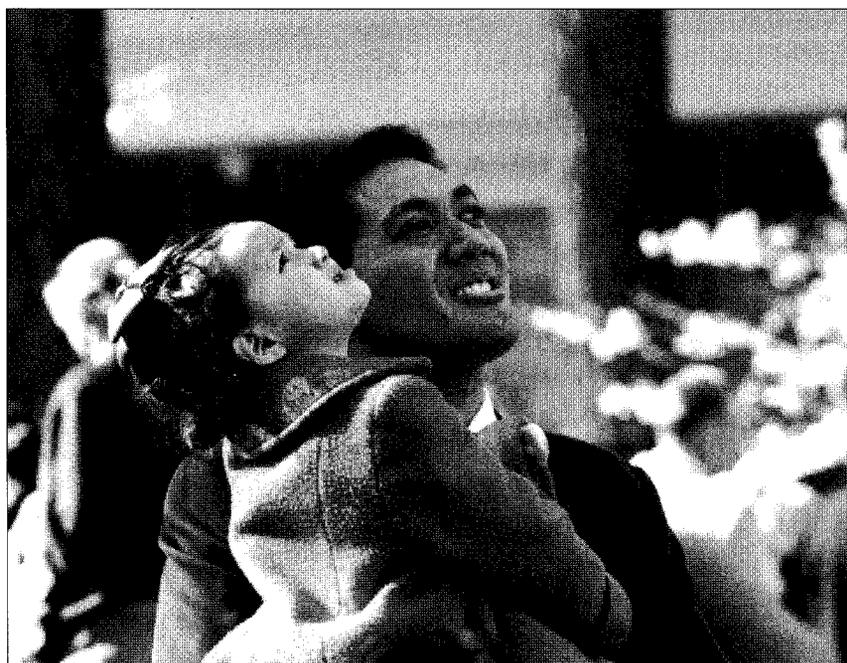


1847年に使用されたこの隊列用ラッパは毎朝5時になると鳴り響き、一同が目覚め、祈りに加わるための合図として用いられた。

性も女性もこの世で交わせる最も貴い聖約を交わして祝福を求めるなら、自分の子供たちを含めた周囲の人々に、自分も天から示してほしいと望むような思いやり、同情、赦しの気持ちを示すなら、自分にできる限りの最上の親になるべく全力を尽くすなら、皆さんは人間としてなし得ること、神がなすように期待されることはすべてを行えるでしょう。

時には、子供や孫の決断に心が傷つけられることもあるでしょう。すぐには期待どおりにいかないかもしれませんが。どんな母親、父親も同じ悩みを抱えています。人々に愛され、親としてすばらしい成功を取めたジョセフ・F スミス大管長でさえ、次のように懇願しました。「神よ、願わくばわたしの子供を損なわせたもうな。」⁸それはすべての親の心の叫びであり、同時にすべての親の恐れている点でもあります。しかし努力と祈りを怠らなければ破綻を来すことはありません。皆さんには励ましを得、次のことを知る十分な権利があります。すなわち最終的には子供たちは皆さんの名前を祝福された者の中に数えるようになるでしょう。皆さんより以前に母親であった人々も、皆さんと同じ希望と恐れを抱いたのです。

皆さんには全人類の母であるエバから受け継いだ立派な伝統があります。エバは、自分とアダムは「人が存在するため……喜びを得るため」⁹に墮落しなければならぬことを理解していま



した。皆さんはサラ、リベカ、ラケルの伝統も受け継いでいます。彼女たちがいなければ、わたしたちすべての祝福となる、アブラハム、イサク、ヤコブに与えられた偉大な族長の祝福はなかったでしょう。皆さんにはロイスやユニケ、2,000人の若い兵士の母親の伝統もあります。創世の前から選ばれ予任されて、神の御子を身ごもり、育て、生んだマリヤの伝統もあります。わたしたちは自らの母親も含め皆さんに感謝し、こう申し上げます。神の御業と栄光に直接携わること、すなわち高い所にある日の栄えの領域で不死不滅と永遠の命を受けられるように、神の息子、娘たちを死すべき状態に置いて彼らに地上の命を与える御業に加わること、これ以上に大切なものはこの世にほかにありません。

柔和な心のへりくだった状態で主のみもとに来て、ある母親が語ったように「天国のドアをドンドンたたき、この大いなる務めを果たすために必要な導きと知恵と助けを求め、嘆願してください。そうすればドアは大きく開かれ、皆さんに永遠にわたる力と助けが授けられるでしょう。世の救い主が言われた約束を求めてください。皆さんや子供の抱える問題が何であれ、贖いという癒しの薬を求めてください。信仰さえあれば、皆さんがどのような状

態にあらうと、いやもっと正確に言えば、皆さんだからこそ物事は必ず正しい方向に向かいます。

皆さんはあるいはこの務めを独りで果たせないかもしれません。しかし、必ず助けが与えられます。天地の主は皆さんのそばにいて、祝福してください。いなくなった羊を断固として探し出し、念入りに掃き出さずした銀貨を捜し出される主は、放蕩息子の帰りをいつまでも待ってくださいます。皆さんは救いの業に携わっています。ですから誠実な努力を続けるかぎり、たとえ時にはそれが頼りなく思えても、皆さんは強められ、不足を補われ、大きく成長し、今まで以上にすばらしい人になるでしょう。

母親の務めを果たすとき、いつも次の言葉を心に留めていてください。「もしキリストを信じる確固とした信仰をもってキリストの言葉に従い、人を救う力を備えておられるこの御方の功德にひたすら頼らなかったならば、あなたがたは、ここまで進んで来ることさえできなかった……。」¹⁰

主に頼ってください。心を込め、永遠に頼ってください。そして「キリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、……力強く進」¹¹んでください。皆さんは神の御業を行っています。しかもすばらしい働きをしていま

す。主は今も皆さんを祝福しておられ、これからも祝福して下さいます。最も苦しい日々でさえ、いえ、そのようなときだからこそ、祝福して下さるでしょう。人知れず辛抱強く、恐らくはためらいといくばくかの恥じらいを感じながらも、群衆を押し分けて主の衣のふさに触ったあの女性のときと同じように、キリストは、母親の務めに心を悩まし、思案し、時には涙を流している女性の皆さんにこう言葉をかけられるでしょう。「娘よ、しっかりしなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです。」¹²その信仰によって子供たちも同様に救われるでしょう。

主イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。

注

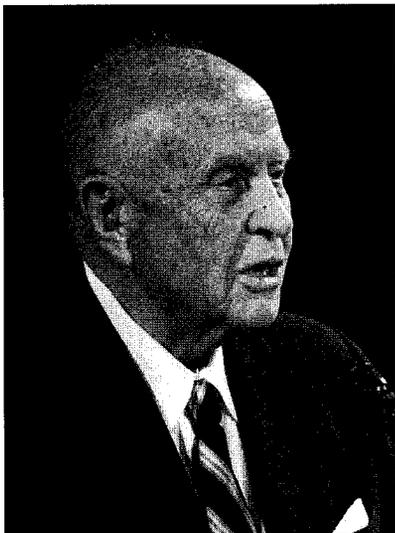
1. 「イスラエルの救い主」『賛美歌』4番；3ニーファイ22：1も参照
2. ジョセフ・フィールディング・スミス『救いの教義』、ブルース・R・マッコンキー編、2：69；ハロルド・B・リー「Ye Are the Light of the World: Selected Sermons and Writings of President Harold B. Lee」『あなたがたは世の光である——ハロルド・B・リー大管長の説教と著作』p.292；ゴードン・B・ピンクレー『聖徒の道』1991、94年7月号参照
3. トム・ロー「Fatherlessness: The Central Social Problem of Our Time」Claremont Institute Home Page Editorial「父親の不在——この時代の中心的社会問題」『クレアモントインスティテュート・ホームページ論説欄』1996年1月
4. 2テモテ1：5
5. 2テモテ3：15
6. 伝道3：1
7. 個人の書簡
8. ジョセフ・F・スミス『福音の教義』p.441
9. 2ニーファイ2：25
10. 2ニーファイ31：19
11. 2ニーファイ31：20
12. マタイ9：22

不変の基本原則

十二使徒定員会会員

デビッド・B・ヘイト

何にも増して従順さを身に付けてください。それは然るべき荘厳な方法で主の御業が遂行できるようになるためです。



兄弟の皆さん、何とすばらしい光景でしょう。壇上に立ち、このタバナクルにお集まりの非常に多くの皆さんの姿を前にして、世界的な教会の発展を思うと胸の高鳴りを覚えます。いましがた耳にした幾つかの賛美歌は、まさしくこの場にふさわしい賛美歌だと思います。「平安、いずこにて得ん」(『賛美歌』[英文]129番)このテーマについて話そうと思えば、一晩かけても話せることでしょうか。この賛美歌の前に、心をかき立てられるもう一つの賛美歌、エバン・ステイブンス作「山々よ喜び呼ばわれ」を聞きました。開拓者の到着を祝う150年祭に思いをはせると、初めてこの賛美歌を歌い耳にした開拓者がどれほど心を躍らせたことか想像できるのではないのでしょうか。あの大平原を徒歩で横断し、^{ほろ}幌馬車の中での生活と苦難に耐え、外気にさらされながら地面に横たわって

夜を明かし、はだしで行軍し、草原で遺体を埋葬するなどあらゆることをなし終え、ついにグレート・ソルトレーク盆地に到着し、そこでシオンを確立した開拓者たち、彼らが後にどのような気持ちで「山よ喜べ、谷よ歌え」と歌ったのか想像できるのではないのでしょうか。

あの大陸横断の旅に加わったわたしたちの先祖のこと、また今日の教会を思い描き、わたしたちのために道を切り開くべくありとあらゆることを行ってくれた彼らの信仰を思い見るとき、わたしたちも今同じ気持ちでこの賛美歌を歌うことができます。今日の午前^{きよう}の部会で教会に関する統計が読み上げられるのを聞き、教会の全体像、成長の様子、全世界的に今まで福音が閉ざされていた国や地域にとどまることなく増加し続けるステーク、ワード、会員数について深く思いを巡らすとき、高鳴る思いで「山よ喜べ」と歌うことができたのではないのでしょうか。わたしたちはついにここまでたどり着くことができたのです。福音は預言された^{しか}とおりに、また然るべき方法で全世界に広がっているのです。

今晚、大会に出席でき光栄に思います。わたしも年を取り、あと数年たつと、人生の期間はほぼ20世紀全体に及ぶこととなります。わたしは1906年に生まれたので、今世紀最初の6年間は人生経験に加えることができませんでしたが、今世紀の終了まで余すところあと3年です。先日、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長と西暦2000年に催される奉獻式典について話していたときに、「ヘイト兄弟にも出席してもら

つもりです」と言われ、「わたしも出席するつもりであります」と答えました。ですから、もしその日まで生き延びることができれば、最初の6年が足りないものの、1世紀の残り3年を終了することができ、今世紀の94パーセントを生き抜くことになります。

アロン神権者の皆さん、この20世紀について、またこれまでに学んだ事柄についていろいろと思い巡らすうちに、とりわけ過去1世紀にわたって自分が実際目にし、感じたことを少しお話したい気持ちになりました。

皆さんは、1906年に教会の会員数が36万人だったことを御存じでしょうか。当時のステークの数は55、伝道部数は22でした。わたしの計算に間違いがなければ、宣教師の数は1,500人ぐらいでした。つまり、各伝道部にそれぞれ約70人の宣教師がいたということです。御業が前進しつつあったそのような年に、わたしはこの世に生を受けました。

母から聞いた話ですが、わたしが生まれたのは日曜日の朝で、そのことを父は誇りに思っていたそうです。アイダホ州オークリーにあるオークリー第1ワードの監督を務めていた父は、外に飛び出すと、たまたまそこを歩いていたスカンジナビア出身の友人ピーターセン兄弟にわたしの誕生を知らせ、中に入って自分の息子を見て行くようにと言いました。母は、わたしほど不器量で小さな赤ちゃんは見たことがないと語っていました。栄養不良で、しわくちゃで、髪もなかったのです。そのような訳で、ピーターセン兄弟はわたしとの対面後、「ヘイト姉妹、この子は世話のしがいがあるでしょうか」と尋ねたそうです。これがわたしの人生の始まりでした。

その後、自動車、そして最初の飛行機が登場するのも見てきました。また小さなエナメル線で波長を合わせる小さなゲルマニウムラジオから始まり現代のエレクトロニクス世界へと進歩するのを目にする機会にもあずかりました。今でもよく覚えているのは、夜も更けてアイダホ電気社の一室にこもり、小さなラジオの波長を合わせよう

とあの小さなエナメル線で調節するのですが、ひどい電波障害に悩まされたことです。何を話しているのかだれもがまったく理解できず、中国のラジオ放送を受信したのではないかと思ったほどです。

自分がまだ若かったころの世界を振り返ってみますと、わたしたちの間で今日よく話題になる基本原則は、その当時からしっかり整っていました。この地上に住むようになって様々な出来事をこの目で見てきましたが、基本原則を変えるようなことは何も起きていないのです。今日、どこまでも速く、また様々な手段を用いてコミュニケーションを図れるまでになりました。飛行機や自動車、またほかの交通手段によって以前よりも速く移動できるようになりました。しかし基本原則、すなわち永遠の原則は少しも変わっていないのです。

若人の皆さん、わたしは、執事の職にあって世界の至る所で集会に集っている人たちのことを考えています。わたしはアダムス監督から執事の職に聖任されました。アダムス監督は、わたしの父が亡くなった後、監督の職を引き継ぎました。父はわたしにバプテスマを施してくれましたが、アロン神権を受けるときにはこの世にいませんでした。今でも執事になって神権を授かったときの感動を覚えています。そのとき、組織にあって助けをなし、この地上における主の御業の進展を助ける力が与えられたことを分かりやすい言葉で簡潔に説明してもらいました。アロン神権は12歳のときに授与されます。小神権に属する初期の段階の神権の職、すなわち執事、教師、祭司を経験し、徐々に、ここにも少し、そこにも少し、という具合に知識と知恵を増し加えていくのです。最初は小さかった証も成長し始めます。そして、その証が自分に理解し得る方法で、拡大し、築かれていくのを目の当たりにするのです。成長して立派な大人となるための準備を開始するときに、自分自身でその証の力を感じることができます。

立派な大人になるための準備と言えば、12歳のときのことを思い出します。

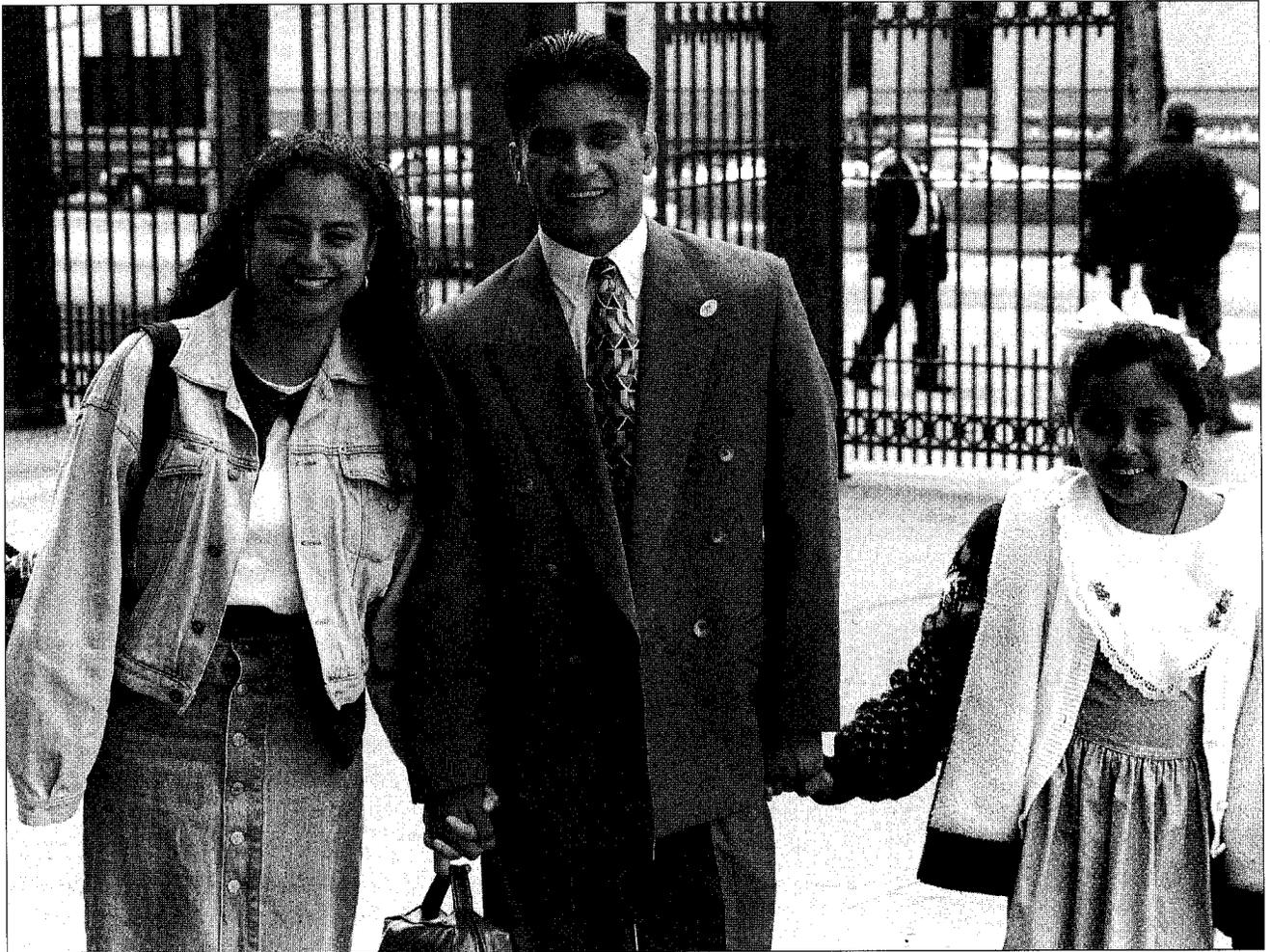
わたしは家庭の中では家長の役割を担っていました。12歳になったときにはもう大人だったので。母がそのように期待したからです。母は未亡人には見えませんでした。未亡人ではなく、母親でした。わたしたちを育て、教え、訓練し、人生に立ち向かうための備えができるよう力を貸してくれました。ですからアロン神権を持つ若い男性の皆さん、時の初めから学んだはずの、聖文に記されている簡潔な、ごく簡潔な基本原則を忘れないようにしてください。アダムの時代から、基本原則はこの地上に存在していました。人類がどんなに進歩しようと、自動車や飛行機あるいはコミュニケーションの速度がどんなに早まろうと、福音の基本はまったく変わっていないのです。今でも確固たる位置を占めているのです。わたしたちは人生を突き進んでいくに際して、自らを備えなければなりません。神権であれ、社会的地位であれ、あるいは何であれ、昇進するために必要なことができるようにならなければなりません。しかし簡潔で、基本的な福音の規則に従えるようにならなければなりません。

今晚、大管長会の3人が入って来たときに、「本塁打を打とう」とか「フィールドゴールを獲得しよう」といった言葉を口にしました。わたしはその言葉を聞いて、数年前にこのような集会でフットボールの話をしたことを思い出しました。わたしがそのフットボール試合に出場する羽目になったのは、アイダホ州オークリーの教育委員会が資金を工面して12人分の用具を購入したのがきっかけでした（「アロン神権者の責任」『聖徒の道』1981年9月号、pp. 70-71参照）。わたしたちはフットボールの経験がありませんでした。バスケットボールをしたことはありました。なぜならバスケットボールは容易にできてお金がかからず、大した用具も必要なかったからです。しかし、教育委員会が12人分のユニフォームを買った結果、補欠一人を含む立派なチームが誕生してしまいました。わたしたちのコーチは化学の教師で、フットボールの試合を1度だけ見たこと

がある人でした。そのような訳で、わたしたちはタックルの仕方、フィールドの走り方、また簡単なランニングプレーの方法をそのコーチから習いましたが、実際のチームプレーは一度も見ることがありませんでした。

わたしたちの最初の対戦相手は前年度のアイダホ州の高校チャンピオン、アイダホ・ツインフォールズでした。わたしたちは小さなフォードに乗り込んで、ツインフォールズへと向かいまわりました。バスケットボール・シューズにユニフォームというかっこうで、12人全員が競技場に入場しました。しばらく競技場を走って回り準備運動をしたところで、バンドの演奏が始まり相手チームが競技場に姿を現しました。相手チームのバンド演奏者の数たるや、わたしたちの高校の全生徒を上回るほどでした。大きなグリーン・ベイ・パッカーのユニフォームに身を固めた相手チームが登場したときに、わたしたち全員が驚きました。完璧なユニフォームに身を包んだ39人も選手が入場して来たのです。

さて、その後の興味深い試合運びは、皆さんにも想像できることでしょう。まず相手チームのキックオフで試合が始まりました。わたしたちは何度かプレーを試みましたが、すべて失敗に終わったので、今度はボールを追い払うためにけることにしました。ボールが来る度に、けりました。その度に相手チームにボールをキャッチされ、点を取られました。それはとても興味深い午後の時間でした。ゲームも終わりに近づくと、わたしたちはなぐられ、血だらけになり、疲れ切っていました。一方相手チームはというと、少し無謀なプレーが目立ち始めていました。そんなとき相手チームのパスした的外れなボールが、わたしと一緒にハーフバックをしていたクリフォード・リーの腕の中に飛び込んできました。リーはそのボールをどうしてよいか分からず、そうこうしているうちに相手チームの選手が追いかけてくる姿が目に入ると、彼は走り出しました。別に得点をねらったわけではありません。ただ命が惜しかったからでした。その結果



タッチダウンしたのです。

最終スコアは106対6でした。2, 3年前に、ツインフォールズ新聞は、地元の偉大なフットボールチームをたたえる記事を掲載しました。その試合のリストの中にあのオークリーとの試合も含まれていましたが、そのスコアが106対7となっていたのです。わたしはその新聞の編集長にこのような手紙を書いて送りました。「編集長殿、相手チームでプレーしていた当時の選手の声もお聞きになりたいのと思ひ筆を執りました。」それからわたしはあの試合の成り行きについて説明し、こう付け加えました。「わたしたちのチームにはもう1点を取ろうなどという考えはありませんでした。その1点を取れるような選手がいなかったのです。かような訳で、そちらに記録されているスコアを修正された方がよいと思います。実際のスコアは106対6だったからです。」

人生にはそのようなこともあります。そのような機会のために自らを備える必要があります。何かを達成するためになすべきことがあるとき、学ぶべきことがあるとき、わたしたちは基本と実行するための方法を学ばなければならぬのです。

この福音は真実です。全世界に広がる伝道の力を考えるとき、主の御業を然るべき方法で実行するというのは何とすばらしい機会だろうかと思ひます。わたしたちは皆さんをその行いのゆえに愛しています。アロン神権を持つ若人の皆さん、どうぞ教会の標準にかなって善良な人となってください。また、清さ、正直、純粹、率直な態度、そして何にも増して従順さを身に付けてください。それは然るべき莊嚴な方法で主の御業が遂行できるようになるためです。

皆さんにわたしの愛と証をお伝えしたいと思ひます。この御業が真実であ

り、今日教会を導くゴードン・B・ヒンクレイ大管長が預言者、聖見者、啓示者であり、この教会を管理すべく主より召された人であることを証いたします。わたしは、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長を20年以上にわたってそば近くでじっと見てきました。この御業を導くに当たって発揮される彼の能力、才能、献身、この世界にもたらしている靈的な影響力を目にしてみました。この御業は真実です。この御業は前進し続け、全世界を隅から隅まで埋め尽くすことでしょう。あらゆる人が自分の耳で、イエスがキリストであり、神の御子であられると宣言するのを聞くことでしょう。そしてわたしも同様に宣言します。わたしの愛を皆さんにお伝えし、この御業が真実であること証します。わたしたちの主、救い主イエス・キリストの御名によって、アーメン。

「わたしは神の力によって何事でも することができる」

七十人会長会
ジャック・H・ゴーズリンド

神の神権を所持する特権に恵まれた普通の人々が、並外れた仕事を行い、その神聖な力を信じる信仰によって偉業を成し遂げるよう召されることがあります。



兄弟の皆さん、今晚わたしは記録で十分にたどれる物語をぜひ紹介したいという強い望みに駆られています。教会ではこの物語はほとんど知られていません。開拓時代の数人の若者の勇気と力について触れた物語です。この中には、今晚ここに集っている大勢の皆さんと同じように、祭司や教師に相当する年齢の青少年たちがいました。そうした若い男性が召しを受け、自ら進んで大きな犠牲を払ったのです。

この物語を聞きながら、心に留めていただきたいことがあります。現代のわたしたちを一つにまとめ、わたした

ちと開拓者とを結びつけるのが、どのような力かという点です。わたしたちが受けている王国の神権は、この物語の中で重要な意味を持っています。開拓者の受けていた神権は、今日わたしたちが同胞への偉大で小さな奉仕の業に従事するとき力を与えてくれる神権と、同一のものです。

神の神権を所持する特権に恵まれた普通の人々、この中には若い男性も含まれていますが、いや、もしかするとむしろ彼らだからこそ、並外れた働きをするよう召される時があります。聖なる神権の保持者は、その神聖な力を信じる信仰によって、勇敢で英雄的な奉仕の偉業を成し遂げることができます。

開拓者たちはそれを疑いませんでした。彼らは主の御霊が導いてくれたという証を、繰り返し述べています。彼らの証を確認する意味で、わたしは皆さんに宣言します。主の御霊はわたしたち一人一人とともにいます。主はわたしたちを祝福し、強めたいと望んでいらっしゃる。主は、主の御名によって従事するすべての義にかんじた務めを果たせるように、わたしたちの能力を増してください。主はわたしたちの生来の能力を何度でも高めてください。主の御霊に頼るすべを身に付けさえすれば、皆さんは自分の力以上の成功を目にすることができる

でしょう。

わたしが皆さんに紹介したいと申し上げた物語は、1856年10月の総大会の前から始まるのですが、わたしは総大会の時点から話を進めたいと思います。ブリガム・ヤング大管長はまさにこのテンプルスクウェアの古いタバナクルの説教壇に立ち、呼びかけました。「ウィリー隊とマーティン隊の救援に向かいましょう。」2日後、約30人の信仰篤い兄弟たちが馬車を連ねて、数百キロ東で立ち往生している手車隊救出のために派遣されました。改宗して5年足らずのダン・W・ジョーンズも名乗り出ました。

根気強い搜索活動の末、ようやくウィリー手車隊が発見されました。初冬の吹雪の中で、聖徒たちは飢えて凍え死にしそうな状態でした。救助隊は事態改善のために全力を尽くしましたが、一部の人々にとってはただ手遅れでした。救助隊が到着した翌朝には、手車隊の9人が同じ一つの墓に埋葬されました。

救助隊の幾人かはソルトレーク盆地まで手車隊を誘導する責任を受けました。しかし、ほかの救助隊員はマーティン手車隊を搜索するため、さらに東に行きました。そしてついにマーティン手車隊を発見しました。彼らはホジェット幌馬車隊およびハント幌馬車隊と一緒に、ワイオミング州デビルズゲートの東方約60キロの地点で大雪に見舞われ、動きが取れなくなっていました。

マーティン手車隊の人々は特に深刻な状況にありました。食糧の配給量は1日当たり小麦粉100グラム前後にまで切り詰められていました。まともに歩ける人は3分の1ほどで、毎日死者が出ました。

救助隊の指導者たちは賢明にも、この苦難を強いられた生存者たちをソルトレーク盆地に安全に運ぶためには、どんな犠牲も惜しまないという決心をしました。幌馬車にはスペースが少なかったため、手車隊の人々の所持品の大半をデビルズゲートの貯蔵所に、春まで残しておかなければなりませんでした。

ダン・W・ジョーンズ兄弟と救助隊

のほかの二人、それに幌馬車隊の17人の若者が、デビルズゲートにとどまって所持品を守る召しを受けました。彼らは残ってワイオミングの地で冬の5か月間を過ごすのです。助け手からは何百キロも離れた場所で、食糧もほとんどなく、極端な窮乏生活を強いられます。その犠牲を想像してみてください。ソルトレーク盆地に向かう幌馬車隊に加わるかどうか一人一人に選択の機会が与えられましたが、全員が後に残って忠実に奉仕の召しを果たす方を選びました。

その年の冬はかつてない厳冬でした。警備に就いた勇猛な彼らは苦勞してデビルズゲートの小屋を修繕し、残った牛を屠殺して、固い筋だらけの牛肉を貯蔵し、保護を任された品物を修理し、積み重ねました。

数頭のバッファローを仕留めたこともありましたが、獲物はめったにありません。程なく動物の皮で食いつなぐ状況に追いやられました。皮から毛を抜き去り、残りを煮ました。馬車の長柄を覆っていたなめし革、古いモカシン靴の底、さらには2か月間足もとのマットとして使用してぼろぼろになったバッファローの毛皮まで食べました。ダン・ジョーンズは、あるときなど馬のくらを食べようとしました。

そんな極寒の2月、インディアンのスネーク族の一人が彼らを訪れ、助けてくれました。さらにその晩、彼と偵察に来たほかの二人のインディアンは良質のバッファローの肉をどっさり持って、もう一度キャンプに来てくれました。

冬が終わり5月の初めになると、ようやく救援の幌馬車隊が到着し始め、ジョーンズ兄弟は様々な書簡を受け取りました。しかし、肝心のブリガム・ヤングからの書簡だけは届きません。それがない以上、積み荷や発送を始めるわけにはいきません。

何日も待つうちに、不安が募ってきました。とうとうジョーンズ兄弟はどうしたらよいか知るために、主に祈りを通して尋ねました。彼は、次のような証を記しています。「翌朝、指示のないことについては一切口にせず、わ



た私たちは作業に取りかかった。間もなくだれかが尋ねた。『どの馬車から積み込みを始めますか。』そこでわたしは段取りを口述で書記役に書き取らせた。こうして作業を続けていった。書記役が書き取ると、すぐにその指示が伝えられ、次々と積み込みが進められて、それを4日間続けた。……すべての馬車に積み荷が完了し、隊が編成され、〔ソルトレーク盆地に向けて〕旅立った。』（ダニエル・W・ジョーンズ、*Forty Years among the Indians* 『インディアンの間で過ごした40年』p.107）

17人の若者たちは最後の幌馬車に乗って、家族をはじめ愛する人々の待つソルトレーク盆地へ向かいました。

後にジョーンズ兄弟は到着してからヤング大管長に報告をしましたが、自分がどんな処遇を受けるかについて何の心配もしませんでした。彼はヤング大管長の指示を待つべきだったのでしょうか。事の次第が明らかになるうちに、実はヤング大管長が指示の手紙を出していたにもかかわらず届かなかっ

たことが分かりました。ジョーンズ兄弟は詳細な報告書を大管長に慎重に提示しました。すると彼がワイオミングで受けた靈感は、預言者の手紙の内容とまったく同じであることが判明しました。これは彼にとって証になりました。

ダン・ジョーンズの率いた若者たちは、自分にできると想像していた以上の働きをしました。

●彼らは幌馬車や手車で大平原を横断した。しかも大半は徒歩。

●道中、友人や血縁者が何人も死んでいくのを目の当たりにした。

●帰還地から500キロほど離れた場所で冬を過ごすことを、自らの意思で求めた。

●食べ物も必需品もほとんどない状態で過酷な冬を生き抜いた。

●同胞である聖徒たちに仕えるという、預言者の召しに聞き従った。

●最後まで気高く堪え忍び、その努力に対する祝福を受けた。

兄弟たちに繰り返し申し上げます。神の神権を所持する特権に恵まれた普通の人が、並外れた仕事を行い、その神

聖な力を信じる信仰によって偉業を成し遂げるよう召されることがあります。

『モルモン書』に登場するわたしのヒーローの一人であり、モーサヤ王の偉大な息子であるアンモンは、主がともにおられれば人はいかに大きな業を成し遂げられるか証明しています。「まことに、わたしは自分が何の価値もない者であることを知っている。わたしは力の弱い者である。だから、わたしは自分のことを誇るつもりはない。しかし、わたしは神のことを誇ろう。わたしは神の力によって何事でもすることができるからである。まことに見よ、わたしたちはこの地で多くの偉大な奇跡を行ってきた。だから、とこしえに神の御名をほめたたえよう。」(アルマ26:12)

アロン神権を有する若い男性の皆さん、そしてメルキゼデク神権を保持する兄弟の皆さんに証します。アンモンやダン・ジョーンズが証してくれたように、わたしたちは「多くの偉大な奇跡」を行えます。彼らは主を導き手とし、聖なる御霊に聞き従い、自分に想像さえできなかった偉大な奇跡が確かに行えることを知ったのです。

今日、わたしたちの前には様々な大きな問題が横たわっています。またわたしたちは大切な必要を抱えています。わたしたちは、140年以上前のあの若者たちに劣らぬ勇敢な忠誠を、偉大な福音の真理のために示さなければなりません。

兄弟の皆さん、主を、そして主の僕である預言者を通じて示された御言葉を、生きる指針とする決意をわたしたち一人一人が今晚できるよう、お祈りします。すべての人が、行うべき奇跡、踏破すべき旅路、成し遂げなければならない驚くべき使命を持っています。

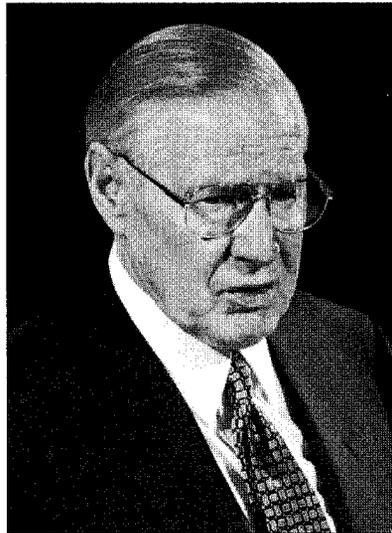
天父の恵みが注がれて、皆さんが祝福された王族の世代に属する神の選ばれた息子の一人であり、行うべき偉大な奇跡を神が皆さんのために備えておられることを悟れますように。神の力と御霊の導きがあれば、皆さんも、何事でも行うことができます。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

神権の力

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

人を心にかけることは、神権の責任の最も本質的な部分です。神権とは、祝福し、癒し、福音の救いの儀式を執り行うための力だからです。



愛する兄弟の皆さん。この偉大な神権者の集まりに向かって説教をするという、身に余る責任を果たすに当たって、わたしは皆さんの信仰を心から祈り求めています。まず、皆さんの忠実さ、誠実さ、そして献身に対して、心からの感謝を表したいと思えます。わたしたちの父である神の御業は、この聖なる御業に寄せる皆さんの決意と献身のゆえに、いまだかつてないほど前進を続けています。

兄弟の皆さん。わたしたちは、神からゆだねられた聖なる神権の偉大な力を、自分の中で眠らせておくようなことがあってはなりません。わたしたちは、全世界で最も大いなる大義と最も神聖な御業とにかかわって、固く結び合っています。この偉大な力を行使するためには、思いにおいても行いにおいても清くなければなりません。このかけがえのない力を完全に行使するこ

とができなくなるようなことは、どんなことでもしてはなりません。

神権はこの地上で最大の力です。もろもろの世界は、神権により、神権を通して創造されました。この神聖な力を守るために、あらゆる神権者たちは神権の鍵を持つ人々の指示の下に行動します。こうした鍵は、わたしたちの生活にも教会の組織にも秩序をもたらします。わたしたちにとって神権の力とは、神の子供たちに救いをもたらすために、神の御名によって行動できるよう、神から委任された権威であり、力です。人を心にかけることは、神権の責任の最も本質的な部分です。神権とは、祝福し、癒し、福音の救いの儀式を執り行うための力だからです。義にかなった神権の力は、わたしたち自身の家庭という囲いの中で最も必要とされているものです。それは偉大な愛の精神をもって行使する必要があります。これはあらゆる神権者に共通する教えです。皆さんが執事であれ教師であれ、また祭司、長老、大祭司であれ、あるいはまた祝福師であれ七十人であれ使徒であれ、同じなのです。

人を心にかけるという神権の原則をわたしが初めて学んだのは、わたし自身の父と祖父を通じてでした。しかし、わたしは同時に何千ものふさわしい人々がその原則を実践する様子も見てきました。神権により人を心にかけるということについて、わたしはアロン神権の教師のときに、偉大な教訓を数多く学びました。当時わたしは、スウェーデンのマルモ出身のアルゴット・ジョンソンという名前の偉大なスカンジナビア人移住者の後輩同僚として、

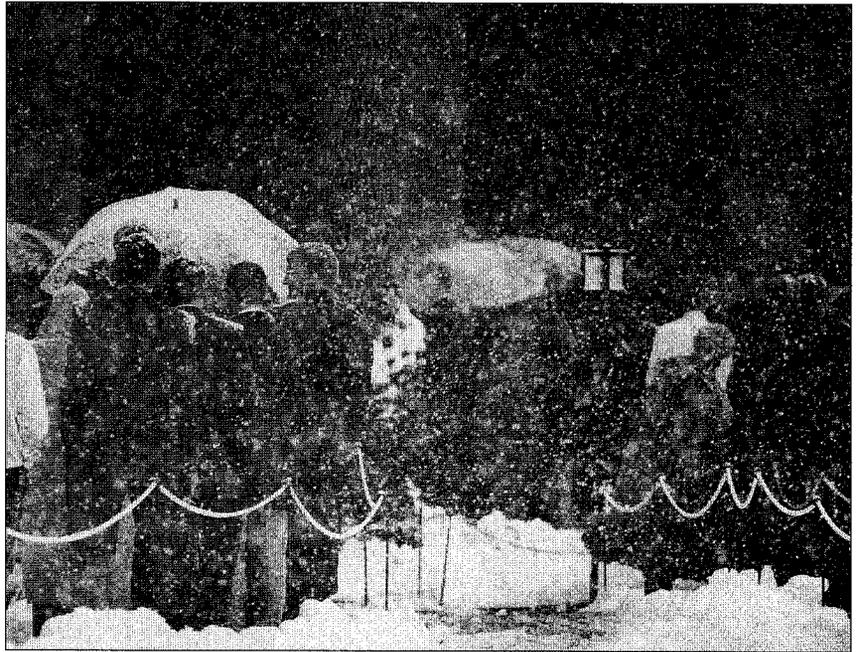
ホームティーチングをする割り当てを受けていました。わたしは、このジョンソン兄弟については何もかも好きになりました。彼の強いスウェーデンなまりの英語もいとしいものでした。彼は、主が教師たちに与えられた指示のほんとうの意味をわたしに教えてくれた人物です。

「教師の義務は、常に教会員を見守り、彼らとともにいて彼らを強めることであり、

教会の中に罪悪がないように、互いにかたくなになることのないように、偽り、陰口、悪口のないように取り計らうことであり、また教会員がしばしば会合するように取り計らい、またすべての会員が自分の義務を果たすように取り計らうことである。」

ジョンソン兄弟は、愛する祖国のスウェーデンを離れて合衆国に移住するに当たって、大きな代価を払っていました。そして実に献身的な人物でした。わたしたちは、年齢の差はありましたが、生涯の友人となりました。彼がワードの日曜学校の会長になったとき、わたしは彼の願いで副会長に召されました。当時わたしはまだ17歳でした。彼は建築の請負業者として成功していて、わたしが第二次世界大戦から帰還したときには、わたしの最初の家を建ててくれました。その後、わたしが法律学校を卒業して弁護士を始めたとき、彼のために法律業務を請け負ったことがありました。そして、わたしの業務の請求に対して、彼は請求以上の金額を支払ってくれたのです。しかしそのようなことが度々あったわけではありません。わたしがこの経験を皆さんに紹介するのは、アロン神権者にとって、信仰深いメルキゼデク神権者の後輩同僚として奉仕する機会が与えられることがどれほど大切かということを強調したかったからです。

ホームティーチャーとしての義務は、月に1回の訪問で満足してしまえるようなものではありません。家族のことを絶えず心にかけて、必要に応じて喜んで奉仕をする必要があります。わたしは、ある大祭司グループの会員の中に、ホームティーチングに出かける



春の降雪は今大会を特徴づけた。

度に、大工道具を持って行く人がいることを知っています。もちろんホームティーチャーがコンピューターやそのほかのハイテク機器まで、あらゆるものを修理できると期待しているわけではありません。しかし、ホームティーチャーたちは、自分の知恵と経験を活用して、自分たちに割り当てられた家族がどんな助けを必要としているかを見つけ出し、援助することはできます。思いやりに満ちたホームティーチャーたちは、できることなら前もって訪問の約束を作ります。アロン神権者のホームティーチャーたちは、信仰深いメルキゼデク神権者の先輩同僚とともに奉仕することによって、生涯心に残る教訓を学ぶことができますし、また、大きな祝福を受けることもできます。ロバート・F・ジェックス兄弟が、何年も前にホームティーチングの後輩同僚として働いたとき信仰の強められる体験をしたことを紹介してくれたことがあります。

「わたしたちがその家に近づくにつれて、わたしの足は震え、緊張のために胃がきりきり痛んできました。もし、[ホームティーチングの]同僚から、今度あいさつするのはわたしの番だと言われたら、きっと気を失っていたことだろうと思います。」

ホームティーチャーといっても、当時はまだ15歳でした。そのわたしが、(ユタ州)バウンティフル第1ワードに住むライス姉妹という夫に先立たれた女性のアパートへ通じる階段を上っているのです。同僚のドン・ギャボット兄弟はその晩、教会の活動にほとんど参加できずにいる病弱な人々を心にかけるという点で神権者はどのような役割を担っているかについて、偉大な教訓をしてくれました。

わたしはギャボット兄弟から、5つの担当家族にレッスンをする際のテーマをあらかじめもらっていました。わたしは緊張で震えていました。……わたしは……メモを用意しておいたのですが、実際に大祭司が前にいたら、とても自分から進んでレッスンをするなどということは、できそうにありませんでした。

扉をノックしましたが、なかなか返事が返ってきません。……わたしは、家の中にはだれもいないのでは、と言おうとしました。そのとき、ひ弱そうな老齢の姉妹が、玄関口に小柄な姿を現しました。玄関で自分が出てくるのを待っているのは一体だれだろうと、いぶかしげな様子でした。しかしギャボット兄弟の顔を見つけた途端、彼女の表情が明るくなりました。わたした



訪問者センター北館に据えられた像「キリスト」パーテル・トルバルセン作。

ちは居間に招き入れられて、いすに座るよう勧められました。

短いあいさつの後で、ギャボット兄弟がわたしの方を見ました。いかにも、『ロバート、レッスンを始める時間だよ』と言わんばかりの表情でした。しゃべり始めると、またわたしの胃が緊張のために痛みます。わたしは、今ではどんなことを話したのかまったく覚えていませんが、それはあまり重要なことではありません。そのときわたしは、アロン神権の義務と責任について学ぶ生徒としてその場にいたので。レッスンを終えて自分のメモから目を上げると、わたしの目は、あの優しく感受性豊かな姉妹の頬を伝う涙に釘づ

けになりました。姉妹は、神権者が彼女のつましい家に来てくれたことに心からの感謝を表しました。

わたしには、返す言葉がありませんでした。……そんなに彼女の心を動かすようなことを自分は言ったのだろうか。一体何ができたというのだろうか。幸いなことに、ギャボット兄弟が助け舟を出してくれました。証を述べ、彼女の家で何か必要なものはないかどうか尋ねてくれたのです。確かに必要なものはありました。

帰る前に祈ろうとすると、ライス姉妹からこう頼まれました。「最近体調が優れないんだけど、そのことについても祈ってくださいませんかしら。」そし

てわたしの方に向き直ると、わたしにその祈りをしてほしいと言ったのです。そのころまでに、わたしはその場の雰囲気には圧倒されていました。……〔そして〕わたしより年齢も経験も信頼度も上の人がそばにいるのに、自分が祈りを依頼されたということに驚いてしまったのです。わたしは反射的にその申し出を受け入れ、ホームティーチングの閉会の祈りの中で、健康と体力の特別な祝福がこの忠実な姉妹のうえに注がれるようお願いしました。訪問する前にはほとんど知らなかったこの姉妹のことを、わたしはそのときにはもう愛し、尊敬するようになっていたのです。

ライス姉妹の家を初めてホームティーチングで訪れたときから、もう25年の歳月が流れました。彼女が亡くなってからも随分たっています。しかし、わたしはバウンティフルの大通りに面したオレンジ色をしたれんが造りのあのアパートの前を通り過ぎる度に、ギャボット兄弟とあの信仰深い姉妹が与えてくれた経験のことを思い起こしています。あの姉妹こそ、従順な大祭司と、不安で恐れおののくアロン神権の教師とに託された天の力と、それに頼ることの大切さを知っていた人物でした。』²

ここでわたしは、信仰深い献身的な監督の皆さんに少しお話ししたいと思っています。最近わたしは、『メルキゼデク神権指導者手引き』の中の監督の責任について改めて読んでみました。監督の責任は重く、非常につらく思われることも度々です。監督の義務の中には委任できないものもありますが、副監督や父親、ホームティーチャー、定員会指導者などに委任できる、あるいは委任しなければならない義務もあります。何年も前のことですが、わたしたちはハロルド・B・リー大管長から、主が言われた次の言葉の持つ非常に深い意味について教わったことがあります。「それゆえ、各人をそれぞれの職に就かせ、それぞれの召しにおいて働かせなさい。」³大管長はこう言いました。「あらゆる人がその義務について学ぶことができるよう、機会を与

え、ゆだね、活用させることは、指導を託されているわたしたちの責任です。……本来その人にゆだねられているはずの特権をわたしたちが奪うようなことをしたら、それは助けることにはならない。』⁴この言葉をさらに深く理解すると、教会の管理役員たちは、指導者として召されている人々の責任や義務を奪うことのないように注意しなければならぬという意味もあることが分かります。

監督の皆さん、皆さんがこの偉大な召しにあって奉仕をするときには、皆さんの生涯のほかのどんなときにも勝って多くの人々の生活に良い影響を及ぼすことができるかもしれないのです。皆さんが監督また管理大祭司という外^{がいとう}套を喜んで身にまわっているときには、皆さんにゆだねられた人々の福利に関して、知恵と洞察力と靈感^{たまもの}を受けられることのできる特別な霊的賜物が与えられます。アロン神権の長として、また祭司定員会の会長として、皆さんには、青少年には男女を問わず特別の興味と関心を払っていただきたいのです。

わたしはこれまで、家族や定員会、ワードやステークのことを心にかけるという、神権指導者や神権者の義務についてお話ししてきました。次に、神権の責任について別の面からお話ししてみたいと思います。それは、わたしたちを管理する力を持つ人々を支持するという、わたしたちに与えられた特権についてです。ウィルフォード・ウッドラフ大管長は、この責任の重要性について偉大な説教を残しています。

教会のまだ初期の時代のことですが、ブリガム・ヤング大管長がウィルフォード・ウッドラフ長老に、家族を連れてボストンへ行き、ニューイングランド地方とカナダの聖徒たちを集めてシオンへ連れ戻るようにと依頼したことがあります。ウッドラフ長老は100人ほどの一行を率いて日没時にピッツバーグに到着しました。ウッドラフ兄弟はそのときのことを次のように記録しています。

「わたしたちはそこに長く滞在しなかつたので、間もなく出港する汽

船に乗りたいと思い、わたしが船長に会って、わたしたちの乗船を頼み込んだ。ところがその手続きを終えたときに、御霊^{みたま}がわたしにささやいた。……『あの汽船に乗ってはならない。だれも乗せてはならない。』無論、わたしは船長のところへ取って返し、次の船にすることにしたと告げた。

やがてその汽船が出港した。ところが川を8キロほど下ったところで、その船は火災を起こし、300人の乗客が、ある者は焼け死に、ある者は水におぼれて死んだ。』⁵もし聖徒たちがウィルフォード・ウッドラフの勧告に従っていなかったとしたら、どうだったでしょうか。すべての聖徒たちが賢明にも、従順に従うことを選んだのです。もしそうしていなかったら、この聖徒たちも同じように命を失っていたことでしょう。

わたしの生涯を考えても、わたしは鍵となる神権指導者の与えてくれる知恵や靈感に疑いを差し挟んだことはまずありませんでした。個人的にそうした勧告に同意できようと思えまいと、常に彼らの勧告に従おうと努力してきました。そして多くの場合、御霊と一致していたのはその指導者の方で、わたしの方ではなかったということにも気づいてきました。安全な道とは、自分たちの神権指導者を支持し、彼らの行いについては神に裁きをゆだねることなのです。

教会の初期の時代に、ジョセフ・スミスを主の油注がれた者として支持することができずに教会を去って行った人々が数多くいました。実際、預言者ジョセフ・スミスは、カートランドの指導者について次のように言っています。「わたしに対して齒向かわなかつた人は二人しかいなかった。その二人とは、ブリガム・ヤングとヒーバー・C・キンボールである。』⁶この二人が信仰深く忠実であったために、主は、教会を西部に導くためにブリガム・ヤングを召され、そして大管長会が再組織されたときには、ヒーバー・C・キンボールがブリガム・ヤングの第一副管長として召されたのでした。

わたしは皆さんに盲従^{まもつ}を説いている

わけではありません。むしろ、信仰による従順、つまり、靈感を受けて自信をもって下された決断を支持し、行動に移す従順さを求めているのです。わたしたちがもっと御霊と調和の取れた生活ができたなら、わたしたちが神権指導者から受けている指導が決して間違っていないということを、強い証^{あかし}として感じることができるとでしょう。わたしたちの神権指導者の下す決断を支持できれば、大いなる安全と平安が与えられるのです。

この教会の神権者には、全世界で義の業を前進させる手助けをするという責任が与えられています。神権による奉仕をするときには、利己的な興味や希望については、まずわきに追いやっておくよう求められます。兄弟の皆さん、わたしたちは、神権の召しが来たときには喜んでそれを受け入れることができるよう、自らを備えておく必要があります。個人の生活においても、将来を見通した生活ができるよう努める必要があります。将来を見通した生活とは、収入の範囲内で生活し、将来の必要と機会のために十分に備えておくということです。衝動買いや不要な負債による重荷を避けるべきだということです。やがて来る雨の日にぬれずに済むように、幾らかでも貯蓄をするよう努めるべきだということでもあります。要約すれば、今来るかもしれない、あるいは将来来るかもしれない召しを、もっと良い状態で受け入れることができるよう、日々の雑事を整えていく必要があるということになります。

若い男性の皆さんに理解していただきたいことは、あらゆる力の中で最大の力であるこの神権の力は、この世の権力を行使するときと同じ方法では決して機能し得ないということです。神権の力は、買うことも売ることもできません。使徒行伝を読むと、シモンという人物が、手を置いて聖霊を授けるという使徒の持つ神権の力を買おうと思ったことが記されています。「そこで、ペテロが彼に言った、『おまえの金は、おまえもろとも、うせてしまえ。神の賜物^{たまもの}が、金で得られるなどと思っ



ているのか。』⁷皆さんの中には、フットボールの試合を見て、ラインバックや力あふれるフォワードやセンターの選手にあこがれる人も数多くいることでしょう。また同様に、富や名声、政治権力や軍隊での権力にあこがれを抱く人もいることでしょう。この世の権力というものは、冷酷な使い方をされることがよくあります。しかしながら、神権の力は、神権を治める義の原則に従ってのみ行使されるものです。主は次のように言われました。

「いかなる力も影響力も、神権によって維持することはできない、あるいは維持すべきではない。ただ、説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により、

優しさと純粋な知識による。これらは、偽善もなく、偽りもなしに、心を大いに広げるものである。……

またあなたの心が、すべての人に対して、また信仰の家族に対して、慈愛で満たされるようにしなさい。絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい。そうするときに、神の前においてあなたの自信は増し、神権の教義は天からの露のようにあなたの心に滴るであろう。⁸

わたしたちは、「召される者は多いが、選ばれる者は少ないのである」⁹と教えられています。選ばれる人とは、神の恩恵の対象となる人のことを指しています。¹⁰ 兄弟の皆さん、わたしたちはどうしたら選ばれる者となること

ができるのでしょうか。わたしたちは、神から選ばれたときに初めて選ばれた者となることのできるのです。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。」¹¹ こうしたことは、心も霊も変わったとき、つまり、心と、勢力と、思いを尽くし、そして全身全霊を込めて、神のあらゆる戒めを守るよう努力したときに、初めて起きることです。また、わたしたちが「神権に伴う誓詞と聖約」¹²を守ったときに、初めて起きることです。そうすることにより、わたしたちは初めて「モーセの息子たち、またアロンの息子たちとなり、アブラハムの子孫となり、神の教会となり、神の王国となり、神の選民となる」¹³ことができるのです。

かつて大管長会で副管長を務めたことのあるスティーブン・L・リチャーズ長老はこう言っています。「わたしは自分自身の心の中で一つの結論に到達しました。それは、知的な能力がいかにも高くとも、また奉仕の経験がいかにも広範で多様なものであったとしても、聖なる神権を授けられていなければ、いかなる人も主が望んでおられるような完全な意味での神の子らしさ、

神の人らしさに到達することはないということです。さて、兄弟の皆さん。このことを念頭に置いて、わたしは今自分に授けられているこの大なる祝福に対して、生涯、主に感謝をささげてきました。この祝福こそ、わたしの先祖の一部が授かっていた祝福であり、また、どのような受け継ぎにも増して、わたしが自分の息子や孫やひ孫たちに享受してほしいと願う祝福なのです。」¹⁴

兄弟の皆さん、わたしたちがこれからも神権の誓詞と聖約を守る努力を続け、神がその忠実な息子たちのために用意してくださっている無上の祝福をことごとく頂くにふさわしい者となり、また、実際に頂くことができますように、イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

注

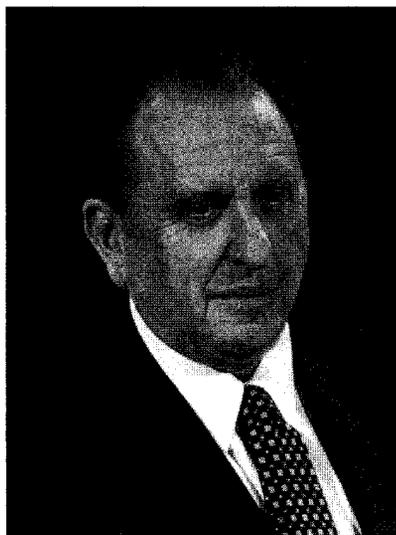
1. 教義と聖約 20 : 53-55
2. "My First Door" *New Era* 「わたしの最初の扉」【ニューエラ】1989年5月号, p.27
3. 教義と聖約 84 : 109
4. *Regional Representatives Seminar Address* 【1973年4月4、5日の地区代表セミナーにおける説教】 pp.4, 14. 末日聖徒イエス・キリスト教会記録保管課所蔵
5. *The Discourses of Wilford Woodruff* 【ウィルフォード・ウッドラフ説教集】G・ホームー・ダラム編, pp.294-295
6. *History of the Church* 【教会歴史】 5 : 412
7. 使徒 8 : 20
8. 教義と聖約 121 : 41-42, 45
9. 教義と聖約 121 : 40
10. *Merriam-Webster's Collegiate Dictionary, 10th ed., s.v. "chosen"* 【メリアム・ウェブスター・カレッジエト英英辞典第10版】"chosen"の項参照
11. ヨハネ 15 : 16
12. 教義と聖約 84 : 39
13. 教義と聖約 84 : 34
14. *Conference Report* 【大会報告】 1955年10月, p.88

彼らはやって来る

第一副管長

トーマス・S・モンソン

揺るぎない信仰と惜しみない愛をもって、わたしたちが働きかける人々の心に橋を架けましょう。



数年前に、変わった映画がこの国やほかの国々の劇場で公開されて評判になりました。タイトルは『フィールド・オブ・ドリームズ』で、主人公の青年は若いころに知っていた野球選手を敬愛し、これを出発点にして、自分のとうもろこし畑の広い場所を切り開き、そこにフルサイズの野球場を造ろうとしました。人々は彼の愚かさをあざ笑い、常識のなさ（はいべつ）を軽蔑しました。映画では、この計画を実行して野球場を公開する準備を整えるまでの、多くのチャレンジが映し出されます。これは簡単な仕事ではありません。夢が実現する可能性について疑問がわいてくるとき、彼は不安を吹き飛ばす次の言葉に励まされました。「君が造り上げたら、彼らはやって来る。」そして来たのです。大勢の旅行者たちが、野球にまつわるたくさんの思い出が詰まったこのユニークな場所を訪れました。

最近わたしは、人の心に橋を架けることの大切さについて考えました。わたしたちの教会の5万5,000人近くの専任宣教師が、神からの使命を携えて世界のほとんどの国に派遣され、教え（おかし）、証し、バプテスマを施しています。人々の心に触れる彼らの務めは、見るにすばらしく、考えるに幾らか圧倒される思いがします。神の命令をいつも念頭に置き、主の教えを心に抱いて、宣教師は気高い召しのうちに前進します。そして次の主の御言葉を忘れません。「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。」

「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいの事を守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」²

去年はユタ州立100年祭を祝い、外国からも多くの大使がユタ州庁舎や教会の執務ビルを訪れました。また大勢の人が、ユタ州プロボにある宣教師訓練センターを見学しました。彼らは教室を訪れ、任地へ赴く宣教師たちの証を聞きました。そして宣教師が示した信仰と愛と、言語の上達ぶりに驚嘆しました。ある大使はこう言いました。「わたしは宣教師一人一人の中に、目的意識、準備と奉仕のための決意、そして喜びにあふれる心を見ました。」

これらの宣教師は、信仰をもって進んでいきます。自分の務めを知っています。すなわち彼らは、宣教師として出会う人々と、福音の真理を学ぶときに経験するレッスンや証との間の、重

要な橋渡しをするのです。

宣教師はより多くの人に教えたいと願っています。また、改宗の過程で各会員ができる重要な助けを祈り求めています。

生活を変えてキリストのみもとに来るという決意は、恐らくこの世で最も大切な決断でしょう。そのような劇的な変化が、世界中で毎日起こっています。

アルマ書第5章13節には、この個人的な奇跡が記されています。「そして見よ……彼らの心の中にも大きな変化が生じた。そして、彼らはへりくだり、まことの生ける神に信頼を寄せた。」

アルマによって語られたバプテスマの聖約を読むと、人の心の深遠さを探りたい気持ちになります。「あなたがたは神の羊の群れに入って、神の民と呼ばれたいと願っており、重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み、

また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望み……いつでも、どのようなことについても、どのような所においても……神の証人になることを望んでいる。

まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたが心からこれを望んでいるのであれば、主からますます豊かに御霊を注いでいただけるように、主に仕えて主の戒めを守るという聖約を主と交わした証拠として、主の御名によってバプテスマを受けるのに何の差し支えがあろうか。」³

わたしたちの調査から明らかなように、宣教師のメッセージを受け入れる人のほとんどは、それ以前に末日聖徒イエス・キリスト教会について何らかの接触を持つ機会がありました。タバナクル合唱団のすばらしい公演を聴いたかもしれません。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長の旅行に関する報道や、インタビュー番組での広範囲にわたる質問への巧みな応対を見たり聞いたりしたかもしれません。あるいは教会員をだれか知っていて、尊敬しているかもしれません。わたしたち会員は最善の模範を示すべきです。わたしたちの生活は福音の教えを反映し、心と声は真理を分かち合うためにいつも備

えているべきです。

求道者のフェローシップは、バプテスマのかなり前から始めます。宣教師のレッスンでは、新しい改宗者の証^{あかし}を付け加える必要がよくあります。これはわたしの体験ですが、大きな変化をすでに経験した人が心から述べる証は、決意や決心をもたらします。わたしがカナダ東部で伝道部長として働いていたとき、トロントだけでなく、オンタリオやケベックのほとんどの市でも、会員からの積極的な援助に事欠くことはありませんでした。彼らは宣教師と一緒に伝道し、求道者をフェローシップし、集会で歓迎し、ワードや支部の役員と会員に紹介しました。フェローシップ、フレンドシップ、再活発化は、末日聖徒の日常生活で行われています。

各々の新会員は、教会での召しを与えられるべきです。それにより関心や安定、成長がもたらされます。責任の内容は、ヤコブ・ディヤガー長老がトロントで家族と一緒に改宗したときのように、何か簡単なものがよいでしょう。彼は会社で重要な役職にいましたが、教会で最初に受けた召しは、賛美歌を礼拝堂の席に配っておくことでした。そして、この割り当てを真剣に果たしました。この最初の召しを思い出して、ディヤガー長老はこう語りました。「わたしは毎週出席しました。そうしないと賛美歌が配られないからです。」御存じのように、ディヤガー長老は後に、七十人第一定員会の会員として何年も仕えました。また、中央幹部として多くの大変な責任を果たしてきましたが、教会で受けた最初の召しを決して忘れませんでした。

主の見えない御腕は、福音の真理を学んで従おうと努力する人々の働きを導きます。わたしは伝道部長として、一人一人の宣教師から毎週手紙を受け取りました。わたしをととても喜ばせたのは、ハミルトンで伝道している若い長老からのものでした。彼と同僚は、すてきな家族を教えていました。子供が二人いる若い夫婦でした。この夫婦はメッセージが真実だと感じて、バプテスマへの願いを否定できませんでし

た。しかし奥さんは、カナダ西部に住む自分の両親について心配していました。教会に入れば、両親から勘当されるおそれがあったのです。彼女はペンを取り、バンクーバーの両親に短い手紙を書きました。それは次のような内容でした。

愛する両親へ

お父さんとお母さんのこれまでの優しさと思いやり、また若いときに与えてくれた教えに心から感謝したいと思います。夫のジョンとわたしは、すばらしい真理に出会いました。末日聖徒イエス・キリスト教会です。わたしたちは一緒に勉強しました。そして今度の土曜日の夜に、バプテスマを受けます。どうか分かってください。そして、わたしたちがしたように、家に宣教師を招いてくれるように願っています。

彼女は涙しながら手紙に封をし、切手をはると、バンクーバーに送りました。それがバンクーバーに着いたその日に、ハミルトンの夫婦は奥さんの両親からの手紙を受け取りました。こう書いてありました。

わたしたちは遠く離れていますが、直接に会って話すつもりでした。伝えたいことがあります。末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師が我が家を訪ねて来て、わたしたちは彼らのメッセージの正当さを否定できませんでした。そして来週バプテスマを受けることになりました。わたしたちの決意を理解して、厳しい批判をしないように願っています。この福音にはすばらしい価値があり、わたしたちの生活に多くの幸せを運んでくれました。いつの日か、福音を学んでくれるように祈っています。

奥さんの両親からの手紙を受け取ったとき、ハミルトンの夫婦がどうしたか、想像できますか。二人は両親に電話をして、互いに喜びの涙を流しました。電話を通して抱擁したと思います。両方の家族が教会の会員になったからです。

天父はわたしたちが何者か御存じです。神の息子、娘です。天父はわたし

たちに、ふさわしい祝福を与えたいと願ひ、実際にそうされます。神は何でもおできになります。

フェローシップの目に見える優しい行為が、古代都市ローマで目撃されました。数年前にモンソン姉妹とわたしは、500人以上の会員とともに地方部大会に出席しました。そのときの管理役員は、立派なイタリア人のレオポルド・ラーチャ兄弟でした。彼の兄は、二人の宣教師から福音を聞いたとき、ドイツの自動車工場の臨時工員でした。その後イタリアに帰って、弟に福音を教えました。レオポルドはそれを受け入れ、後にイタリア・ローマ伝道部の、それからイタリア・カタニア伝道部の部長を務めました。

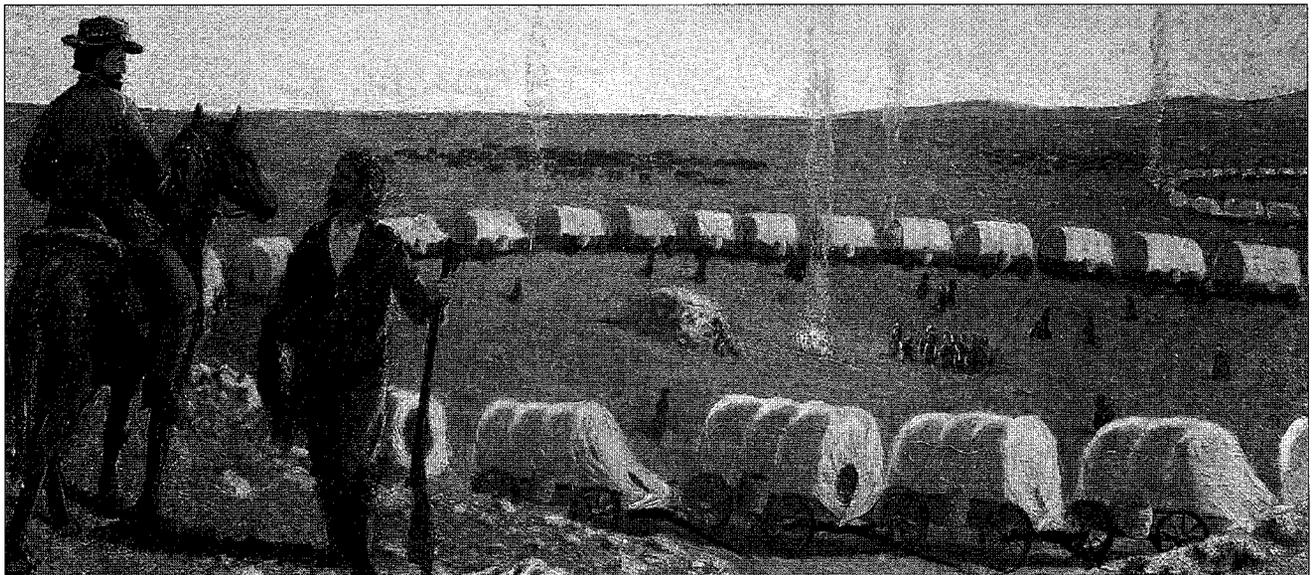
集会中にわたしは、群衆の中に白いカーネーションを付けた人が大勢いるのに気がつきました。そこでレオポルドに聞きました。「白いカーネーションは何ですか。」

彼は答えました。「新会員です。前回の地方部大会以降にバプテスマを受けた会員に、白いカーネーションを付けてもらいました。これで会員と宣教師は、フェローシップが特に必要な人々を見分けることができます。」

わたしはそれらの新会員が取り囲まれ、あいさつを受け、話しかけられるのを見ました。彼らは「もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なので」す。⁴

教会の新しい改宗者以外にも高きに至る道から迷い出て、何らかの理由により、数か月間、時には数年間、教会に来ない人がいます。彼らはフェローシップを受けず、友達も離れてしまったのかもしれませんが。理由はどうあれ、結果は残ります。わたしたちは彼らが必要であり、彼らもわたしたちが必要です。宣教師はこうした人々の家を効果的に訪問できます。宣教師が訪れると、家庭という避難所にいる彼らは、初めて福音の原則を聞いたときに感じた、すばらしい気持ちを思い出せるでしょう。宣教師はそのような人を教え、教会の活動に戻るときに生活にもたらされる変化について証^{あかし}できます。

彼らには、証のある友人が必要です。



「イスラエルの野営」ジョン・B・フェアバンクス画。プリガム・ヤングの派遣した先発の調査隊は、西部を旅する間、幾晩も幌馬車^{ほろばこ}で円陣を作った。

わたしたちが心から心配していることを知ってもらう必要があります。

アロン神権定員会のアドバイザーと若い女性の教師は戦いの最前線にいる人々で、奇跡は彼らの手の中にあります。皆さんがよく覚えている青少年のときの教師はだれでしょうか。それは恐らく、皆さんの名前を知っていて、クラスに歓迎し、個人的な関心と真の思いやりを示してくれた人でしょう。指導者がかけがえのない青少年と一緒にこの世の小道を歩むとき、互いの決意は強まって、青少年は罪という誘惑から守られ、永遠の命に至る道を着実に進んでいけるのです。青少年一人一人の心に橋を架けてください。

今晚、この会場や海外で大会に参加しているすべての人は、預言者ゴードン・B・シンクレイ大管長の呼びかけにこたえなければなりません。すなわち、わたしたちの助けや働きかけや証を必要としている人々に対し、フェロシップや再活発化の努力を惜しんではなりません。

わたしが二つのステーキ大会を訪問したときに目にした奇跡を紹介しましょう。これは開拓者の賛美歌「世はよく働く人を求む」⁵の精神を実践するときに起こるものです。

最初の例は、数年前に訪問したソルドレーク・シティのミルクリークステーキです。そこでは過去1年間に、

100人以上の長老見込み会員が長老に聖任されました。わたしはジェームズ・クレグ会長に成功の秘訣^{ひひつ}を尋ねました。彼はとても謙虚で、自分では話しません。副会長から明かしてもらった話によれば、このチャレンジを認識したクレグ会長は、一人一人の長老見込み会員に電話して、個人的に会う約束を作りました。そして会ったときに、主の神殿について話し、救いの儀式と聖約を強調し、このように質問しました。「あなたの愛する奥さんと子供たちを主の宮に連れて行き、永遠の家族になりたいと思いませんか。」相手がそれを認め、再活発化の過程が踏まれ、そして目標が達成されました。

もう一つの例は、何年も前に訪れたユタ州プライスのノースカーボンステーキです。わたしは訪問中に知ったのですが、1年間に86人の長老見込み会員が長老に聖任され、伴侶を連れてマントイ神殿に参入しました。わたしは、セシル・ブロードベント会長に尋ねました。「一体どのようにしたのですか会長？」

彼は答えました。「分かりません。副会長のジャッド兄弟がしたのです。」

ジャッド兄弟は、大柄で血色のよいウェールズ人の炭坑夫でした。わたしは言いました。「ジャッド兄弟、どのようにして1年間で86人の兄弟を救ったのか、話していただけますか。」

座って答えを待つわたしに、彼は言いました。「話せません。」

わたしはあ然としました。こんなにはっきりと拒絶されたのは、初めてでした。「どうして話せないのですか。」

「話したことが、ほかのステーキに紹介されたら、わたしたちが再活発化で一番でなくなってしまいますからね。」彼はほほえんでいたもので、まだ見込みがあると思えました。彼は言いました。「取り引きをしましょう、モンソン兄弟。1年で86人を救った方法を話したら、総大会のチケットを2枚頂けますか。」

「差し上げましょう。」こうして彼は話してくれました。彼が話さなかったことは、それから10年間、大会のチケットをもらうつもりだということでした。彼は半年ごとに忠実に、2枚のチケットを取りに来ました。

ミルクリークとノースカーボンの両ステーキ、それにこの業において成功を収めているほかのステーキには、共通する次の4つの原則があります。

第1に、再活発化の働きは、ワードレベルで行う。

第2に、ワードの監督が参画する。

第3に、有能で靈感にあふれた教師が、割り当てられる。

第4に、一人一人に注意を向ける。

求道者や新会員、あまり活発でない会員との間に橋を架けるとき、わたし

たちがすべきことを行えば、主もその分を果たしてくださいませ。これが真実であることを証します。

わたしが監督をしていたとき、ある日曜日の朝、祭司の一人が神権会に来ていないことに気づきました。わたしはアドバイザーに定員会を任せて、リチャードの家を訪問しました。母親は、彼がウェストテンプルの修理工場で働いていると言いました。

車で工場へ行って、リチャードを捜しましたが、どこにもいません。突然、わたしは靈感を受けて、修理台の横にある作業用のくぼみの中をのぞき込みました。闇の中に、輝く二つのひとみが見えました。そしてリチャードの声が聞こえました。「見つかったね、監督。今行きますよ。」それ以降、彼は神権会をほとんど休みませんでした。

彼の家族は近くのステーキに引っ越しました。時が過ぎて、リチャードがメキシコの伝道部に召されたことを電話で知らされました。わたしは家族に招かれて、彼の歓送会で話をしました。リチャードはその会で、彼の転換期、すなわち伝道に出る決意をした日曜日の朝について話しました。それは、礼拝堂ではなく、暗い作業用のくぼみの底で、自分に差し伸べられた定員会会長の手を見上げたときのことでした。

リチャードはその後も手紙をくれて、彼の証や家族について、また後に彼が受けた監督の召しを含む教会での奉仕について、知らせてくれました。

愛する兄弟の皆さん、揺るぎない信仰と惜しみない愛をもって、わたしたちが働きかける人々の心に橋を架けましょう。映画『フィールド・オブ・ドリームズ』にあるように、「造り上げたら、彼らはやって来る」のです。それが真実であることを、イエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

注

1. 教義と聖約18:10
2. マタイ28:19, 20
3. モーサヤ18:8-10
4. エペソ2:19
5. 『賛美歌』161番

改宗者と 若い男性について

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

どの改宗者も貴い人々です。すべての改宗者が神の息子、娘であり、わたしたちは一人一人の改宗者に対して大きな、重い責任を負っています。



こよい語られたことを、わたしも心から支持いたします。皆さんもよく耳を傾け、メモを取られたことと思います。

モンソン副管長は改宗後の定着について話しました。モンソン長老の話をサポートするとともに、同じテーマでもう少し話をさせていただきたいと思います。わたしはこれを非常に大きなテーマであると感じています。

毎年、相当な数の人々が教会員になります。大部分は宣教師の働きを通しての改宗です。昨年は男女子供合わせて32万1,385人の改宗者が出ました。これは1年間でシオンのステーキが新たに100か所できるのと同じ数に当たります。1年で100の新ステーキです。す

ごいですね。これは、新しく教会に入った人々をフェローシップする緊急の重要な務めがわたしたちに求められている、ということでもあります。

当教会の会員になるのは、たやすいことではありません。たいていそれは、古い習慣を捨て去り、昔からの友人や知人とも別れ、これまでと異なった、多少要求の厳しい新たな社会に足を踏み入れることでもあります。

改宗者のますますの増加に伴い、わたしたちは、改宗者が道を見いだせるように助けるため、これまで以上に大きな努力を傾けなければなりません。改宗者のだれもが3つのものを必要としています。それは友人と責任と「神の善い言葉」(モロナイ6:4)による養いです。これらを提供するのはわたしたちの務めであり、わたしたちに与えられた機会です。

具体例として、わたしの失敗談を一つご紹介しましょう。わたしはこれまで失敗などしたことがないと思っていた方がいらっしゃるかもしれません。しかし、あります。一例をお話ししましょう。

63年前、イギリスで伝道していたときのことで。同僚とわたしはある若者を教え、うれしいことにわたしがバプテスマを施しました。彼は教養のある洗練された人で、勉強家でもありました。わたしはこの才能豊かな若者が教会に入ってくれたことをとても誇りに思っていました。彼には将来教会の

指導者になるすべての資質がそろっていると、わたしは感じていました。

彼は改宗して会員になるための順応期間にありました。わたしの伝道が終わるほんの少し前に、わたしたちは友達になりました。やがてわたしは解任となり、帰国しました。彼はロンドンのその支部で小さな責任を受けました。彼には自分に何が期待されているかまったく分からず、ある失敗をしました。彼の属した組織の長は、いわば愛の少し足りない批判好きな人でした。どちらかというとなら無慈悲な口調で、わたしの友人のちょっとした失敗を責めました。

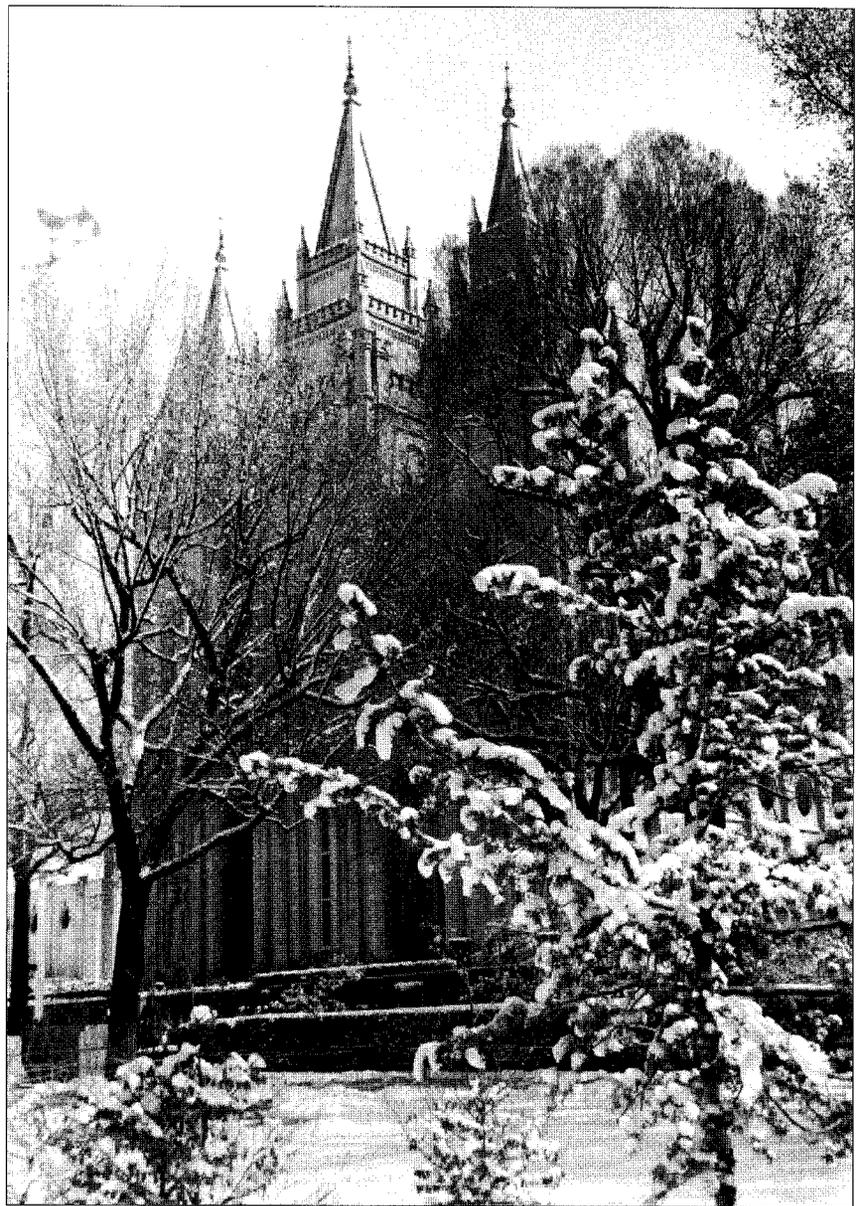
その夜、若者は彼の上に立つ役員という言葉にひどく傷つき、支部の借りていた建物を後にしました。彼は心の中で言いました。「あれが教会員というものなら、もう戻る気はない。」

こうして彼は不活発になってしまいました。月日は流れて大戦が勃発し、彼はイギリス軍に入隊しました。最初の奥さんを亡くした彼は、終戦後、プロテスタントの牧師の娘と再婚しました。しかし、それも彼の信仰心をよみがえらせはしませんでした。

イギリスに行ったとき、わたしは必死になって彼を捜そうとしました。会員記録には現住所が記されていなかったのです。帰国後、長い調査の末に、ようやく彼の居場所を突き止めることができました。

わたしは手紙を書き、返事が届きました。しかし、福音については何も触れていません。

次にロンドンに行ったとき、わたしはもう一度彼を捜し、帰国当日になってやっと見つけました。電話をかけ、地下鉄の駅で落ち合いました。二人とも抱き合って再会を喜びました。飛行機に乗り遅れないためにはほとんど時間がありませんでしたが、手短かに話をし、互いに心からの尊敬を込めて語り合ったと思います。別れ際に、彼はもう一度わたしを抱き締めました。わたしは、「もう二度と彼との音信を途絶えさせない」と決心しました。以来、教会に戻るように彼を励まし、きっかけを与えるような手紙を長年にわたっ



て書きました。彼はしかし教会のことは一切触れずに返事をくれました。

歳月が過ぎ、二人とも年を取りました。彼は退職し、スイスに移り住みました。スイスに行く機会があったので、彼の住む村を訪ねてみることにしました。彼と奥さん、わたしと妻とで楽しく時を過ごしました。すばらしいひとときでした。しかし、信仰の炎が消えて久しいことは明らかでした。知り得る限りの手を尽くしましたが、信仰の炎を再びともすすべは見いだせません。それでも連絡を取り続けました。教会の書籍や機関誌、タバナクル合唱団のレコードなどを贈り、彼はいつも感謝を伝えてくれました。

ところが数か月前、彼は亡くなりました。奥さんが手紙で知らせてくれたのです。こう書かれてありました。「あなたは主人の最良の友でした。」

手紙を読んでいて、涙が頬をとめどなく流れました。わたしは失敗したのです。彼が最初につまずいたとき、わたしがそばにいてあげられたら、きっと彼を励ますことができたでしょう。彼はもっと違う人生を歩めたかもしれません。わたしなら彼の力になれたと思います。彼の傷を癒してあげられたと思うのです。せめてもの慰めは、自分は努めたということですが、失敗したという悲しみはぬぐい切れません。

現在のチャレンジはこれまでにない



規模です。改宗者数が前例がないまでに増大しているからです。改宗者を定着させ強めるためのプログラムが、間もなく教会全体で行われるようになります。兄弟の皆さん、一人一人に心からお願いします。どうかこの大切な活動に協力してください。どの改宗者も貴い人々です。すべての改宗者が神の息子、娘であり、わたしたちは一人一人の改宗者に対して大きな、重い責任を負っています。

モロナイは昔、この時代にわたしたちが接する人々のことを、次のように述べました。

「彼らは、打ち砕かれた心と悔いる霊をもって進み出て、自分のすべての罪を心から悔い改めたことを教会員に証明した者でなければ、だれにもバプテスマを認めなかった。

また、最後までキリストに仕える決心をしてキリストの名を受けた者でなければ、だれもバプテスマを認められなかった。」(モロナイ6:2-3)

兄弟の皆さん、これらの改宗者たちは福音に対する証あかしを持っているはずです。主イエス・キリストを信じる信仰を持ち、主の實在について知っているはずです。心から罪を悔い改め、主に仕える決心をしているはずです。わた

しはそう信じています。

モロナイは、バプテスマを受けた後の人々についてこう続けています。「そして人々はバプテスマを認められ、聖霊の力が働いて清められると、キリストの教会の民の中に数えられ、その名が記録された。それは、彼らが覚えられ、神の善い言葉で養われ、そして彼らを正しい道にとどめるため、また絶えず祈りを心に留めさせ、彼らの信仰の創始者であり完成者であるキリストの功德にだけ頼らせるためである。」(モロナイ6:4)

今日も当時と同様、改宗者たちは「教会の民の中に数えられ」ます。「それは、彼らが覚えられ、神の善い言葉で養われ、そして彼らを正しい道にとどめるため、また絶えず祈りを心に留めさせ」るためです。兄弟の皆さん、改宗者が会員としての一歩を踏み出すとき、彼らの力になりましょう。

これはすべての人のための業です。ホームティーチャーと訪問教師のための業です。監督会、神権定員会、扶助協会、若い男性と若い女性、そして初等協会のための業でもあります。

先週の日曜日、わたしは断食証会に出席しました。15、6歳くらいの若者が会衆の前に立ち、「バプテスマを受

ける決心をした」と告げました。

続いて、教師定員会の青少年たちが一人一人マイクの前に立ち、彼への愛を伝え、彼のしようとしていることは正しいと言い、いつもそばにいて力になると約束しました。若い男性たちが友達に感謝と励ましの言葉を伝えるのを聞いて、ほんとうによかったと思います。先週バプテスマを受けた若者を含め、わたしはこれらの少年たち全員が伝道に出ようとしていることをうれしく思います。

最近の記者会見でこう尋ねられました。「今日の教会活動の中で最も喜びを覚えるのは、どういった事柄ですか」と。

こう答えました。「最も満ち足りた経験は福音が人々に与える影響を目の当たりにすることです。福音を知ると人生観が変わり、それまでに感じたこともないような視野が開けます。気高く神聖な事柄に目を向けるようになり、目を見張るような奇跡が起こります。彼らはキリストを仰ぎ見て、いきいきとします。」

さて兄弟たち、わたしは皆さん一人一人にお願いします。どうかこの業に力を貸してください。皆さんの親しみのある態度や、責任感が必要とされて

います。全人類の救い主は99人を残して、迷い出た1人を捜しに出かけられました。迷い出た1人は、行方不明にならなくてもよかったです。しかし彼が外の闇の中にいるのであれば、それが99人を残して行くことになるとしても、わたしたちは彼を捜しに出なければなりません(ルカ15:3-7参照)。

以上が今晚、この件についてお話ししたかったすべてですが、あえて一言言い添えれば、わたしの考えでは、現在これ以上に重要なものはありません。

では次の話題に移ります。

若い男性の皆さんに、お話ししたいと思います。パウロが若い友人、そして同僚でもあったテモテにあてた手紙をテキストに用いて話します。この手紙から引用して宣教師たちに語ったことがあります。今回はこれから宣教師になろうとする皆さんにお話ししたいと思います。

わたしが思い描くパウロは年老いてやつれた、真理の教師です。パウロは大きな信頼を寄せ、心から愛する若い友人に手紙を書いています。

パウロは、様々なことを語り、こう言っています。「わたしたちは、このために苦しんでいる。それは、すべての人の救主、特に信じる者たちの救主なる生ける神に、望みを置いてきたからである。」(1テモテ4:10)

パウロは迫害され、追放され、憎まれ、軽んじられました。最終的に彼は全人類の贖い主について証を恐れず述べたため命を奪われました。

わたしたちも同様の覚悟をしなければなりません。

ニーフアイはこう宣言しました。「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。」(2ニーフアイ25:26)

パウロはテモテにさらにこう書いています。「あなたは、年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ、

言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。」(1テモテ4:12)

言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、わたしたちがキリストの御霊を反映させるなら、わたしたちの教える人々は、若さゆえのわたしたちの至らなさを大目に見てくれるでしょう。わたしたちは悪い言葉を使ってははいけません。不敬の罪に陥ってはなりません。汚れた思いや言葉、行いを遠ざけ、主の御霊とともにあってください。

パウロは続けてこう言いました。「長老の按手を受けた時、預言によってあなたに与えられて内に持っている恵みの賜物を、軽視してはならない。」(1テモテ4:14)

ここで言う長老とは、教会で長老の職を有する人々のことです。執事、教師、祭司のいずれかの職にある皆さんは、正当な権能を持つ人、たいていは父親が監督から聖任されたことでしょう。皆さんには偉大で尊い賜物が与えられています。だからこそ皆さんは真理を語ることができますし、語らなければなりません。福音の偉大さ、すばらしさについて証することもできます。これは皆さんの賜物です。それを軽視してはなりません。

パウロの言葉は続きます。「自分のことと教のことに気をつけ、それらを常に努めなさい。そうすれば、あなたは、自分自身とあなたの教を聞く者たちとを、救うことになる。」(1テモテ4:16)

友人の信仰が強まるように働きかけるとき、皆さんは彼らだけでなく、自分自身をも救うことになるでしょう。

パウロはテモテに再びこう勧告しています。「自分をきよく守りなさい。」(1テモテ5:22)

これらは簡潔な言葉です。しかしとても重要な教えです。パウロは要するに、皆さんを霊的に墮落させ、破滅させる事柄から遠ざかるように言っているのです。汚れた思いや言葉を誘発するテレビ番組を遠ざけてください。邪悪な思いを誘発するビデオを遠ざけてください。それらは何の助けにもなり

ません。皆さんを傷つけるだけです。記事や写真が低俗でみだらな本や雑誌を遠ざけてください。自分自身を清く保ってください

パウロの言葉は続きます。「金銭を愛することは、すべての悪の根である。」(1テモテ6:10) 金銭を愛し、金銭であがなえる物を愛することは滅びにつながります。必要を満たすためには、確かにお金が要ります。しかしお金を愛すると、自分を傷つけることになります。それが価値観をゆがめ、霊的な事柄から心を遠ざけ、利己心と貪欲をあおるからです。

パウロは次のようなすばらしい言葉を残しました。「というの、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。

だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすること……を、決して恥ずかしく思ってはならない。」(2テモテ1:7-8)

臆する霊を与えたのは神ではなく、悪魔です。非常に多くの人が仲間にも何と言われるかを恐れています。正しいことを守ると、軽蔑され、批判されてしまうと考えなのです。しかし、「悪事は決して幸福を生じたことがない」(アルマ41:10) という事実を思い起こしてください。邪悪は決して幸福を生じません。罪も同様です。幸福はイエス・キリストの簡潔で美しい教えとその力と愛からもたらされるのです。

わたしたちは取り澄ましたり、こそそしたりする必要はありません。恥ずかしがする必要もありません。わたしたちには世界で最も偉大なもの、よみがえられた主の福音があります。パウロはわたしたちにこう命じています。「だから、あなたは、わたしたちの主をあかしすること……を、決して恥ずかしく思ってはならない。」(2テモテ1:8)

執事、教師、祭司として、聖なる神権に聖任されたわたしたちは、まっすぐに立ち、イエス・キリストに対する証を、恐れず、あいまいな態度をとらずに宣言できます。

パウロは言いました。「恥じるこ



テンブルスクウェアで奉仕中の姉妹宣教師と語る七十人の菊地良彦長老。右は登志子夫人。

ろのない錬達した働き人にな」りなさい (2テモテ2:15)。

もしわたしたちが神の御前に立って自分の生涯について報告するように求められたら、恥じ入ることなく報告できるでしょうか。これはパウロから若い友人への切なる願いです。皆さん一人一人にも向けられています。彼はこう続けています。「俗悪なむだ話を避けなさい。それによって人々は、ますます不信心に落ちてい〔く。〕」(2テモテ2:16)

パウロは単にふらつき回り、時間を浪費し、無益な事柄に話し興じることを警告しているのです。怠惰は害悪と結びついています。

さらにこう言っています。「あなたは若い時の情欲を避けなさい。そして、きよい心をもって主を呼び求める人々と共に、義と信仰と愛と平和とを追い求めなさい。」(2テモテ2:22)

ギャラハッド卿はこう言いました。「わたしの強さは十人力。それは心に汚れがないからだ。」(アルフレッド・テニソン、*Sir Galahad*『ギャラハッド卿』)

この言葉は何度繰り返しても言いすぎることはありません。若いときの情欲を遠ざけてください。麻薬に手を出さないでください。それらは確実に皆さんを滅ぼします。それらを恐ろしい

病気に対するように避けてください。事実そのようになるからです。汚れた下品な話を避けてください。そのような話も破滅につながります。どんなときも誠実であってください。不誠実は人を墮落させ滅ぼします。知恵の言葉を守ってください。喫煙をしてはなりません。かみたばこもいけません。飲酒もしてはなりません。皆さんは神の神権を有しています。皆さんを誘惑するこれらのものを超越してください。祈りを忘れないでください。信仰を込めて主に尋ね求めれば、主は皆さんの祈りを聞き届けてくださいます。主は皆さんを愛し、祝福したいと願っていらっしゃる。主の祝福にふさわしく生活してください。

皆さんの前途には大きなチャレンジが横たわっています。皆さんは激しい競争の世界に足を踏み入れようとしています。できるかぎりあらゆる教育を受けてください。主は教育の大切さについて指示を与えられました。教育によってさらに大きな機会が開けます。将来、やりがいのある仕事に就く備えになります。大学に行くことを望むのであれば、ぜひそうしてください。大学に行きたいという気持ちがないのであれば、専門学校やビジネススクールに通って技術を磨き、能力を向上させてください。

また、今から準備して伝道に出てください。伝道は重荷にも時間の浪費にもなりません。伝道は素晴らしい機会であると同時に大きなチャレンジです。ほかでは得られない素晴らしいものが得られます。皆さんの持つ技術や指導力を高めてくれます。証と確信を深めてくれます。人々の生活とともに自分の生活にも祝福をもたらすことができます。主について証を述べる時、神の御子を身近に感じられるようになります。福音の知識が強固になり、深められます。同胞への愛が増します。真理を雄々しく証するとき、恐れは消えうせます。

わたしたちはこの偉大な業に携わる若い友である皆さんを愛しています。皆さんが信仰深く、真実でいられるよう祈っています。わたしたちは神の王国を発展させるといふ偉大な業に携わっています。この業をわたしたちに代わって担う備えをして下さっている皆さんに、わたしたちは心からの信頼を寄せています。ひざまずいて、毎日、朝に晩に祈ってください。ご両親の勧めによく従ってください。監督や副監督に信頼を寄せてください。彼らは皆さんを行くべき所に導いてくれます。「神に頼って生きるように」(アルマ37:47)してください。

皆さんは主の業の中でも大いなる時期に、この世に生を受けました。皆さんが現在受け、そしてこれから受ける機会とまったく同等の機会に恵まれた世代は、これまでありませんでした。幸福になる目標を今から立ててください。例えば、何であれ自分で選んだ技術や学習分野について教育を受ける。伝道に出て、主に完全に従い、主の業を行う。将来、主の宮ですばらしい伴侶と結婚するためにふさわしく生活する、などです。

主の祝福が皆さんのうえにありますように。主が皆さんを見守り、導いてくださいますように。主は皆さんが行うべき偉大な業を用意していらっしゃいます。主を失望させないでください。イエス・キリストの御名により、わたしの愛と祝福を皆さんに残します。アーメン。

道を示してくれた人々

第一副管長

トーマス・S・モンソン

世の救い主であるイエス・キリストは、……昔も今も究極の開拓者です。イエスが人々に先立って行かれ、あらゆる人々に従うべき道を示されたからです。



今年1997年は、ブリガム・ヤングの靈感あふれる指導の下に開拓者たちがグレート・ソルトレーク盆地に到着し、「まさにこの土地である。さあ、前進しよう」と宣言してから150年がたったことを祝う記念の年です。本大会では、この歴史的な出来事について壇上から多くが語られることでしょうし、また、神が絶えず見守り、導いてくださったことに対し、感謝がささげられることでしょう。

この美しい安息日の朝、わたしは、さらに昔にそうした苦難の道を歩んだ「そのほかの開拓者」について、少しお話ししたいと思います。そのためにまず、「開拓者」という言葉の辞書の中での定義についてしばらく考えてみましょう。その定義とはすなわち、「先立って行き、ほかの人々に従うべき道を示す人」²です。

時計の針を少し戻して、ほかの場所へ旅立ってみましょう。そうすれば、「開拓者」という言葉の高い標準に合うと思われる、様々な人々に出会えるかもしれません。

そのような人物の一人にモーセがいます。パロの宮廷で育てられ、エジプト人のあらゆる知恵を学んだこのモーセは、言葉にも行いにも力ある者となりました。偉大な律法を伝えたこのモーセこそ、十戒が刻まれたあの石の板を神から託された人物であったということを知らない人はいないでしょう。この十戒の教えは、当時も今も、等しく拘束力を持っています。

信頼していた民の中には、かつての生活に戻ろうとする者たちがおり、モーセはそのことで絶えず悩まされていました。モーセはそうした人々の行動に失意を抱きながらも、彼ら、つまりイスラエルの民を愛し、エジプトの束縛から導き出したのでした。確かにモーセは開拓者と呼ぶにふさわしい人物です。

次に開拓者と呼ばれるにふさわしい人物は、ルツです。ルツはしゅうとめのナオミに同行するために、自分の民や親族や故国を捨てた人物です。そしてエホバの地でエホバを礼拝し、エホバの民に倣^{なら}って生活したのです。ナオミに従順であることは、実に重要な意味を持っていました。その従順の結果、ルツはボアズと結婚し、ルツ自身は異国人でモアブ人の改宗者でありながら、ダビデの曾祖母^{そごもは}となり、したがってイエス・キリストの先祖の一人となったのです。『聖書』にはルツの名前

を冠した書がありますが、その表現は詩的で、ルツの決意と勇気がうかがえる文体で書かれています。「ルツは言った、『あなたを捨て、あなたを離れて帰ることをわたしに勧めないでください。わたしはあなたの行かれる所へ行き、またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です。あなたの死なれる所でわたしも死んで、そのかたわらに葬られます。もし死に別れでなく、わたしがあなたと別れるならば、主よ、どうぞわたしをいくえにも罰してください。』³

確かにこのルツも、この気高いルツも、開拓者の一人でした。

ほかにも開拓者と呼ばれるにふさわしい信仰深い女性たちがいます。例えば、イエスの母のマリヤ、マグダラのマリヤ、エステル、エリサベツといった女性たちです。また、アブラハム、イサク、ヤコブといった人たちも見落とすわけにはいきません。さらに、イザヤやエレミヤ、エゼキエル、そして後代の預言者たちも忘れるわけにはいかないでしょう。

バプテスマのヨハネも忘れてはならない人物です。ヨハネの衣服は質素で、その生活は簡素で、そのメッセージは簡潔でした。すなわち、信仰と悔い改めと水に沈めるバプテスマ、それに、ヨハネ自身が授かっている権能よりもさらに偉大な権能を持つ御方によって聖霊を授けられることでした。ヨハネはこう宣言しています。「わたしはキリストではなく、そのかたよりも先につかわされた者である。』⁴「わたしは水でおまえたちにバプテスマを授けるが、わたしよりも力のあるかたが、おいでになる。……このかたは、聖霊と火によっておまえたちにバプテスマをお授けになるであろう。』⁵

ヨルダン川は、イエスがヨハネからバプテスマを受けるためにガリラヤから下って来られたことで、歴史に残る出会いの場所となりました。最初、ヨハネは主にこう嘆願しました。「わたしこそあなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたがわたしのところにおいでになるのですか。』⁶それに

対して主はこうお答えになりました。「『すべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである。』……イエスはバプテスマを受けるとすぐ、水から上がられた。すると、見よ、天が開け、神の御霊がはどのように自分の上へ下ってくるのを、ごらんになった。また天から声があった。『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。』」⁷

ヨハネは大胆に宣言し、こう教えました。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」⁸

このヨハネについて、主は次のように言われました。「女の産んだ者の中で、バプテスマのヨハネより大きい人物は起らなかつた。」⁹長い歴史を通じて数多く生まれたほかの開拓者と同様、このヨハネも殉教者の冠をかぶつたのでした。

霊的な面でも行動の面でも開拓者であった数多くの人々が、イエスによって召され、主の使徒となりました。この使徒たちについては、一人一人に関して数多くの物語が残されています。

イエスに最初に召された弟子の一人にペテロがいます。漁師であったペテロは、主の神聖な呼びかけにこたえ、網をわきに置いて、救い主の御声に従いました。「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」¹⁰わたしはペテロのことを考えるとき、主について「あなたこそ、生ける神の子キリストです」¹¹と言ったペテロの証にいつも感嘆の念を覚えます。

愛弟子ヨハネは、キリストが十字架におかかりになったとき、その場にいたと記録されている唯一の使徒です。残酷な十字架につけられたまま、イエスはヨハネにすばらしい責任をお伝えになりました。御自分の母であるマリヤについて、「ごらんください。これはあなたの母です」¹²と言われ、さらにマリヤに「ごらんください。これはあなたの子です」¹³と言われたのです。

使徒たちも人に先立って行き、ほかの人々に従うべき道を示しました。この使徒たちもやはり開拓者です。

しかしながら、歴史を見るかぎり、

大部分の人はキリストのみもとに来ることもなく、キリストのお教えになった道に従うこともありませんでした。主は十字架につけられ、大部分の使徒たちは殺され、真理は拒まれたのです。真理の光はその明るい輝きを失い、漆黒の夜の長い影が大地を覆いました。

これに先立つこと何世代も前に、イザヤはこう預言していました。「暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。」¹⁴また、アモスは地が飢饉に見舞われることを、こう預言していました。「それはパンのききんではない、水にかわくのものでもない、主の言葉を聞くことのききんである。」¹⁵暗黒時代の歴史に終止符が打たれることはあり得ないように思えました。天の使いが姿を現すことはないのでしょうか。

やがて時が来て、熱意にあふれた正直な人々が、自らの生命を危険にさらしながらも、真実の道を見つけ出そうと、新しい判断基準の確立を企図したのです。宗教改革の日の夜明けです。しかし、その前途は多難でした。迫害も厳しく、個人の犠牲も甚だしく、代償も計り知れないものだったのです。この宗教改革者たちも開拓者でした。道なき道に失われた判断基準を求めて必死に分け行った宗教改革者たちは、それが見つかりさえすれば、人類をイエスが教えられた真理のもとへ連れ戻すことができると考えたのです。

ジョン・ウィクリフ、マルチン・ルター、ジョン・フス、ツ빙グリ、ノックス、カルビン、そして、ティンダルといった人々も皆、宗教改革の時代の開拓者でした。ティンダルが彼を批判する人々に向かって宣言した言葉には、大きな意味があります。「すきを引いて畑を耕している農家の子供でさえ、あなたがたよりもはるかに『聖書』に精通させてみせよう。」¹⁶

それが偉大な宗教改革者たちの教えであり、また人生でした。彼らの行為は英雄的であり、その貢献も多大で、犠牲も並々ならぬものがありました。しかし、この宗教改革者たちがイエス・キリストの福音を回復することはありませんでした。

この宗教改革者たちについて、人は

こう尋ねるかもしれません。「彼らの犠牲は無駄だったのだろうか。彼らの戦いは意味のないものだったのだろうか。」わたしは熟慮のうえで、「そうではない」と答えます。彼らの働きの結果、人々は『聖書』を手にすることができるようになりました。一人一人が、自分で容易に道を見いだせるようになりました。しかし、あらゆる人が『聖書』を読み、理解することができたなら、どんなにすばらしかったことでしょう。ただ、読める人もいれば、聞ける人もいました。そして、だれでも祈りを通じて神に近づくことができました。

長く待ち望んだ回復の日が、現実に来ました。しかし、世界の歴史の中であの劇的な出来事がどのような意味を持つかを考えるに当たって、まず、一人の農家の少年の証を読み返してみましよう。この少年こそ、やがて預言者となった回復の証人、ジョセフ・スミスです。

自分自身の経験をジョセフは次のように記録しています。「ある日のこと、わたしは、ヤコブの手紙第1章5節を読んでいた。『あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に、願いを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。』」¹⁷

「とうとうわたしは、暗闇と混乱の中にとどまるか、それともヤコブが指示しているとおりに行うか、すなわち神に願いを求めるか、どちらかにしなければならぬという結論を出すに至った。……

わたしはこれを実行するために人目を避けて森に入って行った。それは1820年の早春、美しい晴れた日の朝のことであった。……

わたしは……ひざまずいて、心の願いを神に告げ始めた。……

わたしは自分の真上に、太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱を見た。そして、その光の柱は次第に降りて来て、光はついにわたしに降り注いだ。……

そして、その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわた

しの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい」と言われた。」¹⁸

御父と御子イエス・キリストが、ジョセフ・スミスの前にその御姿を現されたのです。時満ちる神権時代の夜明けが到来しました。幾世代も続いた霊的な夜の闇が払われたのです。

ジョセフ・スミスの生涯と業績については、これまで無数の書物に著されてきました。しかし、今日ここでわたしの話の目的を達成するためには、恐らく2、3の中心的な出来事を紹介すれば十分でしょう。ジョセフ・スミスは天使モロナイの訪れを受けました。また、主の指示のままに貴重な版から『モルモン書』を翻訳し、全世界の人々に対するキリストの新しい証としました。神の御手に使われる者となり、末日聖徒イエス・キリスト教会の設立に関する数々の力強い啓示を受けました。またジョセフは、御業を進めていたとき、パプテスマのヨハネやモーセ、エリヤ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの訪れを受けました。万物の回復を成し遂げるためです。さらに、迫害に耐え、深い苦しみを味わいました。彼に従った者たちも同様でした。また、神を信頼し、その預言者としての召しに忠実でした。全世界に向けて驚くべき伝道活動を開始し、それにより今なお、人類に光と真理がもたらされています。最終的には、ジョセフ・スミスは、兄のハイラムとともに、殉教者として世を去りました。

ジョセフ・スミスもほんとうの意味で開拓者でした。

聖文の歴史を最初から最後まで読み通すと、究極の開拓者、すなわち、イエス・キリストについて学ぶことができます。イエスの誕生は古代の預言者たちによって預言されていました。この世の生涯を始められることは、一人の天使によって告知されました。イエスの生涯と働きは世界を変えてきました。

ベツレヘムにみどり子が誕生すると



同時に、大いなる賜物^{たまもの}がもたらされました。武器よりもはるかに力ある権能が、また、カエサル^{カエサル}の硬貨よりもはるかに永続する宝^{たから}がもたらされたのです。この幼子^{おきなご}は、王の王、主の主、約束のメシヤ、すなわちイエス・キリストであり、神の御子となる御方でした。馬屋に生まれ、かいばおけに寝かされたこの幼子は、肉体を持つ人間としてこの地上で生活するために天から降臨され、神の王国を設立されたのでした。この地上で教導の業を進められる間に、人に高度な律法をお授けになりました。その栄光に満ちた福音は、世界の人々の考え方に新しい命を吹き込みました。病氣の人を祝福し、歩けない人を歩けるようにし、目の見えない人を見えるようにし、耳の聞こえない人を聞こえるようにしました。また、死者をよみがえらせることすらなされたのです。

使徒行伝の中の一文が、万巻の書物に代えて主の働きをよく表しています。「このイエスは、神が共におられるので、よい働きを……されました。」¹⁹

イエスはわたしたちに祈ることを教えられました。「天にいますわれらの父よ、御名^{みかど}があがめられますように。御国^{みくに}がきますように。みこころが天に

行われるとおりに、地にも行われますように。」²⁰

また、ゲツセマネと呼ばれる園の中で、苦しみのあまりその毛穴から血を流されたイエスは、その祈りの中でこう訴えられました。「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯^{さかづき}をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。」²¹

また、仕えることも教えられました。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」²²

また、わたしたちに赦すことも教えられました。「主なるわたしは、わたしが赦そうと思う者を赦す。しかし、あなたがたには、すべての人を赦すことが求められる。」²³

また、わたしたちに愛することを教えられました。「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』これがいちばん大切な、第一のいましめである。第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』」²⁴ 真の開拓者であった主は、「わたしに従ってきなさい」²⁵と言われ、人々を招き寄せられたのでした。



ここで目をカペナウムに向けてみましょう。そこで、会堂司かいどうつかさの一人であったヤイロという者が主のもとに来て、こう言っています。「わたしの幼い娘が死にかかっています。どうぞ、その子がなおって助かりますように、おいでになって、手をおいてやってください。」²⁶すると、会堂司の家から知らせが来ました。「あなたの娘はなくなりました。」²⁷

キリストはそれに対して、こうお答えになりました。「恐れることはない。ただ信じなさい。」²⁸主は、会堂司の家に着かれると、泣き叫ぶ者たちの間を通り過ぎ、彼らに向かってこう言われました。「『なぜ泣き騒いでいるのか。子供は死んだのではない。眠っているだけである。』人々はイエスをあざ笑った。」²⁹それは、その娘がすでに死んでいることを知っていたからでした。「イエスはみんなの者を外に出し、……そして子供の手を取って、……『少女よ、さあ、起きなさい』[と言われた。]……彼らはたちまち非常な驚きに打たれた。」³⁰

救い主が十字架につけられるまでの出来事を思い起こすとき、わたしの心はどうしても感情的になって、涙を禁じ得ません。わたしは、「十字架につけよ。……十字架につけよ」³¹と叫ぶ群衆にこたえたピラトの言葉を読むとき、身のすくむ思いがします。ピラトは、「水を取り、群衆の前で手を洗って言った、『この人の血について、わたしには責任がない。おまえたちが自

分で始末をするがよい。』」³²イエスはあざけられ、顔につばきを吐きかけられ、その頭にはいばらの冠をかぶせられました。また、イエスに飲ませようと、酔いぶどう酒が与えられました。こうして、彼らは主を十字架にかけたのです。

主の遺骸は、借りた墓の中に横たえられました。しかし、主の肉体をとどめておくことのできる墓などは存在しなかったのです。3日目の朝、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとこの二人に同行して来た女たちに、喜びのメッセージがもたらされました。女たちが墓に来ると、入り口の大きな石が転がされていて、墓はすでに空になっていたのです。二人の御使みつかいが、泣いている女たちにこう言いました。「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。」³³

確かに、主はよみがえられたのです。主はマリヤに現れ、ケパ、すなわち、ペテロにも現れ、さらに、十二使徒の兄弟たちにも御姿みすがたを現されました。また、ジョセフ・スミスにも御姿を現されました。ジョセフはこう宣言しています。「小羊あかしについてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。」³⁴

わたしたちの仲保者あがなであり、贖い主であり、長兄であり、御父への代弁者である主は、わたしたちの罪のために、そして全人類の罪のために亡くなられました。イエス・キリストの贖いは、予任されてはいたものの、神の独り子の自らの意志で行われた行為です。イエスは、わたしたちすべての者のために、その贖いの代価として、自らの命を差し出されたのです。

主の伝道、人々の間で行われた教導の業、真理の教え、慈悲に満ちた行い、わたしたちに対する不変の愛について考えるとき、わたしたちの心は感謝の念で満たされ、心が熱くなります。世の救い主であるイエス・キリストは、

神の御子であり、昔も今も、究極の開拓者です。イエスが人々に先立って行かれ、ほかのすべての人たちに従うべき道を示されたからです。わたしたちがこれからも主に従って歩むことができますよう、イエス・キリストの御名みなによって祈ります。アーメン。

注

1. ウィルフォード・ウッドラフ, *The Utah Pioneers* 『ユタの開拓者たち』 p.23に引用
2. *Oxford English Dictionary, s.v. "pioneer"* 【オックスフォード英英辞典】"pioneer"の項
3. ルツ1:16-17
4. ヨハネ3:28
5. ルカ3:16
6. マタイ3:14
7. マタイ3:15-17
8. ヨハネ1:29
9. マタイ11:11
10. マタイ4:19
11. マタイ16:16
12. ヨハネ19:27
13. ヨハネ19:26
14. イザヤ60:2
15. アモス8:11
16. ロガー・ヒラス "The History of the Book" *Washington Post* 「書の歴史」『ワシントン・ポスト紙』 1996年4月10日付け参照
17. ジョセフ・スミス-歴史1:11
18. ジョセフ・スミス-歴史1:13-17
19. 使徒10:38
20. マタイ6:9-10
21. ルカ22:42
22. マタイ25:40
23. 教義と聖約64:10
24. マタイ22:37-39
25. ルカ18:22
26. マルコ5:23
27. マルコ5:35
28. マルコ5:36
29. マルコ5:39-40
30. マルコ5:40-42
31. マルコ15:13-14
32. マタイ27:24
33. ルカ24:5-6
34. 教義と聖約76:22-23

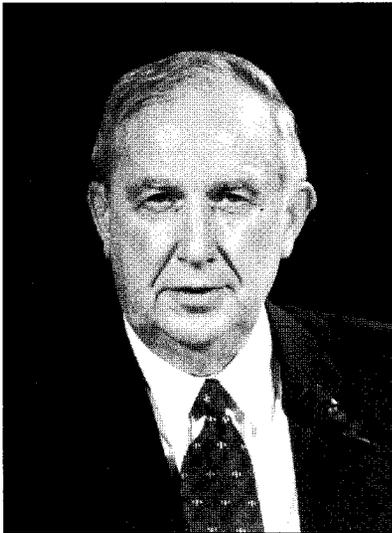
あがな

贖い主イエス・キリスト

十二使徒定員会会員

リチャード・G・スコット

贖い主は皆さんを愛しておられ、今と永遠にわたる幸福をもたらす重要な事柄を達成できるように助けてくださいます。



今日は4月6日です。現代の聖典には、この日にイエス・キリストが誕生されたと記録されています。わたしはへりくだって、各自が計り知れない恩を受けている、この栄光ある御方についてお話しします。聖文が主について教えていることは真実です。わたしは個人的な気持ちを表すためにその幾つかを引用しましょう。

パウロはこう証しました。「彼は…全き者とされたので、彼に従順であるすべての人に対して、永遠の救の源とな」²られたのである。

永遠の救いはとても貴重なものです。しかし、それを得るには主に従わなければなりません。

イエスは言われました。「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。

また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。」³

「わたしの戒めを守り、最後まで堪え忍ぶならば、あなたは永遠の命を得るであろう。」⁴

いつまでも死なずに永遠の命を得るには、主に従って最後まで堪え忍ばなければなりません。

わたしは、主が「神の声に聞き従うすべての人を救うために、この世に来られ」、「すべての人の苦痛」を受けられたことを証します。また、「復活がすべての人に及び、大いなる裁きの日に、すべての人が神の御前に立つようになるため」に、十字架におかかりになったことを証します。主が「すべての人に、〔主〕に対して完全な信仰を抱きながら、悔い改めて、神の御名によってバプテスマを受け」るように命じておられ、「そうでなければ、人は神の王国に救われない」⁵ことを証します。悔い改めて、主を完全に信じること、これらは救いに不可欠な条件です。

「イエス・キリストの贖いの血によってのみ人は救われるのであり、ほかには一切道も手段もない」ことを証します。⁶ イエス・キリストは「憐れみの計画を成し遂げるため、正義の要求を満たすため、また御自分が完全に公正な神、憐れみ深い神であり続けるために、御自分で世の罪の贖いを」⁷されました。聖なる贖い主の贖罪がなければ、地上に生を受けたすべての人は、正義の要求により、神のみもとに戻ってその栄光と昇栄を受けることはできません。⁸ だれもが過ちを犯し、それに対する正義の要求を自分では満たせないからです。キリストの「無限の贖罪」がなければ、わたしたちは死んだときに神のみもとに帰ることができず、ヤ

コブが厳粛に警告したように、「わたしたちの霊は……悪魔……に従うようになり、もはや起き上がることは」なく、「あの天使のようになって……悪魔の使いである悪霊となって、神の御前から締め出され、偽りの父とともに……惨めな状態にとどまっていた」⁹でしょう。

「贖いは聖なるメシヤによって、またメシヤを通じてもたらされ」ます。それは、「打ち砕かれた心と悔いる霊を持つすべての人のために」あり、「このような人々のためにしか、律法の目的は達せられない」からです。¹⁰ 「打ち砕かれた心と悔いる霊」という絶対必要条件は、従順で、求めに容易に応じ、謙遜すなわち教えを受けることができ、進んで従うことの必要性を定めています。最後に、「これらのことを地に住む者に知らせて、聖なるメシヤの功德と憐れみと恵みによらなければ、だれも神の御前に住める者がいないことに気づかせる」¹¹のが、どんなに大切なことであるか証します。イエス・キリストは、天父のほかの子供が持ち得ない「功德」を有しておられました。ベツレヘムに誕生する前に、神、エホバであられました。イエスは、愛にあふれる御父から霊の体を受けただけでなく、肉における神の独り子とされました。わたしたちの主は、罪のない完全な生活を送られたので、正義の要求からまったく自由でした。主は愛、思いやり、忍耐、従順、赦し、謙遜など、あらゆる属性において完全な御方でした。今もそうです。主の憐れみは、わたしたちが悔い改めて主に従うとき、正義の求める負債を払ってくれます。わたしたちは、たとえ全力を尽くしても、自分を救えません。「わたしたちが最善を尽くした後……救われる」のは、神の恵みによるのです。¹²

わたしたちは前世での記憶をなくしていますが、この地上に来る前に、永遠の父なる神とその御子イエス・キリストのみもとで生活していました。そして、肉体を受けるために、地上に来る特権が与えられたとき、喜びの声を上げました。わたしたちは、ここで

試されることを知っていました。従順な生活を選べば、天父のみもとに帰って永遠にともに住むことができるのです。その試しの中には、地上での大切な目的を忘れさせるような、うわべはとも魅力的なことがたくさんあります。サタンは、その目的をくじくために、懸命に働きかけています。

この計画は、本質について考えると、きわめて単純です。主が告げられたように、わたしたちがここにいるのは、主の教えに対して雄々しく、従順でいられるかどうか、試されるためです。皆さんは地上のだれよりも、それを行う可能性に恵まれています。なぜなら、回復された完全な福音と救い主の教えを手に行っているからです。人生について静かに考えてみると、何がこの世できわめて大切で、何がそうでないかがはっきり分かります。賢くあって、良いものと必要不可欠なものの優先順位を混同しないでください。

何が必要不可欠でしょうか。教義にかかわるものです。様々な儀式の中心に置かれ、重大な聖約を含むものです。この儀式には、主の教会と地上の王国に入るためのバプテスマと^{あんしゅ}接手があります。男性であれば、ふさわしい状態でメルキゼデク神権に^{あがな}聖任されることや、その神権を尊んで人のために行使することが含まれます。成人の男女であれば、自身のエンダウメントを含め、神殿のすべての儀式が入ります。その中には、神殿の結び固めの儀式があって、夫婦は従順であれば、この世から永遠の世にわたってともに生活できると約束されます。夫婦が忠実であれば、神殿結婚を通して生まれた子供や、後に両親に結び固められた子供は、永遠に愛の輪に加わり、喜びを共にします。主の^{あがな}贖いの犠牲の祝福をすべて受けるために、わたしたちが求められているのは、主の戒めに従うことと、これらの必要な儀式をすべて受けることだけです。^{しよくざい}贖罪は、自分の犯した背きや過ちを克服できるように助けるだけでなく、人生のあらゆる不公平、すなわち、自分の決断の結果でなく、環境やほかの人の行為の結果として生じた不当な事柄をすべて、主の時において、解消

するでしょう。

理解や賛成をしない人がいるかもしれませんが、わたしは、バプテスマを受け、大きな罪を避けながら容認できる生活を送るだけでは、十分でない^{あがし}と証します。昇栄と永遠の命に至るには、今述べた追加の儀式と聖約を受けなければならないと、主は定められました。神殿の儀式にふさわしいとは、世の多くの人が進んでやりたがらないことを選ぶことを意味します。安息日を聖く保ち、信仰をもって^{しゅうふん}什分の一と断食献金を納め、教会の礼拝行事にいつも参加し、奉仕を行い、家族一人一人を助けて愛と感謝を表します。神殿の儀式をすべて受けた人は、自分が交わした聖約を守って、忠実に「最後まで堪え忍」^おぶことによって、引き続き成長していきます。

「打ち砕かれた心と悔いる霊」¹⁴をもって、進んで行くなら、聖約を守るのは難しいことではありません。聖約に従うなら、聖約はわたしたちに幸福と喜びをもたらし、人生に目的を与えてくれます。しかし、選択の自由を使って、聖約と相反する選りをしてしまったときは困難が伴います。自分の自由になる時間に行っていることをよく吟味してください。最も優先順位が高くて重要な事柄が、中心になっているでしょうか。それとも、無意識のうちに、永続する価値のないものや、地上に^{きょう}来た目的の達成に役立たないつまらない活動で、時間を埋めていないでしょうか。今日や明日に起こることだけでなく、永遠の見地から人生を考えてください。今欲しいと思う何かのために、人生に最も必要なものをあきらめないでください。

地上での試しの期間に達成すべき非常に重要なことは、最優先しなければなりません。たとえ達成する価値のある良いことであっても、重要性において劣るものは、優先すべきではありません。この世の生涯の後に、皆さんは現世で自分なろうとしたものに回復されるでしょう。

わたしは、皆さんが家族とともにすべての救いの儀式をふさわしい状態で受け、関連する聖約を正しく守ってき

たことを知って、心の平安と晴れやかさを感じることができればと思います。わたしは力の限りを尽くして皆さんにお勧めします。救いの儀式をすべて受け、皆さんの家族全員がこの世を去る前にそれらの儀式を受けられるようにできることをすべて行ってください。善悪に囲まれ、死すべき肉体を持ったこの地上では、霊界で霊の状態^{あがな}で生活するときよりも、はるかに速く成長することができます。¹⁵ 普通の生活の長さを考えれば、救いに不可欠な儀式をすべて受けるために必要なのは、皆さんの時間ではありません。必要なのは、勤勉と理解と従順です。皆さんに求められるのは、これらの儀式に対するふさわしさを身に付け、できるだけ多くの儀式を受けるために、能力の範囲内で全力を尽くすことです。もし自分ではコントロールできない理由により、すべての儀式を受けられない人は、ふさわしい生活をして、決して自分を不適格と^{あがな}考えないでください。主は、御心^{みこころ}にかなう時と場所において、約束されたすべての祝福を受けられるようにしてくださるでしょう。

意図的であるなしを問わず、救い主とその教えが生活の中で優先すべき多くのものの一つにすぎないと考えて生活する人は、明らかに落胆への道を歩むことになるでしょう。一部の条件だけを満たすことにより、永遠の幸福を失ってしまうのは、ほんとうに賢いことでしょうか。皆さんが必要な変化を今起こそうという気持ちになれるように祈っています。

もし背きの中にとどまっている人がいれば、戻って来てください。もしこの世のことに^{あがな}惑わされて神のことを忘れていたならば、優先順位を正してください。もし救いの儀式をまだすべて受けていなければ、そのために必要なことを行おうと、今決意してください。

わたしたちは、贖い主イエス・キリストによって行われた贖罪に^{あがな}どれほど感謝すべきでしょうか。以下の聖句に描かれた模範に従って生活するとき、生活に豊かさと喜びがもたらされます。

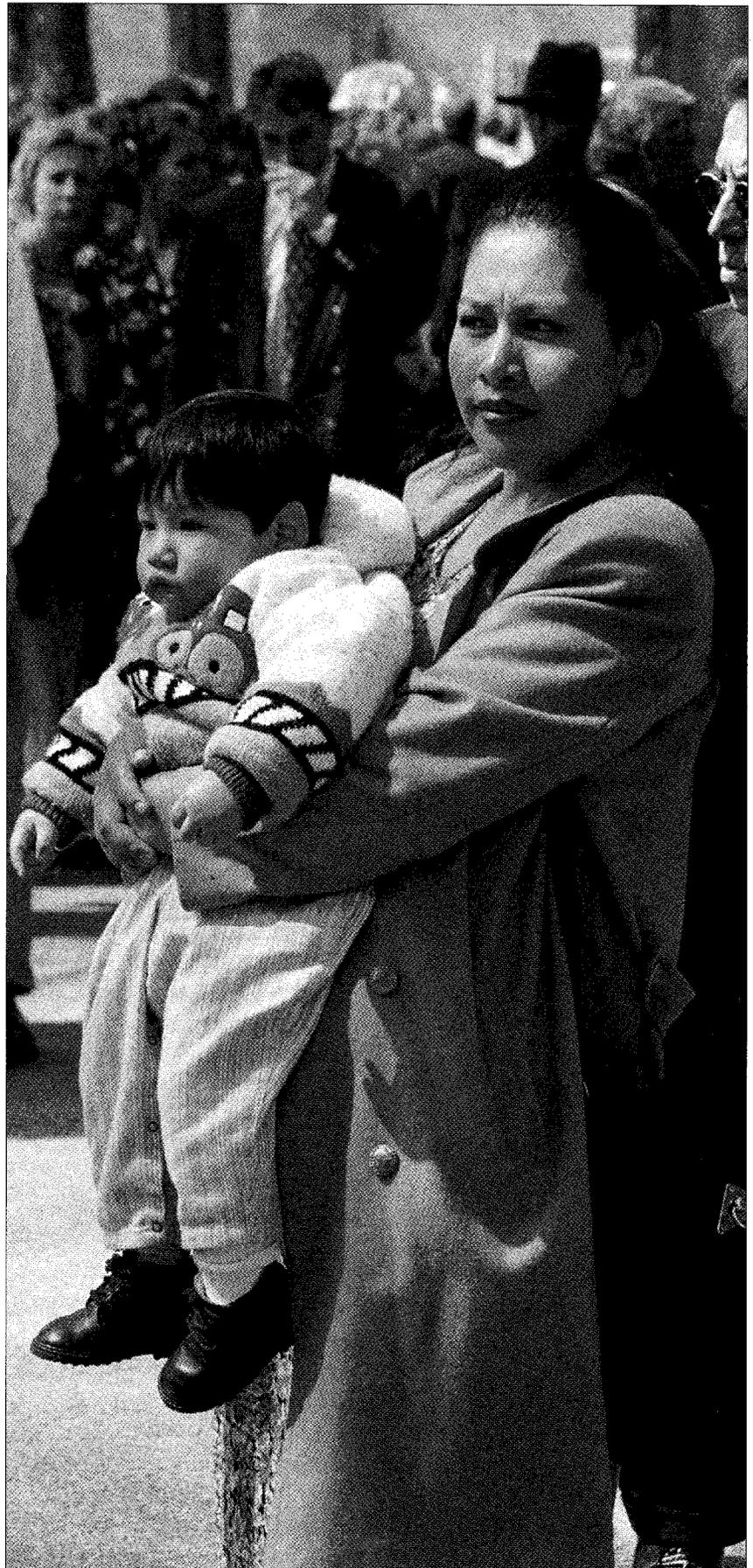
「彼らは、しばしば断食して祈り、

ますます謙遜^{けんそん}になり、ますますキリストを信じる信仰を確固としたものにしたので、喜びと慰めで満たされ、まことに清められ、心の聖^{きよ}めを受けた。この聖^{きよ}めは、彼らが心を神に従^{したが}わせたために受けたのである。」¹⁶

「〔贖^{あがな}いを通して得られる〕罪^{ゆる}の赦しは柔和で心のへりくだった状態を生じ、柔和で心のへりくだった状態であれば聖霊の訪れが」あり、「この慰め主は、希望と完全な愛を人の心に満たされる」¹⁷ことを証^{あかし}します。永遠の父なる神が皆さんを愛しておられ、祈りを聞いてこたえてくださることを証します。¹⁸ 贖^{あがな}い主は皆さんを愛しておられ、今と永遠にわたる幸福をもたらす重要な事柄を達成できるように助けてくださいます。イエス・キリストの証人の一人として、わたしは、主が生きておられることを知っています。イエス・キリストの御名^{みな}により、アーメン。

注

1. 教義と聖約20：1
2. ヘブル5：8-9
3. ヨハネ11：25-26
4. 教義と聖約14：7
5. 2ニーファイ9：21-24参照
6. ヒラマン5：9
7. アルマ42：15
8. ジョン・テラー、*The Mediation and the Atonement* 『仲保と贖い』 pp.179-183。黙示3：21：21：7も参照
9. 2ニーファイ9：7-9
10. 2ニーファイ2：6-7、下線付加
11. 2ニーファイ2：8、下線付加
12. 2ニーファイ25：23
13. オムナイ1：26
14. 3ニーファイ12：19
15. Melvin J. Ballard—*Crusader for Righteousness* 『メルビン・J・バラード—義の戦士』 pp.212-213
16. ヒラマン3：35、下線付加
17. モロナイ8：26
18. *The Teachings of Spencer W. Kimball* 『スペンサー・W・キンボールの教え』 p.252参照



旅について 何も恐れる必要はない

十二使徒定員委員会
M・ラッセル・バラード

道がどんなに険しく……でも、わたしたちは先人が天を仰いで……人生の最も過酷な試練、悲慘に堪え忍んだことを知ると、慰められます。



過 去数か月にわたり、ここソルトレーク・シティーでまた世界各地で、教会員の思いは末日聖徒イエス・キリスト教会の確立にまつわるたぐいまれな出来事に向けられてきました。ワードやステークが1年間に及ぶこの開拓者150年記念祭を活用して、1847年にユタに入植した開拓者や、「信仰こめて、一歩ずつ」道を切り開いた世界各地の開拓者の卓越した働きをたたえる機会にできるのは、すばらしいことです。

シベリアで作られた手車は、現在ロシアやウクライナの各伝道部を横断中ですが、これは開拓者をたたえる世界的規模の活動の好例です。この手車は、旅の最後の行程であるエミグレーションキャンオンを通して、7月22日にデイス・イズ・ザ・プレース州立公園に

到着する予定です。

この1年を通じて、わたしたちは教会歴史を振り返り、過去の課題に立ち向かって克服した人々の模範的な信仰と勇気から、現代の諸問題に立ち向かう力をくみ取ります。わたしたちは様々な国の偉大な開拓者たちをたたえる過程で、しばしば目を涙でぬらし、心から感謝する史実を知るでしょう。音楽、ドラマ、感動的な追体験を通じて、わたしたちは開拓者のたどった、この世的にも霊的にも驚くべき旅に思いをはせるでしょう。

しかし現在の神権時代の基を据えた人々の霊的な支えを理解しなければ、彼らの成し遂げた旅の意義を理解することはできません。一度そのかわりが理解できれば、開拓者の旅とわたしたちの信仰の旅が似通っていることに気づくでしょう。彼らの残した足跡の一步一步に、数々の教訓が含まれています。愛、勇気、決意、献身、忍耐、そして何よりも信仰についての教訓です。

1847年にユタに入植した開拓者の信仰は、福音の諸原則に根ざしていました。彼らは迫害の恐れなしに礼拝できる避け所を求めて、家、神殿、時には家族さえも後にしました。配給品や家財の面では、彼らが持ち出せたものは微々たるものでした。しかしどの幌馬車や手車にも、彼らの信仰がぎっしり積み重ねられていました。神への信仰、預言者ジョセフ・スミスを通して教会が回復されたことへの信仰、神は自分たちの目的地を御存じであり、必ず成功に導いてくださるという信仰です。

1847年にモルモン街道を旅したある人は、その道のことを「希望の道」と呼んでいました。わたしはこの「希望の道」という呼び名が好きです。安息の地を見いだそうとする各人の普遍的な希求が感じられるからです。そこは人々の心が一つに結ばれ、希望が支配する聖徒たちの共同体です。

150年記念祭を通じてわたしたちが特別な賛辞をささげるこの19世紀の開拓者たちは、決して英雄になろうとしたわけではありません。にもかかわらず、成し遂げた事柄は英雄的偉業でした。彼らはそれによって聖徒となったのです。彼らは正しい理由によって正しいことを行おうと努めた信者の一団であり、非凡な務めを果たすように求められた普通の男女でした。時には落ち込んでつぶやいたり、不平を言ったりしたこともありましたが、最終的には神への信仰と、彼らが預言者、指導者として支持する人への信頼が勝利を収めました。こうして彼らは幌馬車の進路を修正すると同時に、自分たちのビジョンや姿勢を正しました。旅の苦難と試練のただ中であって、喜びを見いだしていました。

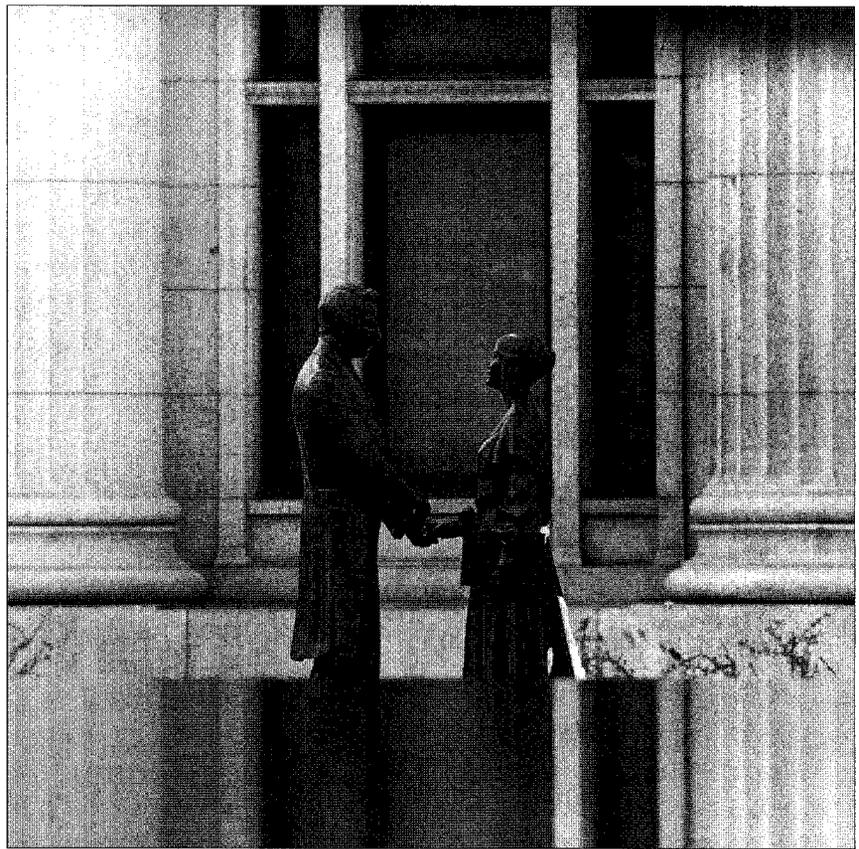
開拓者たちのユタ山中への移住に先立つのは7年前、ウィリアム・クレイトンはイギリスにいる仲間の聖徒に手紙を書き、シオンに集合するように勧めました。当時はまだ、シオンがやがて幌馬車と手車を連ねて、西部に移動することになろうとは、思ってもいませんでした。彼はこう記しています。「わたしたちは……距離的には隔たっていますが、わたしは決してあなたがたを忘れません。……神をたたえるために、少し述べさせてください。わたしがそのために堪え忍んだすべての事柄は決してわたしを傷つけたり、落胆させたりはしませんでした。むしろ良い結果をもたらしました。……時には熱暑で息も止まりそうになり……、時には寒さで凍えます。わたしは羽毛の代わりに板の上で眠らなければなりませんでした。……ぬれた服を乾かしたり着替えたりすることもできず……厳しい天候の下、……戸外で眠らなければなりませんでした。さらにあなたが

たが想像もできないような目に遭いました。……〔でも〕わたしたちは健康で元気です。もし忠実ならば、旅について何も恐れる必要はありません。主は聖徒の面倒を見てくださいます。』

ウィリアム・クレイトンは後に、アイオワ横断の旅の途中で「恐れず来られ、聖徒」（『賛美歌』17番）の詞を書きました。クレイトンをはじめほかの大勢の聖徒たちは、ユタに移住する約2,000キロに及ぶ行程の中で、絶えず信仰を抱いていれば「旅について何も恐れる必要は〔ない〕」ことを親しく知るようになります。

開拓者の経験の中に、^{こんにち}今日のわたしたちに益となる教訓があるでしょうか。あります。1847年の開拓者たちやほかの国の開拓者たちに力を与えた信仰は、回復された福音の基本的教義を中心とした純粋な信仰でした。彼らはそれが真実であると知っていました。彼らにとって大事だったのはそれだけでした。わたしたちとっても事情は同じだと思います。わたしたちの信仰も、神が生きておられ、自分たちが神の子供であり、イエス・キリストが神の独り子であって救い主であられるという基本的な真理に、中心を置く必要があります。神が預言者ジョセフ・スミスを通じて地上に完全な形で教会を回復されたことを知る必要があります。真実な信仰をもって研究し受け入れるなら、わたしたちはイエス・キリストの回復された福音を通して、御父が子供たちの幸福のために備えられた計画が明瞭で、きわめて簡潔なものであることが分かります。

1847年にあったノーブーからグレート・ソルトレーク盆地への旅は、アイダホ出身のある若い宣教師が1993年末にシベリアの地で最初に働く宣教師団に交じって赴任するのとよく似ています。教会の宣教師たちは、ほぼ毎日のように様々な国に上陸しています。彼らはその国の言語知識に乏しく、食糧も文化も生活事情もそれまで慣れ親しんだものとまったく違います。それでも彼らは現代の開拓者として、旅を恐れず信仰を込めて一歩ずつ、イエス・キリストの回復された福音というよき



おとずれを全地の人々に携えて行くため、雄々しく進んでいきます。

わたしたちも信仰があればそれぞれの旅を、同じように雄々しく恐れずに進むことができます。たとえそれが、問題を抱えた子供と歩む親であろうと、子供たちを立派に育てようと努めるひとり親であろうと、邪悪で混乱する世界に自分の場所を見つけようともがく若人であろうと、独りで人生を生き抜こうとしている独身者であろうと同じです。道がどんなに険しく荷がどんなに重くても、わたしたちは先人が天を仰いで平安、慰め、希望に満ちた確信を求めながら人生の最も過酷な試練、悲惨に堪え忍んだことを知ると、慰められます。わたしたちも彼らと同じように、神が御父であり、個人としても全体としても主はいつも見守りを与えてくださり、わたしたちが主に対する信仰を行使し信頼を寄せ続けるかぎり、旅について何も恐れる必要がないことを知るでしょう。1847年の開拓者たちはブラット川やスイートウォーター川などの、生命維持に欠かせない新鮮な水を提供してくれる川筋に沿っ

て西を目指しました。同じようにわたしたちも現世の旅を続けるとき、信仰を新たにし努力を維持できるように、キリストの生ける水に沿って歩み、その恵みにあずかる必要があります。

人生は平坦な道ばかりとは限りません。わたしたちは旅の途中、アイオワを横断した開拓者たちのように、ひざまで泥につかるような思いをし、夢を葬り去らなければならないかもしれません。だれもが向かい風を受けながら、冬を間近に控え、ロッキー山脈の尾根に立ち向かいます。時には目を刺し、視界を曇らせる砂ぼこりが際限なく続くように思えます。絶望や落胆という切り立った崖のせいで、旅が停滞することもあります。その近くで開拓者が苦しんだデビルズゲートは、いつでも大きく口を開けてわたしたちを誘い込もうとしています。賢明で信仰深い人々はそのような誘惑からできるだけ遠くに進路を取ります。しかし一方で、わたしたちの身近にいる最も親しい人々が時として、楽で便利で快適で安心であるという誘惑に負けてしまいます。開拓者がそうであったように、時



折、わたしたちは人生という山の一つの頂上にたどり着きますが、行く手には今越えて来たばかりの山よりさらに高く、険しい山々が見えることがあります。信仰と忍耐という目に見えない力の蓄えを使ってわたしたちは先人たちのように少しずつ前進し、信仰をもって堪え忍んだ開拓者の仲間入りをして、ともに「すべては善し」(『賛美歌』17番)と歌える日を待ち望みます。

わたしたちは旅を終え、教会歴史上の偉大な開拓者たちと肩を並べて立つとき、どんな気持ちがするでしょうか。開拓者たちはわたしたちにどんな思いを持つでしょうか。わたしたちの残した足跡に信仰を読み取ってくれるでしょうか。もちろんです。とりわけ永遠の見地に立ってわたしたちの生涯と経験を見てくれれば、分かるはずです。今日、わたしたちの旅は150年前の開拓者の旅に比べれば物理的には苦勞が少なくと言えます。しかしチャレンジの大きさは同じです。確かに大陸を徒歩で横断し、西部の砂漠に新しいふるさとを築くのは大変だったでしょう。ですが今日のような罪に満ちた混乱の世にあって信仰深く、義になかった生活を送るより開拓者の受けたチャレンジの方が難しかったと、だれが言えるでしょう。そこでは人々の生き方が絶えず変わり、政治的要求や道徳的退廃が神の定められた善悪の標準に取って替わろうとしています。わたしたちが今日通う道は危険に満ちています。聖文はそれが終わるまで続くと教えています。しかしわたしたちの報いは、主イエス・キリストの教えを忠実に守り、

正しい選択をし、地上の神の王国建設のためにすべてをささげたあらゆる時代のふさわしい開拓者の報いと同じです。

わたしたちは膨大な遺産を受け継いでいます。そして今、回復という現在も続くドラマの一翼を担うのはわたしたちの特権であり責任です。そして偉大な英雄の物語がこの時代にもつづられています。立ちほだかる障害を克服するにはすべての力と知恵と精力を注ぎ込む必要があります。しかしそれでも十分ではありません。先祖の開拓者がそうであったように、わたしたちも次のような事実を知るようになるでしょう。すなわち信仰、それも真実の信仰、全身全霊を傾け、試練によって練り上げられた信仰によってのみ、わたしたちは危険に満ちた人生の小道を歩く自信と安全を見いだせるのです。

わたしたちは19世紀、20世紀、そして未来の開拓者として、またイエス・キリストに従い主の贖いの犠牲によって生活の中に奇跡を受けるといふ偉大な旅において、皆一つに結ばれています。わたしたちは皆、ジョセフ・スミスと彼に従う人々がバルマイラからカーセージの監獄、さらには大平原を越えて残した信仰の足跡に感謝できますし、同時に主が歩まれた道について思いをはせると深い畏敬の念に包まれます。主がゲツセマネとカルバリに向けて残された信仰篤い足跡によって、わたしたちは皆救われ、天の家に帰る道が開かれました。

救い主は道であり、真理であり、命であられることを心に留めましょう。また忠実、真実であるなら、いつか主の愛の御腕の中に無事抱かれる日が来るのが分かります(教義と聖約6:20参照)。それより偉大な約束はないということも銘記しましょう。主はいつもそばにいてくださって、励まし、救い、助けてくださいます。ですから、わたしたちが信仰を行使し戒めを熱心に守るなら、旅について何も恐れる必要はありません。

去年の夏、わたしは3人の孫とともに、エミネンスと呼ばれる丘の頂に立ちました。ウィリー手車隊が立ち往生し寒さと飢えに苦しんだあのスイート

ウォーター川を見下ろしながら、わたしたちは彼らの日記から救助の喜びをつづった箇所を読みました。ジョン・キスレットはこう記しています。「太陽が遠くの丘に美しく沈みかけたころ、……何台かの幌馬車が……わたしたちの方にやって来るのが見えた。その知らせは燎原の火さながらにキャンプ中に伝わった。……叫ぶような喜びの聲が上がり、屈強な男たちも泣き、日焼けしてしわの刻まれた頬に涙がとめどなく流れた。……その晩、ほんとうに久しぶりにシオンの歌がキャンプに響いた。……飢えは満たされ、神とこのすばらしい兄弟たちへの感謝で心はいっぱいになり、わたしたちは皆一つになって祈りをささげ、眠りに就いた。」²

わたしはそのとき、ウィリー手車隊が救助隊を最初に目撃した同じ丘にたたずんで、こう考えました。主イエス・キリストによる神の家族の救いという、最大の救助活動が持つ永遠の意義を完全に理解できたら、どれほど大きな喜びに満たされるだろう。わたしたちに永遠の命を約束されたのは、ほかならぬ主です。主イエス・キリストを信じる信仰は、皆さんにとってもわたしにとっても、旅について何も恐れる必要はないという確信を与えてくれる霊的な力の源です。わたしは主イエス・キリストが生きておられることを知っています。主に對する揺るがぬ信仰を持つなら、生涯にわたって安全な旅を続けることができます。イエス・キリストの御名によりへりくだってこのことを証します。アーメン。

注

1. コマースからの書簡、1840年12月10日付け。末日聖徒イエス・キリスト教会文書保管課ウィリアム・クレイトン・コレクション、下線付加
2. リロイ・ヘーフェン、アン・ヘーフェン共著、*Handcarts to Zion: The Story of a Unique Western Migration, 1856-1860*『シオンに向かう手車隊——比類なき西部移民の物語、1856-1860年』pp.106-107より引用

信仰こめて、 一歩ずつ—— 開拓者の大いなる旅路

ビデオによるプレゼンテーション。大管長会が6か所の教会史跡を訪ね、
末日聖徒の開拓者の信仰をたたえる。



ゴードン・B・ヒンクレイ大管長。イリノイ州ノーブーにて。

ナレーター——ゴードン・B・ヒンクレイ大管長

末日聖徒の開拓者の大いなる旅路は、ミシシッピ河畔から始まります。彼らはここノーブーを、沼地から商業と友好の活気ある社会へと一変させてしまいました。しかし、ノーブーは定住の地ではなく、ほんのひとときの休息の場にすぎませんでした。聖徒たちをミズーリから追放したあの過酷な迫害が、彼らの生命とノーブーの町を再び脅かしていたのです。預言者ジョセフ・スミスと兄のハイラムが1844年6月27日に殉教し、ノーブーの町も終焉を迎えようとしていました。

1846年2月1日、日曜日、聖徒たちは

「ジョセフの町」と呼ばれたノーブーでともに礼拝行事をしました。その翌日、ブリガム・ヤングは彼らに、4時間後には町を脱出するので準備をするようにという指示を出しました。

身を切るような寒さの中で脱出が始まりました。聖徒たちの多くは家財をまとめて住んでいた家に別れを告げました。そして、川のかなたの西部を屈指したのです。

今のノーブーは静かな町です。家や店舗が美しく修復されています。勤勉さと献身の町です。神の町を建てた聖徒たちの勇気と優れた技巧がそこかしこに表れています。

これだけのものを残してここを去らなければならなかった聖徒たちの気持

ちはどんなだったのでしょうか。耕した土地、植えた樹木、そして、苦勞して建てた神殿を後にしたのです。男性、女性、そして子供たちが自分たちの美しい家を出て腕馬車（ワグン）に乗り込み、川の方に向かいました。そして川を渡り、ゆっくりとアイオワの土を踏むと、もと来た方を振り返りました。これが見納めになるだろうと思いながら。

ノーブーを去ることは偉大な信仰の表れでした。大きな苦難が待ち受けていたにもかかわらず、聖徒たちは指導者と主とその恵みを信じていました。主が再びその民を約束の地に導かれるとの信仰、自分たちは決して力尽きて倒れたりほしくないという信仰です。こうして彼らは荒れ野に歩を進めました。その旅路を「信仰こめて、一歩ずつ」歩んだのです。

ナレーター——トーマス・S・モンソン 第一副管長

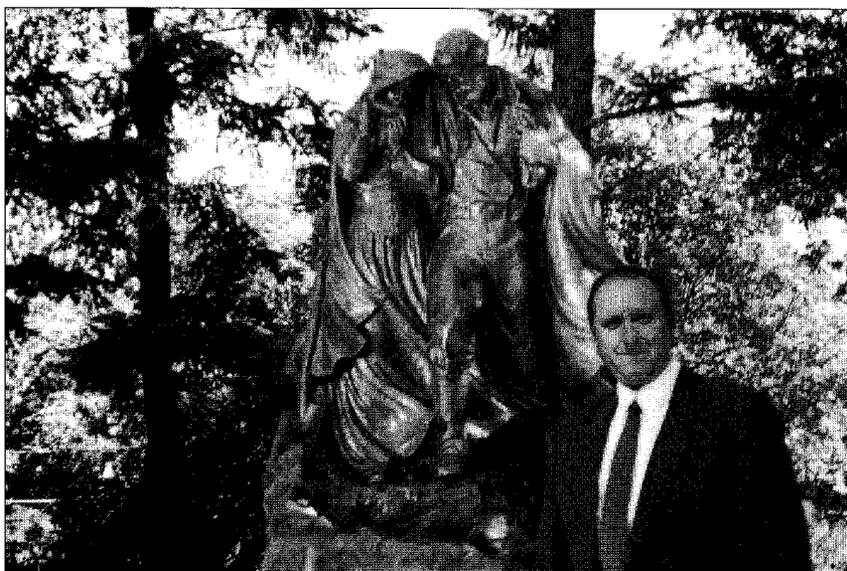
西部への旅は、遅々たる歩みでした。多くは過酷な旅への備えが十分ではなく、凍りつくような気温と降りしきる雨、そしてひざまでのぬかるみは、実につらいものでした。アイオワを越えるだけで131日かかったのです。

古代のイスラエルの軍勢のように、昼は雲が、夜は火の柱が彼らを守りました。このアイオワでの苦難から生まれた賛美の歌は、世代を超えて歌い継がれています。「恐れず来たれ、聖徒進み行けよ。」（『賛美歌』17番）

ガーデングローブとマウントピスガで後続の人々のために休息地を設置した忠実な開拓者たちは、ミズーリ河畔に進み、そこで越冬しました。

ここウィンタークォーターズは荒れ野におけるシオンでした。ブリガム・ヤング大管長は人々を組織し、乏しい食糧を共有しました。しかし、人々ができる限りのことをしたにもかかわらず、病気と死が野営地を襲いました。

この記念碑は、名もない1人の子供と7人の開拓者の墓のすぐ近くに建てられています。家を捨てて西へ向かうようにとの預言者の呼びかけに従った気高い聖徒たちの大きな犠牲を思う



アバード・フェアバンクスの像「ウィンタークォーターズの悲劇」の前に立つトーマス・S・モンソン副管長。ネブラスカ州ウィンタークォーターズにて。

と、胸がいっぱいになります。

多くのものを失った苦難の旅。確かに、これらの気高い開拓者の旅は、苦痛と涙の旅でした。彼らの旅は終わりました。しかし、彼らの名前は真理に対する愛と主への信仰の証として生き続けるのです。

ナレーター——ジェームズ・E・ファウスト第二副管長

春の訪れを迎えた1847年4月、十二使徒定員会はブリガム・ヤングの指示の下に先発隊を選び、ウィンタークォーターズを出発しました。男性143人、女性3人、少年2人、幌馬車72台で構成され、馬93頭、雄牛66頭、ろば52頭、乳牛19頭、犬17匹、鶏数羽を伴いました。

ウィンタークォーターズと約束のシオンとの間には、大平原と、西部への旅路の生命線であるプラット川が横たわっていました。ネブラスカを越えた彼らは、旅程を記録しながら、大平原に突き出たチムニーロックを通過していきました。

山よもぎが点在する地に来ると砂塵が舞い、牛の歩みは遅くなり、幌馬車の車輪はきしみました。時折おおかみの遠ぼえが聞こえました。しかし、勇敢なこれらの男女は骨を折って進みました。今でも、彼らのわだちの跡が残

っています。開拓者たちはノースプラットを離れ、スイトウォーター川を何度か渡ります。そして、インディペンデンス・ロックと呼ばれる丸い岩の所で野営をしたこの19世紀の旅人たちは、その岩に名前を刻んでいます。

インディペンデンス・ロックを過ぎた幌馬車隊は、デビルズゲートと呼ばれる、丘のふもとにできた大きな切れ目を巻くように進んで行きます。ここは、彼らの日記によく登場する場所です。道は傾斜を増し、岩が多くなっています。

ここロッキーリッジは聖地です。西部への街道の中の最高地点に数えられます。ここにたどり着いた開拓者たちは、険しい登りに意気をそがれ、命を落とす者もいました。わたしが持っているのは、幌馬車か手車から落ちた釘と金具です。この急坂を幌馬車で上る姿、手車を引いて登る姿を想像してみてください。

ある人々にとって、このロッキーリッジの登りは死を意味しました。1856年、マーティン手車隊とウィリー手車隊がこの峠付近で初冬の吹雪に襲われ、約200人がソルトレークからの救援隊を待ち切れずに、深く冷たい雪の中で命を落としたのでした。

マーティンズ・コープは悲しみに打ちひしがれた多くの人々にとって安らぎの場所でした。ロッククリークの記

念碑は、未曾有の逆境の中で信仰を貫き、この地に埋葬された人々をたたえるものです。

わたしたちは手車の開拓者の英雄的な働きから偉大な真理を学びます。だれもが精錬者の火で焼かれることにより、人生の中の取るに足りないものは不純物のように溶けてなくなります。そして、損なわれずに残った信仰が、強さを増して輝き出すのです。だれもが苦痛や悲しみ、胸が張り裂けるような思いを味わいます。熱心に義を求める忠実な人々でさえ例外ではありません。しかし、これは神を知るための清めのプロセスなのです。

ナレーター——モンソン副管長

ウインドリバーの頂を北に見て、街道はサウスパスを越えます。ここが山脈の間の唯一の大きな切れ目で、グレートベースンへの直通ルートとなっています。北東部からユタに入った彼らは、覆いかぶさるような赤茶けた崖に挟まれた狭いエコーキャニオンを、ゆっくりと進んで行きました。

この最後の一步は、余力のない彼らにとっては試練でした。行く手には丘が連なり、どちらを見ても山また山です。旅路の終わりを願い、はやる心に、登って越えるしかない道が重くのしかかりました。

ビッグマウンテンという名のこの高い頂で、開拓者たちは初めて地平線にきらめく山あいの盆地を目にします。その喜びはどれほど大きかったことでしょう。これまでの無数の犠牲と苦難が終わるのです。そこにはソルトレーク盆地が広がっていました。苦難はそれから続くものの、彼らは耐えました。疲労のため身をすり減らしながらも、彼らの信仰が歩みを進めたのです。

このビッグマウンテンはわたしにとって特別な場所です。わたしの先祖のギブソン・コンディーが、立ち往生した手車隊を救うためにこの頂を越えて行きました。彼は預言者の命により、1856年の厳冬にここを通ったのです。5メートルの雪でした。心地よい家を離れ、身の危険を顧みずに救出に向か

ったこの先祖に、わたしは感謝します。

ナレーター——ファウスト副管長

ブリガム・ヤングがこの盆地に到着したのは、1847年7月24日です。犠牲をものともせず歩き続けた開拓者たちは、安息日には働きを休んで主を礼拝し、到着できたことへの感謝をささげました。

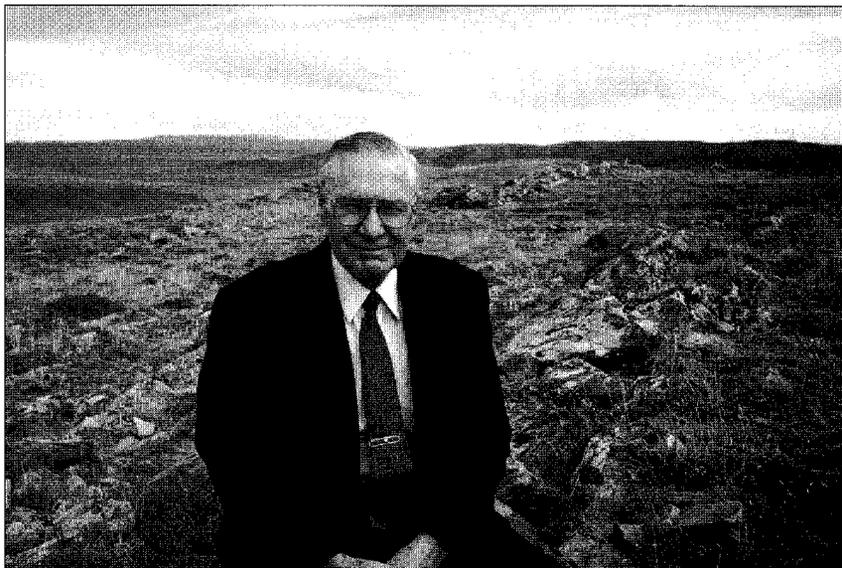
彼らは「町からひとり、氏族からふたり」（エレミヤ3：14）選ばれて、荒れ野での新たな生活のために大陸を越えて来ました。神の回復の業以外にその努力と犠牲を可能にしたものがあるでしょうか。彼らは神が生きておられ、目的地に連れて行ってくださるとの信仰の下に歩き続けたのでした。

新たな地で、彼らは新たな仕事に取り組むことになりました。家を建て、開墾し、作物を植え付け、そして神殿を建設するのです。

ナレーター——ヒンクレー大管長

ソルトレーク盆地にはドームの形をした山があります。ブリガム・ヤングはこの山を、聖徒たちがノーブーをたつ前に示現で見ました。一つの旗がその山の頂上に降りて来ると、ジョセフ・スミスの声がして、「この地点の下に築きなさい。……そうすれば繁栄し、平安が得られるでしょう」と言ったのです。

ソルトレーク盆地に到着したブリガム・ヤングは、この山の存在にすぐに



ジェームズ・E・ファウスト副管長。ワイオミング州ロッキーリッジにて。

気づきました。そして1847年7月26日、後の大管長会を構成する人々が十二使徒を数名伴い、この頂に登りました。

神権指導者たちは下界を見下ろしました。ブリガム・ヤングは言いました。「わたしたちはここに腰を落ち着けます。ここで主は、主の民の中に主の御名を置かれるでしょう。」

今こうしてエンサインピークに立って眺めてみると、当時の神権指導者の先見の明に驚きます。長旅で擦り切れた洋服と1,600キロもの間履いてきたブーツを身に着けた預言者たちが、福千年の夢を語り合ったのです。まことに大胆で、信じられない出来事ではないでしょうか。

ここは最も近い定住地からほぼ1,600キロ、西海岸から1,300キロの地点にあ

りました。未開拓の不毛の地でした。建物は何もありませんでした。

彼らはミシシッピ河畔の美しい町を追われ、西部の荒れ野にやって来た流浪の民でした。でも、彼らには聖文と啓示の言葉から得たビジョンがありました。「主は国々のために旗をあげて、イスラエルの追いやられた者を集め、ユダの散らされた者を地の四方から集められる。」（イザヤ11：12）

この1世紀以上も前の開拓者の物語は、末日の開拓者にも受け継がれています。西部を目指した開拓者の血が、わたしたちにも脈々と流れているのです。それはわたしたちに、現代の山々を越える勇氣と御業の達成への決意を与えてくれます。初期の開拓者の信仰は今も燃え続けています。国々は、主の業についての明確なビジョンを持つ末日の開拓者により祝福を受けています。

アメリカの大地に残された開拓者の消えることのない足跡が、今や世界各地に記されつつあります。北京からブラジル、フランスからフィリピンまで。わたしたちは「信仰こめて、一歩ずつ」、地上における神の王国の建設という栄えある行く末に向かって歩み続けます。そして、世界中の人々の思いと心を、贖い主であり世の救い主であるキリストのみもとに来るよう備えるのです。



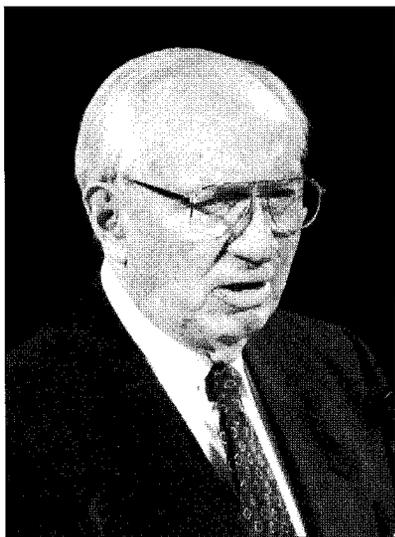
開拓者のたどった道は、モルモン街道沿いの所々で、岩肌には刻まれたわだちとなつて今も残っている。

信仰に忠実に

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

わたしたちにはこのようにすばらしい受け継ぎがあるのですから、必ず最善を尽くすことができます。先人たちもわたしたちにそれを期待しているのです。わたしたちには主から命じられていることがあります。



今のビデオを背景に、当教会の誕生日についてわたしたちが見聞きしてきたことを要約し、もう少しお話ししたいと思います。これまで何度も聞いてきたように、今年は大いなる記念すべき年です。先人たちが成し遂げたことの偉大さとその意義について皆さんにお話ししたいと思います。多くの方々がよく御存じの話ですが、繰り返す価値のあるものです。

それはスケールが非常に大きく、人間の苦しみや信仰による行いに満ち満ちたものであり、決して古くさくなったりすることはありません。

開拓者の子孫であるか、昨日バプテスマを受けたばかりの会員であるかにかかわらず、皆さん一人一人が、彼らの偉大な働き之恩恵を受けています。

偉大で高潔な先達がいるということは、とてもすばらしいことです。主の

導きの御手、また主の御声に耳を傾ける預言者の存在、自分の命よりもこの大義を愛した無数の聖徒の絶対的献身などを今に伝える大いなる受け継ぎにあずかれるというのは実にすばらしいことです。この7月には何百万人もの教会員が、彼らに深く思いをはせ、そのすばらしい業績をたたえ、彼らが築いた土台の上に成し遂げられてきた奇跡的な成長を祝うことになると思いますが、それは少しも不思議なことではありません。

ウォーレス・ステグナーの言葉を引用したいと思います。彼はこの教会の会員ではありませんが、わたしとはユタ大学の同期生で、後にスタンフォード大学の創作文学教授となり、ピューリッツァー賞を受けた人です。彼は鋭い観察眼の持ち主であり、注意深い学生でもありました。彼はわたしたちの先祖について、このように書いています。

「彼らは一つの共同体、彼らが言うところの『王国』を築いた。しかし彼らの移住の物語は、ユタ州の基礎を据えたというにとどまらないものである。彼らはその大移住の過程において、ローカスト・クリークからミズーリ州に至るアイオワ南部に最初の道を切り開き、また最初の橋、最初の共同体を築いた。彼らは交易所、インディアンの保護区域でしかなかったミズーリ州カウンスルブラフスを文明の前哨地に変え、ミズーリ川両岸に幾つもの定住地を築き、ウィンタークォーターズ……後にはケインズビルを……インディペンデンス、ウエストポート、セン

トジョセフに匹敵する物資の供給地に^{へんぼう}変貌させた。……彼らが作ったガイドブック、道路標識、橋、渡し場などは、後から来ることになっていた聖徒たちのために考えたものであったが、『異邦人』たちの役にも立った。」

彼はさらにこう続けています。「モルモンは西部開拓を推進した主要勢力の一つであった。彼らの主力はアイオワ南部、ミズーリの辺境地帯、ネブラスカ、ワイオミング、ユタを開拓した。サミュエル・ブランナンに率いられ、ブルックリン号でホーン岬経由の海路を取った東部の聖徒のグループと、フォート・レベンワースからサンディエゴまで3,200キロの陸路を行軍したモルモン大隊は、モルモンの移動の支流であった。その間にあって、彼らは南西部とカリフォルニアの開拓に貢献した。サッターの水車場の水路の底から光を放つ金が見つかったとき、大隊の隊員たちはカローマにいた。……ブリガム・ヤングが率いるモルモンたちは、わずかな休止の後、再び移住を始め、ソルトレーク盆地、ユタ盆地、ウィーバー盆地から四方に広がり、アリゾナ北部からアイダホのリムハイ川、ワイオミングのフォートブリッジャーからカーソン盆地のジェノア、そして南西部ではセントジョージ、ラスベガスを経てサンバーナディーノに至るまでの地域に入植地を築いた。」

これは開拓者たちのすばらしい業績を要約して述べたものです。

ミズーリ州のボグズ知事が出した^{ほくめつ}撲滅令を逃れた聖徒たちは、イリノイ州へ来て、わずか7年の間に、当時のイリノイ州で最大の町を築き上げました。その町は大きく蛇行するミシシッピ川の岸辺近くに作られました。彼らはここでれんが造りの家や学校を建て、大学を作る認可を得て、集会用のホールを造り、当時のイリノイ州内で最も壮麗な建築物と言われた神殿を築きました。しかし、再び彼らに対する憎しみの炎が燃え上がりました。そしてその憎しみはやがて、彼らの指導者ジョセフ・スミスと兄ハイラムを死に至らしめることになりました。二人は1844年6月27日に、カーセージの監獄

で銃撃され命を奪われたのです。

ブリガム・ヤングは、聖徒たちがそこにとどまれないことを知っていました。聖徒たちは、ジョセフ・スミスが「悪魔の目の届かない」²所と言った、はるかかなた西部の地へ移住する決意をしました。1846年2月4日、何台もの幌馬車がパーリーストリートを通り、ミシシッピ川の方へ進みました。彼らはミシシッピ川を渡し船で越え、アイオワの地へ入りました。そして、その後やって来たのは厳しい寒さでした。川は氷結し、彼らはその上を渡って行きました。ノーブーに別れを告げた彼らは自然の猛威にさらされ、神の隣れみに自らをゆだねました。

凍結した地面が解けると、深いぬかるみとなり、彼らの歩みを妨げました。幌馬車は車軸まで泥の中に沈んでしまい、それを引く牛を2倍にも3倍にも増やさなければなりません。彼らは道なき所を切り開きながら進んで行きました。

やがてミズーリ川近くの「大宿营地」に着いた彼らは、そこで雨風をしのぐために何百もの小屋を建てました。非常に粗末なものもあれば、比較的快適なものもあり、様々でした。厳しい天候をしのげさえすれば、何でもよかったです。

1846年の冬の間中、この辺境の宿营地には幌馬車を作るためのふいごと鉄床かごとの音が絶えませんでした。わたしの祖父はようやく10代を過ぎたばかりのころでしたが、鍛冶かじと幌馬車作りの熟練した職人になりました。当時は、鍛冶の仕事ほど重宝された仕事はほかにありませんでした。後に彼は自分用の幌馬車を作り、年若い妻と生まれて間もない子供と義理の弟とともに西部へ向かいました。長い旅路の途中、彼の妻は病に倒れて死に、義理の弟も同じ日に亡くなりました。彼は二人を埋葬し、涙ながらに別れを告げると、子供を優しく抱き上げ、再びグレート・ソルトレーク盆地への旅を続けました。

1847年の春、最初の幌馬車がウィンタークォーターズを後にして、西へ向かいました。大体において、彼らはブラット川の北側に道を取りました。カ



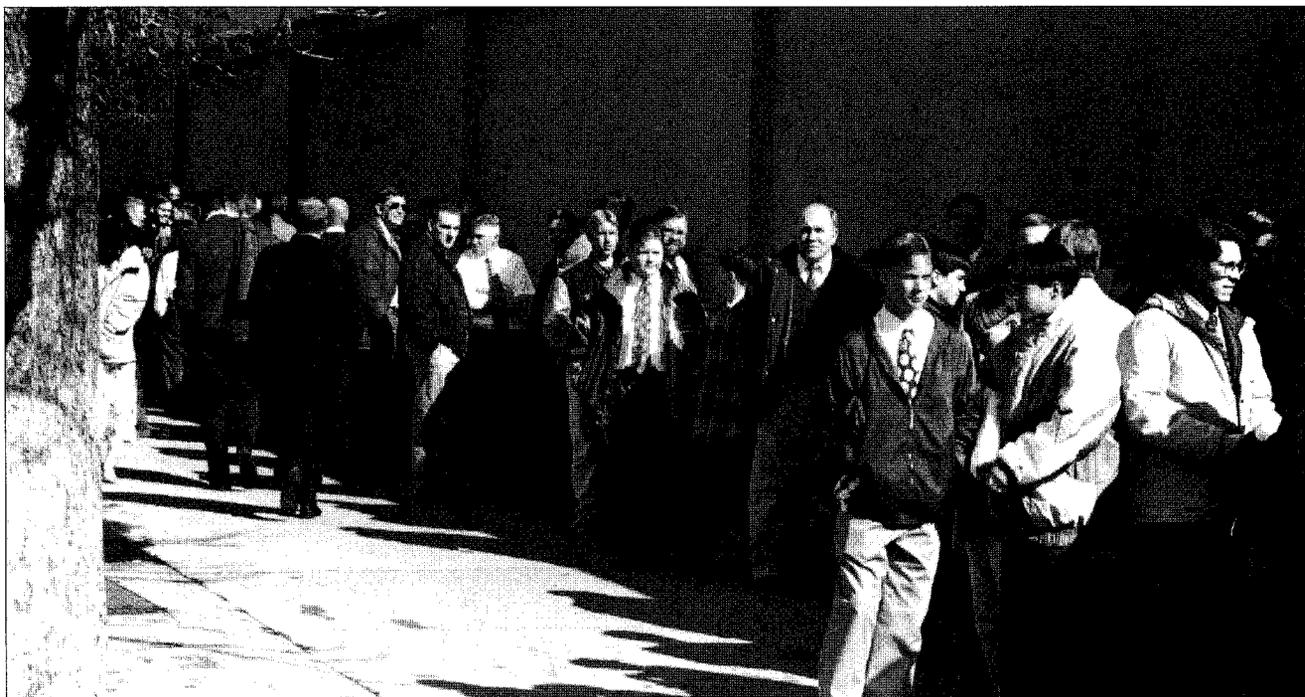
リフォルニアやオレゴンに向かう人たちは南側の道を進みました。モルモンが進んだ道は後に、ユニオンパシフィック鉄道の線路や大陸横断道路の用地となりました。

そして皆さん御存じのように、111日後の1847年7月24日に、彼らは山峡地帯を抜けソルトレーク盆地へと入ったのです。そのときブリガム・ヤングは「まさにこの地である」と宣言しました。

わたしはこの言葉に畏怖いふの念を覚えます。聖徒たちは土地も水利もよく、より気候の安定したカリフォルニアやオレゴンに行くこともできたはずですが。ジム・ブリッジャー〔訳注—アメリカの著名な探検家〕はソルトレーク盆地で作物を育てるのは無理だと警告していました。サミュエル・ブラナ

ンもカリフォルニアへ行くようブリガム・ヤングを説得していました。しかし今や聖徒たちはその不毛の盆地を見渡していました。西の方に目を向けると、塩水の湖が7月の太陽の光を受けてきらめいていました。炎熱くわに焼かれたその大地は、かつてだれも鋤を入れたことのない地でした。46歳のブリガム・ヤングはその地に立って、まさにこの地である、と人々に告げたのです。彼らは種をまいたことも、収穫をしたこともありませんでした。季節についての知識も皆無でした。しかし彼らの後には何千、何万という聖徒たちが続いて来ていました。彼らはブリガム・ヤングの預言の言葉を受け入れました。

砂漠の土の上に家々が建ち始め樹木が植えられました。そしてそれらの木



が育ったこと自体が奇跡でした。新しい神殿の建設が始まりました。その工事はその後40年間休みなく続くことになります。この1847年から始めて、1869年に鉄道が開通するまで、何万もの聖徒たちがロッキー山中のシオンにやって来ました。ノーブーに聖徒たちはいなくなりました。神殿は放火によって炎上し、後にその壁は嵐で崩れました。

伝道活動はすでにイギリスで1837年から始められていました。伝道はやがてイギリスからスカンジナビアへ広まり、次第にドイツやほかの国々へも及んでいきました。改宗した人々は皆シオンへ行くことを望みました。

聖徒たちの集合は、無計画に進められたものではありません。教会の代理人たちが詳細な点にまで責任を持って進めたのです。移住者たちをニューオーリンズ、ニューヨーク、ボストンへ運ぶための船が用意されました。移住者たちの最終目的地はいつも同じ、グレート・ソルトレーク盆地でした。そして多くの聖徒がロッキー山中の350以上の地域に新しい町や入植地を築くために、そこからさらに四方八方の地へ広がっていきました。

長い旅の途中で多くの人々が亡くなりました。死因はコレラ、壊疽、極度

の疲労、飢え、厳しい寒さなど様々でした。

痛ましい犠牲となった中で最もよく知られているのが、1856年に手車で進んだウィリー隊とマーティン隊でした。

イギリスや西ヨーロッパで改宗したすべての人を運ぶだけの幌馬車はありませんでした。シオンへ行くためには、小さな手車を引き、徒歩で進む以外に方法がありませんでした。大勢の人がその方法で、牛に引かせた幌馬車よりも早く旅をしました。しかし1856年のこの二つの隊は、文字どおり死の悲劇に見舞われてしまいました。出発した時期が遅く、だれも彼らが西へ向かっていることを知りませんでした。手車の用意が整っていなかったため、幌馬車の都合のつく人が数人、援助を与えるために同行するように割り当てられました。彼らは歌いながら西への旅を始めました。前途に何が待ち受けているかを知る人はだれもいませんでした。

彼らはブラット川に沿って西に向かいました。フォートララミーの近くで問題にぶつかりました。雪が降ってきたのです。そして食糧も少なくなってきました。ワイオミングの高地を這うようにして進みながら、彼らは自分たちが絶望的な状況にあることを悟りま

した。この恐ろしい悲劇的な行進により、約200人が非業の死を遂げました。

この悲惨な状況を体験した人、死ぬほどの苦しみを味わった人、恐ろしい体験による傷を一生負い続けた人について実に多くの物語が語られてきました。聖徒たちの西部移住史における最大の悲劇でした。

事の次第をすべて説明されたとしても、彼らの状況がどれほど悲惨だったかは、だれも想像できないでしょうし、理解できないでしょう。ワイオミング州のリバート・ンステークの皆さんに賛辞を呈したいと思います。彼らは死の行進と悲惨な苦しみを経験した人々について情報を集め、神殿の儀式を行い、記念式典を開きました。昔の開拓者については数々の逸話がありますが、その中の一つだけについて手短かに話したいと思います。

現在では教会の所有となっているロック・クリーク・ホローには、ある夜に亡くなった13人の共同墓地があります。その中には、別の家族に同行しながら一人で旅をしていたデンマーク人の9歳の少女がいました。その名をボーディル・モーテンセンといました。

1856年10月、ジェームズ・G・ウィリーの隊はひどい嵐を避ける場所を見

つけようとしていましたが、激しい風に吹きつけられる雪はすでに数十センチもの深さに降り積もっていました。ボーディルは火をおこすための小枝を集めていました。薪を抱えて自分の手車へ戻りました。しかし、彼女はそこで息絶えました。凍死でした。彼女は生きるために懸命に戦いましたが、飢えと厳しい寒さはそのやせ衰えた肉体から命を奪い取ってしまったのです。

わたしたちは今日、これらすべてのことが、すでに1世紀半も過去の出来事となったことを主に感謝しています。

今日、わたしたちは彼らが尽くした大いなる働きの恩恵に浴しています。皆さんとともに、彼らに感謝したいと思います。彼らがわたしたちのためにしてくれたすべてのことに対し、心からの感謝の念を持ちたいと思います。

1997年の今日、わたしたちの前途には未来が待ち受けています。昔の開拓者たちには大きな期待が寄せられていましたが、今の時代のわたしたちにも同じく大きな期待がかけられています。わたしたちは開拓者たちが持てる力を尽くして成し遂げたことを知っています。わたしたちは彼らよりもはるかに多くのものを持っています。そして神の王国の建設を続けていくという非常に重い責任も受けています。なすべきことは実に多くあります。すべての国民、部族、国語の民、民族に福音を伝えるという神聖な使命があります。また、主イエス・キリストの御名によって、教え、バプテスマを施すという責任があるのです。復活された主はこう言われました。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。」⁴

わたしたちは真理と義を守るための偉大な業に携わっています。人の心を引きつけて離さないすばらしい業に携わっています。恵まれて、わたしたちは今、世の人々から好意の視線を浴びています。教会員は尊敬と誉れの受け継ぎを得ています。わたしたちはたいまつをしっかりと握り、走り抜かなければなりません。

多くの教会員が全世界で責任ある立場に就いています。その人たちが博し

ている良い評判が、主の御業の進展をさらに力強いものとしています。どこにしようとも、またどのような環境の中で生きていようとも「どのようなことでも、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値することがあれば、わたしたちはこれらのことを尋ね求めるものである。」⁵

ダニエルが話した小さな石は、威厳と力をもって転がり進んでいます。あざける人々は今でもいます。それに心をとらわれずに生きてください。わたしたちを一風変わった人間と見る人々も相変わらず存在します。それは称賛として受け止め、生活そのものを通して、自分たちが信じるすばらしい教えがもたらす力と徳を示しましょう。

家族の崩壊が全世界的なものとなっている今、自らの家族の一致を図り、強めましょう。家族を正義と真理の中ではなくみましましょう。

わたしたちにはこのようにすばらしい受け継ぎがあるのですから、必ず最善を尽くすことができます。先人たちもわたしたちにそれを期待しているのです。わたしたちには主から命じられていることがあります。わたしたちは自らの理想と目的について明確な未来像を持っています。

救いのメッセージに耳を傾ける世の義人を探しましょう。現実には幻滅してほかのものに目を向けがちの人々に、光と真理と理解を伝えましょう。

主はわたしたちが生ける真理を教えるためにすばらしい施設を与えてくださっています。全世界に集会所があります。それらを活用して、「神の善い言葉」⁶で人々を養いましょう。

教会は全世界にあまねく神殿を持ち、死者を救うための偉大な業を絶えず力強く前進させるために、さらに多くの神殿を建設中です。

わたしたちの先祖は、堅固なすばらしい土台を据えてくれました。現代のわたしたちには、キリストを隅のかしら石としてすべてが適切に組み立てられた建物を築くというすばらしい機会が与えられています。

愛する兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは何と恵まれていることでしょう

か。何というすばらしい受け継ぎを得ていることでしょうか。その中には、永遠の父なる神とその御子であるよみがえられた主イエス・キリストの犠牲、苦しみ、死、示現、信仰、知識、証も含まれます。

空を行く飛行機が遠い昔の幌馬車に取って代わり、パイウェイを走るエアコンの付いた自動車が軽装の馬車に取って代わりました。わたしたちは教育のためのすばらしい施設も持っています。家族の歴史についても膨大な量の財産があります。何千という礼拝堂もあります。様々な国の政府関係の方々もわたしたちに敬意と好意を示してくれています。メディアの扱ひ方も好意的です。このように今わたしたちは、好機に恵まれたすばらしい時期にいるのです。

わたしたちは真理の大義の中でよく奉仕することにより、先人たちに最高の誉れを与えることができます。神の御心を行い、「選ばれた種族、王国の神権者、聖なる国民、特異な民」⁷として前進するとき、神がわたしたちにほほえんでくださるようにと願っています。

この記念すべき年に、過去と将来に思いを向けながら、これらのことをへりくだりお祈りするとともに、わたしの証と祝福を皆さんに残したいと思えます。我らが主、すなわち主イエス・キリストの御名により、アーメン。

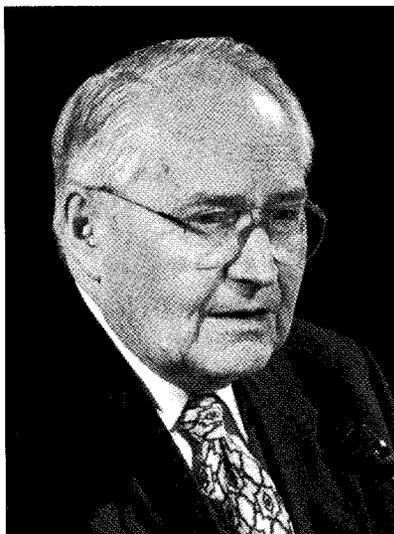
注

1. ウォーレス・ステグナー、*The Gathering of Zion: The Story of the Mormon Trail* 『シオンへの集合——モルモン街道の物語』pp.6-7
2. *Teachings of the Prophet Joseph Smith* 『預言者ジョセフ・スミスのお話』ジョセフ・フィールド・スミス編、p.332
3. B・H・ロバーツ、*Comprehensive History of the Church* 『教会概史』3:224
4. マルコ16:15
5. 信仰箇条1:13
6. 『モルモン書』ヤコブ6:7
7. 1ペテロ2:9。欽定訳より和訳

善を行うように導く 御霊

十二使徒定員会会員
L・トム・ペリー

もしわたしたちが天父の御心に従うならば、聖霊は常にわたしたちの
伴侶となってくださいます。



ソルトレーク盆地に着いたモルモン
の開拓者は、砂漠に定住地を
築くことが大変な難事業であることに
気づきました。試練と苦難に絶え間なく
見舞われた彼らは、この新しい生活
はかつて自分たちが慣れ親しんできた
生活とは懸け離れたものであることを
思い知らされたのでした。彼らを待ち
受けていたのは、家を建て、土地を開
墾し、灌漑用の水路を掘り、果樹を植
え、材木を切り出し、家畜を育てる仕
事でした。移民団が次々とユタへ到着
していたことに加えて、干ばつに見舞
われ、バッタが大発生するに及んで、
この新しい準州の経済は大きく傾いて
いました。家族を養うために非常な努
力が必要とされたため、初期の開拓者
の中には霊的な力を失ってしまった人
もいました。初期の教会指導者はこの

事態を憂慮していました。教会の指導
者たちは、このような苦難の幾らかは、
聖徒が戒めをなおざりにしていること
への目に見える報いであると考えました。

1856年、大管長会は事態の改善に着
手しました。教会の指導者は準州全域
を巡って悔い改めを叫びました。また、
ブロックティーチャーを各家族に派遣
して、質問のリストを配りました。そ
の中には次のような質問もありまし
た。

あなたは兄弟姉妹を裏切るようなこ
とをしていませんか。

あなたは姦淫を行っていませんか。

あなたは神の御名をみだりに口にし
ていませんか。

あなたは強い飲み物で酔っていませ
んか。

あなたは負債を返済しましたか。

あなたは家族に救いの福音を教えて
いますか。

あなたは朝晩、家族とともに祈って
いますか。

あなたはワードの集会に出席してい
ますか。(Church History in the
Fullness of Times『時満ちる時代の教
会歴史』p.366に記されたリストを基
に編集した質問)

主に仕え、主の戒めを守るよう自分
自身を再奉獻するよにとのチャレンジ
を指導者から受けた聖徒たちは、指
導者の勧告に従い、悔い改めました。

1997年の今日、環境は大きく変わ
りましたが、わたしたちが抱えている懸
念の多くは当時と変わりません。これ
らの質問は皆、今日でも十分に通用す

るものです。初期の時代の開拓者が想
像もしなかった新たな誘惑が生まれて
いる現在では、この質問リストにはさ
らに多くの項目が加わることでしょ
う。世にあって世のものにならないよ
うにすることが次第に難しくなってい
ます。出版物、ラジオ、テレビ、イン
ターネットがこぞって俗世的なものを
わたしたちの周囲に運んできます。あ
るテレビ局の番組編成がきっかけとな
って、世論の反対を招き、その結果、
番組を格付けして、視聴者が番組の
内容を判断できるようにする制度(レー
ティングシステム)ができました。確
かに人々は、周囲に避けなければなら
ないものがたくさんあることに気がつ
きました。しかし、問題は格付けする
人々を信頼できるかどうかです。わた
したちは幸いにも善悪について大切な
判断を下す場合に、導きとなる特別な
力に恵まれています。

救い主は地上での務めが終わりに近
づいたことを悟っておられたその特別
で神聖な時間、いわゆる最後の晩餐に
十二使徒を招かれました。主は使徒た
ちに、御自分が去っても彼らは孤立無
援の状態に置かれるのではないという
希望をお与えになりました。このよ
うな言葉で慰めを与えておられます。

「あなたがたは、心を騒がせないが
よい。神を信じ、またわたしを信じな
さい。

わたしの父の家には、すまいがたく
さんある。もしなかったならば、わた
しはそう言っておいたであろう。あな
たがたのために、場所を用意に行く
のだから。

そして、行って、場所の用意ができ
たならば、またきて、あなたがたをわ
たしのところに迎えよう。」(ヨハネ
14:1-3)

このように祝福が待っていることを
確認された後に、イスカリオテでない
方のユダが尋ねました。「主よ、あな
たご自身をわたしたちにあらわそうと
して、世にあらわそうとされないのは
なぜですか。」(ヨハネ14:22)

イエスはこのように答えられました。
「もしだれでもわたしを愛するな
らば、わたしの言葉を守るであろう。

そして、わたしの父はその人を愛し、また、わたしたちはその人のところに行き、その人と一緒に住むであろう。

しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしたちが話しておいたことを、ことごとく思い起こさせるであろう。」(ヨハネ14:23, 26)

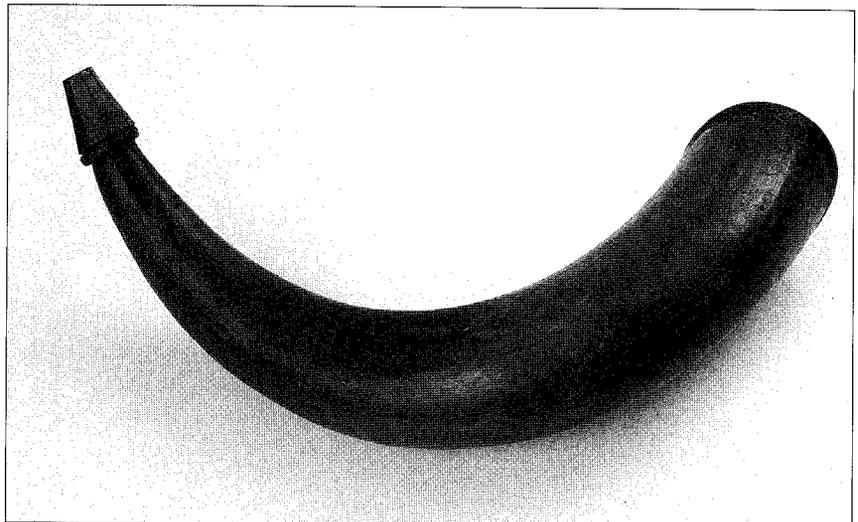
救い主が復活された後に、水によるバプテスマを受け、主の聖徒に数えられる人々に約束されたとおり、慰め主が与えられました。十二使徒はペンテコステの日に大きな現れを受け、聖霊に満たされました。ペテロは集まった人々に対して、悔い改めてバプテスマを受けるように勧め、そうすれば聖霊の賜物を受けるであろうと言いました。

救い主がニーファイ人を訪れられたときにも、同じようなことが起こりました。

救い主の教会が設立された後に、教会の会員たちの間に背教が入り込んだために、暗黒の日々がやって来ました。人々の不義が原因となって、地上から神権の権能が取り去られました。

ジョセフ・スミスを通して光が再び世にもたらされたのは1820年のことです。この年にジョセフは最初の示現を受けました。預言者ジョセフ・スミスは神の教会を再び設立するために10年間にわたって十分な訓練を受けました。ジョセフ・スミスは神権の権能を受けました。最初にバプテスマのヨハネからアロン神権を、次にペテロ、ヤコブ、ヨハネからメルキゼデク神権を受けました。ジョセフはまた啓示を与えられました。神の声が天から語られることになりました。こうして神と神の預言者を結ぶ道が回復されたのです。

1830年4月6日、教会を組織するために少数の会衆が集まりました。預言者ジョセフ・スミスは出席者に対して、彼とオリバー・カウドリを彼らの教師として、特別な助言者として心から受け入れるかどうかを尋ねました。出席者は挙手によって彼らを支持することを表明しました。



角の火薬入れ。写真のような火薬入れは牛の角から作られ、開拓者隊の猟師が火薬を湿気から守り、いつでも使用できる状態に保つのに役立った。

ジョセフとオリバーはすでにメルキゼデク神権を受けていましたが、ここでお互いを長老の職に聖任しました。このようにしたのは二人が新たに組織された教会の長老であることを明らかにするためでした。次に主の晩餐である聖餐式が執り行われました。ジョセフとオリバーはすでにバプテスマを受けていた人々をイエス・キリストの教会の会員として確認し、彼らに聖霊の賜物を授けました(『時満ちる時代の教会歴史』pp. 67-68参照)。

神の神権によって、水によるバプテスマを受け、その後に按手によって聖霊を受けるという特別な人々の中に数えられることは、何とすばらしい特権でしょうか。

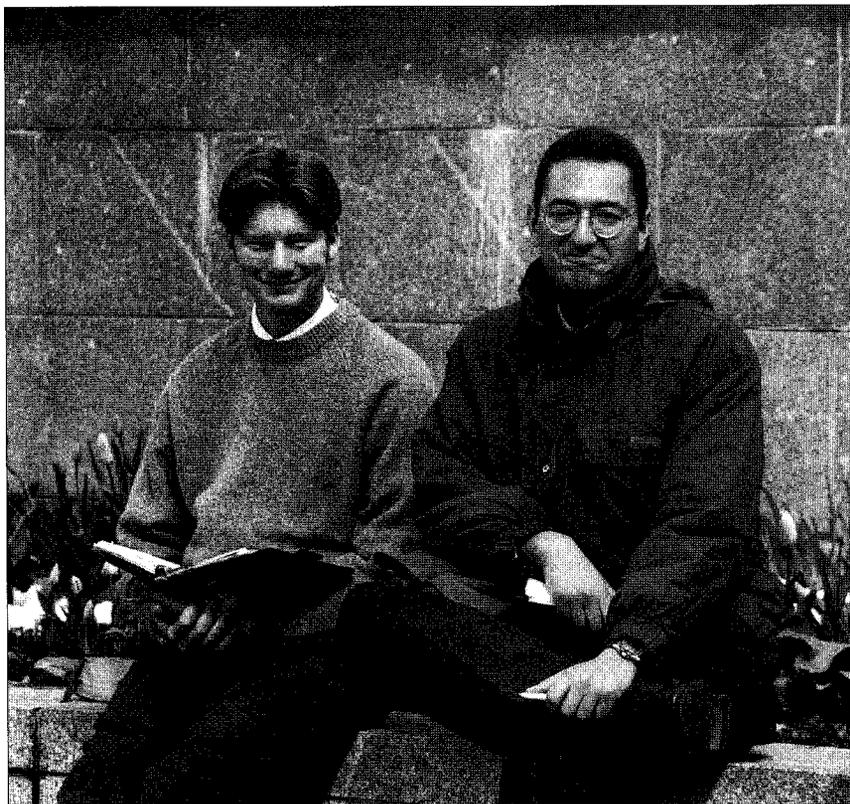
リグランド・リチャーズ長老は聖霊の賜物を次のように説明しています。

「聖霊の賜物は、植物に太陽や水が欠かせないように、わたしたちにとって不可欠なものである。太陽や水を取り去れば、植物は枯れてしまう。それと同様に、この教会から聖霊の存在を取り去ってしまえば、ほかの教会と何ら変わらなくなってしまいます。それは教会員の信仰生活からもうかがうことができる。」(『聖霊の賜物』『聖徒の道』1980年3月号, p. 106参照)

賜物は使わなければさほど価値のないものになってしまいます。しかしもしわたしたちが天父を常に覚え、天父の戒めを守ることによって、天父の御

心に従うならば、聖霊は常にわたしたちの伴侶となってくださいます。

わたしは人生で重大な局面を迎えたときに、静かな細い声によって導かれ、大切な決断を下すことができました。そのときにどれほど感謝したかを今でも覚えています。わたしは小売を業種とする会社で長年働いていました。わたしたちの会社はとても成功していました。業務を拡大したかったのですが、そのためには莫大な資金が必要でした。そこで資金を調達するために、わたしたちが知るかぎり最も優秀な財務コンサルタントに相談しました。彼らは大きな会社との合併を勧めました。合併の話はとんとん拍子に進んで、経営陣の継続性を図るためにわたしは5年契約の契約書にサインをするように求められました。ところが数か月もたたぬうちにわたしは大変難しい局面に立たされてしまいました。新しいオーナーたちが、信頼を裏切るような行為をするように求めてきたのです。わたしにはとてもできないことでした。お互いの主張を譲らずに、長い間話し合いを続けました。難局を打開する道がないと感じたわたしは、会社を辞めることを了承しました。わたしにとってこのタイミングは最悪でした。妻は重病で、多額の医療費が必要でした。娘は家を離れて大学に通っており、息子は伝道中でした。それからの1年間というものは、コンサルティングの仕事



から得る収入だけで、あらゆる費用を支払わなければなりません。

約1年間苦勞した末に、カリフォルニアのある会社から、仕事の件で話し合いたいののでカリフォルニアまで来るようにとの電話連絡を受けました。わたしは早速その会社へ行って交渉した結果、非常に良い条件で契約できることになりました。わたしはこの機会をととても喜んでいました。いったん家に帰って家族と相談してから返事をしたと言いました。わたしは家に戻ると、家族とともに注意深く検討した結果、これは正しいことであって実行すべきだという結論に達しました。ところが仕事を引き受けることを会社に連絡しようとしていると、わたしはかつて聞いたこともないほど力強く告げる声を聞いたのです。それは「その仕事を断りなさい」というものでした。この声を無視できなかつたわたしは仕事を断りましたが、残念な気持ちをぬぐい去れませんでした。なぜそのように言われたのか訳が分かりませんでした。2階の寝室へ行くと、ベッドに腰を下ろして、聖典を開きました。何げなく開いた箇所が教義と聖約第111章でした。

この章は当時わたしたち家族が住んでいたマサチューセッツ州で与えられた啓示で唯一、『教義と聖約』に収められているものでした。これらの聖句が文字どおりページから飛び出てきて、わたしの目に留まりました。

「あなたがたの負債について心配することはない。わたしはそれを返済する力をあなたがたに与える……。

この地と周りの地域にとどまりなさい。」(教義と聖約111:5, 7)

心に大きな平安が生まれました。それから数日もたたぬうちに、わたしはボストンで申し分のない条件の仕事をを見つけることができました。そして数か月後に、当時大管長会の第一副管長であったハロルド・B・リー副管長を迎えて開く大会を主催するという特権にあずかりました。大会は大成功でした。わたしたちはリー副管長の言葉に感動しました。翌年の7月にジョセフ・フィールディング・スミス大管長が亡くなり、リー副管長が大管長に召されました。それから3か月後に、わたしはソルトレークへ来るようにとの連絡を受けました。そしてソルトレークへ向かうと、仕事を辞めて中央幹部

になるようにとの召しを受けたのです。

もしあの日、ボストンを離れてはならないと勧告する聖なる御霊に耳を傾けなかったとしたら、どうなっていたらどうかと考えることがよくあります。

パーリー・P・ブラットはわたしたちにとって聖霊の賜物はどのような意味を持つかということについて、次のように述べています。

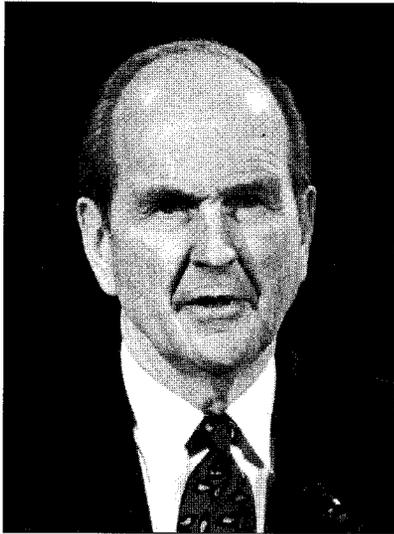
「聖霊の賜物は、……あらゆる知的な能力を活発にし、生まれながらのあらゆる情感や愛情を豊かにし、伸ばし、拡大し、清め、知恵の賜物によって正しく使えるようにそれらを順応させる。また、同情心や喜び、好み、親近感、情愛などを刺激し、はぐくみ、高め、十分に発達させる。さらに、徳や親切、善行、思いやり、寛大さなどを喚起する。人の美しさや外観、容貌を磨く。健康、活力、生氣、社交性を育成する。心身両面のあらゆる能力を活気づける。体力や精力を強め、活力を与える。要するに聖霊の賜物は、昔も今も、骨に髄を、心に喜びを、目に光を、耳に音楽を、すべての人に命を与えるのである。」(Key to the Science of Theology『神学を解く鍵』p.101)

聖霊の賜物はふさわしく生活する人々に力と慰めを与えることを証します。天父の永遠の祝福にあずかるための道を一人で探すのではなく、助け主がおられることを知っているわたしたちはどれほど大きな慰めを得ていることでしょうか。わたしたちは何を讀むべきか、何を見るべきか、何を聴くべきか、どのように生活すべきかを判断するために、人によって格付けされた基準に頼る必要はありません。わたしたちに必要なのは、聖霊を常に伴侶とするためにふさわしい生活を送り、生活の中でもたらされる聖霊の励ましに従う勇氣を持つことです。願わくは、主の祝福により、わたしたちが聖霊の賜物というこの偉大にして貴重な賜物を常に心に留めることができますように。これらのことをへりくだって、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの御名によりお祈りします。アーメン。

堪え忍び、 高く上げられる

十二使徒定員会会員
ラッセル・M・ネルソン

堪え忍ぶ責任は皆さん自身に与えられたものです。でも、皆さんは決して独りではありません。主が皆さんを高く上げてくださるからです。



結 婚初期のミネアポリスに住んでいたころの話ですが、ある日の午後、時間ができたので、2歳になる娘と遊ぶことにしました。わたしたちはミネソタのある美しい湖を訪れ、小さなボートを借りました。そして岸からかなり離れた所までこいで行き、オールを置いて穏やかな景色を楽しんでいました。すると突然、娘が片足をボートから出してこう言うのです。「パパ、降りる時間だよ。」

わたしたちはとっさに娘をつかまえ、説明しました。「あのね、まだ降りる時間じゃないんだよ。無事に岸に着くまでは降りちゃいけないんだよ。」娘は、岸に着く前に降りれば大変なことになると何度も言われて、ようやく納得しました。

子供たちがそのような危険を冒すの

は、単に親が持っている知恵を身に付けていないからです。天の御父の子供であるわたしたちも同じように、御父が望んでおられる終着点に到着する前に、愚かにも「ボートから出よう」と考えることがあります。主は最後まで堪え忍ぶ²ようにと何度も繰り返し教えておられますし、これは聖文を貫くテーマでもあります。このメッセージを伝える聖句はたくさんありますが、次の一つを例に出せば十分理解できるでしょう。

「わたしのシオンを起こそうと努める者は幸いである。彼らは聖霊^{たまもの}の賜物と力を受けるであろう。また、彼らは最後まで堪え忍ぶならば、終わりの日に高く上げられて、小羊の永遠の王国に救われるであろう。」³

神からの祝福が得られるかどうかは常に、その祝福がかかわる律法に従順かどうかにか左右されます。⁴ 先ほどの我が家の話に当てはめてみましょう。わたしたちはまず、主とともに「ボートに乗る」必要があります。それから、主と一緒にボートにとどまらなければなりません。こうして、決められた時が来るまで「ボートから降りる」ことをしなければ、主の王国に着き、高く上げられて永遠の命を得ることができません。

「高く上げられる」という言葉は一つの物理的法則にかかわるものですが⁵、ちょっとした実験によってそれを説明することにしましょう。ここに糸巻きがあります。この糸巻きの穴に息を吹き込みます。すると、息の力によって

ティッシュペーパーが飛んで行きます。次に、ごく普通のメモ用紙とピンを取り出します。そして、ピンをカードに通します。そのピンを糸巻きの穴に入れ、カードを糸巻きに付けるようにして持ちます。それから、同じように息を吹き込み、それと同時にカードを持っていた手を放して、カードが物理的な力にどう反応するか見てみます。実験する前にどうなるか予想してみてください。このカードは吹き飛ばされてわたしから離れて行くのでしょうか。それとも、落ちないでそのままとどまっているのでしょうか。いいですか。(ネルソン長老、実験をする。糸巻きの穴に息を吹き込むと、カードは落ちないで糸巻きに吸いついたようになる。)

見えましたか。息を吹き込んでいるかぎりカードは落ちませんね。でも、息が続かなくなるとカードは落ちてしまいます。息が続かなくなると、重力という反対の力に負けてしまうからです。絶えず息を吹き続けるエネルギーがわたしにあれば、カードはいつまでも落ちなかったはずですね。⁶

このように、反対の力に打ち勝って落ちないようにするには、常にエネルギーを注がなければなりません。この法則はわたしたちの生活にも当てはまります。何かを行うときには必ず、エネルギーと堪える意志の両方が必要です。5,000メートル競走の勝者は5,000メートルを走り切った時点で勝者となるのであって、1,000メートルや2,000メートルの時点では勝負はつきません。ボストンに行きたくてボストン行きのバスに乗った人が途中のパーリントンで降りることはありませんよね。教育を受けたいのに途中で退学することはしませんし、一流レストランでのフルコースでサラダだけ食べて店を出ることもしないでしょ。

どのような仕事でも、忍耐をもって始め、途中では反対の力に耐え、そして最後まで堪え忍ぶなければなりません。仕事から得られる成果を味わうには、まず仕事を完成する必要があります。ある詩人がこう書いています。

仕事がかつついてくるまで、仕事に

くつついている

始める者は多いが、終える者は少ない
誉れ、力、地位、称賛は
あきらめなかった者にだけ与えられる

仕事がかつついてくるまで、仕事に
くつついている

骨惜しみせず、汗を流し、笑顔で働け
努力と汗と笑顔から
やがて人生の勝利が訪れるのだから⁷

わたしたちは肉体的な問題に直面したとき、忍耐することを求められます。重病や年齢から来る肉体的な弱さで苦しんでいる人々は、その試練を最後まで堪え忍びたいと願います。⁸そして、厳しい肉体的な試練には霊的な試練が伴うことがしばしばです。

初期の開拓者のことを考えてみてください。彼らが西部への入植の試練に最後まで堪え忍ばなかったらどうなっていたでしょう。今年の150年記念祭はあり得ませんでした。彼らは確固として耐えました。迫害⁹、追放¹⁰、政府による撲滅令¹¹、財産の収用¹²など、たくさんの試練に耐えたのです。主に對する彼らの不退転の信仰が、彼らを高く上げたのです。皆さんもわたしも同じ経験を味わうことができるでしょう。

主が最も心に掛けておられるのは、わたしたち一人一人が救いと昇栄を得ることです。使徒パウロの改宗が最後まで堪え忍ぶような改宗でなかったら、どうなっていたでしょうか。彼が伝道の終わりに述べたあの証はとうてい聞かれなかったでしょう。こうあります。「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。」¹³

もしイエスが御父の御心を行うという決意を鈍らせておられたら、どうなっていたでしょうか。¹⁴ 贖罪は行われなかったはずですが。死者の復活もあり得ませんでした。不死不滅と永遠の命の祝福もありません。¹⁵ しかし、イエスは確かに耐えられました。その最期のときに、イエスは御父にこう祈られました。「わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわざをなし遂げ

て、地上であなたの栄光をあらわしました。」¹⁶

地上での教導の業が始まったころ、イエスは御自身に従って来る人々の信仰の持ち方に心を痛めるようになられました。イエスは5,000人に食物を与えた後で¹⁷王国の教義を教えられたのですが、中には「これは、ひどい言葉だ。だれがそんなことを聞いておられようか」¹⁸と不平を言う人々がいたのです。主から食物を頂いた後でさえ、主とともに耐える信仰を持ってない人が大勢いました。主は十二弟子にこう言われました。「あなたがたも去ろうとするのか。」

すると、シモン・ペテロが答えました。「主よ、……永遠の命の言^{ことば}をもっているのはあなたです。

わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。」¹⁹

このペテロの答えこそ、わたしたちの福音への決意の真の核心を成すものです。イエスがキリストであられることを疑いなく理解するとき、わたしたちはイエスとともにありたいと願うものです。そして、心から改宗した人々には堪え忍ぶ力が授けられます。

この堪え忍ぶ力は、わたしたちの人生の中で最も大切な二つの関係において欠かすことのできないものです。一つは結婚、もう一つは主の教会の会員としての資格です。この二つに共通するのは、単なる契約関係ではなく、聖約によって結ばれている関係だということです。

結婚、特に神殿結婚とそれに伴う家族のきずなは、聖約を基とした関係です。したがって、決して軽視してよいものではありません。世界的に離婚率が急上昇している今日、多くの人々が伴侶への愛情を最後まで持続できないことは明白です。また、自分の最も重要で優先度の高い神権の義務が、妻を敬い支持することであるのを忘れる夫がいるために、神殿結婚が破綻^{たんと}しています。²⁰ 父親が子供たちにできる最良のことは、子供たちの母親を愛することです。²¹

最近ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、すべての末日聖徒の夫が守るべ

きこととして次のように語りました。「[奥さん]を尊んで大いなるものとしてください。そうすれば、神権を尊んで大いなるものとするようになります。」²² この大管長の賢明な勧告に、時を超えたパウロの助言を付け加えましょう。「あなたがたは、それぞれ、自分の妻を自分自身のように愛しなさい。妻もまた夫を敬いなさい。」²³ この永続する愛は、人生の試練に遭ってもわたしたちを常に高めてくれます。また、永続する愛とは、夫と妻の両方が二人の一致を最も重要な二つの約束の一つと位置づけた結果として生まれるものなのです。

永遠にまで影響を与えるもう一つの約束は、主に對するものです。²⁴ 残念ながら、主とともに最後まで堪え忍ぶとの心からの約束をせずに、バプテスマという神聖な儀式を通して神と聖約を結んでいる人がいます。バプテスマは非常に重要な儀式ですが、ほんの始まりにすぎません。教会員としての最高の祝福は、神殿での昇栄の儀式を受けて初めて実現するのです。神殿での祝福はわたしたちに、日の栄えの王国において「王位、王国、公国、および力」²⁵を受け継ぐ資格を与えてくれます。

主は、うわべだけ活動に参加している人としっかりした信仰に根ざしている人を簡単に識別されます。イエスはこのことを種まきのたとえで教えておられます。「自分の中に根がないので、しばらく続くだけである。そののち、御言^{みことば}のために困難や迫害が起ってくると、すぐつまずいてしまう。」²⁶

主に忠誠を尽くすということは、主から召された教会の指導者にも忠誠を尽くさなければならないということの意味します。主は人に力を与え、主の御名により語るように聖任されました。²⁷ そのような彼らが主の決して沈むことのない船を、救いという岸に向けて操縦しているのですから、彼らとともにその船にとどまる方が賢明です。²⁸ 「この船は沈め得ず、天地の主がいますを。」²⁹

それにもかかわらず、ある人々は船が岸に着くのを待ち切れず、海に飛び

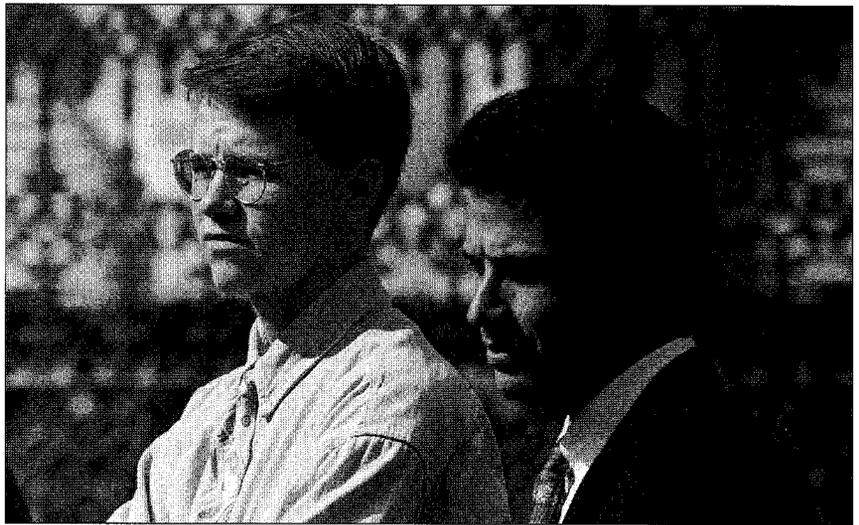
込んでしまいます。また悲しいことに、人生の危険な旅路については自分の方が預言者よりもよく知っていると言張する仲間にそそのかされて、船を離れる人々もいます。人生で生じるいろいろな問題の中には、他人が原因のものもありますし、信頼していた人から裏切られることもあります。しかし、たとえそうであっても、わたしたちは贖い主から見捨てられることは決してありません。主はこう言われました。「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。」³⁰

主に対して強い忠誠心を持っていない人は、伴侶に対する忠誠心も弱くなる傾向にあります。そして、永遠の聖約への忠誠心が薄れると、永遠にまで影響を及ぼす過ちへと発展するのです。そのような人々の人生を嘆き悲しむ心は後悔で満ちています。次の詩にそれがよく表れています。

舌が語りペンがつづる悲しい言葉の中で
最も悲しい言葉はこうだ。「こうであつたらよかつたのに。」³¹

今、わたしたちが話しているのは、あらゆる祝福の中で最も大切なものについてです。主は言われました。「わたしの戒めを守り、最後まで堪え忍ぶならば、あなたは永遠の命を得るであろう。この賜物は、神のあらゆる賜物の中で最も大いなるものである。」³²

天の御父が予見された栄光の終着点を目指して心から堪え忍びたいと望む皆さんは、個人としての優先順位をしっかりと決める必要があります。皆さんの心を奪おうとたくさんの興味あることがひしめき合っている中で、まず第一に気をつけなければならないのは、「船から決して離れない」ということです。だれも二人の主人に兼ね仕えることはできません。³³ 皆さんがもしサタンの誘惑によって、最後まで堪え忍ぶと聖約を交わした伴侶や主をないがしろにして、ほかのもの、つまり娯楽や浮気、名声、財産などを愛するようになると、サタンに翻弄されてし



まいます。そのような誘惑に遭ったときに分かるのは、十分前もって決心をしておけば力が得られるということです。主は言われました。「わたしがあなたがたに教え、戒めることを行うように心に決めなさい。」³⁴ また主は、預言者エレミヤを通してこう宣言されました。「わたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にする。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる……。」³⁵

優先順位が正しければ耐える力も増し加えられます。そして、その優先順位が心に深く刻まれると、船から足を踏み外すことがなくなります。結婚や教会や人生にあって欺きがないように守ってくれるのです。

もし皆さんが、ほかのいかなる人や物をも差し置いて主のようになりたいと望むのであれば、「イエスへの賛美は、イエスの模範に従うというわたしたちの行動に最もよく表される」ことを覚えておかなければなりません。それから、いかなる愛も皆さんの伴侶や家族、そして創造主への愛を超えることがあってはなりません。皆さんを治めるのは啓示された真理の原則です。他人が決めた規則に左右されないようにしましょう。

堪え忍ぶ責任は皆さん自身に与えられたものです。でも、皆さんは決して独りではありません。わたしは証します。「キリストのもとに来て、キリストによって完全に」なろうと努力すれば、皆さんは主によって高く上げられ

るでしょう。そして皆さんは、「神の御心に添わないものをすべて拒み、勢力と意思と力を尽くして神を愛する」³⁶ ようになるのです。

主の生ける預言者は声高らかにこう呼びかけています。「この教会の会員はどこにしようとも、力強く自分の足で立ち、心に歌を忘れずに前進し、福音に生き、主を愛し、王国の建設に歩むようにお勧めします。ともにこの道を歩み続け、信仰を保〔とう〕ではありませんか。」³⁷

わたしたち一人一人が堪え忍ぶことによって終わりの日に高く上げられるよう、イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

注

1. マタイ24:13;マルコ13:13;2ニーフアイ33:4;オムナイ1:26;3ニーフアイ15:9;教義と聖約14:7;18:22;20:29参照。この約束は天の御父と主イエス・キリストの双方から確認を得ている。わたしたちは偉大なエロヒムから次の宣言を頂いている。「まことに、わたしの愛する者の言葉は真実であり、確かである。最後まで堪え忍ぶ者は救われる。」(2ニーフアイ31:15) また、救い主からは次の約束を受けている。「悔い改めて、わたしの名によってバプテスマを受ける者はだれであろうと、満たされるであろう。そして、最後まで堪え忍ぶならば……わたしが立つて世の人々を裁くその日に、わたし



の父の^{みま}御前で罪のない者としよう。」
(3ニーファイ27:16)

2. 「堪える (endure)」はラテン語の二つの言葉を語源に持つ複合語である。接頭辞の en は「内」の意味。残りは動詞 durare からの派生で、「確固とする、硬くなる」の意味である。したがって endure は「心の内が確固となる」という意味となる。この意味は endure に当たる『聖書』の原語にも見られる。

『旧約聖書』のヘブライ語で、aman という語幹は「確固とする」または「忠実になる、信頼する」の意味である。この言葉はよく「忠実な (faithful)」と翻訳されるが、「信仰 (faith)」とだけ訳されることはない。aman は信仰以上のものなのである。これは受動態ではない。「忠実になるようにとの固い決心」の意である。aman はまた、「確かめられた」「信じる」「長く持続する」「確信」「確立 (された)」「確か」「信頼」「確固とした」「確固として立つ」などの関連語の語源となっている。

『新約聖書』のギリシャ語では、hupomeno という動詞が用いられている。これは「残る (remain)」「とどまる (stay)」「続く (continue)」の意味である。hupo (hypo) は

「下」の意味で、「皮下 (hypodermic)」「低体温 (hypothermia)」に通じる。つまり、「堪え忍ぶ (endure)」は内 (皮膚の下つまり内部) なる決意を表した言葉なのである。

3. 1ニーファイ13:37。モーサヤ23:22; アルマ13:29; 36:3; 37:37; 38:5; 3ニーファイ27:21-22; エテル4:19; 教義と聖約5:35; 9:14; 17:8; 75:16も参照。強調のため、聖文ではこの戒めに従わなかったときの否定的な結果についても教えている。例えば次の聖句である。「もし彼らが、悔い改めて神の御名を信じることをせず、またその御名によってバプテスマを受けることなく、最後まで堪え忍ぶことをしなければ、彼らは罰の定めを受ける。イスラエルの聖者である主なる神が、そう言われたからである。」(2ニーファイ9:24。2ニーファイ31:16; モルモン9:29も参照)
4. 教義と聖約130:20-21参照
5. この物理のベルヌーイの原理のデモンストレーションは、1996年8月17日、当時カリフォルニア州サクラメント在住の教会地域幹部ノーマン・C・ボエム長老が著者に見せてくれたものである。
6. 揚力の法則は航空機が飛ぶときにはい

つも作用する。「翼や航空機全体、または翼のあるミサイルに作用する空気力学上の分力で、相対する空気の流れとは垂直に、通常は重力に逆らう形で上方に動く。」(American Heritage Dictionary, s.v. "lift" 『アメリカン・ヘリテッジ英英辞典』"lift" の項)

7. 著者不詳 "Stick to Your Task" *Best-Loved Poems of the LDS People* 「仕事をやり遂げよ」『末日聖徒愛唱詩集』ジャック・M・リオン他による共同編集, pp.255-256
8. ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は95歳のとき、「この世での生活を最後まで堪え忍びたい」との希望を公に述べた (*Conference Report* 『大会報告』1970年10月, p.92; *Improvement Era* 『インブルーメント・エラ』1970年12月号, p.27)。
9. ジョセフ・スミスー歴史1:20, 22-24, 27, 58, 60-61, 74 参照
10. 開拓者はオハイオからミズーリ, イリノイへと追われ、最後にグレート・ソルトレーク盆地に着いた。
11. 初期の開拓者たちはミズーリ州知事が発行した「モルモンは敵と見なし、撲滅するかまたは州外に追放しなければならない」との署名入りの命令により、ミズーリを追われた (*History of the Church* 『教会歴史』3:175)。
12. アメリカ合衆国議会は1887年、教会に対する法人認可を取り消すことにより教会の宗教法人としての存在を抹消するという前例のない行動に出た。そして、礼拝の家 (ローガン, マンタイ, セントジョージ, ソルトレークの各神殿) を含む教会の事実上すべての資産を没収する権限を連邦管財人に与えたのである (*The Late Corporation of the Church of Jesus Christ of Latter-Day Saints v. United States* 『近年の法人である末日聖徒イエス・キリスト教会』136 U.S. 1)。
13. 2テモテ4:7
14. 3ニーファイ27:13参照
15. モーセ1:39参照
16. ヨハネ17:4, 下線付加。ヨハネ4:34も参照

17. マタイ14:21; 16:9; マルコ6:44; 8:19; ルカ9:14; ヨハネ6:10参照
18. ヨハネ6:60
19. ヨハネ6:67-69
20. 教義と聖約42:22参照
21. この言葉は多くの教会指導者が語っている。例えば、ハワード・W・ハンター「義にかなう夫、父親」『聖徒の道』1995年1月号, p.57; デビッド・O・マッケイ, ゴードン・B・ヒンクレーによる引用「愛と親切の手を差し伸べよう」『聖徒の道』1983年1月号, p.137参照
22. 1996年11月9日に行われたペルーのリマ市での教会員のためのファイヤサイドの最初のセッション
23. エペソ5:33
24. 加えて、ふさわしい男性は神権の誓詞と聖約にあずかる特権を授かる。これは彼らが仕えるすべての男性、女性、子供を祝福するためのものである(教義と聖約84:33-48参照)。
25. 教義と聖約132:19
26. マルコ4:17
27. 教義と聖約1:38; 21:5; 68:4参照
28. 使徒27:30-31; 1ニーファイ18:21-23参照
29. 「主よ、嵐すさび」『賛美歌』59番
30. 教義と聖約82:10
31. ジョン・グリーンリーフ・ウィットティア "Maud Muller" *The Complete Poetical Works of Whittier* 「モウド・ミュラー」『ウィットティア詩作全集』p.48
32. 教義と聖約14:7。預言者ジョセフはこの堪え忍ぶという概念を信仰箇条第13節にこう含めている。「わたしたちはすでに多くのことを堪え忍んできており、またすべてのことを堪え忍べるようにと望んでいる。」
33. マタイ6:24参照
34. ジョセフ・スミス訳ルカ14:28
35. エレミヤ31:33
36. モロナイ10:32
37. 「この道を歩み続け、信仰を保つ」『聖徒の道』1996年1月号, p.78, 下線付加

「小さな石」

前中央扶助協会会長 (今大会で解任)
イレイン・L・ジャック

この福音を単に信じてだければよいという時代は過ぎ去り、今や情熱をもってイエス・キリストとその計画を信じ、毅然として実行に移すときです。



わたしはカナダのカードストーンにあるアルバータ神殿からすぐ近い所で育ちました。カナディアンロッキーのふもとにあるこの小さなモルモン教徒の町で、神殿はイエス・キリストの福音の持つ力と壮麗さの象徴になっていました。この神殿の中でわたしは最も大切な聖約を交わしました。

この建物はわたしにとって特別な意味を持っています。スコットランドのアバデーン出身で腕の良い石工だった祖父のジョン・F・アンダーソンが、この聖なる神殿のために白いかこう岩を磨いて仕上げるという召しを受けたからです。1915年に隅石が据えられたとき、祖父は使徒デビッド・O・マッケイ長老の管理の下、石工頭として働く光榮にあずかりました。1923年、神殿が奉献される前に、祖父が最後の石を置きました。彼の日記には次のよ

うに記録されています。「それはかさ石ではなく、表門の小さな石だった。」今日わたしは扶助協会の表門にわたしの小さな石を置きます。

『モルモン書』の中であってそれ自体一つの小さな石である「オムナイ書」で、アマレカイは次のように記しています。「わたしはあなたがたがイスラエルの聖者であるキリストのもとに来て、キリストの救いと、キリストの贖いの力にあずかるように望んでいる。まことに、……自分自身をキリストへのささげ物としてささげ、断食と祈りを続け、最後まで堪え忍びなさい。そうすれば、主が生きておられるように確かに、あなたがたは救われるであろう。」(オムナイ1:26)

預言者ジョセフ・スミスは「自分自身をキリストへのささげ物としてささげ」とは「心と、勢力と、思いと、力を尽くす(教義と聖約4:2)ことだと表現しました。それは神の祭壇に自らの時間と才能、賜物や祝福、そして喜んで奉仕し主のすべての求めに応じる心をささげることです。祖父は心を込めて石を置き、その石を主にささげました。今日わたしは、中央扶助協会にこれまでの奉仕をささげます。

1991年にヒンクレー長老の招きにより、生まれ故郷のカナダに帰り、アルバータ神殿の再奉献式に出席しました。式が終わり、閉会に当たり全員で立ち上がって「主のみたまは火のごと燃え」を歌ったとき、部屋に満ちた力を忘れることはできません。聞き慣れた歌詞ですが「天の群れと共にうたわん ホザナ、ホザナ 神と御子」(「主

のみたまは火のごと燃え」『賛美歌』3番)という言葉に感動しました。ホザナとは歓喜あふれるときの義にかなった叫びであり、確かにそれは喜びの瞬間でした。

わたしたちの合唱に加えて、聖歌隊も「ホザナ斉唱」をしました。あの壮麗な神殿の壁を仕上げた祖父のことを思うとき、「主の宮は完成した。主がこのささげ物をお受けになるように」(The Choirbook『合唱曲集』pp.69-76)というこの歌の歌詞は、わたしには感慨深いものがあります。また、今日主こんにちもに完成した「宮」をささげようとしているわたしには、特に含蓄のある言葉です。

神殿を建てることと召しを果たすことには共通点がたくさんあります。まず何もない土地から始め、地を測量し、靈感を求めて祈り、深い考慮のうえで設計図を作り、批評を求め、改良し、さらに設計します。土台を造り、さらには壁、屋根、そして庭を造ります。それぞれの管理役員は前任者の築いた堅固な土台の上に建てていきます。

この扶助協会会長も過去7年間築き続けてきました。教育を重んじる従来の姿勢に加えて、教会全体を通して学習能力を向上させる努力をしてきました。家庭訪問によって託された姉妹たちを見守り、養うという原則を強調し、引き続き家庭と家族をわたしたちの関心の中心に据え、はぐくみ、犠牲を払い、教え、靈感を与えるという神聖な特質を授かった女性をたたえました。教会の女性たちが子供たちの世話をし、助け合い、自立を教え、救い主について教えたことによって、すばらしい結果が生まれました。

主に心をささげている教会の女性たちと密接に働くことはほんとうにすばらしいことでした。彼女たちが置いた石の上にわたしの石を載せ、それが受け入れられるように祈っています。

過去数年間の中で特に思い出深い出来事は、1992年に開催された、世界で最も歴史が長く、最大の規模を持ち、恐らく最も成功している女性組織、扶助協会の創立150年祭でした。今でも胸がときめくのは、世界の全大陸を結

んで、台湾、ジンバブエ、ドイツ、メキシコ、韓国、オーストラリア、アメリカなどの姉妹たちに同時放送ができたことです。

扶助協会の初代会長であったエマ・スミスは、姉妹たちに向かって「これから驚くべきことをしていきます」と述べました(女性扶助協会議事録、1842年3月17日。末日聖徒イエス・キリスト教会記録保管課蔵)。150年祭は確かに「驚くべきこと」でした。1842年にイリノイ州ノーブーで20人の姉妹たちによって始まった扶助協会は、今や全大陸、そして世界中のほとんどすべての国々に住む400万人近い姉妹たちの組織となるまでに成長しました。しかし、この組織はマーガレット・クックという一人の女性が、ノーブー神殿建築に携わっている兄弟たちのためにシャツを縫おうとしたことから始まったのです。ここに重要な意味があるのです。彼女は布地を買うことさえできませんでしたが、サラ・キンボールの寄付を受け、数週間後に主からの靈感により預言者ジョセフ・スミスによって扶助協会が組織されました。最初は――表門の――小さなささげ物で始まったのが、一つずつの石の積み重ねによって、世に善をもたらす大きな力ある組織へと成長しました。

わたしが気づいたことの一つは、人は従順で、忠実で、熱心であれば、主の助けによってささげ物を準備できるということです。これは主がニーファイに次のように命じられたことから分かります。「わたしがこれから示す方法に従って、一隻の船を造りなさい。この大海を越えて、わたしがあなたの民を連れて行けるようにするためである。」(1ニーファイ17:8) ニーファイは海の近くで育ったことがなかったので、船造りの経験はありませんでした。しかし、信仰と責任感をもってこう答えたのです。「主よ、お示しくださった方法に従って船を造るための道具を造るには、どこへ行ってあらがねを見つけたらよろしいでしょうか。」(1ニーファイ17:9) ためらいも疑いもなく、ニーファイは主に船というささげ物をする準備に取りかかりました。

わたしがこの責任に召されたときも、ニーファイと同じように主に助けを求めました。わたしに与えられた道具は、チエコ・岡崎、アイリーン・クライドという二人の強力で有能な副会長でした。これに加えて、12人の高潔な姉妹から成る献身的で経験豊富な管理会、そしてオフィスで惜しみなくまた忍耐強く仕事をしてくださる人々の働きがあったことは、会長会としてほんとうに恵まれていました。おかげでともに「聖い心でこの務めを果たせ」ました(モーサヤ18:12)。また「善を行うことに疲れ果ててはならない」(教義と聖約64:33)という主の勧告を真剣に受け止めている世界各地の姉妹たちの祈りや善い行いに、幾度となく支えられました。

わたしたちに勧告や導きを与えてくださった多くの神権指導者に感謝しています。彼らにとってわたしたちの支持と信頼が必要だったように、わたしたちにとっても彼らの理解と神権の力が必要でした。主はこの教会の指導者として雄々しく、知恵に満ち、愛にあふれる人々を召されました。わたしはこのような指導者が神から靈感を受け、信念と憐れみの心を持ち、細心の注意をもって行動する姿を間近に見てきました。わたしは彼らを信頼していますし、彼らもわたしたちに信頼を寄せてきてくれました。

わたしは教会の姉妹全体を代表して、ピンクレー大管長、モンソン、ファウスト両副管長、そして十二使徒定員会にお伝えしたいと思います。わたしたちは皆さんを支持しています。皆さんの助け手になりたいと願っています。皆さんが神の王国かみを持つ末日の預言者であることを知っています。

またその堅実さ、ユーモアのセンス、正しい判断、義にかなった腕でわたしを助けてくれた夫のジョーにも感謝したいと思います。4人の息子たちも夫の模範に従い、頼もしい支えとなってくれました。息子の一人が「今まで長い間扶助協会の会長になれるように、お母さんを訓練してきたけど、そのかいあってきちんとやれたね」と言ってくれたのは、最高の褒め言葉でした。

わたしたちのささげ物には、わたしたちの働きだけでなく、その働きに伴う心も含まれます。主はこれを「打ち砕かれた心と悔いる霊」(3ニーファイ9:20)と呼ばれました。この二つが一つとなってわたしたちの魂になっています。オムナイは「自分自身をキリストへのささげ物としてささげ」るようにと語りました。兄弟姉妹の皆さん、この福音を単に信じてだけいけばよいという時代は過ぎ去り、今や情熱をもってイエス・キリストとその計画を信じ、毅然として実行に移すときです。主がわたしたちとともにいて導きを与えてくださることを、一点の曇りもなく知らなければなりません。わたしたちは主の御名によってささげ物を形成します。この数年間、わたしは教会の姉妹たちを代表するという、とてつもなく大きな責任がありました。主はわたしの努力を、わたしの心と霊によって測られると、わたしは信じています。それは皆さんの場合も同じです

現在、扶助協会は今世紀初めに会長を務めたエメリン・B・ウエルズ姉妹の語った希望を象徴しています。彼女の指導に助けられて扶助協会は尊い伝統を固く守る一方で、神への信仰と未来への希望を胸に抱きつつ前進しました。その50年後、ベル・スパフォード会長はこう語りました。「神から与えられた扶助協会の使命は、今緒に就いたばかりです。」(History of Relief Society, 1842-1966『扶助協会史, 1842-1966年』p.140) 今日、わたしたちはさらに歩みを進めて、霊性と光の新たな段階に入る体制が整っています。完全な希望の輝きを持って、来るべき新世紀における扶助協会の姉妹たちが何をささげるか、楽しみにしています。わたしたちがイエス・キリストの福音から喜びを得、主の計画における自らの立場を理解して行動するとき、周囲の人々が引き寄せられ、生活に変化がもたらされます。わたしたちは善に飢え渴く世の人々を高め、靈感を与えます。新しい会長会はさらに大きな目標を指し示し、さらに大きな貢献をするでしょう。神の王国を築くために新しい石を加えていく新会長のス



テンブルスクウェアに立つジョセフ・スミス像。

ムート姉妹と副会長のお二人を、心から支持します。確かに現在ある力は、新しい姉妹たちが築くための土台になるでしょう。

黙々と責任を果たし、日々のチャレンジと苦闘し、謙遜で忍耐強く寛容な会員たちのたゆまぬ努力によって、この教会は築き上げられ、成長し続けるでしょう。自分のささげ物をささげて、

「主は聖徒たちの理解力を高めたもう」(『賛美歌』[英文]2番)と歌うとき、わたしたちの心は喜びで満たされます。

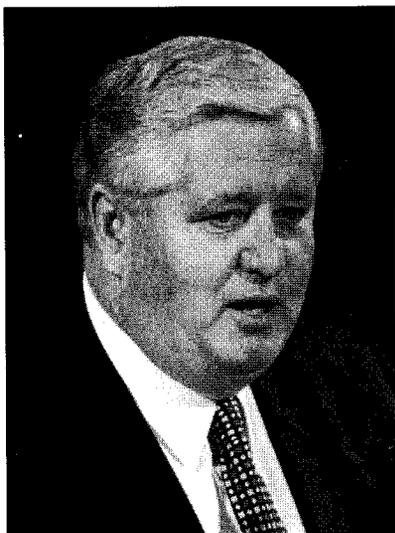
わたしの心は感謝の大きな喜びでいっぱいです。救い主への証を述べて、ともに喜びましょう。「ホザナ、ホザナ、神と御子。」イエス・キリストの御名により、アーメン。

「あなたも行って 同じようにしなさい」

管理監督

H・デビッド・バートン

〔わたしたちは〕財産への執着を打ち捨てて、飢えている人や乏しい人、着る物のない人、病人の嘆きを聞くことができるでしょうか。



わたしたちは皆、ジャック姉妹ならびに副会長を務めた姉妹たちのすばらしい奉仕を通して祝福を受けてきました。わたしの感謝の言葉は皆さん一人一人の思いでもあると確信しています。

救い主に従う忠実な弟子たちは、たとえてして知られる、深く考えさせる短い話を通して、福音の原則を教えられました。多くのたとえを聞いた後で、「弟子たちがイエスに近寄ってきて言った、『なぜ、彼らに^{たよ}譬でお話しになるのですか。』」（マタイ13：10）それに対して救い主はこう答えられました。「だから、彼らには譬で語るのがある。それは彼らが、見ても見ず、聞いても聞かず、また悟らないからであ

る。」（マタイ13：13）

ある律法学者が救い主を試みようとして、教義の一点について問いかけました。イエスをわなにかけようとして、彼はこう尋ねたのです。「先生、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか。」（ルカ10：25）イエスは彼に聞き返されました。「律法にはなんと書いてあるか。あなたはどうか読むか。」（ルカ10：26）この律法学者が律法から引用して出した答えは完璧なものでした。『心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』また、『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』とあります。（ルカ10：27）イエスはその答えを認めたくえで、彼にお答えになりました。「そのとおり行いなさい。そうすれば、いのちが得られる。」（ルカ10：28）

主を論破しようとして失敗した律法学者は、その答えに当惑しました。彼は自分を正当化しようとして、さらにこう尋ねました。「では、わたしの隣り人とはだれのことですか。」（ルカ10：29）わたしたちはこの律法学者の2番目の質問に大いに感謝しなければなりません。彼のその質問に対して、救い主の語られた中でも非常に深い洞察に満ちたたとえが与えられたのです。

皆さんもそのたとえの設定を覚えておられることでしょうか。「ある人がエルサレムからエリコに下って行く途

中、強盗どもが彼を襲い、その着物をはぎ取り、傷を負わせ、半殺しにしたまま、逃げ去った。」（ルカ10：30）この「ある人」については、わたしたちは初等協会のころから聞かされてきました。わたしたちは、その祭司とレビ人がなぜ助けようとしなかったのか納得できず、こう言います。「わたしだったら、絶対助けてあげたのに。」「わたしだったら、何があってもそこで足を止めたのに。」「わたしだったら、決して向こう側へは行かなかったのに。」

このたとえはこう続いています。「ところが、あるサマリア人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に」思った（ルカ10：33）。預言者モロナイはある示現の中で、わたしたちの時代を見ました。『モルモン書』にはこう記録されています。「見よ、あなたがたは、貧しい人と乏しい人、病人と苦しんでいる人を愛する以上に、金銭や財産、華やかな衣服を愛し〔ている。〕……」

なぜあなたがたは、命のないもので自分自身を飾りながら、飢えている人や乏しい人、着る物のない人、病人、苦しんでいる人を見過ごしにし、彼らに注意を払わないのか。（モルモン8：37, 39）

モロナイは自分が見たことで心を悩ませました。わたしたちも、財産への執着を打ち捨てて、飢えている人や乏しい人、着る物のない人、病人の嘆きを聞いて自分の心を悩ませているでしょうか。「助けを必要としている人を見たら、このサマリア人と同じようにします」と言うことができるでしょうか。

このたとえはさらにこう続いています。「近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほうたいをしてやり、自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。」（ルカ10：34）救い主はこのたとえを終えてから、律法学者にお聞きになりました。「この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか。」（ルカ10：36）

彼はすぐに、^{あわ}憐れみを示した人、すなわち優しく愛に満ちたサマリア人の

旅人を挙げました。するとイエスは彼に「あなたも行って同じようにしなさい」と勧告されました（ルカ10：37、下線付加）。

世界中で困窮している人々の苦しみを和らげるために「オリブ油とぶどう酒とを注いで」いる現代のサマリヤ人が数多くいますが、その中の幾つかの例を紹介したいと思います。

1996年の3月、一人の放射線技師、二人の専門家、一人の医師によって構成されるボランティアチームが、ポーランドのある病院に乳癌検診用のレントゲン装置と現像機を設置しました。その機器類は、人道的援助のために惜しみなくささげられた基金を用いて教会が購入したものでした。周辺の病院から医師や技師たちが集まり、設置された機器の使い方を学びました。ポーランド政府はその機器の有効性を認めて、さらに45台を購入しました。癌の早期発見によって、多くの人命が救われ、多くの苦しみが未然に防止されることでしょう。

カンボジアは約30年にわたる戦争で苦難を経験してきました。無数の人々が命を奪われ、生き残った人々も苦しみと貧困にあえいでいます。1994年に教会は緊急の食糧援助に続き、カンボジアの人々が基本的な食糧の生産と加工においてさらに自立を果たせるよう援助を申し出ました。そして専門的な技術を持った何組かの夫婦のボランティア活動によって、小さな缶詰工場と、鶏の飼料の製造工場が建てられました。技術指導のクラスも設けられ、多くの人が学んでいます。現代の良いサマリヤ人の無私の働きを通して、カンボジア農業の新たな時代が開かれようとしています。

余分な衣類をデゼルト産業に送るという行為を通して、多くの教会員が定期的に「行って同じように」行っています。1996年には、約4,000トンの衣類が仕分けされ、必要としている人々に送られました。凍りつくような寒さから身を守るためのコート、しもやけを防ぐ手袋、ほかにモンピース、シャツ、セーターなど数多くの衣類がロシアの人々に届けられました。ロシア政

府の職員の方からは「ロシア国民のためになされた大きな援助について、神と皆様一人一人に感謝しております」という手紙が届いています。

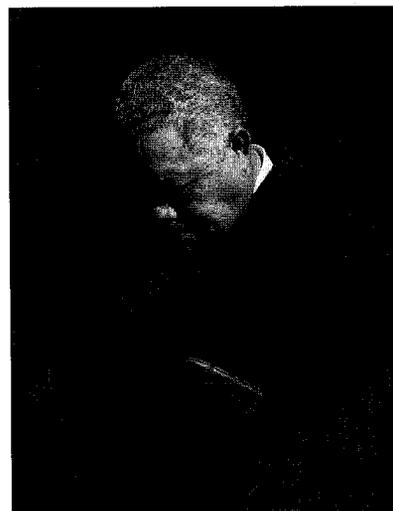
預言者アルマは、彼が生きていた時代を説明する中で、次のように書いています。「彼らは、各々自分の持っている分に応じて、貧しい者や乏しい者、病気の者、苦しんでいる者に自分の持ち物を分け与えた。」（アルマ1：27）彼らは裕福な暮らしをしているときでも「着る物のない者や飢えている者、渴いている者……を追い払うことがなかった。……また教会員であるなしの区別なく、助けの必要な人々については人を偏り見ることなく、すべての人に物を惜しまなかった。」（アルマ1：30）

良いサマリヤ人の精神は人から人へと伝わっていきます。主の道にかなった援助を行えば、富める人は謙遜になり、貧しい人は高められ、両者ともに聖められます（教義と聖約104：15-18参照）。与える人は自分が受けているものを分かち合うことによって困っている人を助け、受ける人は感謝をもってそのささげ物を受け入れるのです。受ける人は十分な力を得ると、今度はほかの人々に手を差し伸べることができず。

良いサマリヤ人の精神は、親が模範と言葉によって子供に教える家庭の中で生まれます。家族の中で見られる助け合い、親切、思いやりが「行って同じように」したいという望みを強めていくのです。

ユタ州東部のユインタ盆地には小さな町が幾つかあります。エデデアは善意に満ちた多くの人々がいるそれらの町の一つに住んでいます。11歳の彼はハンサムな金髪の少年です。エデデアは勉強も好きですが、スポーツは特に大好きです。彼はもうすぐアロン神権を受けられる年齢を迎えるのを楽しみにしています。彼は肉体的な原因で、自分がしたいと思っていることの多くがままなりません。肺の病気のために、呼吸が苦しくなるのです。

エデデアには16歳になるアマンダという姉がいますが、彼女はいろいろな



方法で弟に愛を示しています。何か問題があると、弟を優しく慰めます。弟のために学校との連絡役を務め、毎日、勉強の割り当て箇所を伝えます。隣の家の人には「アマンダはほんとうにすばらしい子」と褒めています。彼女は「行って同じようにする」という言葉の意味を理解しているのです。エデデアがソルトレーク・シティーに来るのは、通院のときだけです。彼は今、特別な理由があって、10月の総大会を心待ちにしています。男の子は12歳になるとおじいさんにソルトレークの総大会に連れて行ってもらうのが家族の伝統になっているのです。エデデアはその日が来るのが待ち遠しくてたまりません。またおじいさんも同様です。

最近93歳になるすばらしい姉妹がこの世を去って、幕のかなたの永遠の伴侶のもとへ行きました。二人は献身的な4人の子供に恵まれていました。二人は実に多くの機会に自分たちの音楽の才能を分かち合いました。この「良いサマリヤ人」が歌う希望と励ましの歌は、悲嘆に暮れた多くの人を元気づけました。この心優しい姉妹が作った初等協会の歌を通して、これからも多くの子供たちが救い主の愛を感じることでしょう。彼女の健康が思わしくなくなったとき、優しい子供たちは時間と労力と心を注いで、その世話をしました。立派な娘が母親のために一生懸命尽くしました。彼らはこれからも「行って同じように」し続けることでしょう。



ある山間地の小さな町に修道院があります。そこには高齢の修道士たちがいますが、その数は年々減ってきています。あるステーキの扶助協会の会長が、ほかの多くの慈善奉仕の責任に加えて、定期的にその修道士たちの健康診断をしています。面会日に何かおいしいものを持って真っ先に訪れるのは彼女です。彼女はステーキの会員だけでなく、その修道士たちにも思いやりを示しているのです。

教会の監督たちは、監督の倉を満たすために、そこに納めるべき物を増やし、適切に処理するための自発的な労働奉仕を定期的に求めています。倉が常に満たされ、必要に応じて監督が活用できるようにするため、昨年度は、のべ約27万日分の奉仕が費やされました。多くの教会員が福祉活動で楽しい労働奉仕の時間を経験しています。福祉農場の責任者が、何ヘクタールものてんさい畑の損害を目にして上げた嘆きの声を、わたしは今でも忘れられません。わたしたちが、はえてきたばかりのてんさいの苗を雑草と間違えて抜き取ってしまったのです。そのときの奉仕への祝福としてわたしたちに与えられたのは「大いなる叱責」でした。

モンソン副管長は次のように話しています。「わたしたちには国の内外を問わず、空腹な人、家のない人、踏み

にじられた人々に援助と希望をもたらす責任があります。」(『新たな時代を迎えて』『聖徒の道』1990年7月号、p. 4)

家族6人が住む小さな1部屋のアパートを想像してみてください。その部屋は汚れて、散らかっています。その家族はもう何年も教会から離れています。

ワード福祉委員会でその家族の必要について話し合いましたが、どうも意気が上がりませんでした。その理由は、何年にもわたって歴代の監督たちがその家族を何度も援助していたからです。しかし、その話し合いの中で新しいアイデアが提案されました。それは委員会が主の倉の財産、すなわちワードの会員の才能や技術を活用すれば、この難しい状況の解決の一助になるのではないかという考えでした。

委員会はまず、当面必要とされることだけでなく、将来的な可能性にも気持ちの向けるようにしました。それらの可能性が実現する度に、希望と楽観的な考えが暗く陰うつな気持ちに取って代わりました。その家族自身も希望に満たされ、自らの状況を改善しようという決心をしました。そして委員会も引き続き働きかけました。理容師をしている教会員が、その家族の髪をきれいにしました。歯科医の教会員の自発的な申し出によって、しばらくぶりに治療を受けた母親の口もとに明るい笑みが戻りました。この母親は新しい眼鏡のおかげで、また子供たちのために本を読んであげられるようになりました。会計職を専門とする教会員が、家計管理の仕方を教えました。そして理学療法が必要だった3歳の子供にも、その治療がなされました。

この家族は、次第に自分たちの生活を変えることができると信じ始めるようになりました。汚れて散らかったままだった部屋もだんだんと整頓されきれいになっていきました。窓にはカーテンもかけられるようになりました。それからわずか1年後に、この家族から3つのベッドルームがある家を披露する招待状が届きました。

傷を負っていたこの家族は、イエス

の時代におけるあのエルサレムからの旅人と同じように、道端で苦しんでいました。この家族の嘆きを聞く人々がいて、傷の手当てがなされました。現代の「良いサマリヤ人たちが」「行って同じようにしなさい」という神の教えに従いました。霊の命も救われました。今、この家族は教会に活発に集い、神殿の祝福を受ける備えをしています。

監督は倉だけでは満たせない必要にこたえるために神聖な断食献金を使います。ヒンクレイ大管長はわたしたちに次のことを考えるように促しました。「世界中で断食日と断食献金が守られたらどのようなことが起きるでしょうか。飢えた人々が食物を得、裸の人々が衣類を身につけ、家のない人々に住む場所が与えられるでしょう。…与える者は苦しまずに少しの辛抱で祝福されるでしょう。思いやりと無私精神が至る所で人々の心にわき上がるでしょう。」(『教会の現状』『聖徒の道』1991年7月号、pp. 56-57)

苦しみを和らげるよう助けることは、キリストの属性を自分の中に養うことです。わたしたちは2,000年前に救い主の足もとでその教えに耳を傾けた人々と同じように、「行って同じようにしなさい」と求められているのです。預言者ジョセフ・スミスは「助けを必要とする人に気づいたら、相手が当教会の会員であれ、あるいはほかの教会に集う人やどの教会にも属さない人であれ、どのような場所においても、飢えている人には食べ物を与え、裸の人には服を着せ、やもめを助け、孤児の涙をぬぐい、悲しむ人に慰めを与えること」はわたしたちの責任であると教えています(*Times and Seasons* 『タイムズ・アンド・シーズンズ』1842年3月15日付け、p.732)。

皆さんが苦しむ人々のために惜しみなく時間を用い、自発的にささげ物をなされるように、また「良いサマリヤ人の精神」の原則に従い、「行って同じようにする」必要をいつも心に留められるように、イエス・キリストの聖なる御名によってお祈りします。アーメン。

「わたしの名によって 常に父に祈らなければ ならない」

七十人

L・エドワード・ブラウン

わたしたちは「イエス・キリストの御名^{みな}によって」という神聖な言葉を使いますが、……それを口にすると、わたしたちは非常に神聖な場に身を置いているのです。



わたしたちの主であるイエス・キリストは、ガリラヤの海の岸で弟子たちを集められたときに、祈りの一つの形をお教えになりました。主の祈りとして知られるその祈りは、深く考えるに値する素晴らしいものです（マタイ6：9-13；3ニーフアイ13：9-13参照）。

主は次のように勧告されました。戒めと同列のものと考えてよいでしょう。「だから、あなたがたはこう祈りなさい。」（マタイ6：9）さてここで皆さんの思いと心を、主がこの貴い祈りをどのような言葉で始められたかに集中していただきたいと思います。「天

にいますわれらの父よ。」（9節）それはまさに至福の時でした。何とすばらしい啓示でしょうか。救い主は「われらの父」と宣言されたのです。

救い主は祈りを始める言葉として、「全能の天地の造り主」「遍在にして全知全能の力の神」など、実に様々な選択肢をお持ちでした。これらの崇高な称号には、威厳に満ちた気高い真理が含まれています。しかし救い主は「父」という簡潔な言葉で教えられたのです。それを知っていれば十分であり、わたしたちがほんとうに知りたいと願っていることでもあります。神はわたしたちの御父であり、わたしたちは神の子供なのです。

神の預言者たちはこう宣言しています。「すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親の大切な霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神になる可能性とを備えています。」（「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1996年6月号、pp.10-11）

子供が父親との喜びに満ちた確固とした関係を享受するのと同じように、人は皆、天の御父と自然な交わりを持つことができるのです。子供は自分が神の子供であり、神が自分の父親であることを理解します。それはごく当たり前のことであり、正しい理解です。なぜならそれは正しくそのとおり

のことだからです。わたしたちはこう宣言しています。「前世で、霊の息子、娘たちは神を知っていて、永遠の御父として神を礼拝し……ました。」（同上、p.10）前世において、霊の子供たちは御父を知っていたのです。ですから、彼らは現世において、自然に、また直観的に御父を理解するのです。罪のない子供が虐待を受けて、天の御父を求めることができなくなってしまうというのは大変な悲劇です。

何年か前に、親しくしている友達から、アイダホ州アイランドパークの山小屋を貸してもらったことがあります。そこへ到着して、借りてきた鍵でドアを開けようとしたのですが、どうしても開きません。懸命にドアを開けたり、窓を外そうとしたりしましたが、何をしてもうまくいきませんでした。

そのとき突然、当時7歳くらいだった息子のスティーブが、玄関のドアを開けたと大きな声で叫びました。スティーブは満面の笑みを浮かべしてやったりという態度でドアの向こう側に立っていました。わたしはびっくりしました。どうして開けたのかと聞きました。

スティーブはいかにも子供らしい、すばらしい答えをしました。「頭を下げて、お祈りしたんだよ。目を開くと、玄関のわきに大きな石があるのが見えたんだ。それで『この石の下に鍵がある』って思ったの。そしたら確かにここにあったんだ。」子供の祈りが聞き届けられたのです。わたしは困ったときになすべき大切なことを息子に教えた妻がいることに感謝しています。

愛する兄弟姉妹、そして友人の皆さん。主はわたしたち一人一人に語りかけてくださるということを心から、厳粛に証したいと思います。主はわたしたちを心に留めてはいないとか、わたしたちを知っているはずもないなどという憎むべき考えのとりこになることがないようにしてください。それはサタン^{あかし}の偽りです。皆さんを滅ぼそうとするたくらみです。

2週間ほど前に、日本の東京にあるアパートのパーソナルコンピューターを使って、中国のおい、アイダホ州ポ



カテロにいる息子，ワシントン州のロングビューにいるもう一人のおいに電子メールを送りました。電子メールでメッセージを送ろうとしていたまさにそのときに，一つの奇跡が起きました。ソルトレーク・シティーにいる義理の息子からの電子メールのメッセージが突然画面に表れたのです。彼は簡単に「今，そこにいるの」と聞いてきました。わたしはすぐに「ここにいる」と答えました。そして，電子メールの奇跡を通して「語り」合ったのです。

言うまでもなく，神もわたしたちと語り合うことがおできになりますし，実際にそうしていらっしゃる。教義と聖約第88章6節から13節によると，「広大な空間を満たすために神の前から発している」光があります。「万物の中に」光があります。それは「万物に命を与える」光です。それは「万物が治められる律法，すなわち……神の力」です。この「光を与える光は，あなたがたの目を明らかにする者によって来るものであり，これはあなたがたの理解を活気づける光と同じである。」

わたしたちの御父はすばらしい通信手段をお持ちであり，それを介してメッセージや御心をお伝えになります。「まことに見よ，あなたに降ってあなたの心の中にとどまる聖霊によって，わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう。……これは啓示の霊である。」（教義と聖約8：2-3）御父は御自分の羊を御存じであり，言葉をおかけになります。そして羊たちもその御声に聞き従うのです（ヨハネ10：14-16

参照）。

主イエス・キリストは祈るようになわたしたちに教え，さらに，答えが与えられると約束しておられます。「だからあなたがたは，わたしの名によって常に父に祈らなければならない。」（3ニーファイ18：19）「あなたがたの妻子が祝福を受けるように，あなたがたの家族の中で，わたしの名によって常に父に祈りなさい。」（3ニーファイ18：21）

主のはっきりとした教えを心に留めてください。「わたしの名によって常に父に祈りなさい。」「全能の主であるキリストの御名のほか，またその御名を通じてでなければ，どのような名も道も方法も，人の子らに救いをもたらすことはできない。」（モーサヤ3：17）

モーセ書第1章にも次のように力強く述べられています。3節で，主はモーセにこう宣言されました。「見よ，わたしは全能の主なる神であり，無窮とはわたしの名である。わたしは，日の初めもなく年の終わりもないからである。これは無窮ではないか。」モーセはこの御言葉を聞いて圧倒されたことでしょうか。同じ章の4節に記録されている次の宣言を聞いてモーセがどのように感じたか想像してみてください。主は「また見よ，あなたはわたしの子である」と言われました。この御方こそ主なる全能の神であり「無窮」という名の御方です。主御自身が宣言されたのです。主はモーセに「あなたはわたしの子である」と語られました。何とすばらしいことでしょうか。主が

皆さんにその御姿を示されたらやはり同じようにおっしゃることでしょう。

主の現れに続いて，サタンがモーセに現れ，こう命じました。「人の子モーセよ，わたしを拝みなさい。」（モーセ1：12）モーセはサタンを見据えると，主から受けたばかりの啓示への確信をもって，サタンを叱責し，こう言いました。「おまえはだれだ。見よ，わたしは，神の独り子にかたどられている神の子だ。おまえの栄光がどこにあるので，わたしがおまえを拝まなければならないのか。」（モーセ1：13）

モーセは自分自身についても大切なことを学びました。自分自身が神の子だったのです。この真理をわたしたちの子供に理解させることは，非常に大切なことです。モーセはサタンに離れ去るよう命じましたが，サタンは従いませんでした。サタンは怒り狂っていました。モーセは再びサタンに離れ去れと命じました。サタンは大声で叫び，地上でわめき立て，またしてもそこを去ろうとしませんでした（モーセ1：19参照）。

モーセはここに至って，自分が大きな困難に直面していることに気づきました。サタンは尋常の相手ではありませんでした。彼は怒りに満ちた恐ろしい，そして大きな力を持つ存在でした。モーセはサタンに屈したくありませんでした。そして力を込めて命じました。「『サタンよ，わたしから離れ去れ。わたしは栄光の神であられるこの唯一の神のみを礼拝するからである。』すると，サタンはおののき始め，地が揺れ動いた。」（モーセ1：20-21）

そこには暗く憎しみに満ちた力がありました。モーセはどのようにしてそれに耐えることができたのでしょうか。この大変な危機のときに，「モーセは力を与えられ，神に呼び求めて言った。『独り子の御名によって言う。サタンよ，立ち去れ。』」（モーセ1：21）今やモーセは自分にはない力に訴えました。そして，主イエス・キリストを通して，力と権威の源から助けを得たのです。それはサタンもあらがうことのできない力でした。「するとサタンは，涙を流し，泣きわめき，歯ざり

をしながら、大声で叫んだ。そしてそこから、すなわちモーセの前から立ち去って、姿が見えなくなった。」(モーセ1:22)

何年も前に、わたしたちの同僚の一人が、心むちのような話をしてくれたことがあります。彼の幼い娘のキムが数を数えることができるようになりました。実際彼女は1から10までのすべてを数えることができました。彼らはとても喜んで、おばあさんに電話をしました。「おばあちゃん、こんにちは。わたし、数を数えられるの。聞きたい？」そして彼女は数え始めました。「1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10。イエス・キリストの御名によって、アーメン。」救い主もほほえまれたのではないのでしょうか。そしてキムが1から10まで数えられたことを喜んでくださったと思います。

わたしたちは「イエス・キリストの御名によって」という神聖な言葉を使いますが、これには、祈りや証、話を終わるときの約束事という以上の意味があります。兄弟姉妹、それを口にするとき、わたしたちは非常に神聖な場に身を置いているのです。わたしたちは最も崇高、神聖なすばらしい名前、神の御子の御名を用いているのです。わたしたちは愛する御子を通して御父のみもとへ行くことができるようになりました。その御名によって心から祈るときに、何と大きな力、確信、安らぎが与えられることでしょうか。祈りの最後に用いるこの言葉は、多くの点において、祈りの中で最も重要な部分であると言うことができます。わたしたちは、必ず聞き届けられるという確信をもって、勝利を取められた御子を通して、御父に祈り求めることができます。求めれば与えられます。熱心に求めれば、それを見だし、さらにはドアが開かれるのです。

神聖な御名、すなわちイエス・キリストの御名によって、神がわたしたちの御父であられることを皆さんに証します。イエス・キリストは肉における御父の独り子です。またわたしたちの最愛の救い主、贖い主であられます。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」

十二使徒定員会会員

ロバート・D・ヘイルズ

新会員が聖徒の群れと一つになるには、信仰篤い教会員が腕を大きく広げて彼らを温かく迎えなければなりません。



救い主は思いやりに満ちた友として、ペテロにこう言われました。「シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。

しかし、わたしはあなたの信仰がなくなるように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(ルカ22:31-32) 神の息子、娘たちを助けて彼らが神のみもとに帰れるようにしようとする場合、彼らはどのような改宗の過程を経なければならぬのでしょうか。

改宗の最初の種はイエス・キリストの福音について知り、回復された主の

教会についてさらに知りたいという望みを持つことです。「その望みを育ててゆけ」とアルマは言っています(アルマ32:27)。真理を知りたいという望みは、信仰、忍耐、勤勉、寛容という肥沃な土地に育つ種のようなです(アルマ32:27-41参照)。聖文には幾つかの奇跡的な改宗が記録されています。サウロの奇跡的な改宗もその一例です。それはサウロの尋ねた次の二つの質問によく表れています。「主よ、あなたは、どなたですか。……あなたは、わたしに何をしてほしいと、望んでおられるのでしょうか。」(欽定訳使徒9:5-6) 個人がそのような経験をするにも時にはありますが、たいいていの場合改宗は研究、祈り、体験、信仰を通じて証を培ううちに、時間を経て起こります。

アビナダイが邪悪なノア王と祭司たちにイエス・キリストの福音を大胆に説いたとき、アルマだけが真理を認めました。アルマはしかし、大きな心の変化を遂げるには、アビナダイの言葉に篤い信仰を示さなければなりません。教会員個々の改宗もアルマの場合と異なりません(モーサヤ17章参照)。

わたしたちはこの世から抜け出し、神の王国に入りました。その改宗の過程でわたしたちは悔い改めを経験し、それにより謙遜になって打ち砕かれた心と悔いる霊を持ち、罪の赦しを与え

るバプテスマに備え、聖霊を受けました。そして長年にわたり忠実さによって、試練と苦難を克服し、最後まで堪え忍びます。

わたしは初期の教会員が残してくれたものについて思い起こします。多くの人々が家族や友、母国を後にし、慣れ親しんだ生活を捨てました。彼らはシオンに来て聖徒の交わりに加わるため、大海を渡り大陸を横断しました。

それは今日も変わりません。新会員がこの世から抜け出て神の王国に入るとき、多くのものを後にしています。彼らもまたしばしば友人や家族さえも後にし、教会の標準と相いれない社会的な関係や生活様式をあきらめなければなりません。

バプテスマの後、新会員は研究、祈り、会員からの模範、養いを通して、神の王国で聖徒たちと同じ国籍の者となる方法を学ぶ必要があります。教会員一人一人が家族のために働き、教会の召しを果たしながら、日々、個人的な決意と証を真剣に強め、改心しています。

神の王国に入ると、バプテスマを受けたばかりの会員であるわたしたちは、回復された神権を貰うようになります。神権を貰い従順に戒めを守ることは、改心の過程において重要な要素です。成人男性であれば、バプテスマの後すぐにアロン神権を受けます。さらにある期間が過ぎ、ふさわしければ、彼らはメルキゼデク神権を受け、家族の一人一人が家庭で神権の祝福を分かち合うようになります。女性は扶助協会で歓迎され、姉妹たちの輪に加わって祝福を受けます。青少年は、若い男性や若い女性の組織で友情を培います。子供たちは初等協会で学び、思いやりに満ちた教師の愛を受けて、祝福されます。

戒めに従っていくうち、わたしたちは神権定員会や補助組織で召しを受け入れ、奉仕し、犠牲を払うようになります。

バプテスマの後、少なくとも1年以上信仰篤く生活し成長を遂げると、わたしたちは主の神殿に参入する備えをします。聖なる神殿において、わたし

たちは神聖なエンダウメントを受け、父なる神とその御子イエス・キリストのみもとに帰るためには、どのように生活しなければならないかを学びます。

やがてわたしたちは、この世から永遠にわたって結び固めを受けます。わたしたちが夫婦として交わした永遠の聖約の下で、子供たちは保護されてこの世界に生を受けます。子供たちが成長した後にはわたしたちがバプテスマの水をくぐった場合でも、子供たちは両親と結び固められ、あたかも聖約の下に生まれたかようになります。

この全過程を通してわたしたちの証は成長を続け、その証はわたしたちを守る盾となります。「そうすれば、悪魔が大風を……送るときにも」わたしたちに何の力も及ぼすことはできません(ヒラマン5:12)。

真理を知り証を得るなら、わたしたちは強められ、永遠の命に至るまっすぐで狭い道にとどまることができません。証が大きくなると、わたしたちはさらにいっそうイエス・キリストの福音に帰依します。主に従うとき、わたしたちは人々に仕えることによって、主に仕えようと決心します。

兄弟姉妹の皆さん、宣教師たちが世界各地の聞く耳を備えた人々に福音を伝えるにつれ、教会は急速に成長しています。備えられた人々は大きな信仰、イエス・キリストへの証、心には愛をもって教会に加わり、主の御心に添うように生活を改めるという現実に直面します。しかも、福音の光をもたらしてくれた宣教師との親しい交わりはなくなります。

彼らは、まるで自分たちがよそ者でもあるかのように感じながら、ワードや支部に集います。「そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。」(エペソ2:19)聖文の中には種、そして種まきのたとえがあります(マタイ13章;アルマ32章参照)。種は育ち、樹木となって、実をならせるとわたしたちは教わっています。しかし良い種をまくには良い土壌も用意しなければなりません。こ

れは末日聖徒イエス・キリスト教会におけるわたしたちの役割の一つですが、種が育って実を結ぶように養いを与える土壌を提供し、その実が残るようにします(ヨハネ15:16参照)。多くの人々は、終わりまで堪え忍ぶ十分な強さを備えています。しかし、中にはフェローシップの温かい手を差し伸べられないまま落胆し、かつて自分をバプテスマの水に導いてくれた御霊を、残念なことに失ってしまう人もいます。かつては生存の中心にあったものが、彼らにとってもっと切迫したつまずきと思える事柄のためにわきに追いやられるか、慌ただしい日常の中で失われてしまいます。自分と人の改宗のために働くのは気高く、楽しい務めです。

「あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽くし、一人でもわたしのもとに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。

さて、あなたがたがわたしのもとに導いてわたしの父の王国に入れるようにした、一人の人とともに受けるあなたがたの喜びが大きいならば、もし多くの人をわたしのもとに導くとすればその喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約18:15-16)

皆さんはこれまで、一人を失うつらさについて、また大勢を失う悲しみがいかに大きいかについて、考えたことがあるでしょうか。それはまさに主が感じておられるものであり、わたしたちの預言者が感じていることです。願わくはわたしも皆さんも同じ気持ちを抱けますように。またかつて御霊を感じ、バプテスマを受け、証を得る喜びを経験していた人々、今は試練や苦難を克服し、永続する改宗達成の過程にある人々を、養う決意をわたしたちが示せますように。

この慌ただしい現代にあって、また個人や家族で達成しようと努めている事柄に心を奪われて、わたしたちは時折、王国に加わったばかりの新会員の必要を見落としてしまうことがあります。かつて個々の新会員の傍らで決意したように、わたしたちは神殿に向か

うまっすぐで狭い道を彼らとともに歩み、永遠の命に向かって歩みながら友情のうちに喜びと楽しみを分かち合うため、一緒に神殿に参入できないでしょうか。

「にもかかわらず、教会の人々は、レーマン人が改宗したことと、レーマン人の中に神の教会が設立されたことで大きな喜びを得た。そして両者は互いに親しく交わり、またともに喜び、大きな幸せを得た。」(ヒラマン6:3)

少しの間、羊飼いが羊の番をする姿を、心に描いてみてください。羊飼いは神を身近に感じようと、熱心に勉強し、祈っています。羊飼いが神との個人的な関係を築くことに心を向けているうちに、時間の経過も周りの状況も忘れてしまいました。自分の羊がさまざまよい出たことも、盗人に略奪されたことにも気づきません。羊飼いは自分の世界から目覚め、何匹かの羊がいなくなっていて、捜しに出て連れ戻さなければならない現実に気づきます。

わたしたち十分に改心している者は、迷い出ている人々に手を差し伸べなければなりません。そうするとき、主の羊を集めることに大きな喜びを見いだすでしょう。

ニーファイ人の宣教師アンモンは、わたしたちに一つの模範を示してくれました。彼はレーマン人の王に仕える道を選び、ラモーナイ王の羊の群れの番をするように遣わされました。邪悪な者たちが羊たちを襲い、散らすと、アンモンの同僚である僕たちは恐れて泣き始めました。このとき、アンモンはどう言ったのでしょうか。「元気を出してください、群れを捜しに行きましょう。群れを集めて水のある場所へ連れ戻しましょう。」(アルマ17:31)

さて、わたしたちはこの話を単に失われた羊を集めようと努める羊飼いの話としてとらえることもできます。しかし、そこにはもっと力強く意義深いメッセージが含まれています。宣教師のアンモンには、もっと気高い意図がありました。すなわち、王と王の国の人々を正義の群れ、生ける水の泉に連れ戻すという目的です。アンモンの受けたチャレンジは、物事をこの世的に



大会の部会に入場する際、十二使徒定員委員会とあいさつするゴードン・B・ヒンクレー大管長(中央)。

しか解さない人にとっては、しりごみしたくなる状況に見えたことでしょう。羊の群れは山腹にまで散らされており、全部を連れ戻すには十分な人数がいまませんでした。彼らは落胆し、羊を失ったことを王に気づかれるのを恐れられました。

しかしアンモンは、同僚たちを導いて羊の群れを再び集めただけでなく、この問題の張本人である悪人たちを追い払いました。彼の英雄的な行動に感服した王はアンモンに従い、救い主に従うようになります。アンモンはわたしたちに、「状況はどうあれ、わたしたちは模範となり、人を高め、彼らが義を探し求めるよう鼓舞し、イエス・キリストの力についてすべての人に証を述べることができる」と教えています。

新会員が聖徒の群れと一つになるには、信仰篤い会員が腕を大きく広げて彼らを温かく迎えなければなりません。同様に新会員の側にも、教会に集いほかの会員と交わる真剣な努力が求められます。わたしたちは年齢、性別、既婚・独身の別、経済状態などを超えて、一つになることができます。

改宗には、助けを必要とする人々に仕え、自分の賜物や才能を分かち合うことに生活をささげることが求められます。主は「都合の良いときだけ羊を

養いなさい」とも「忙しくないときに羊の番をしなさい」とも言われませんでした。主は「わたしの羊や子羊を養いなさい」と言われました。彼らが世に打ち勝てるように助け、そば近くで見守りなさいと言われたのです。彼らを安全な場所、すなわち永遠の命を受けられるように備えてくれる義になつた選択に、導いてください。

イエスの弟子や使徒たちは「わたしに従ってきなさい」(ルカ18:22)という主の真剣な招きにこたえた後に数々の教訓を学びましたが、会員が受けるチャレンジはそれらの教訓と似通っています。前任使徒ペテロが学んだ多くの教えは『新約聖書』の中でわたしたちも知ることができます。なぜなら、わたしたちも改心の過程でそれらの教えを学ぶ必要があるからです。

主が十字架上で亡くなられた後、ペテロはほかの弟子たちとともに漁に出かけました。当時彼はすでに前任使徒でしたが、自分に何が期待されているか自覚していませんでした。舟の中にいた漁師の一人が、岸辺におられる復活された主を見つけました。ペテロは主会おうと海に飛び込み、岸に上がりました。そこで彼は自分の改心の深さを測る率直な質問を受けました。わたしたちが学び続けなければならないのと同様に、ペテロもまだ学習の途上だ



ったのです。「わたしを愛するか。」救い主は、そう3度お尋ねになりました(ヨハネ21:15-17)。ペテロは心を痛めてこう返答しました。「わたしがあなたを愛していることは、おわかりになっています。」(ヨハネ21:17)すると主はこう勧告されました。「わたしの小羊を養いなさい。……わたしの羊を養いなさい。」(ヨハネ21:15-17)

ペテロのように、多くの人々は改心し、この世の事柄を後にして主に従っています。ペテロのように、わたしたちは天父の子供たちをすなごる漁師に召されたのに、「漁に行く」(ヨハネ21:3)と言って、主の子羊や羊を養うのを忘れてしまうのでしょうか。ペテロのように、周りの人々が苦しみ、恐れを感じ、フェローシップを必要としているときに、わたしたちは園の入り口で眠りこけてしまうのでしょうか(マタイ26:36-46参照)。

ペテロのように、わたしたちも個人的な学習経験を積んでいくにつれて、主から次の質問を受けたとき、彼と同

じように答えられるでしょうか。「『それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか。』シモン・ペテロが答えて言った、『あなたこそ、生ける神の子キリストです。』」(マタイ16:15-16)

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは救い主の次の教えをほんとうに理解しているのでしょうか。「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやいなさい。」(ルカ22:32)「わたしの小羊を養いなさい……わたしの羊を養いなさい。」(ヨハネ21:15-17)「小羊を養う」とは、バプテスマを受けたばかりの会員たちに働きかける伝道活動を指しているとも言えます。彼らは養いを必要としており、聖徒たちの群れの中で温かい思いやりやフェローシップを受けなければなりません。「羊を養う」とは、成熟した教会員についても言えるでしょう。活発な人々もいればあまり活発でない人々もいます。後者は世話を必要としており、群れに連れ戻さなければなりません。

一人の預言者が語った次のメッセー

ジをわたしたちはよく知っています。「すべての会員は宣教師である。」(Conference Report『大会報告』1959年4月号, p.122) 願わくはわたしたちが、同じように急を要する務め、つまり「すべての会員は友達であり、フェローシッパーである」という務めにこたえられますように。そしてすべての兄弟姉妹——完全に活発な会員、新会員、あまり活発でない会員たちすべてを養い、彼らに思いやりを示せますように。

昨夜、わたしたちは神権部会でヒンクレー大管長から新会員に関する「お願い」を受けました。大管長はわたしたちに、新会員を心にかけるよう強く要請し、こう語りました。

「わたしは皆さん一人一人にお願いします。この偉大な活動に加わってください。……教会の指導者の皆さん、彼らが会員としての第一歩を踏み出すのを助けましょう。

これはホームティーチャーや訪問教師の務めです。これは監督会、神権定員会、扶助協会、若い男性と若い女性、初等協会の務めです。……皆さんの親しみある態度が必要なのです。……かつて迷い出た人は行方不明にならなくてもよかったです。しかしその人がどこか日の当たらない場所にいるとしたら、しかもそれが99人を残していかねばならないことを意味するのであれば、わたしたちはその人を捜し出すためにそうする必要があります。」

預言者の要請にこたえるわたしたちの願いが次のようでありますように。

友を助くため われ強めたまえ
闇は深くとも みたまは照らす

汝が羊の群れ 養い努めん
主よ、支えたまえ われ連れたまえ

(「主よ靈感もて」『賛美歌』182番)

わたしたちが預言者の要請に従い、改心し、兄弟姉妹を力づけられますよう、イエス・キリストの御名によりお祈りします。アーメン。

あかし 世界に宣言する証

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

神が導き手です。わたしたちは主の導きを求め、啓示の静かな細い声に耳を傾けます。そして、主に導かれて進むでしょう。



すばらしい大会でした。主の御霊がここにありました。音楽も靈感に満ちており、祈りや話は心を打ち、自分を改善したいという気持ちを高めてくれました。話をしてくださった方々に感謝するとともに、すべての中央幹部と地域幹部および中央役員から話を聞くことができたらと思います。それには1週間ほどかかるでしょう。

わたしたちには偉大な受け継ぎがあることに、注意が喚起されました。しかし過去のことは後にして、未来に関心を向けなければなりません。わたしたちの前には大なる機会と大なるチャレンジがあります。国の内外の批判家がわたしたちに注目しています。誤りを見つけようと努力し、わたしたちの話す言葉を細大漏らさず聞いて、わなにかけようとしています。わたしたちは時々つまずくかもしれませんが。しかし、主の御業は実質的に妨げられ

ることはありません。わたしたちはつまずいても、立ち上がり、前進するでしょう。

わたしたちには恐れるものはなく、得るものばかりです。神が導き手です。わたしたちは主の導きを求め、啓示の静かな細い声に耳を傾けます。そして、主に導かれて進むでしょう。

主の教会が誤って導かれることはないでしょう。その恐れは決してありません。もし教会の指導者にそのような傾向が少しでもあれば、主はその人を除かれるでしょう。わたしたちは皆、主のおかげで命や声や力を得ています。

自分が住んでいる国の良い市民になりましょう。地域社会で良い隣人になりましょう。わたしたちの社会に多様性のあることを認め、すべての人々の内に善良さを認めましょう。わたしたちは教会の教えにおいていかなる妥協も必要ありません。しかし、疑いや偏狭さをもたらす要素は除くことができます。

「わたしたちは、永遠の父なる神と、

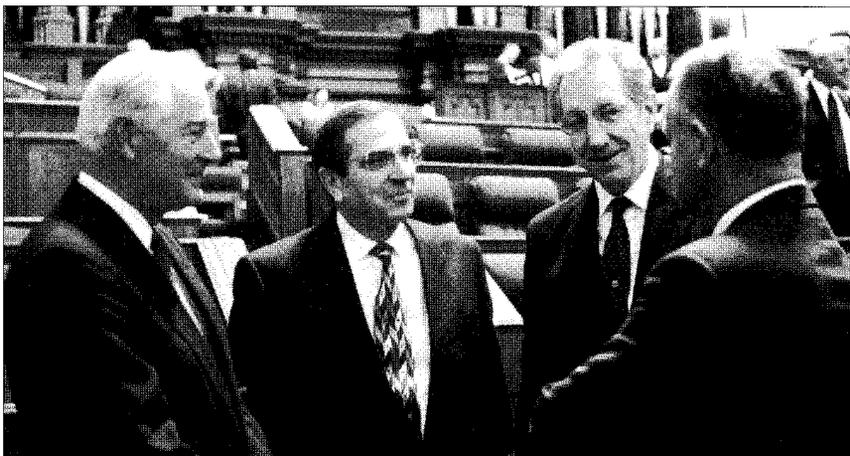
その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じる。」(信仰箇条1:1) これはわたしたちの信仰の第一の宣言です。わたしたちは、イエス・キリストが生きておられると公言します。また、全人類を贖う業が事実であると明確に宣言します。この行為が万人の復活を確かなものにし、天父の王国での昇栄に至る道を開いたのです。

これは世界への宣言の強調点であり、わたしたちの宗教の要点です。信仰の泉です。わたしたちがクリスチャンではないと、だれにも言わせないようにしましょう。

今大会で解任された方々には、皆さんのこれまでの働きに心からの感謝をお伝えします。皆さんはほんとうに、ほんとうにすばらしい働きをしてくださいました。ありがとうございます。また、新たに支持を受けられた方々には、皆さんがこれから従事する業に大きな喜びと満足を見いだされますように願っています。だれもがいつかは、何らかの責任から解任されます。この偉大な業にあってはどこで奉仕するかは問題ではありません。どのように奉仕するかが大切なのです。

ブリガム・ヤングやそのほかの一握りの人々は開拓史上にその名を残しました。しかしだれからもたたえられず、知られずに福音に従った生活をし、主を愛し、喝采もファンファーレもなく日々務めを果たした人々は、どうなるのでしょうか。彼らの永遠の報いは多少とも劣るのでしょうか。そうではありません。

同じことはわたしたちにも言えま



信仰こめて、一歩ずつ

中央若い女性第二副会長
ポニー・D・パーキン

遠い将来、皆さんの孫たちが、彼らの人生を変えたあなたたちの選択の物語を感じながら語り継ぐことでしょう。

す。一人一人がそれぞれ貢献しています。それらの働きが合わされて大義が打ち建てられるのです。皆さんの働きもわたしたちの働きも受け入れられます。イエスはこう言われました。「だれでも一ばん先になろうと思うならば、一ばんあとになり、みんなに仕える者とならねばならない。」(マルコ9:35)

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちはこの偉大な家族の一員です。それぞれに務めがあり、それぞれに果たすべき使命があります。わたしたちがこの地を去るとき、「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした」(2テモテ4:7)と愛する主に報告できれば、それ自体すばらしい報酬ではないでしょうか。

皆さんが安全に帰宅できますように。愛と感謝のうちにともに生活し、尊敬し合えますように。皆さんの生活のうえに犬の笑みが注がれています。それを知ることができますように。

わたしたちの愛も皆さんに向けられています。わたしたちは皆さんを深く愛しています。皆さんにわたしたちの祝福を残します。聖なる贖い主の御名により、生ける神の僕として、そのようにします。また会える日まで、神が皆さんとともにいてくださるように。この大いなる、すばらしい大会を終えるに当たり、イエス・キリストの御名により、へりくだってお祈りします。アーメン。



18 80年代、スウェーデンにアンナ・マティルダ・アンダーソンという少女が住んでいました。彼女が家族と教会に入ったとき、人々はその信仰のために彼らをあざけりました。アンナの母親は、アメリカに移住してユタの聖徒たちと合流する決心をしました。姉のアイダとアンナが家族を呼び寄せるお金を稼ぐために先にアメリカに送られたのは、アンナが11歳のときでした。二人はアメリカまで船で渡り、それからユタのオグデンまで車で旅を続けました。そこでアイダは働き先のアイダホ州の身元引き受けのもとへ幌馬車で出発しました。そこからソルトレーク・シティーへ向かう車の中で、アンナはまったくの独りぼっちでした。英語は一言も話せませんし、知っている人もだれもいません。車の中の彼女の心細さと恐怖感を想像できますか。

車が暗いリオ・グランデ駅に着いたのは真夜中少し前でした。迎えに来ているはずの親類の姿がありません。駅からゆっくりと人影が消えていくのを見ながら、アンナは恐ろしくて、ただ立ち尽くしていました。とうとう、同じように出迎えないドイツ人一家とアンナだけが残されました。重苦しく悪意に満ちた暗闇が彼女を包み込もうとしています。後に彼女は次のように思い返しています。「わたしは泣きながら母の最後の言葉を思い出していました。母は、『言葉の分からない所に行っても、天のお父様は分かってくださるのだから、お祈りするのを忘れてはいけませんよ』と言ったのです。」アンナはスーツケースの横にひざまずいて、神様の助けを願い求めました。きっと皆さんにもそんなお祈りの経験があるはずです。

ドイツ人一家がアンナと一緒に来るように手招きしました。ほかになすすべもなく、アンナは泣きながら彼らの後について行きました。テンプルスクウェアに着いたとき、小走りに寄って来る足音が聞こえてきました。女性が一人、やり過ごす人の顔を確かめながら足早にこちらに近づいて来ます。その女性はドイツ人一家に目をやり、さらにだれかを捜しています。次に彼女の視線はアンナに注がれました。女性は立ち止まり、信じられないように彼女を見詰めました。少女に見覚えがあったからです。アンナもその女性を思い出して息をのみました。1年前にスウェーデンを離れた彼女の日曜学校の教師ではありませんか。アンナを固く抱き締めながら、教師は彼女の恐怖の



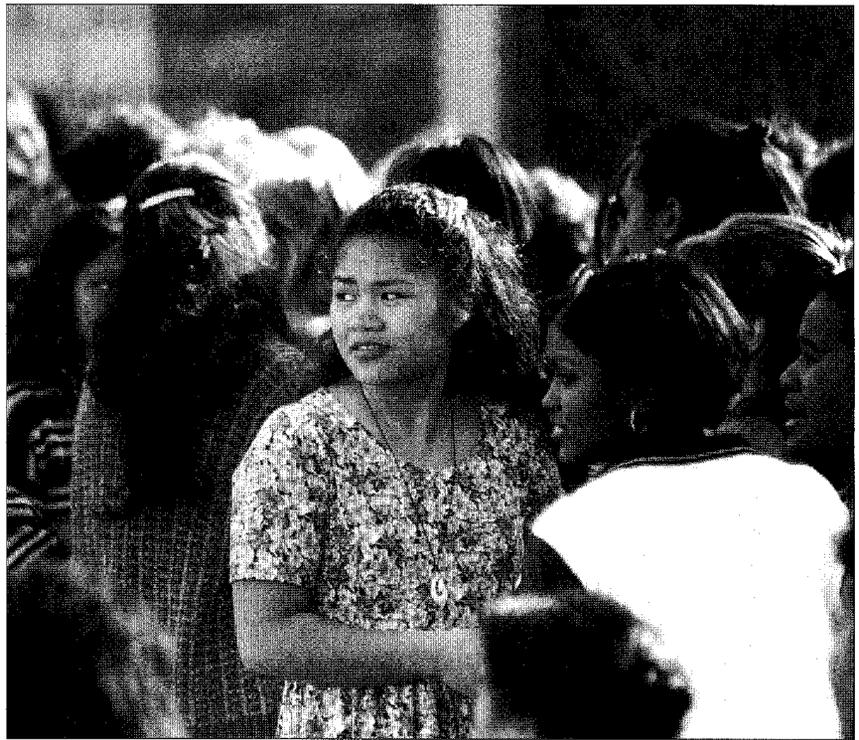
涙をふいてやりました。そしてアンナにこう言ったのです。「何度も何度も起こされてね。……到着して来る移住者たちの姿が頭を駆け巡って眠れなくなってしまったの。ここにだれか知っている人がいないか来て見るように御霊に促されたのよ。」(アンナ・マティルダ・アンダーソンの日記, ボニー・D・パーキン所蔵)

信じられますか。真っ暗な夜に、日曜学校の教師がまるで光の天使のように遣わされたのです。アンナはこう思い返しています。「お分かりですか。天のお父様は単にわたしの祈りにこたえただけではありません。わたしはただわたしの言葉を理解してくれる人をお願いしたのに、神様はわたしが知っている人を遣わしてくださったのです。」

何年もたってから、アンナはどうしてあの驚くべき一人旅ができたのか説明しました。それは、主を信じる信仰により、すばらしいことがすぐ近くに待っていると確信できたからです。そのおかげで、母親なしで大西洋を渡り、独りぼっちのときも主に祈って、神殿という安全な避難所まで歩いて行く勇氣を持てたのです。アンナは未知の世界に踏み入って、後に続く人たちのために道を切り開きました。アンナの信仰に満ちた足跡に従った人の中に、わたしの夫がいます。それというのも、アンナは彼の祖母に当たるからです。

アンナの経験はたとえようもないほど恐ろしいものだったでしょう。彼女自身にその自覚はなかったでしょうが、彼女は後に続く人たちのために雄々しく道を切り開いたのです。アンナは開拓者でした。開拓者とは、正義のために立ち上がり、敵対するものに負けずに、勇氣をもって福音を分かち合い、行動を通してキリストを証する人のことです。ちょうどアンナのように。

アンナの物語に皆さんは自分自身の姿が見えないでしょうか。福音に対する熱意や、見知らぬものへの恐れという点で、アンナに似ているところがあるかもしれません。人は皆、信仰の旅をしなければなりません。それが福音の計画なのです。わたしたちの道は大



海を渡ったり、空っぽの駅から独りで歩いたりすることではないかもしれませんが。しかしどんな道であれ、一足ごとに信仰が必要とされることに変わりないでしょう。遠い将来、皆さんの孫たちが、彼らの人生を変えた皆さんの選択の物語を、感心しながら語り継いでいくでしょう。皆さん自身が彼らの開拓者と呼ばれるようになるのです。皆さんがアンナのように未知の世界に足を踏み入れるとき、自分はほかの人たちのために道を切り開いているのだと考えたことがあるでしょうか。それではここで、初期の開拓者の経験に新たな光を当ててくれる、ほかの若い女性たちの生活もご紹介しましょう。

ルース・メイ・フォックスはこう言いました。「イギリスを出発する日が来たとき、わたしはまるで天にも昇る心地でした。……わたしたちは近所の人たちの好奇の目を避けるために夜の闇に紛れて家を出ました。こんなスリルのあることって、ほかにあるでしょうか。」(スーザン・アリントン・マドセン “Walked to Zion: True Stories of Young Pioneers on the Mormon Trail” 『徒歩でたどったシオンへの道——モルモン街道の若き開拓者たちの実話』 p.30) 開拓者精神は冒険でい

っぱいでした。

マーガレット・ゲイ・ジャッド・クロソンはこう言っています。「わたしの隊には何人か好青年がいました。特に一人が、わたしにとっても優しいことを言ってくれたものです。きれいだとか、頭がよいとか、それにわたしがそれまで言われたことがなかったけれど、気立てがよいとまで言ってくれました。」(『徒歩でたどったシオンへの道』 p.144) 皆さんは今まで気立てがよいとか、愛想がよいとか言われたことがありますか。何とすばらしい褒め言葉でしょう。

マーガレット・マクニール・バラードは次のように思い出を語っています。「わたしは大草原を歩き通しました。牛を追いながら、ほとんどいつも弟のジェームズを背負って歩いたのです。」(『徒歩でたどったシオンへの道』 p.126) 皆さんの中にも、兄弟姉妹の世話という責任を愛と強さをもって担っている人が、たくさんいます。

スーザン・ノーブル・グラントの次の意見はいかがでしょう。「ああ、子供たち、いちばん厳しい訓練で苦しみ抜いた日々にも、わたしたちはどれほど楽しかったことか。あなたたちには想像もできないでしょうね。年若い

わたしでさえ、福音が回復されたことを知っていました。一度ならず、ジョセフ・スミスが天父と復活された救い主、御子イエスが現れて話をされたと言明するのを聞いたことがあったからです。……この証を失ったことは一度もありません。そして、わたしが亡くなっても、あなたたちの子供や孫たちにこれを語り継いでほしいのです。』(『徒歩でたどったシオンへの道』p.98) 何とすばらしい財産でしょう。でも、わたしたちも預言者の言葉を聞いたことがあるはずです。

これらの話は、今わたしたちが日記に書き記していることとそんなに懸け離れているでしょうか。わたしたちの中に、アンナと同じことのできる人がどれほどいるでしょうか。わたしは皆ができると思います。なぜでしょう。わたしたちは毎日勇気をもって選択することで信仰を表しているからです。ハロルド・B・リー大管長は現代の開拓者たちのためにすばらしい助言を残しています。「光の端まで歩いて行き、暗闇に2,3歩足を踏み入れてみなさい。そうすれば、光が現れてあなたの行く先を照らしてくれることが分かるでしょう。」(ボイド・K・パッカーによる引用。ルシール・L・テイト “*Boyd K. Packer: A Watchman on the Tower*” 『ボイド・K・パッカー——塔の見張り人』p.138)。わたしたちは信仰によって歩まなければなりません。天父がアンナの日曜学校の教師のように腕を広げてわたしたちを待っておられることを信じて、暗い未知の世界に足を踏み入れるのです。

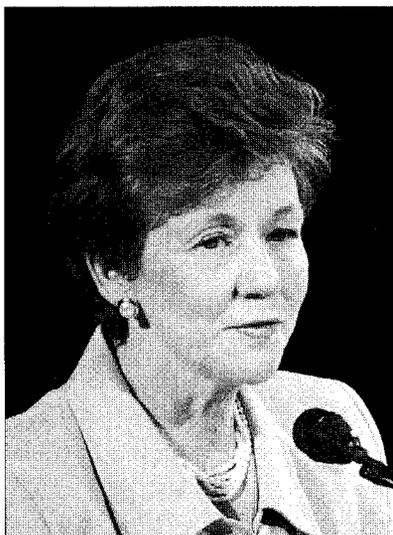
わたしたち一人一人が開拓者精神から力を得られるように、こよい、お祈りします。今夜鏡を見てください。世界に二人といない、強くて、勇気ある人が見えるはずですよ。開拓者の顔です。その思いを決して忘れないでください。アンナやほかの何千もの人たちのように、皆さんも愛する人たちに従うべき道を雄々しく示しながら歩んでいるのです。いつも信仰こめて、一歩ずつ、歩みを進めることができますように、イエス・キリストの御名によりお祈りします。アーメン。

時間をかけて歩き続ける

中央若い女性第一副会長

バージニア・H・ピアス

わたしたちの目標、目的地、シオンは天父とともに生活することです。その目的地に着くためには、ただひたすら歩き続けなくてはなりません。



時ごろまで歩きました。そして、牛馬を放し、家畜に水をやり、修理をし、薪を集めて火をおこし、夕食を作り、暗くなる前に1行か2行、日誌をつけ、時には少し音楽を楽しみ、祈り、午後9時に眠りに就きました。

進む速さは重要ではありませんでした。なぜなら、ゆっくりと進む牛にペースを合わせなくてはならなかったからです。幌馬車に追いつくために走る必要はありませんでした。お天気がよく、何も問題のない日(そんな日はあるでしょうか)には、15マイルほど進むことができました。たいていは、10マイル以下でした。目的地まで1,300マイルという距離に比べたら、それは何と少ない距離だったことでしょう。

ウィンタークォーターズの墓地の青銅の彫刻²には、ソルトレーク盆地へ向かう道を歩きながら、手を幌馬車の中へ差し伸べている母親の姿が刻まれています。幼い子供が母親の手が見えないと、幌馬車の中でじっとしていなかったからです。歩きながらですら、開拓者たちは互いに助け合う方法を知っていたのです。

これらのことはすべて、現在のわたしたちの世界において、わたしたちとどのような関係があるのでしょうか。わたしたちの生活のほとんどは、直ちに英雄的行為や勇気を要するような劇的な瞬間の連続ではありません。むしろ、わたしたちの生活の大部分は、日々の決まりきった単調な仕事から成り立っています。そのためにわたしたちは疲れ、気落ちすることもあります。もちろん、わたしたちはどこへ向かっているのかを知っており、もしできること

「開拓者の子供歩いていく、長い長い旅を歌歌って」わたしは開拓者のことについて考えると、悲劇的な光景が頭に浮かんできます。吹雪の中を進む手車、病氣、凍りついた足、空腹、遺体を浅く埋めた墓。

しかし、あの記念すべき旅について学ば学ぼほど、あのとても生々しい劇的な光景ばかりではなく、ほとんどの人にとって旅の大部分は、決まりきった日常の連続だったことが分かります。たいていは、ただひたすら歩き続けたのです。

開拓者たちは毎朝キャンプを畳むと、家畜にえさと水をやり、火をおこして朝食を作り、昼食の用意をして詰め、修理をし、牛馬をつなぎ、幌馬車に荷物を積み込みました。毎日、同じ繰り返しでした。それから、6マイルほど歩くと、家畜にえさと水をやり、昼食を食べ、再び隊を組んで、午後6

なら、ベッドから飛び起き、懸命に働き、日暮れまでには目的地に到着したいと思っています。でも、わたしたちの目標、目的地、シオンは天父とともに生活することです。その目的地に着くためには、ひたすら歩き続けなくてはなりません。

この毎週歩き続けることは、決して小さな業績ではありません。開拓者たちの着実な歩み、単調で在りきたりの、しかもつらい仕事、約束された地に向かって一歩一歩進む意志は、もっと目立つ勇氣ある行為と同じように、わたしを励ましてくれます。そのようなゆっくりとしたペースで歩いているときに、自分が前進していると信じることに、すなわち1日に進む距離があまりにも少ないときに、未来を信じ続けることは、とても難しいものです。

毎朝起きて髪をとかし、時間どおりに学校へ行くからといって、皆さんは自分を英雄的な開拓者だと思いませんか。毎日宿題をすることの意義が分かり、与えられた課題を理解できないときに助けを求める勇氣が必要であることが分かりますか。毎週日曜日に教会へ行き、クラスに出席し、ほかの人と親しく交わることが英雄的な行為だと思いませんか。毎日毎日お皿を洗うことや、ピアノの練習をすること、子供たちの世話をすることが偉大なことだと思いませんか。毎日祈り、聖文を読み続けるために必要な不屈な精神と、目的地に到達するという信念が大切なことが分かりますか。時間をかけて問題を少しずつ解決していくことの偉大さが分かりますか。

ハワード・W・ハンター大管長はこのように述べています。「真の偉大さを身に付けるには、……いつの場合にも、規則正しく、小さなことや、時には当たり前なことを、長い間こつこつと行うことが要求されるのです。」³

1日の働きと引き換えに、すぐに大きな成果を求めることは何とたやすいことでしょうか。一定の着実な進歩の歩調に合わせ、在りきたりの生活に幸せと喜びを見いだすことを学ぶ人は、何と幸福でしょう。

がっかりしないでください。皆さん



若い女性の大会にて。中央若い女性会長のバージニア・H・ピアス第一副会長（左）とカーリー・ニールソン姉妹。

に勇氣を与えるために、^{ほろ}馬車の中に手を差し伸べてくれる人々のことを考えてください。わたしたちは皆一緒に進んでいるのです。ほかの人に手を差し伸べる人になってください。

夜、寝床に入ったら、その日に成し遂げたことを思い起こしてください。たとえ一部分でも仕事をやり終えたという満足感を味わうようにしてください。

あのすばらしい開拓者たちは前進し続けたばかりでなく、歩きながら歌ったのです。わたしたちは毎日楽しく仕事をするように期待されているのでしょうか。毎日いつもいつもそうとは限りません。時には、悲しんだり怒ったりすることもあります。しかし、悲しみや怒りに身を任せるのをやめようと決心することができます。ある若い女性がわたしたちの事務所へこのようなことを書いてきました。「わたしは14歳であることがとてもうれしいのです。このままずっと14歳であつたらよいのと思います。14歳はすごく楽しいです。」この短い手紙を読んで、その日1日が楽しくなりました。「心の楽しみは良い薬である」(箴言17:22)と書かれています。

皆さん御存じのように、エノクの民はとても信じられないほど善良な民であつたので、彼らの町全体が天に取り上げられました。しかし、聖文を注意

深く読むと、シオンの町は、「時がたつて」(モーセ7:21)天へ取り上げられたと書かれています。開拓者たちや、皆さんやわたしたちと同じように、きっとそれは、長い時間をかけて一歩一歩前進する「過程」だったのでしょ

う。インドラ・キアゲハちょうは自然界の最も見事な標本の一つです。実験科学者たちはその生活環(訳注——個体が特定段階から成長して子を産み、次代の同一段階に至るまでの形態変化)を注意深く記録しました。卵は食物となる植物のちょうど良い場所に産み落とされます。5日以内にふ化し、だいたい色の斑点のある黒い幼虫になります。成育すると、幼虫は繭を作りま

す。大部分は2年後に成虫となって外部へ出てきますが、興味深いことに、中には7年間繭の中にとどまるものもあります。そして、突然、数時間以内に、それまで斑点の付いた幼虫だったものが、美しい黒いちょうになって飛び立つのです。⁴この幼虫は数時間してちょうになつたのでしょうか、それとも7年たつてちょうになつたのでしょうか。

インドラ・キアゲハの成長を理解している観察者は、忍耐強く仕事を続け、時間をかけることをいといません。また、自分自身の成長を理解している人は、忍耐強く祈り、毎日働き続け、時間をかけます。

そのような人々には、「くじけず、



頑張る」という言葉がびったりくるかもしれません。

わたしがカーリーに最初に会ったのは、彼女が12歳のときでした。まだビーハイブになりたてのカーリーの世界には一次的な動揺がありました。彼女が自分の気持ちを語る声を聞いてください。(短いビデオが上映される。)

「変化はわたしにとっていつも大変でした。わたしの問題はそれほど悪いものではありませんが、問題を持っているときは、それが世界で最悪のもののように思えるんです。だれだって自分のことが心配ですものね。わたしはいつも独りぼっちでした。学校へ行きたいと思ったことは一度もありませんでした。わたしの悲しみなど、天父は気にも留めておられないと思いました。わたしがうろたえていることも、友達がないことも。天父はおられない

のだと思いました。だれもわたしことなど気にかけていないと思いました。』⁵

こちらはカーリーです。今、16歳になります。

「12歳のときの自分の話を聞くと、当時はその問題がいかに大きく、今はいかに小さいかが分かります。わたしは魔法のような解決法を切に求めていました。すべての問題を解決する方法は一つだけではないと、今は考えています。12歳のときにわたしが確かに知っていたのは、善い人になりたいということです。その望みがあったために、わたしは聖文を読み、教会へ行き、お祈りをしました。今、4年たって、おもにこれらのことを続けてきたために、わたしは自分が随分変わったと思います。聖文から答えを受け、祈りを通して主に近づき、教会でのレッスン

がずっとよく理解できるようになりました。

わたしの父は、壁にこのような言葉をはっています。『ほかの人があきらめてしまうときにあきらめない人が成功する。[ウィリアム・フェザー]』わたしはあきらめなかったことをとてもうれしく思います。自分の中に残っているものは何もないというようなときが、わたしたちには必要であるとさえ思います。そういうときこそ、主を信頼し、主に頼るからです。

ほんとうに大切なものは何もない、すべては一時的なものだから、あきらめてしまう方がいいと、流行歌や映画は教えています。でもわたしたちは、そうではないと知っています。わたしたちには福音があります。それは一時的なものではありません。永遠のものです。やめたり、あきらめたりすることはできません。今はすべてを理解できないかもしれませんが、わたしたちのすべての行い、毎日の生活には目的があります。またわたしたちには、励まし、元気づけてくださる天父がいつもいらっしゃるのです。』

ともに道を歩むわたしたちは、お互いのことをとても心にかけています。わたしたちが祈り、一生懸命働き、時間をかけて前進するとき、天父はわたしたち一人一人を必ず祝福してください。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. 「開拓者の子供」(『子供の歌集』p.137)
2. アバルド・フェアバンクス作
3. 「真の偉大さ」『聖徒の道』1982年7月号、p.34
4. トッド・スタウト “The Four Utah Varieties of Papilio Indra” *Utah Lepidopterist* 「ユタに生息する4種のバピロ・インドラ・キアゲハちよう」『ユタ鱗翅類研究者』1997年2月号、p.6
5. 1993年に収録されたユタ州ケイスビル・クレスウッドステーク、ケイスビル第18ワードのカーリー・ニールソンとのインタビューより抜粋。

友人としてともに立つ

ユタ州センタービルステーキ、パリッシュ・キャニオンワード所属
クリスティン・バナー

ワードや学校で末日聖徒の若い女性があなた一人だとしても、何千人という若い女性があなたのすぐそばに立っていることを心に留めてください。



わたしも皆さんと同じように、これまでの人生の中で開拓者として信仰を行使しなければならなかったことがあります。初めてそのような経験をしたのは小学校2年生のときでした。先生が教室に來られて、もうすぐ「特別な女の子」が新しくみんなの仲間になりますと話されました。わたしは、どんな女の子が来るのだろうと思い巡らしたのを覚えています。

ジェニーが初めてクラスにやってくる時、わたしは一目でいい友達になれるそうだと思います。ジェニーが障害を持っていたことで、もっと彼女のことを知りたいと思うようになりました。それまで障害を持った子とあまり接したことがなかったので、不安もたくさんありました。でも、彼女の友達にならなければいけないと思いました。どんなことになるかは分かりませ

んでしたが、わたしはそのチャレンジを受け入れました。

ある日の放課後、わたしは決心し、ジェニーの家に行くことにしました。少し緊張しましたが、これは正しい行いだと感じたのを覚えています。ジェニーのお母さんはとてもいい人で、ジェニーについてもっとたくさんのことを教えてくれました。

やがて、わたしはいつもジェニーと過ごすようになり、ジェニーはわたしの大切な親友の一人になりました。わたしたちはお店に行ったり、ジェニーのトランポリンで遊んだり、お互いの家に泊まりに行ったりするのが大好きでした。わたしがジェニーの肉体的な面での弱さを助ける一方で、ジェニーはわたしの霊的な面での至らなさを補ってくれました。ジェニーはキリストのような愛と救いの精神を持ったすばらしい模範です。わたしたちはお互いに助け合うことによってそれぞれの足りない部分を克服できたと、わたしは心から信じています。

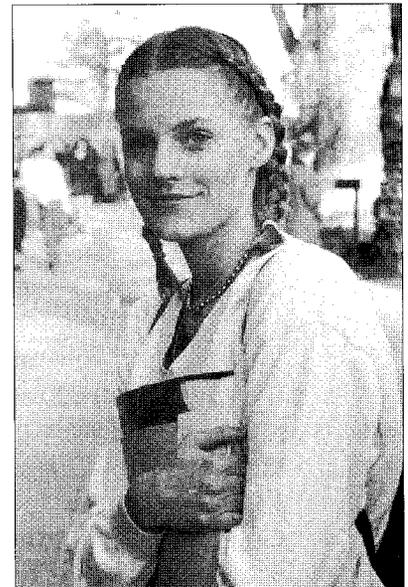
成長するにつれて、わたしは開拓者としてもう一つの試しに遭いました。わたしには大勢の友達いましたが、その多くはジェニーのことをよく知りませんでした。彼女たちがジェニーに対して失礼な態度をとったことは一度もありませんでしたが、わたしはいつもジェニーとほかの友達との間に挟まれて身動きが取れないように感じていました。とても難しく、大きな決心が要ることでしたが、わたしは友達にジェニーのことを知ってもらえるように働きかけようと決めました。やがて友

達も、気まずい思いをせずにもっと気楽にジェニーとつきあえるようになりました。

今でもジェニーとわたしはいい友達です。一緒の高校に通い、ほとんど毎日顔を合わせます。彼女と一緒に廊下を歩くとき、わたしはすごく誇らしい気持ちになります。

わたしたちはだれでも正しい行いをする信仰を持つことができる、とわたしは確信しています。開拓者のように、わたしたちは皆、自分の受けるチャレンジを乗り越え、前進できるのです。

最後に、今日こうして自分の感じていることを皆さんと分かち合えたことに、心からへりくだり、感謝したいと思います。わたしにはこの大会とともに参加している、世界中の何千人ものすばらしい姉妹たちがいるということを考えて、自分のしていることはほんとうに正しいのだという確信がさらに強められます。また、この偉大な御業にあって、わたしたちは独りぼっちではないと改めて思い出します。ワードや学校で末日聖徒の若い女性があなた一人だとしても、何千人という若い女性があなたのすぐそばに立っていることを心に留めてください。わたしたちは皆、ともに成長し、強め合いながら、この危険に満ちた末日の時代を進んでいけるのです。この証と祈りを、イエス・キリストの御名によって申し上げます。アーメン。



義にかなった選択

ソルトレーク・リバーサイドステーキ, 中央第3ワード所属
フォノ・ラバタイ

母がわたしに言いました。「覚えておいてね。自分の決めること次第で、あなたは幸せにもなれるし、惨めにもなってしまうのよ。」



今日、皆さんの前でお話できる機会を、光栄に思います。このお話を頼まれたとき、なぜ自分にこの責任が与えられたのか疑問に思いました。そして少し足がすくむ思いがしました。やがてセミナーのクラスで、ある女生徒が開会に当たって短いお話をしてくれました。そしてこのような質問を投げかけました。「皆さんは、機会の中に困難を見いだしますか。それとも困難の中に機会を見いだしますか。」そのことについて考えた結果、今皆さんの前にこのように立っているわけです。

わたしは去年の夏、サモアから合衆国に引っ越して来ました。そのときは、故郷の島と友達から離れたくありませんでした。新しい高校に通うことになり、とても緊張しました。転校生であるにもかかわらず、わたしは女子バスケットボール・チームに入るため、テ

ストを受けました。そして入ることができたのです。わたしはバスケットボールが大好きです。コートを走り回っているときは、わたしがシュートを決めることをだれもが期待しています。そしてシュートが決まると、幸せな気持ちになれるのです。そしてもし失敗したときは、全然違う気持ちになってしまいます。

とにかく、わたしはチームに入っていたので、セミナーに行くことができませんでした。放課後は毎日練習があり、セミナーが放課後に行われていたからです。ですから、2学期の間ずっとセミナーに行けず、すっかりセミナーのことなど忘れていました。

そんなある日、母がセミナーについて聞いてきました。わたしは何も問題はないと答えました。しかし、母はすべて分かっていました。セミナーの教師から母あてに手紙が届いていたのです。母は言いました。「フォノ、あなたの行いが間違っているのは、自分で分かっているわね。ただ忠告だけしておくわ。でも決めるのはあなたよ。覚えておいてね。自分の決定次第で、あなたは幸せにもなれるし、惨めにもなってしまうのよ。」

このことについて、数週間考えてから、最終的な決断に到達することができました。バスケットボールをやめてセミナーに行く決心をしたのです。もしセミナーよりもバスケットボールを選んでしまったら、セミナーの卒業式で悲しく、恥ずかしい思いをすることになると分かっていました。自分が卒業できないのに、ほかの人が卒

業をしていくのを見たくないと思いました。これが母の言っていた惨めなことだったのでしょう。わたしは自分の優先順位を正すべきであると決心したのです。今でもバスケットボールがほんとうに好きですが、最優先すべきことは第一に行くべきなのです。来年また、バスケットボールのチームに入れるように願っています。そしてスケジュールを立てるときは、練習のせいでセミナーを休むことのないようにするつもりです。

現在はセミナーにまた通うようになっていました。すばらしい教師と楽しいクラスメートたちに恵まれています。正しい決断ができた自分に誇りを感じています。この経験を振り返るとき、マタイによる福音書第6章33節を思い起こします。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」

わたしの母国語で証を述べたいと思います。(「ラバタイ姉妹、サモア語で語る。」わたしはこの教会が真実であることを知っています。この教義は真実です。若い女性のプログラムに感謝しています。それは生活を向上していくうえで必要な、たくさんの方を学べるからです。)

わたしはこの福音が真実であることを知っています。これまでずっと、福音から多くの助けを得てきました。そして指導者はわたしたちを助けるためにいてくださいます。皆さんを愛しています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。



キリストに近づく

ソルトレーク・エミグレーションステーク、フェデラルハイツワード所属
アレハンドラ・ヘルナンデス

自分を変えるのは楽ではありませんでした。自分が間違っていたと認めるには謙遜になる必要がありました。



わたしは福音のある家庭で生まれ育ちました。ですから、両親はわたしに良い原則を教えようといつも心を配ってくれました。それにもかかわらず、わたしは中学時代に大きく変わってしまいました。もっと楽しそう、楽に見える道を歩むことにしたのです。わたしは友人たちの勤めるままにふさわしくないな服装をしたり、好ましくないパーティーに行ったり、時には悪い言葉を使ったりもしました。

同じころ、わたしは両親とうまくいけなくなり、聖文も読まなくなりました。皆の人気者でいることがわたしにとって何より大切でしたし、パーティーに行ったり友達と同じような服装をしたりすることが善いことのように思えたのです。でも実際は、いつもむなしくて、以前よりもっと孤独を感じるようになりました。いつも隠し事をしていたために、両親にしかられるのが

怖くて心に平安がありませんでした。自分の行動が間違っている、といつもささやくものがありました。それでも友達と行動を共にして、人気者でいる方を選んでいました。

教会で聞くことすべてが自分に向けているように感じ始めたのは、中学3年の終わりに近づいたころでした。ある聖餐会でのお話がわたしの状態にあまりにもぴったりだったので、母に「お母さん、わたしのことをあの人たちに何て言ったの」と尋ねたほどです。母は何も話していないと答えました。自分を変える決心をしたのはそのときでしたし、友達がわたしに背を向けたのもそのときでした。でも、わたしは両親がこれまでずっと正しかったことを認めました。そして、両親こそわたしの真の友であると気づいたのです。

自分を変えるのは楽ではありませんでした。自分が間違っていたと認めるには謙遜になる必要がありました。わたしは心から変わりたいと思ったので、「成長するわたし」プログラムに取り組み始めました。すると徐々に、経験を重ねるにつれて良い気持ちを感じるようになりました。時には、聖文を読むという項目のように信条の実践プランを終わらせるのがとても難しいこともありました。でも、ただ努力するだけで前より良い気持ちを感じられました。

初めて『モルモン書』を読み終えたとき、両親が教会について教えてくれたことが全部真実だったと感じ、キリストに近づくことができました。ローレルの「若い女性の信条」の実践プロジェクトに取りかかったときには、自

分に満足感を感じ始めましたし、「善い行い」のプロジェクトでは、人々への奉仕を通して、それまで探し求めてきた平安を感じるようになりました。

若い女性のメダルを頂いた今、努力のかがあったと思っています。わたしにとって、それは単なるネックレス以上のものです。実際、天のお父様へのわたしの愛を表しているからです。また、わたしの個人的なふさわしさの象徴でもあり、キリストがわたしに望んでおられることをこれからも行っていきたいという気持ちにさせてくれるからです。

わたしたちに与えられている善と悪を選ぶ機会に心から感謝しています。また、過ちから学べることにも感謝しています。わたしが今感じている喜びは、人々への奉仕を通してキリストの愛を感じ、自分の価値を知るときに得る喜びであり、学校での人気から得られる気持ちとは比較にならないものです。今では中学時代の友達はだれもわたしのことを覚えていないかもしれません。しかしキリストがわたしを御存じで、主へのわたしの愛を知っていてくださるのを何よりうれしく思っています。

わたしたちは降りかかる試練をきつと克服していけます。なぜなら、わたしたちはわたしたちを愛してくくださる天父の娘であり、天父はわたしたちが耐えられないほどの誘惑に遭うのををお許しにはならないからです。わたしは、ヒンクレイ大管長が預言者であるように、ジョセフ・スミスが真の預言者であったことを知っています。イエス・キリストの御名によってお話しいたします。アーメン。



現代の開拓者

中央若い女性会長

ジャネット・ヘイルズ・ベッカム

わたしたちはわたしたちを傷つけ、進歩を妨げるようなものから遠ざかる信仰を持たなくてはなりません。「信仰こめて、一歩ずつ」歩まなくてはならないのです。



今晚、わたしはこれらの3人の若い開拓者と皆さん一人一人に賛辞をささげたいと思います。現代の開拓者である皆さんはきっと、昔の開拓者と同じように、信仰を込めて、一歩ずつ歩んでいることでしょう。若い女性の皆さんが先頭に立って勇気を持ち、義にかなった行動を取る姿を目にして、わたしは皆さんのことをとても誇りに思っています。主に対する皆さんの信仰は、皆さんを模範とするほかの人々を強める助けとなっています。

使徒パウロは当時の若者に開拓者になるように勧めました。彼はこのように述べています。「あなたは、年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ、言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。」(1テモテ4:12) 今晚、わたしはこのテーマについてお話

したいと思います。

ビーハイブ、マイアメイド、ローレルとそれぞれ年齢は違っても、皆さんはほかの人の模範、すなわち信者の模範になることができます。福音の原則は昨日も、今日も、明日も同じです。戒めを守ろうという決意はどの世代でも同じです。

若い女性の皆さんは、昔の開拓者が直面したのと同じように困難な問題に直面することがよくあります。ある若い女性はこのように書いています。「開拓者たちが当時の苦難をどのように乗り越えたのか分からないと、人々が言うのを今日よく耳にしますが、天国にいる昔の開拓者たちの中には、現代のわたしたちについて同じことを言う人がきつといることでしょう。」

今日ほど信仰をもって歩む勇気が必要とされる時代はかつてありませんでした。ほとんどの皆さんにとって、信仰の第一歩はバプテスマでした。リーアンが『モルモン書』を読み、それについて祈り、福音の証を得たのは15歳のときでした。彼女は教会に入りたかったのですが、母親は許してくれませんでした。リーアンは宣教師と一緒に断食して祈りました。するとその日、母親は彼女が教会に入ることに同意し、バプテスマを受けることができました。それを知った友達には彼女をあざ笑い、のけ者にしました。彼女が通学していた、宗教団体の経営する学校の校長さえ、彼女を呼び出し、「君は愚かな誤りを犯した」と言いました。でも彼女は主に忠実でした。永遠の見地に立って考え、ついには義にかなった

若い男性と神殿で結婚するというすばらしい祝福を受けました。さらには彼女の母親も教会へ入りました。

カーラも家族の中で開拓者となりました。彼女の家族は教会の集会に出席していませんでした。8歳の誕生日が過ぎても、バプテスマを受けることができませんでした。でも忠実な開拓者たちが示したのと同じ勇気をもって、12歳のとき父親のところへ行って、バプテスマを受けてもよいか尋ねました。父親は承諾しました。今、彼女は神殿結婚し、開拓者としての力と高潔さ、信仰を自分の子供たちに注ぎ込んでいます。何とすばらしい開拓者の遺産を子供たちに与えていることでしょう。

ロッキー山脈を目指した初期の開拓者たちが犠牲を払ったのと同じように、リーアンやカーラ、そして皆さんのような現代の開拓者たちも、「主の家の山」(イザヤ2:2)という山を目指して歩んでいるのです。それは預言者イザヤが末日に建てられる神殿を指して言った言葉です。神殿でわたしたちは天父と神聖な聖約を交わします。それはわたしたちが地上で到達できる最も重要な目的地です。わたしたちが神殿で天父と神聖な聖約を交わすとき、天父はわたしたちが再び天父と一緒に住めるようになるのと約束しておられます。皆さんが神殿に入る計画を立て、その準備をするならば、友達や家族に示す模範を通して、皆さんは彼らの開拓者となるでしょう。

開拓者としての皆さんにとって大切な信仰の一步は、道に迷わせるような群衆について行かないようにすることです。また現代の開拓者は、道を踏み外さないようにほかの人を励まします。皆さんが率先して正しい道を歩むように導くとき、ほかの人は皆さんについて来るのです。

アリソンという若い女性は、人のうわさ話をしないようにしている彼女の友人の模範について話してくれました。彼女は友達にもうわさ話をしないように励まし、友達は彼女の言葉に耳を傾け、皆、うわさ話をするのをやめました。

レイチェルは10代になると、彼女の友達が不敬な言葉を頻繁に使うようになりまし。それは間違いであると知っていたレイチェルは、勇気をもってほかの人がしていることに反対し、自分はそのような言葉を使わないようにしました。そのような模範を通して、彼女は現代の開拓者となりました。

ダニエルはビーハイブのクラス会長です。彼女はすべての集會に出席することによって、クラスのほかの少女たちに良い模範を示そうと努めています。彼女の住んでいる地域では、麻薬や暴力が大きな問題となっています。彼女はこのように書いています。「あの人たちとはかかわらないようにしています。わたしは自分の人生を台なしにたくありません。わたしは正しいことを行い、主の手本に倣うことによって、戒めを守り、天父に従おうと決心したのです。」

もう一人の若い女性メリンダは、中学生のとき、友達と商店街を歩いていると、数人の男の子にお酒を飲まないかと誘われました。メリンダはどうしたらよいか分かりませんでした。彼女の親友が自分たちはお酒を飲まないと言いました。少年たちは二人をからかいましたが、気に留めませんでした。メリンダはこのように語っています。「〔わたしの友人〕はちょうど開拓者のように、ほかの人の先頭に立って進んでいます。末日の開拓者たちは日の栄えの王国へ向かう道を歩むようにわたしを導いてくれます。彼らにとっても感謝しています。」

若い女性の皆さんの多くはすばらしい模範を示しています。昼食時に独りで座っている人のそばに座り、その人と友達になるように努めている若い女性のグループをわたしは知っています。皆さんの中には、家族の問題を抱えながらも福音を守っている人がいます。また家族の中で自分だけが教会員の人もいます。大都市に住むある若い女性は、聖餐会せいさんに出席するためにバスを3回乗り継がなくてはなりません。

主は力と勇気にあふれた皆さんを愛しておられ、いつも皆さんに手を差し伸べておられます。皆さんは独りでは



ありません。わたしたちが義にかなった生活を送り、主に仕えるならば、主は「わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊みたまはあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう」（教義と聖約84：88）と約束しておられます。

わたしたちは若い女性の皆さんの何人かに、周囲にいる開拓者たちの貴い特質について話してくれるように頼みました。母親や父親、祖母や祖父、姉や兄など皆さんの家族についての話が度々聞かれたのは驚くべきことではありません。また、アドバイザーやキャンプディレクター、監督など、皆さんの指導者が開拓者として皆さんの目に映ることもよくあります。

ある若い女性はこのように述べています。「わたしは現代の開拓者である母にとっても感謝しています。母はアルコール中毒という家族の習性を断ち切りました。末日聖徒の親類と一緒に一夏過ごした後、15歳で教会へ入りました。学校で一生懸命勉強し、献身的な生活を送り、わたしたちの家族に福音に従った生活の祝福をもたらしてくれたのです。」

今晚、前に座っているわたしたちの神権指導者は、お父さんやおじいさんです。彼らの子供や孫は、きっと彼ら

を開拓者だと考えているでしょう。タリンという名の若い女性は、彼女のおじいさんは彼女の人生にとって開拓者であると言いました。彼の人生は厳しく、多くの試練や苦難に満ちていましたが、彼はどんなにつらいときも忠実でした。開拓者というのは、ほかの人の人生に影響を及ぼす人であると彼女は語りました。

今晚わたしたちは大管長会の一員であるトーマス・S・モンソン副管長のお話を聞けることに心から感謝しています。副管長は多くの人の生活に影響を及ぼした現代の偉大な開拓者です。わたしが中央若い女性会長に召されたとき、モンソン副管長からこのように言われました。「戒めを守るように若い女性に言ってください。そうすれば、天父が与えたいと心から願っておられるすべての祝福を受けられるのです。」わたしたちの預言者の言葉は、わたしたちの歩みが確かなものであることを確信する助けとなります。

ある若い女性はこのように言いました。「わたしの兄は〔デートを始めたとき〕、預言者の勧告に従おうと決心し、特定の人とデートしないようにしました。」特定の相手とつきあうのが当たり前という風潮の中で、多くの若者は生活しています。その事実をお兄さんはよく心に留めていたのです。彼



女はこう付け加えています。「兄はとも独創的な人です。またよく注意して高い水準を守り、良い友達とつきあいました。これはささいなことかもしれませんが、わたしの印象に残り、わたしがデートを始めたときに、同じことをする助けとなりました。義にかなった生活をするように努めていると、だれかほかの人の生活の英雄になっていることがあります。」

今年が初期の開拓者を思い起こす機会がたくさんあります。現代の開拓者であるわたしたち一人一人は、彼らと同じ性格と決意を持たなくてはなりません。わたしたちはわたしたちを傷つけ、進歩を妨げるようなものから遠ざかる信仰を持たなくてはなりません。「信仰こめて、一歩ずつ」歩まなくて

はならないのです。預言者の言葉に耳を傾け、主を愛し、主の戒めを守らなくてはなりません。

ステファニーという若い女性は、開拓者であることについて永遠の見地に立ち、このように述べています。「平原を歩いて横断し、ついに山中にシオンを見いだした開拓者たちのように、わたしも義にかなった生活を送るなら、ついにイエス・キリストと天父とともに住むという目的地に到達するでしょう。それはたやすい道ではありませんが、確かに可能であり、確かにこのわたしにもできるのです。」

若い女性の皆さん、皆さんにもできます。天父はそれを望んでおられます。皆さんが「神聖な聖約を交わし、神殿の儀式を受け、昇栄の祝福にあずかる」

(『若い女性指導者手引き』 p.4) 備えをするとき、皆さんの信仰と勇気と決意が皆さんを「主の家の山」、すなわち神聖な神殿へと導いてくれるでしょう。皆さんの信仰の歩みが、未来の世代の人々を祝福するでしょう。皆さんを通して、皆さんの子供や孫が、主に従う者に約束された主の祝福を受けることでしょう。皆さんが影響を与えられる人々の姿を今、皆さんが目にするのができたらどんなに素晴らしいでしょう。それは皆さんの友達だけでなく、皆さんの子供たちや孫たちなのです。

わたしは若い女性の皆さんを心から信頼しています。わたしは皆さんが困難と戦っている姿を目にしています。でも、皆さんの大多数は義にかなった生活を送り、勇気をもって「高く旗を揚げ」（「山のごとく強く」『賛美歌』167番）、若い女性の信条を守り、ほかの人に進むべき道を示し、困難なときにも互いに助け合っています。皆さんはほんとうに現代の開拓者です。わたしは皆さん一人一人を心から愛しています。また、天父が皆さんをいかに深く愛しておられるかを知っています。

何年も前に若い女性のキャンプに参加したときのことです。ある朝早く、若い女性と指導者たちと一緒に、彼らが「聖なる森」と名付けていた森の中で会合を開きました。彼らの顔を見ると、わたしは自分が素晴らしい祝福を与えられていることを悟りました。神から与えられた特質を見ることができのです。皆さんの顔を見ると、天父の目に映るもの、すなわち神から与えられた可能性が見えます。信者の模範になってください。信仰をもって前進し、神の証人になってください。

使徒パウロの言葉にもう一度耳を傾けましょう。「あなたは、年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ、言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。」(1テモテ4:12) 現代の開拓者として、わたしたちの信仰により永遠の命に至る道を歩むことができますように、イエス・キリストの御名により、お祈りいたします。アーメン。

人は皆開拓者です

第一副管長

トーマス・S・モンソン

若い姉妹の皆さん、わたしたちは善を行うことについて、実際に努力してみなければどれほどのことができるかを知ることができません。



こうして若い女性の皆さんがこの会場に集っている光景は実にすばらしいものです。開拓者時代に建てられたこのタバナクルに集まっている皆さんだけでなく、世界のほとんどの地域で、礼拝堂あるいはほかの会場で数万人の姉妹たちがこの集会に参加しています。わたしは皆さんにお話する責任を果たすに当たって天よりの助けがあるように祈っています。

今晚これまで行われたプログラムで、指導者の皆さんはとても立派に責任を果たしてくださいました。わたしたち男性は、これが女性だからこそできたことだと考えるべきかもしれません。この大会のための準備に携わってきた方々、またプログラムに参加してくださった方々に「大成功です。おめでとう」と申し上げたいと思います。

ヘンリー・ワーズワース・ロングフェローは有名な詩の中で若人と将来に

ついて次のように述べています。

若人は何と美しいのだろうか。彼らの幻想、抱負、夢は明るく輝いている。あらゆることが始まる書物、終わりのない物語の中で、一人一人の若い女性がヒロインであり、一人一人の男性が友である。¹

大管長会は1942年4月6日に次のような声明を発表しています。「清く汚れない若人は何とすばらしくまた天使に近いことでしょう。このような若人はこの世において言葉に表すことができないほどの喜びを受け、次の世においては永遠の命を受けるでしょう。」²

わたしたちは、1847年当時の開拓者について、大平原を横断してソルトレーク盆地に到着するまでの旅について、多くの話を聞きました。150年記念を祝う今年、わたしたちはさらに多くの話を耳にするでしょう。

開拓者に関して話す人々が一樣に、それぞれ自分の先祖に思いをはせることはごく当たり前のことです。それぞれの話には開拓者が示した模範が紹介されており、そしてそれらの模範は「後から来る人のために道を示す、先を行く人」³という開拓者の定義にびつたりと一致しています。もしすべてではないとすれば、少なくとも一部の開拓者は後から来る人に慰めと安堵の気持ちを与えるために、また彼らが見いだした新しい信仰がラッパの音のように呼びかけた召しにこたえるために、大きな犠牲を払いました。

わたしの曾祖母のうちの二人は典

型的な開拓者でした。ギブソンとセシリア・シャープ・コンディーンはスコットランドのクラックマナンに住んでいました。炭坑関係の仕事に従事していました。二人はふるさとをこよなく愛し、そのふるさとに安らぎのある家を持ち、親戚や友人に囲まれて平和な毎日を過ごしていました。末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師からメッセージを聞いた二人は、心の底から改宗しました。シオンへ集合する呼びかけを耳にした二人は当然のようにその呼びかけにこたえました。

二人は財産を売り払って、危険が待ち受ける大西洋横断の旅に備えました。この世の持ち物をすべて小さなトランクに詰めると、二人は5人の子供を連れて船に乗り込みました。家族は8週間に及ぶほぼ5,000キロの船旅に出たのです。小さな船を取り囲む海上には家族の安全を保証するものが何もありません。夜も昼も彼らが目にしたのは海だけでした。食糧も水も満足にない、長くて退屈な日々が続く8週間の航海でした。

このような試練の中で、息子のナサニエルが病気にかかって、亡くなりました。わたしの曾祖母は、皆さんの両親が皆さんを愛しているのと同じように、ナサニエルを愛していました。息を引き取った息子の目が閉じたとき、彼らは心が引き裂かれる思いだったでしょう。両親がどれほど悲しみに打ちひしがれようとも、海の規則を曲げることはできません。ナサニエルの遺体は鉄のおもりが付いたキャンバスに包まれて、海中に葬られました。その地点から船が遠ざかる時の心の痛みは、そのような目に遭った親にしか分からないものです。ギブソン・コンディーンとその妻が慰めを与えられたのは次のような言葉でした。「わたしの思いのままにではなく、天父の御心のままになさってください。」

歴史家は、ブリガム・ヤングが組織し、導いた1847年の最初の開拓者団を、合衆国史上を飾る偉業の一つに数えています。大勢のモルモンの開拓者は病氣、長旅、飢えに苦しんだ末に、世を去りました。幌馬車とそれを引く家畜

を持っていなかったために、約2,000キロの行程を文字どおり歩いて、手車を押したり引いたりして大平原と山脈を越えて来た人々もいました。

長く苦しい旅がようやく喜ばしい終わりに近づくと、人々の心は喜びに満たされました。疲れ切った足と体に新たな力がわいてきました。

開拓者たちが記したほこりまみれの日記に、このような感動的な言葉が残されています。「わたしたちは頭を垂れへりくだって全能の神に感謝の祈りをささげました。そしてこの地を神の民が住む場所として神に奉獻しました。」⁴

わたしたちは信じられないような苦難を堪え忍んできた開拓者たちを尊敬しています。彼らの名前を称賛し、彼らがささげた犠牲に思いを寄せています。

現代のわたしたちはどうでしょうか。わたしたちは開拓者のような経験をすることがあるでしょうか。未来の世代の人々はわたしたちの努力や模範に対して感謝の気持ちをもって思い起こすようなことがあるでしょうか。今晚様々な場所に集っている若い女性の皆さん、皆さんは勇気と信仰と慈愛と強固な意志において開拓者になることができます。

皆さんはお互いに強め合うことができます。目立たない人々に注意を向ける能力を持っています。皆さんが見るべき目を持ち、聞くべき耳を持ち、感じるべき心を持っていれば、同年代の人々に手を差し伸べて、助け出すことができます。

箴言には次のような勧告が記されています。「あなたの足の道に気をつけよ……。」⁵

皆さんのような若い人々に自分の証^{あかし}がどれほどの強さと力を持っているかということに気づいていただきたいと思えます。数年前、わたしはチェコスロバキアへ行きました。国家が危険な状態に陥り、国民の自由が制限されていました。このような状況にもかかわらず首都プラハでは靈感あふれる集会が開かれました。わたしはその集会でオルガという名の若い女性に会いまし

た。当時、彼女は25歳くらいでした。彼女はそれまでの2年間に自分と同年代の16人の青年男女を教会に導いていました。わたしはその青年たちに会って、彼らが心から福音に改宗していることを知りました。彼らがチェコスロバキアにおける教会の基礎を築く人々になることを感じました。彼らが福音が真実であることを知り、証の持つ力を知ったのはすべてオルガからでした。わたしはオルガに賛辞を贈り、進んで証を分かち合った彼女に感謝の言葉を述べると、彼女はこう言いました。「モンソン兄弟、わたしは今ほかに、14人の人々に福音を紹介しています。」後にその14人のほとんどが教会員になったことを知らされました。人々にキリストのもとへ来るように勧める彼女の目にはキリストの光が輝いていました。

若い姉妹の皆さん、わたしたちは善を行うことについて、実際に努力してみなければどれほどのことができるか知ることができません。わたしたちの証はほかの人々の心を貫いて、彼らに祝福をもたらすことができます。この祝福は現在の病める世の中において彼らに勝利を収めさせるものであり、彼らを昇栄に導くものです。

わたしの数年来の友達に、ジャミ・パーマーという名の10代の少女がいます。ジャミは12歳のときに癌^{がん}の宣告を受け、それから数か月にわたって激しい苦痛を伴う治療を受けました。現在の彼女は快活で、美しい女性となっています。自信と信仰をもって未来に立ち向かっています。

癌の宣告を受けたジャミは11時間に及ぶ手術を受けた結果、足の切断を免れることができました。しかしその後、数か月間にわたって化学療法を受けなければなりません。その間の彼女は将来の希望を持たない暗い日々を過ごしました。若い女性のクラスで長い間計画してきたティンパノゴスの洞くつへのハイキングにはとても参加できないと彼女は考えていました。ジャミは自分のことを気にしないで計画を実行してくれるようにと友達に言いました。途切れがちの声には失意の様子

がありありと浮かんでいました。けれども、若い女性の仲間たちは力を込めてこう言ったのです。「いいえ、ジャミ、あなたも一緒に行くのよ。」

「でも、わたしは歩けないわ」と彼女は苦しそうに答えました。

「だったらジャミ、わたしたちが頂上まで連れて行ってあげるわ。」そして彼女たちはそうしました。

このハイキングは今ではとても良い思い出となっています。けれども、それは単に思い出だけにとどまるものではありませんでした。スコットランドの詩人ジェームズ・バリ―は「神は、わたしたちが人生の12月に6月のばらを開かせることができるよう、思い出を与えられた」と言っています。これらの若い女性は皆、慈しみ深い天父が彼女たちに「よくやった」という承認のほほえみを投げかけ、喜びを表されたその記念すべき日を決して忘れないだろうと思います。

ジャミは現在、ピアニスト、音楽家、運動選手として活躍しています。また「メイク・ア・ウィッシュ（希望をかなえる）財団」の役員と広報担当者を務めています。

今晚の話を準備するためにわたしは靈感を求めて聖典を開きました。そしてよく引用される聖句に目が留まりました。主は「わたしのところにききなさい⁶と言われました。そして、「〔きて〕……わたしに学びなさい」⁷、「わたしに従ってきなさい」⁸と言って招いておられます。わたしたちが主のみもとへ行くように、わたしも願っています。

皆さんのお父さんとお母さんを敬うように勧告します。ここで、母親を敬った一つの模範を紹介したいと思います。何年か前に、6人の子供の母親であるルース・フォーソンは生死にかかわる大手術を受けました。彼女を心から愛する夫と、3人の娘と3人の息子が病院に集まりました。ところが家族は、担当の外科医と看護婦から、担当者たちがフォーソン姉妹に十分な手を尽くすので、家に帰って待つようにと言われました。家族は病院のスタッフにお礼を言いました。けれども、少なくとも家族の一人は常にフォーソン姉妹の

そばにいることを許してほしいと頼みました。一人の娘が言った次の言葉に全員の気持ちが表されています。「お母さんが目を覚まして、手を伸ばしたときに、わたしたちはそばにいたいのです。そのときに、お母さんがわたしたちの手を握り、わたしたちの笑顔を見られるようにしてあげたいのです。わたしたちがお母さんにかかる言葉を聞かせてあげたいし、わたしたちの愛を感じさせてあげたいのです。」皆さんのお父さんやお母さんを敬ってください。9

ユタ州クラークストンの墓地には、『モルモン書』の3人の証人の一人であるマーティン・ハリスが埋葬されています。マーティン・ハリスの堂々とした美しい記念碑に隠れるようにしてほかの人々の墓が建てられています。その中の一つの墓碑には次のような愛情あふれる言葉が刻まれています。「我が家の光がここに消える。愛する声はもう聞こえない。家族の心にできた空白は埋められることがない。」

愛する若い姉妹の皆さん、皆さんの家の光が行ってしまうまで待つことのないようにしてください。愛する人が世を去ってしまって初めて気づくのではなく今、「お母さん、愛しています。お父さん、愛しています」と言葉をかけてください。今こそが考える時であり、感謝の言葉をかける時です。皆さんはこの両方を行うことができるとわたしは信じています。

皆さんが成功し、幸せになるための基本となる勧告はこれです。「注意して友達を選びなさい。」教会のワードとステークを幾つか選んで調査を行ったところ、非常に大切な事実が浮かび上がってきました。神殿結婚をした人を友達を持つ人の多くは、神殿結婚をしています。これに対して神殿結婚をしなかった人を友達に持つ人の多くは、神殿で結婚していません。このように友達の影響力は、両親の熱心な説得や、クラスでのレッスン、神殿がある地域に住んでいることによって受ける影響よりも、はるかに大きく強いのです。

若い女性の多くの指導者がこの大会に出席し、あるいは多くの会場で大会



の模様をテレビやラジオを通じて見聞きしてくださっていることにわたしは喜びを感じています。これから紹介する有名な詩はもともと少年たちの指導者を対象に書かれたものですが、これを若い女性と若い女性の指導者向けに言葉を変えて読んでみたいと思います。

彼女は顔に太陽の光を浴びながらたった一人で交差点に立ちました。彼女はこれから行く世界について何も知りませんでした。彼女は、人類が参加する気高い競争に臨んでいました。けれども今、目の前の道は東と西へ伸びていました。彼女はどちらの道を行けばよいのかわかりませんでした。そこで、彼女は不運が待っている道を選びました。そして、競争に負け、栄冠を手にすることはできませんでした。交差点でどちらへ行くべきかを教える人が立っていなかったために、恐ろしいわなにつかまってしまうました。別の日に、まったく同じ場所に立った少女がいました。彼女は高い理想をもって立ちました。彼女も人類が参加する気高い競争に臨んでいました。彼女も良いものを求めていました。しかし、そこには道を知っている人が立っていました。その人はどちらへ行くべきかを

彼女に教えました。彼女は不運が待っている道を選びませんでした。そして、競争に勝ち、栄冠を手に入れました。彼女は今、正しい道を順調に歩んでいます。交差点に立って、正しい道を教える人がいたからでした。10

若い女性の気高い指導者である皆さん、皆さんが教える相手は人生の交差点に立っています。スタンフォード大学の記念講堂の壁に、この真理を表す言葉が次のように刻まれています。「わたしたちは、永遠でないものはすべて短すぎることを、無限でないものはことごとく小さすぎることを、青年に教えなければならない。」

ヒンクレイ大管長は次のように述べて、わたしたちの責任を強調しています。「この業には決意が求められます。自分を犠牲にして一心に尽くすことも必要です。わたしたちは神の息子、娘たちの、まさに命にかかわる永遠の一大戦に従事しているのです。わたしたちは負けていません。勝っているのです。わたしたちが信仰を強く持ち忠実であるならば、今後も勝利を取めるでしょう。……主が命じたもうことには、わたしたちに信仰さえあれば、できないことは何一つありません。」11

わたしは、若い女性のクラスの教師と生徒の間に生まれたきずなに関する人間のドラマにいつも感動を覚え



す。恐らく皆さんも同様だと思います。若い女性のピーハイブのクラスに出席し始めた少女の物語を彼女自身の言葉で紹介してみます。

「わたしが12歳の誕生日を迎える数か月前のある日、姉と共同で使っている鏡台の上にカードが置かれていることに気づきました。カードには『わたしは来年あなたがミュウチャルに進級するクラスの教師をしています。すばらしい1年間を一緒に過ごせるように願っています。』そして、『バウア・ディー』とサインがしてありました。

わたしはすぐに、女の子は皆、バウア・ディーを愛していることを知りました。女の子たちは彼女の家を訪問し、教会では一緒に座りたがり、毎週水曜日のミュウチャルが終わっても彼女と話したくて残っていました。

もう長い年月がたっているのに、バウア・ディーと最初に会ったときのことをよく覚えている自分に気づいて驚いています。その最初の夕べ、わたしはミュウチャルに出席するためにワードの玄関に向かって歩いて行くと、彼女はわたしを歓迎するために待っていました。そのときに初めて彼女の笑顔を見ました。それは彼女を、普通の女性から美しい女性に変える笑顔でした。『ようこそ』と彼女は言いました。『わたしのクラスに来てくれてほんとうにうれしいわ。きっとすばらしい経験をするわよ。』プライマリーからミュウチャルに移るための調整期間などというものは、わたしにはまったくありませんでした。わたしはその瞬間からミュウチャルにすっかり溶け込んでいました。

それから数週間のうちにわたしもバウア・ディーのファンになりました。その当時は彼女がどれほど人から好かれているかを考えたことはありませんでした。彼女の人気はどれほどすごかったかを実感したのは何年もたってからです。彼女はわたしたち一人一人をほんとうに、心から気遣ってくれました。わたしたちも彼女が関心を寄せてくれていることを知っていました。

彼女は腎炎と呼ばれる病気にかかりました。透析で治療できることになり、腎臓移植によって治療する機会が多い病気となったのはそれから数年後のことでした。けれども、バウア・ディーの場合は治りませんでした。奇跡は起きませんでした。彼女は安らかに世を去りました。27歳でした。

葬儀が終わって、わたしたち少女は墓地で遺体を埋めるために掘った穴の周りに集まって泣いていました。そして、バウア・ディーが最後の休息の地に入った記念日に、わたしたちは一生ここを訪れて、彼女の思い出を死なせないようにしようと誓い合いました。

少女たちの教師であったバウア・ディーが亡くなってから40年がたちました。わたしたちの誓いは現在も続けられています。生徒だった一人の姉妹は次のように言っています。『わたしはどこへ行っても、何をしても、バウア・ディーの何かがわたしと昔の仲間だった姉妹たちについて来るの。』バウア・ディーはわたしたちと、わたしたちが彼女から学んだ教訓を分かち合った人々の中に今もなお生きています。』ヘンリー・ブルクス・アダムスは「教師は永遠の影響を及ぼします。その影響がどこで終わるかは、教師自身にも分かりません」と言っています。¹²

今晚わたしの声を聞いているすべての人々に、これが天父の御業であることを知っていただきたいと思います。天父は皆さんを愛していらっしゃる。皆さんの祈りを聞いていらっしゃいます。天父は皆さんの思いと行いを御存じです。わたしはキリストがわたしたちの贖い主であられることを証します。わたしはゴードン・B・ヒンクレー大管長が神の預言者であることを

知っています。

『モルモン書』のアルマ書から、皆さんに対するわたしの愛を述べている聖句を引用して、この話を終えることにします。「あなたがたが神の王国に通じる道に在ること、まことに、神の道をまっすぐにしていることが、わたしには分かる。」¹³

道を先に進んで、後に続く人々のために道を示している皆さんのような高貴な開拓者に対して、わたしは「それを受けなさい」¹⁴と強くお勧めします。イエス・キリストの御名によりお話しします。アーメン。

注

1. ヘンリー・ワーズワース・ロングフエロー "Morituri Salutamus" 「まさに死のうとするわたくしどもが陛下にごあいさついたします」『ロングフエローの全詩集』p.311より
2. 「大管長会メッセージ」1942年4月6日ソルトレーク・シティで開催された第112回年次大会の最後の部会でJ・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長が読み上げた。Improvement Era【インブルーメント・エラ】1942年5月号、p.273
3. Oxford English Dictionary, s.v. "pioneer" 【オックスフォード英語辞典】"pioneer" の項、
4. エラスタス・スノー、Discourse on the Utah Pioneers【ユタの開拓者に関する説教】p.46
5. 箴言4：26
6. ヨハネ7：37
7. マタイ11：29
8. ルカ18：22
9. 出エジプト20：12参照
10. "My Chum" Best-Loved Poems of the LDS People【わたしの仲よし】『末日聖徒愛唱詩集』p.313より 改作
11. 「勝利の戦い」『聖徒の道』1987年1月号、p.50
12. The Education of Henry Brooks Adams: An Autobiography【ヘンリー・ブルクス・アダムスの教育—自叙伝】p.280
13. アルマ7：19
14. 『賛美歌』（英文）255番

新たに指導者が召され、 3つの新しい七十人定員会が組織される

第167回年次総大会は、4月5日土曜日の午前に幕を開け、次のような管理上のおもな決定がなされた。中央幹部が新たに12人召された。3つの新たな七十人定員会が組織され、それに伴って134人が、新しく発表された地域幹部七十人の職に就いた。さらに、新しい中央扶助協会会長会の支持と中央若い女性会長会の新しい副会長会の支持も行われた。

七十人第一定員会には以下の4人の幹部が召された。ゲリー・J・コールマン、ウィリアム・ロルフ・カー、ジョン・M・マドセンの各長老。(3人はともに、これまで七十人第二定員会で奉仕してきた。) カール・B・プラット長老。(新中央幹部。これまで地域幹部、また南アメリカ北地域会長会副会長として奉仕してきた。)

ゲリー・J・コールマン長老(55歳)は、1992年6月に七十人第二定員会に召され、現在はメキシコ南地域会長会で第一副会長として働いている。北アメリカ北西地域会長会で第一副会長を務めるウィリアム・ロルフ・カー長老(61歳)は、1996年6月に七十人第二定員会に召されている。ジョン・M・マドセン長老は(57歳)は、1992年6月に七十人第二定員会に召され、現在はメキシコ北地域会長の任にある。

七十人第二定員会に召された11人の新中央幹部は以下のとおりである。リチャード・D・オールレッド、エラン・A・コール、リチャード・E・クック、デュエイン・B・ジェラード、ウェイン・M・ハンコック、J・ケント・ジョリー、リチャード・J・メイNZ、デール・E・ミラー、リン・G・ロビンズ、ドナルド・L・ステリー、リチャード・E・ターレー・シ

ニアの各長老。

中央扶助協会会長を務めてきたイレイン・L・ジャック姉妹は、副会長のチエコ・N・岡崎姉妹、アイリーン・H・クライド姉妹とともに解任となった。ジャック姉妹と二人の副会長は、1990年から同会長会で奉仕してきた。代わって、メアリー・エレン・ウッド・スムート姉妹が中央扶助協会会長に、バージニア・アーリ・ジェンセン姉妹が第一副会長に、シェリー・L・デュー姉妹が第二副会長として支持された。

また、ご主人が伝道部長として働くよう召されたボニー・D・パーキン姉妹に代わって、キャロル・B・トーマス姉妹が中央若い女性第二副会長に召された。

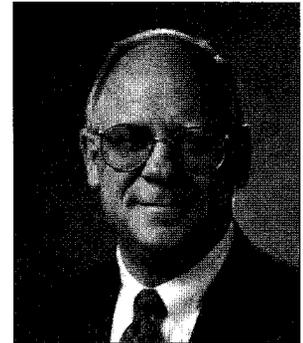
七十人の第三、第四、第五定員会を組織することを発表した際、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、これらの定員会で奉仕する地域幹部は自分自身の職業を従来どおり続け、自宅に住みながら、教会への奉仕という形で責任を果たしていくことを伝えた。こう述べている。「[これらの幹部は] 今後、七十人会長会の管理の下に、定員会を構成することになります。彼らは地域幹部七十人として、……奉仕の務めを果たしていきます。」(本誌p.6参照)

ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オーストラリア、太平洋地域で働く地域幹部は七十人第三定員会の会員となり、メキシコ、中央アメリカ、南アメリカの地域幹部は七十人第四定員会の会員となり、合衆国とカナダの各地域で奉仕する地域幹部は七十人第五定員会の会員になる。

「これらの定員会が定められ、必要に応じて全世界で召され機能する地域会長会と地域幹部七十人の組織ができ

たことにより、教会のいかなる成長にも対応できる態勢が整いました。」ヒンクレー大管長はそう語った。

七十人の第三、第四、第五定員会で働くよう召された134人の幹部(本誌pp.7-8参照)のうち、128人はそのときすでに地域幹部として奉仕していた人々である。□



七十人
カール・B・プラット長老

七十人第一定員会会員に召されたカール・B・プラット長老は、以前46歳にしてエクアドルのキト近くに位置する標高約6,100メートルのコトパクス山に登頂した経験にとっても満足しています。しかし宣教師としてアルゼンチンの地で福音への証を得た喜びは、登頂で得たときよりもはるかに大きく、今なお心に刻まれています。

「証は、^{みたま}御霊の働きによるものです」とプラット長老は語ります。

「ある日、『モルモン書』を研究していると、御霊が語りかけるのをはつきりと感じました。その経験は今も鮮明に覚えています。そのとき、学んでいたこの書物が真実であると分かったのです。それ以来、『モルモン書』が真実かどうかと疑念を抱いたことは一

度ありません。』

十二使徒定員会のパーリー・P・プラット長老の4代目の子孫として、カール・B・プラット長老は1941年10月30日、メキシコのモンテレーにおいてバートン・プラット、ラバーン・ウェットン・プラット夫妻のもとに生まれました。1943年から1947年までの3年間に、プラット長老の先祖が数世代にわたって暮らした土地であるメキシコのコロニアデュブランに住んでいました。1947年以降アリゾナに移り住み、アリゾナ大学で学士号、アリゾナ州立大学で法律の学位をそれぞれ取得しています。1969年、プラット長老はカレン・アン・ヨーマンとアリゾナ神殿において結婚しました。彼女はその1年前の1968年、プラット長老の手によってバプテスマの儀式を受けていました。

ウルグアイのモンテビデオ、アルゼンチンのブエノスアイレス、ペルーのリマ、エクアドルのキトといった南アメリカの諸地域で19年間弁護士として従事した後、今日まではソルトレーク・シティーを中心にカートン&マッコスキー法律事務所でも働いていました。また教会の南アメリカ北地域で法律相談も行っています。

家庭では10歳から25歳までの8人の子供を育てる傍ら、南アメリカの孤児たちの里親として、栄養失調で悩む多くの子供たちの健康回復のために世話を続けてきました。

「福音によって希望がもたらされるため、望みを失うことはない学びました。」プラット姉妹はこのように語ります。

1988年から1991年までの3年間に、プラット長老はスペインのセビーリヤ伝道部で、伝道部長を務めました。このほか、祭司定員会アドバイザー、副ステーキ会長、地区代表も務め、七十人第一定員会会員に召されたときは、南アメリカ北地域第二副会長、ならびに地域幹部の任にありました。

教会での奉仕についてプラット長老は次のように述べています。「福音に従って生活すれば、わたしたちの生活は簡潔なものとなります。愛をもって奉仕を行うなら、与えられた召しによ

って喜びがもたらされます。」□



七十人

リチャード・D・オールレッド長老

七十人第二定員会会員の召しを受けたとき、オールレッド長老は「圧倒される」思いを感じ、次のように語りました。「妻とわたしは、主を愛し、主の御業に携わること喜びを感じています。」主の業への奉仕は、オールレッド長老と妻のゲイにとって生き方そのものとなっています。

1979年にアメリカ空軍の指導教官を退職して以来、数多くの会社で部長職、社長職を歴任し、企業経営陣の一員として働いてきました。しかし教会から専任で奉仕する機会を与えられる度に退職した結果、企業での在職期間はどれも長くはありませんでした。グアテマラのケサルテナンゴでは伝道部長を務め、後にグアテマラ・シティーの宣教師訓練センターの所長に召されました。そして任期を終えた2年後に、今度はグアテマラ・シティー神殿の神殿長に召されました。

召しを果たすオールレッド長老を傍らで助ける姉妹の献身的な働きを、オールレッド長老は次のように話しています。「たとえどの地に召されようと妻はきっとまた素晴らしい働きをしてくれるでしょう。」

中央幹部に召されたとき、オールレッド長老はサンアントニオ・テキサス北ステーキ会長の任にありました。また、これまでに地区代表、ステーキ祝福師、監督を務めてきました。

1932年8月3日、ソルトレーク・シティーに生まれ、ユタ州立大学で学士号を取得後、アーカンソー大学で経営学

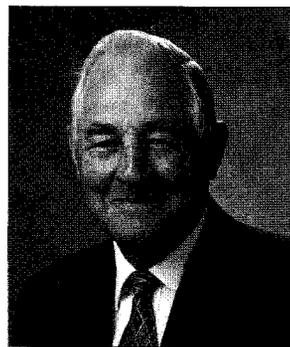
の修士号を取得しました。

1956年12月19日、ローガン神殿において、ゲイ・バナーと結婚し、3人の子供と12人の孫に恵まれています。

オールレッド姉妹は次のように語ります。「主人は教会の奉仕のために常に全力を尽くし、ともに働く人々を愛しています。そして彼らにもその愛は伝わっています。そして人々と助け合って働くことのできる素晴らしい才能に恵まれているのです。」

オールレッド夫妻は空軍での経験、そして教会での奉仕を通して、命じられた任地へ忠実に赴くという習慣を次第に身に付けました。そのため、今回の新たな召しによって夫妻の現在の生活が大きく変化することはありません。「召された任地にはどこへでも赴くという決意はずっと以前から変わりません」とオールレッド長老は語ります。

新たな召しに伴って待ち受けている事柄が数多くある中で、オールレッド長老は今後の目標として、大管長会と十二使徒定員会から新しく召された七十人に指示として与えられた「証を述べ伝え、シオンを堅固に築く」ために全力を尽くすことを挙げています。□



七十人

エラン・A・コール長老

新たに七十人第二定員会会員に召されたエラン・A・コール長老は、執事のときに神権を行使して奉仕することを学びました。馬車に乗って会員の家々を訪問し断食のささげ物を集めたことを覚えています。

実際、教会での奉仕はコール家の伝統となっています。コール長老の父は、メキシコのコロニアデュブランにある

ワードの監督会で50年にわたって奉仕し、そのうち29年間は監督としての責任を果たしました。コール長老と姉妹は模範によって、この家族の伝統を子供たちに受け継いできました。

コール長老は、これまで監督、ステーキ高等評議員、ステーキ副会長(2度)、ステーキ祝福師、伝道部長(メキシコ・シティー伝道部、1970年-1973年)、宣教師訓練センター所長(メキシコ宣教師訓練センター、1995年-1996年)の責任を務めました。

コール長老は1929年12月2日に、メキシコのコロニアデブランで生まれました。メキシコのコロニアフアレスにあるフアレスステーキアカデミーを卒業後、合衆国へ移り、ブリガム・ヤング大学で学士号を、その後ニューヨーク大学で経営学修士号をそれぞれ取得しています。

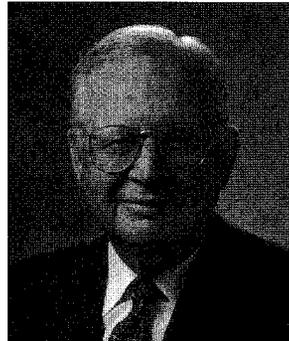
彼はビジネスの面でも、デパートの経営から商用地の開発、宅地の造成事業まで意欲的に取り組み、また生涯を通じて地域の活動にも積極的に参加しています。しかし、経歴の中心を成すのは1994年12月の退官まで務めたブリガム・ヤング大学での教員の職です。その間、1980年代初めには、メキシコで教会教育部指導主事を3年間務めました。

1955年8月24日に、ソルトレーク神殿でキャサリン・グロースベックと結婚しました。6人の息子と3人の娘、そして七十人に召された時点で23人の孫に恵まれ、さらに2人の孫が間もなく誕生する予定です。

「主人の趣味は仕事です」とコール姉妹は話しています。姉妹は7年前、息子たちと一緒にプレーできるようにと、コール長老にゴルフクラブのセットを贈りましたが、実際にクラブが使われたのはこれまでわずか3度しかありません。しかしコール姉妹は、長老の仕事に対する熱心さは人々への愛の表れであり、召しを果たすうえで望ましい特質だと語っています。

福音に対するコール長老の信念は、妻そして子供たちと永遠の関係を築くのを最優先させることです、とコール姉妹は話しています。コール長老はこ

の言葉が事実であることを次のように表現しています。「福音はわたしの人生において常に最優先され、ほかの何にも増して最も大切なものでした。」□



七十人
リチャード・E・クック長老

「わたしたちは生まれながら証あかしを持っているわけではありません。」リチャード・クック長老はそう語ります。「証は育てなければならぬし、奉仕によって成長します。」

クック長老自身の証も、長年にわたる奉仕の機会を通して成長しました。クック長老はこれまで、ステーキとワードの若い男性会長、監督、ステーキ高等評議員、ステーキ副会長、宣教師、伝道部長を経験しました。1994年にメアリー夫人とともにモンゴルへ伝道に召され、伝道部が開設されたときには初代伝道部長になりました。

クック長老は、教会が初めて組織された国で伝道部長を務めたこの経験が、新しい召しにあって彼の財産になるであろうと言います。政府と良い関係を築いて、人々が教会を理解できるように助ける必要があるからです。

重い任務に耐える力は、クック長老が仕えるうえでもう一つの原動力になると夫人は言います。それはクック長老が自分自身に高い期待を課し、ほかの人にも勤勉に働く動機づけのできる人だからです。

クック長老はフォードに長年勤務し、退職する時点では、副代表監査役の職にありました。在職中は、同じ会社に働く若い教会員たちとともに働く機会があり、デトロイト周辺のワード、ステーキにおいて彼らがリーダーシップ

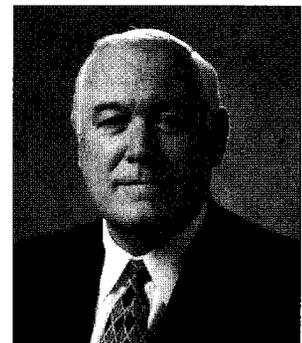
を発揮できるように見守ってきました。

クック長老は、1930年9月7日、ユタ州プレザントグローブに生まれ、ブリガム・ヤング大学で学士号とノースウェスタン大学で経営学修士号を取得しました。

1950年9月13日、ソルトレーク神殿でクレア・サーリーと結婚し、3人の娘と1人の息子が13人の孫をもうけています。クレア夫人は1984年に死去し、その後、1988年7月16日、ソルトレーク神殿でメアリー・ニールセンと結婚しています。

クック長老は大変なゴルフ好きですが、一家がモンゴルへ伝道の召しを受けたときは、彼は気分転換と運動を兼ねてクラブを1本だけ持参し、後はすべて残して行きました。しかし、一度もこれに触れることはありませんでした。あまりにも伝道の業に集中していたからです。

「わたしは教会を心から愛しています。」クック長老はそう語ります。「長年わたしは教会が人々の人生に、どれほどすばらしい影響をもたらすのかを、この目で見てきました。」クック長老は七十人第二定員会に召されたとき「言葉に表せないほどのショック」を受けましたが、今ではその業に携わることを心待ちにしていると言います。「わたしは主にお返しができることを、とても喜んでいきます。」□



七十人
デュエイン・B・ジェラード長老

1971年4月1日、パイロットの仕事で退職したデュエイン・B・ジェラード長老は、七十人第二定員会で働く召しを受けました。ジェラード兄弟は、元デルタ航空でシステム

部長として働いていました。

1938年4月22日に生まれたジェラード長老は、ソルトレーク・シティー近くのテラーズビルで育ち、ユタ州立大学に入学しました。大学3年生のときに、子供時代からの恋人ケイ・ベニオンと結婚しました。卒業後アメリカ空軍に入隊し、パイロットの訓練を受けます。任地の一つにベトナムがあり、ここでの実戦滞空記録は350時間に及びました。空軍における勤務の関係で、フロリダ、オクラホマ、ハワイと転勤し、最後にユタ州ヒル空軍基地に戻りました。

空軍を退職すると同時に、ジェラード兄弟は、後にデルタ航空と合併するウェスタン航空のパイロットとして働くようになりました。ユタ州ケイズビルでステーキ会長の召しを受けましたが、その2年後、ウェスタン航空からの依頼により、ロサンゼルス航空運行管理副社長の責任を引き継ぎました。ジェラード兄弟は2年半にわたって南カリフォルニアまで通勤し、ステーキ会長を務める一方で、飛行機の安全航行のために働きました。

その間ジェラード長老とケイ夫人は、自分たちの子供を4人を育て上げただけでなく、亡くなった良き友人の残した子供4人の里親にもなりました。「わたしは、寝室がちょうど7つある家を設計し、建てました。当時、子供は4人でしたが、あと4人の子供が寝るスペースがあったのです。」

4人の子供を里子として迎えるという決定は、ジェラード長老が若いときに学んだ方法、すなわち祈りを通して下されました。19歳のとき車で大学に戻る準備をしていると、父親が彼の車の方に歩いて来て、デュエインの肩に手をかけるところ尋ねた。「デュエイン、毎日祈っているかい。ひざまづいて、声を出して祈っているかい。」それが父親の口から聞いた最後の言葉になってしまいました。その夜から1週間たつたうちに父親は心臓まひで亡くなったからです。

ジェラード長老は次のように語っています。「父の言葉はいつまでも心に残り、忘れることができなくなりました。父の死を境にして、大切な決定を

下すときには、いつも深く考え、心からの祈りをささげるようになりました。そうするときに必ずふさわしい答えを受けてきました。」

1989年、ジェラード家はジョージア州アトランタに引っ越しました。そこでジェラード長老はステーキ会長、さらには地区代表として働きました。ユタ州に戻ってからは、ユタ北地域・地域幹部として働くように召されました。□



七十人

ウェイン・M・ハンコック長老

ウェイン・M・ハンコック、コンリー・ハンコック夫妻は、自分たちの人生が常に正しい方向を向いているように願い、導きを受けられるようによく断食し、祈ってきました。「わたしはアリゾナで弁護士として働いていましたが、自分がどのような仕事に携わるべきか見定めようとしていました」と語るハンコック長老は、1931年7月16日、アリゾナ州サフォードで生まれ、カリフォルニア州グレンデールで育ちました。「一見取るに足りないような小さな出来事が重なって、わたしたちはミシガン州ミッドランドに導かれ、わたしはそこでドー化学会社に27年勤めることになったのです。自分たちが願い求める導きを得るうえで、静かな細い声と、断食と祈りの力が、常に非常に重要な働きをしてきました。」

七十人第二定員会に召されたハンコック長老は、これまで受けたステーキ会長、ステーキ副会長、伝道部副部長、そして監督などの教会の召しにおいても、また仕事においても、しばしば主の導きを求めてきました。またハンコック夫妻は、8人の子供たちの親として、助けを得ら

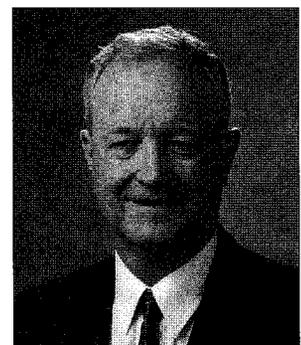
れるように断食し、祈ってきました。彼らの主に対する信頼は、困難な時期にあつてさらに強められました。

「これまでのわたしの人生で、大きな祝福は大きな失意の後にやってくる。若いころ、わたしは伝道に出ようと計画しました。宣教師になるための面接を受け、歓送会もしてもらいました。そんなときに、徴兵選抜委員会からわたしに軍役からの要請に備えて伝道の申請を帳消しにするという知らせがあったのです。わたしは非常に落胆しましたが、その夏、アリゾナ大学からブリガム・ヤング大学に編入することにし、幸いなことにそこで妻と出会ったのでした。」

二人は1953年にブリガム・ヤング大学を卒業し、その年の6月25日、アイダホフォールズ神殿で結婚しました。軍役に就くためにカリフォルニアに向かいましたが、到着してみるとそれが延期になったと知らされ、また失意を味わいました。しかしこの落胆もまた、祝福をもたらしたのです。結局ハンコック兄弟はアリゾナ大学法律学校に通うことになり、彼は3年後法律の学位を受けました。

ハンコック長老はこの学位と主の導きとがあったので、仕事を始めて以来ずっと、さらに大きな働きができたと感じています。

ハンコック長老はこう語ります。「わたしは人生の様々な経験を通して、主を信頼することを学べたことに大変感謝しています。」□



七十人

J・ケント・ジョリー長老

19歳のケント・ジョリーは「人生は素晴らしい」と感じてい

ました。彼は地方の食肉市場で管理職を務め、十分な収入があり、良い家族と良い友人に囲まれて暮らしていました。

「そんなある日の午後、わたしは御霊を強く感じました。」彼は当時を回想してこう語ります。「今自分がしていることはほんとうに自分のしたいことではないと分かりました。自分を変える時が来たのです。わたしは監督のところへ行き、自分は伝道に出る準備ができていると伝えました。」

それはわたしの人生の転機でした。わたしは伝道活動を愛し、主に仕える経験を心から楽しみました。伝道を終えるとき、わたしは残りの生涯を天父に仕え、天父の望まれることを行って過ごそうと心に決めました。」

1933年12月30日にアイダホ州レックスバーグに生まれた彼は、伝道後もその地に戻り、リックスカレッジに通い、そこで伴侶となるジル・ウォルドラム・リーシュマンと出会いました。「彼女は静かで控えめな女性でしたが、福音に対して強い決意を持っていることは明らかでした。」ジョリー長老はそう語ります。

1957年11月22日、アイダホフォールズ神殿で結婚した後、二人はジョージ・ワシントン大学に通い、ジョリーはフルタイムの仕事をする傍ら学士号、そして法学博士号を取得しました。それから再び地元アイダホに戻り、そこで法律事務、また不動産開発に携わり成功を取めました。

監督、副ステーキ会長、ステーキ高等評議員、若い男性会長などの責任を通して、ジョリー兄弟は教会での奉仕を続け、福音に対する証を培ってきました。二人の間には7人の子供がいます。

すばらしい人生でした。しかし二人は、もっと意義あるものにできるのではないかと思ひ始めました。ジョリー長老は語ります。「その思いを口に出したからでしょうか、それから数週間後、わたしは伝道部長に召されたのです。」テキサスのコーパス・クリステイ伝道部に働いた後、1994年にジョリー長老夫妻はレックスバーグに帰り、長老は法律と不動産開発の仕事に戻りました。しかし、フルタイムの教会の召しを通して得られる霊的な高揚と祝

福をいつも懐かしんでいました。

七十人第二定員会の召しを最近受けたことについて、ジョリー長老は笑顔でこう語ります。「恐らく、人生をもっと意義あるものになりたいという願いを、また口に出したからでしょう。この新しい機会にあずかり、へりくだる思いと興奮で胸がいっぱいです。わたしたちが望むのは、主が望まれていることをすべて行いたい、と切に願っています。」□



七十人
リチャード・J・メインズ長老

この度の新しい責任と、20年携わってきた国際的な事業経営者としての仕事とを比較してどう思うかとの質問に、新たに七十人第二定員会会員として召されたリチャード・J・メインズ長老はこう答えました。「主の御業の方がはるかに重要です。究極の結果がこの世だけでなく永遠にまでかわってきますからね。」

1950年10月29日にカリフォルニアのバークレーで生まれたメインズ長老は、若いころからスポーツが大好きでした。1968年にはバスケットボールの奨学金を得てブリガム・ヤング大学に入学しましたが、自分よりも上手な選手が何人もいることを痛感することになります。長老は間もなくウルグアイ・パラグアイ伝道部への伝道の召しを受けました。

「同僚とわたしはモンテビデオの市長ご夫妻にイエス・キリストの福音を教える機会に恵まれました。ちょうど息子さんを事故で亡くした直後で、答えを求めておられたんですね。」メインズ長老はそう回想します。市長夫妻にとって意義のある教義を教えることが自分に与えられた大切な責任である

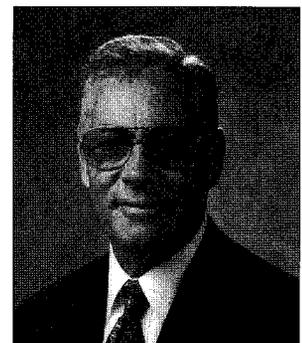
と感じた彼は、謙遜になってひざまずき、主に祈り求めました。「わたしは祈りへの答えを受けて、このすばらしい家族を助けることができました。この霊的な確認をきっかけに、主はわたしに証を培える多くの経験を与えてくださいました。」

伝道後、メインズ長老はブリガム・ヤング大学を卒業し、1974年8月17日にナンシー・ジェーン・バーリントンと結婚しました。その後アリゾナ州フェニックスに移り、そこで国際経営管理の修士号を取得しました。夫妻には4人の子供がいます。

メインズ長老はウィービー・マニューファクチャリング社に勤務し、同社がレイモンド・コーポレーションと合併した後も社長として活躍しました。同社は自動ライン設備の設計、生産、設置を行う国際企業です。そして社長としての5年の契約が過ぎたときに、メキシコ・モンテレー伝道部を管理する召しを受け、1989年から1992年まで奉仕しました。

メキシコでの奉仕の後、メインズ長老は家族とともにユタに移り、ファウンテン・フレッシュ・インターナショナル社の取締役兼社長となりました。この間彼はケーマス・ユタステーキでステーキ伝道部長として働きました。また、幾つかの会社と財団の理事も務めています。

「全時間を主の御業に集中できるのは名誉であり、祝福です。」メインズ長老はそう語っています。□



七十人
デール・E・ミラー長老

30年以上の間数々の企業の経営に携わり、この度七十人第二

定員会会員として召されたデール・E・ミラー長老は、喜んですべての時間を主への奉仕の業にささげたいと思っています。

1936年4月2日にロサンゼルスで生まれたミラー長老は、1956年、ウルグアイに伝道に召されるまでカリフォルニアで過ごしました。「わたしは5歳のころから救い主のことを考えるようになりました。」兄弟二人とともに母親に育てられたミラー長老の言葉です。「16歳のときに祝福師の祝福を受けました。そこには伝道に出ることが書かれていたのです。それまではあまり考えていなかったのですが、18歳になるころには絶対に伝道に出るべきだと確信するようになりました。」

伝道後、彼はブリガム・ヤング大学を卒業、次いで南カリフォルニア大学で国際経営学の修士号を取得しました。そして1960年6月24日、ローレル・リー・チャンドラーと結婚しました。

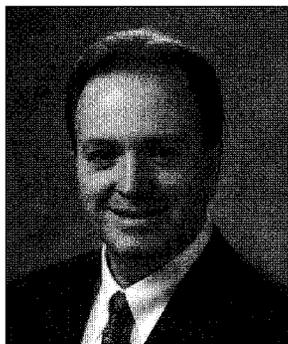
カリフォルニアのパロアルトで就職した後、ミラー長老は当時スタンフォードワードの監督をしていたヘンリー・B・アイリング長老の副監督として召され、後に監督、高等評議員として働くこととなります。また1979年にはベネズエラ・カラカス伝道部を管理する責任に召され、5人の子供のうち4人を伴って南アメリカに赴任しました。

帰還後はカリフォルニア州メンロパークステーキの会長として召されています。ミラー長老は12年間医薬品会社であるシンタックス社の役員を務めた後、実務訓練企業であるゼンガー・ミラー社を設立しました。過去8年間、国際ハイテク企業の創設期に当たってビジネス・アドバイザーとして貢献してきました。

最近ミラー夫妻は、家を売るように靈感を受けました。どこに引っ越すかも決めていないのです。ところが、家が売れてから2日後、北アメリカ南東地域で地域幹部として働くように召しを受けたのです。こうしてミラー夫妻はプエルトリコに移り、おもにカリブ諸島での教会の発展のために尽力しました。長老はそこで、カリブ諸島への福祉プログラム導入や、プエルトリ

コでの二つのステーキ設立などを支援しました。

ミラー長老はこう話しています。「これまでの経営実務の経験を生かして新しい指導者の訓練を助け、主に仕えられることをうれしく思っています。」□



七十人
リン・G・ロビンズ長老

リン・G・ロビンズ長老にとって、伝道活動は重要な事柄です。ロビンズ長老は青年期にアルゼンチンで伝道し、七十人第二定員会の召しを受けたときは、ウルグアイ・モンテビデオ伝道部の部長の任にありました。「伝道に出て人々に教え、証を宣べ始めるとき、福音は心の中にしっかりと根を下ろします」と、長老は語ります。「伝道はわたしの人生を大きく変えました。ですから、息子たちにしてほしいことは、伝道に出ること以外考えられません。」

リン・G・ロビンズ長老は1952年10月27日、ユタ州ベイソンで生まれ、その近郊のスプリングビルで育ちました。ブリガム・ヤング大学で学び、在学中に専任宣教師として伝道に出ています。1974年6月27日、マンタイ神殿でジャン・ニールソンと結婚し、ユタ州ローガンに移り住み、ユタ州立大学で食物科学と経営学を学びました。姉妹が懐妊すると、ロビンズ長老は、平日の夜や週末の時間をよりいっそう教会や家族のために注ごうと思い、レストラン経営の夢を断念しました。

1976年にスペイン語の学士号を得て卒業すると、翌年にはアリゾナ州グレンデールにあるアメリカ国際経営大学院において修士号を取得しました。二人は海外での生活を考えましたが、7

人の子供たちのために、祖父母や親戚のそばに残る決心をしました。彼はユタ州北部の法律関係の出版社で営業販売に携わり、後にソルトレーク・シティーにおいて財政コンサルタントとして働きました。1983年にはフランクリン・クエスト社の副社長となり、1993年の退職時まで勤めました。

ロビンズ長老は、絵画やアラスカでの釣り、また教会でのスポーツ活動を楽しんできました。「新しいワードに移る度に、教会のスポーツ活動は兄弟たちと知り合う良い機会になりました」と長老は語ります。ロビンズ長老は伝道部長のほか、ステーキ幹部書記、高等評議員、監督を歴任してきました。現在、二人はユタセンタービル北ステーキ、センタービル第21ワードに所属しています。

「わたしは福音に対する強い証を持っています」と、ロビンズ長老は語ります。「わたしは救い主が生きておられることを知っています。主を愛し、福音を愛しています。いずれの戒めも、原則も、教えもすべて、わたしたちがこの地上で幸福に暮らすために、また来るべき世で永遠の幸福を得るために与えられているのです。」□



七十人
ドナルド・L・ステアリー長老

6大陸57か国で様々な事業を管理運営してきたドナルド・L・ステアリー長老は、国際的な経験が豊富です。ステアリー長老はこうに述べています。「七十人の中には国際的な経験の豊かな人が多くいます。教会は世界中で急成長していますから、そのような経験を生かして、様々な文化

の人々への理解を深め、よりよく仕えることができれば、と願っています。]

1931年10月19日にユタ州ハリケーンで生まれたステーリー長老は、1952年9月24日にセントジョージ神殿で、アプトン・ストラットン姉妹と結婚しました。夫妻は4人の子供と11人の孫に恵まれています。

ステーリー長老はユタ州立大学で理学学士号を取得し、イリノイ大学で修士号と博士号を取得しました。その後、合衆国空軍で2年間、中尉として働きました。

ステーリー長老がビジネスマンとして最初に就職したのは、1958年のシカゴで、スウィフト・アンド・カンパニーという会社でした。1969年にアライド・ミルズ社に転職し、そこでは後に社長や代表取締役などの重役に昇進しました。

1977年にコネチカット州ニューカナンに移り、コンチネンタル・グレイン社の副社長および取締役に就任しました。ニューヨークに本社を持つこの大手企業では、国際農業関連産業および金融業が行われています。1984年には社長および管理役員代表に昇進し、1988年には代表取締役に任命され、専務理事となりました。また、様々な企業の理事会でも活躍してきました。

現在は米中事業審議会会長、および米中関係全国評議会委員長を務めています。これまで、上海^{シャンハイ}市市長主催の国際事業指導者諮問評議会委員長を務めたこともあります。さらに、外交関連の評議会で評議員を務め、ボランティア活動を推進する国の機関、ポイント・オブ・ライト協会の会長も務めています。

ステーリー長老は七十人第二定員会の召しを受けたとき、ニューヨーク・ヨークタウンステークの会長として働いていました。これまで高等評議員、副監督として奉仕し、ステーク副会長の責任は2度果たしています。

ステーリー長老は次のように述べています。「わたしは自分が受け継いでいるものに感謝しています。両親の信仰、祈りに頼る姿勢、そして家庭で教えられたことが、わたしの^{あかし}証の土台となっています。また、教会で働き、成長できる機会が与えられたことに深く感謝

しています。新しい召しを頂いて、働くことをとても楽しみにしています。】□



七十人
リチャード・E・ターレー・
シニア長老

「福音は偉大な幸福の計画です。」リチャード・E・ターレー長老はそう語ります。「この世で幸福を望み、来世でも幸福を期待するなら、福音がその道です。」

ターレー長老は、1930年12月29日、テキサス州エルパソに生まれ、テキサス農業機械大学に進学、後にメキシコ、グアテマラ、コスタリカで伝道しました。その後ユタ大学で機械工学を学び、1954年4月1日、ソルトレーク神殿でベティー・ジーン・ニコルと結婚しました。

1955年に学士号を取得。テキサスの航空宇宙工学や天然ガス関連の会社で働きました。大学院で勉強を続けるため1957年にユタ大学に戻り、1966年にはアイオワ州立大学で原子力工学分野の博士号を取得しています。

同州滞在中は、地方部長会第一副部長を務めました。ワシントン州に転居して後は、バテル・メモリアル・インスティテュート研究員として働き、ステーク第二副会長も経験しました。1972年には準教授として再びユタ大学に戻り、ユタ科学技術諮問評議会の開設に尽力しました。

1983年から1985年にかけては、メキシコのエルモシーヨ伝道部の部長を務めました。1989年には名誉教授となり、工業技術金融会社の重役に指名され、1992年に引退しています。ソルトレーク・イーグルゲイトステークでは2度にわたって監督を務めました。七十人

第二定員会の召しを受けたとき、高等評議員、ステーク家族の記録抄出ディレクター、さらにはソルトレーク神殿のオーディナンスワーカーとして働いていました。

ターレー夫妻は7人の子供、36人の孫があり、息子のリチャード・E・ターレー・ジュニアは教会の歴史部および家族歴史部の部長として働いています。ターレー長老がこよなく愛する家族を別にすれば、ターレー長老は家族歴史活動、ゴルフ、旅行、コンピューターの愛好者です。著作には複数の家族歴史に関するもの、また工学・統計学に関するものがあり、科学・工学関係の雑誌にも記事を載せています。

「わたしが唯一切望していることは、あらゆる点で忠実であり、誠実であることです」と、ターレー長老は語ります。「わたしたちはこれまで、非常に多くの祝福を受けてきました。」□



中央扶助協会会長
メアリー・エレン・ウッド・
スムート姉妹

新たに中央扶助協会会長に召されたメアリー・エレン・ウッド・スムート姉妹は、7人の子供と44人の孫に恵まれています。スムート姉妹にとって、家族はかけがえのないものです。「家庭において価値観を確立することは、わたしたちが家族として取り組んできた大切な事柄の一つです。その中に、『永遠の家族として、家族で互いに成長し、支え合い、霊的に高め合う』という価値観があります。わたしたち家族はこの価値を固く信じています。」

家族という枠を超えて愛と援助の手を差し伸べることも、スムート姉妹に

とって大切なことでした。1986年以来、ソルトレーク・シナイーにある教会関連の施設で受付や案内のボランティアとして奉仕してきました。ソルトレーク・シナイーの案内役の責に、教会を訪れる要人の案内役の責任者に召されました。「おこな役割は、教会指導者を訪問する著名人を案内することでした」とサムー姉妹は語ります。1933年8月19日、ユタ州のオグデンで、サムー姉妹はメルビン・ウツト、ラホール・スミス・ウツトとの間に6人姉妹の5番目として生まれ、同じくユタ州のクリフマイルで育ちました。1952年にスタソリー・M・サムーとソルトレーク神殿で結婚しました。「結婚後の8年間で、7人の子供のうち6人が生まれました。専業主婦としての務めを果たすことに喜びを感じました」とサムー姉妹は語っています。また姉妹は、母親の第一の責任は、子供たちとの間に強い信頼関係を築くことだと確信しています。

サムー姉妹はソルトレークの扶助教会会長として、また教会のチキストの著者として奉仕に携わりました。また、ソルトレークの新聞で青少年向けのコラムを担当していました。

1983年に夫のスタソリーは、オハイオ・コロンバス伝道部の部長として召され、その1年後、新たに組織されたオハイオ・フクロン伝道部の部長に任ぜられました。フクロン伝道部にはカトリックとハイラムという教会歴史上有名な地域が含まれていたため、夫妻はカーソルトのニューエル・K・ホットニーの店の奉獻式をはじめと、これらの史跡にかかわる催しにも参加しました。報道関係者や外部からの訪問者も多く、「当時の経験を通して公的な行事にも次第になじんでいきました。」姉妹は続けます。「それ以来、都合の許すかぎり出席するようにしています。」

世界でも最大規模の一つに数えられる女性組織の会長に召されましたが、サムー会長は以前と同様、自らの楽しみとして行っている、人々に対する

惜しむことのない愛と援助をこれからささげ続けていくことでしょう。□

ソルトレーク・シナイー出身のジェンセン姉妹は、ユタ大学に通い、1963年にソルトレーク・シナイー開発会社社長、J・リース・ジェンセンと結婚しました。「主人と結婚できたことは、わたしにとって何よりの祝福です。彼は、忍耐強く、親切で、慈愛に満ちています。また、家族と家庭はわたしを助けてくださることを学んできました。これらの組織は主のプログラムです。わたしは、主が望まれることを行う道具にすぎません。」□

ジェンセン姉妹は、57歳の、これまで初等協会、若い女性、扶助協会などの組織で働いてきましたが、そのほとんどの期間は扶助協会の召しでした。「天父がいつもそこにいられて、わたしたちを助けてくださることを学んできました。わたしは、主が望まれることを行う道具にすぎません。」□

サムー会長は以前と同様、自らの楽しみとして行っている、人々に対する

「女」性
の皆さんを称賛したいと思
います」と、新しく中央扶助
協会第一副会長に召されたバー
ジー・フー・シナイー・ジェン
セン



中央扶助協会第二副会長
シナイー・L・フー



力
ソルア州の広大な穀物農場で育
ったシナイー・L・フーは、

ジェンセン姉妹は、女性が神から賜
りました。ジェンセン姉妹は、女性が神から賜
った特質を深く感じると言います。多
くの姉妹たちが人生のチャレンジと独
り闘っている状況の中で、扶助協会
は彼女たちを支援するうえで比類ない
位置を占めています。「時に女性は、
自分の抱えている問題は独特なもので
あると感じることがあります。だから
こそ、相互の助け合いが必要なので
す。」ジェンセン姉妹はそう考えてい
ます。「女性はその愛と慈しみの性質
を通して世の中を豊かにしています。
わたしたちは、すべての女性が最善を
尽くし、女性の神聖な価値に気づくよ
う助ける必要があります。扶助協会を
通して、わたしたちは友情のきずなを
強めることができます、それにより姉妹た
ちを天父のみもとへと導くことができ
るのです。」

勤勉と収穫についてたくさんのことを学びました。「足がペダルに届く背丈になるとすぐに、わたしはトラクターを運転しました」と、彼女は回想します。「わたしは、穀物農場に灌漑水を引く設備を操作する方法を知っていましたし、刈り入れの手伝いもしました。わたしは、知らない間に収穫の法則を学びました。農場では、自分がまいたものを刈り取ることを早い時期に学びます。」

デュー姉妹は一生懸命働いて祝福を刈り取ってきました。彼女は長時間練習し、高校でバスケットボールのスタープレイヤーになりました。彼女はさらにピアノの練習を一生懸命しました。音楽家としての能力が認められ、大学生時代に伴奏者として米国慰問協会の演奏旅行に3回参加し、アラスカ、ヨーロッパ、地中海地域、アジアを訪問しています。

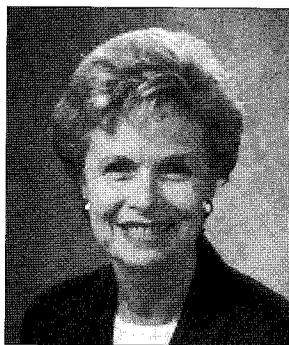
ブリガム・ヤング大学を卒業後、ブッククラフト社で4年間編集主幹補として勤務し、その後『ディス・ピープル』([This People] この雑誌はおもに教会の著名人について書いている)という雑誌の共同出版者になりました。彼女は9年間、デゼレトブック社に勤務し、最後の4年間は出版担当副社長として働いた。彼女はさらにベンソン大管長とヒンクレー大管長の伝記を書く機会にも恵まれました。

1953年11月21日にカンサス州ユリシズで生まれたデュー姉妹は次のように言います。「わたしは、田舎の子供と都会の子供との間に大きな違いがあると思いつつ育ってきました。わたしは元来とても恥ずかしがり家だったので、その性格を克服しようと何年も闘ってきました。わたしは仕事に助けられました。仕事を通して、様々な異なった背景を持つ人々にインタビューをしなければならなかったからです。しかしたいのいの場合、主に対する感情と自分に対する感情とは密接な関係にあることを学んできました。」

以前に受けたステークやワードの扶助協会会長と中央扶助協会管理会員の責任を通して、デュー姉妹は、召しを

果たすときに主が助けてくださると感じています。主は、家族を大切にすることを教会の中で、デュー姉妹が独身の女性として成長し成功するのを助けてくれました。「結婚したことの無い女性が中央扶助協会会長に召されたという事実には何か意味があるとすれば、それはすべての女性とその地位や状況に関係なく受け入れられ、愛され、尊重されているということです。」デュー姉妹はそう言います。

「イエス・キリストの福音は、すべての人のためにあります。わたしたちは皆、全体の中でそれぞれ重要な部分を占めています。わたしは決して自分が一人であるとは思いません。わたしシェリーは、主の教会の会員なのでから。」デュー姉妹はそう語っています。



中央若い女性第二副会長
キャロル・B・トーマス

「わたしは、福音を心から愛しています。」と中央若い女性第二副会長に召されたキャロル・B・トーマス姉妹は話します。「一人の若い女性として、わたしはいつも教会のために奉仕することを願ってきました。」

トーマス姉妹は1942年5月6日、ユタ州ソルトレーク・シティーにおいて、カール・バーデットとグラディス・ジェイコブ・バーデットの間に、5人の子供の長女として生まれました。

ある夏、姉妹はグランドキャニオンで働いていたときに医学生スのレイ・トーマスと出会い、その年の秋、二人はともにユタ大学に進み、2年後の1962年3月23日、ソルトレーク神殿で結婚しました。

人生の大半をソルトレーク・シティーで過ごしてきたトーマス姉妹は、夫が医学インターンと専門医学実習生の期間を終了するまでの6年間をカリフォルニア、ワシントン、カンザスの各州で生活した機会にとっても感謝しました。1969年に彼らはソルトレーク・シティーに戻って来ました。

現在7人の子供と19人の孫に恵まれているトーマス姉妹は、教会の中で奉仕する機会に数多く恵まれてきました。約25年もの間、様々なワードの扶助協会の会長会、またソルトレーク・ホラデイ南ステークの扶助協会管理会で働いてきました。1987年には、若い女性の責任に召され、最初はアドバイザー、半年後にはステーク若い女性会長として働きました。

「扶助協会の責任を果たした後、若い女性の責任を務めた経験が助けとなり、姉妹たちが若い女性から扶助協会に勞せずに移る必要があると知ることができました」と、トーマス姉妹は語っています。

1990年に中央扶助協会管理会で働くよう召しを受け、おもな責任として、世界中で催された扶助協会150年祭に携わりました。管理会の任にあつたとき、トーマス姉妹は若い女性の考え方について常に理解を示していました。その理由は、自分の娘たちが若い女性の年代としてクラスに出席し、ほかの娘たちがシカゴ、ニュージャージー、コロラドでそれぞれで若い女性のアドバイザーとしての責任を果たし、さらには夫のトーマス兄弟が独身会員ワードの監督として働いてからです。

トーマス姉妹は中央扶助協会管理会から解任になり、これから中央若い女性会長会の責任を果たすことになりませんが、生来活動的な姉妹は、教会における奉仕という、姉妹自身が常に愛してきたことを行うよう召されたのです。□

*

集会のための新しい建物と 二つの神殿についての発表もなされる

総 大会土曜日午前の部会で、ゴードン・B・シンクレイ大管長は、間もなく竣工する大規模なアッセンブリーホールについて触れ、次のように語った。「名前はまだ決まっていますが、7月24日に新しい集会場の用地の鋳入れ式を行いたいと考えております。」テンプルスクウェアのすぐ北側のブロックに建設されるこの建物は、タバナクルの4倍の収容能力を持

つ計画である。

土曜日の部会ではさらに、ニューメキシコ州アルバカーキとブラジルのカンピナスで神殿を建設する計画も発表された。

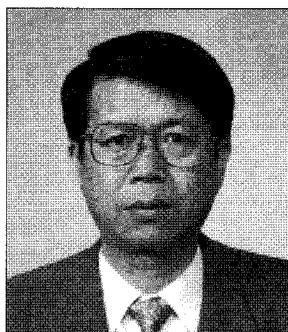
ニューメキシコ州アルバカーキ神殿は、市の北東にある10エーカー（約4万500平方メートル）の用地に建設される。建築は、年内に着工し、2年で完成する予定である。同神殿は、ニュー

メキシコ州の24ステークをはじめ、コロラド、アリゾナ、ユタ、テキサス、それにメキシコ北部の一部の教会員、約8万5,000人が利用することになる。

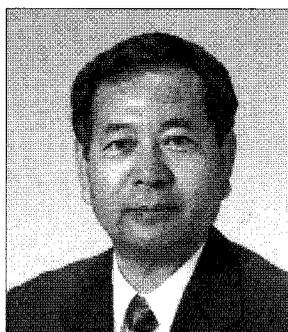
ブラジル、サンパウロの北西に位置するカンピナス神殿の神殿地区には、20ステーク、1地方部の約6万人の末日聖徒が含まれる。□



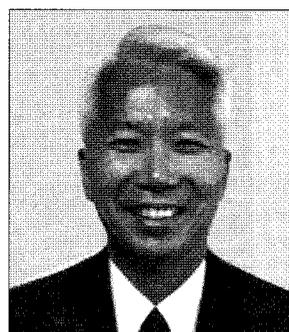
年次総大会で発表された新しい召し—— 日本から3人の名前が読み上げられる



柏倉 仁長老



潟沼誠二長老



ゲーリー・松田長老

ソルトレーク・シティー発——4月総大会の席上で、12人の新しい中央幹部、3つの新しい七十人定員会の創設、新たに設けられた職の地域幹部七十人134人全員の名前が、発表された。

さらに、七十人第二定員会の3人の会員が七十人第一定員会に、また、新しい中央扶助協会会長会が、それぞれ召された。中央若い女性会長会に一人の新しい副会長も召された。

それぞれの名前と詳細については第

167回年次総大会報告となる本誌に掲載される。

日本から召された地域幹部七十人は、神奈川県在住の柏倉仁長老、札幌市在住の潟沼誠二長老、横須賀市在住のゲーリー・松田長老の3人である。

ゴードン・B・ヒンクレ大管長によれば、地域幹部七十人は各自の居住する地域で教会への奉仕という形で責任を果たしていくことになる。各自の職業も現在のまま続け、住所も現在のものであ

る。ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オーストラリア、および太平洋地域の地域幹部は新たに七十人第三定員会を構成し、メキシコ、中央アメリカ、南アメリカの地域幹部は七十人第四定員会会員となる。アメリカならびにカナダ在住の地域幹部は第五定員会会員になる。

またヒンクレ大管長は、ブラジルのカンピナス、およびアメリカ合衆国のニューメキシコ州アルブカーキに、神殿建設用地を教会が購入したと発表した。□

新伝道部長紹介



東京北伝道部
小松伝道部長ご夫妻

小松忠（48歳）。日本大阪堺ステーク

堺ワード所属。召しを受けたときは、監督の任にあった。これまでステーク会長、ステーク副会長、ステーク伝道部長、監督、副監督、大祭司グループリーダーなどの責任を果たした。シャクリーのスーパーバイザー。岡山県出身。小松庄一、義子夫妻の間に生まれた。大湾愛子姉妹と結婚し、二人の子供がいる。召しを受けたとき小松姉妹は、託児指導者の任にあった。これまで、ステーク扶助協会会長、同副会長、ステーク若い女性副会長、ステーク初等協会副会長、ワード扶助協会会長、初等協会教師などの責任を果たしてい



名古屋伝道部
ダイヤモンド伝道部長ご夫妻

ケント・J・ダイヤモンド伝道部長（62歳）。召しを受けたときは、ユタ州

アメリカンフォーク東ステーキ、アメリカンフォーク第12ワードに所属していた。これまでステーキ伝道部長、監督、スカウト隊長、大祭司グループリーダーなどを務めてきた。東京南伝道部で夫婦宣教師として伝道した。陸軍省被雇用者関係室長を退職。ハワイ大学で産業関係学の学士号を取得した。ユタ州プロボで、ジェームズ・エドウィン・ダイヤモンド、エリザベス・セラズ・ダイヤモンド夫妻の間に生まれた。ナンシー・小泉姉妹と結婚し、3人の子供に恵まれている。ダイヤモンド姉妹は召しを受けたとき扶助協会教師の任にあった。ステーキ宣教師、ワード若い女性会長、扶助協会副会長、カブスカウトのデンリーダー、初等協会教師、日曜学校教師などを歴任している。夫とともに宣教師として伝道した。ハワイのワヒアワで、小泉源作、小泉ソノ夫妻の間に生まれた。□



福岡伝道部
マッカーサー伝道部長ご夫妻

ジェームズ・A・マッカーサー伝道部長（52歳）。召しを受けたときは、ユタ州セントジョージステーキ、セントジョージ第8ワードに所属し、ステーキ副会長を務めていた。これまで高等評議員、ステーキ副伝道部長、監督、支部長、スカウト隊長などを務めてきた。北部極東伝道部で専任宣教師として伝道した。テンブル・ビュー・R・V・リゾートの経営者。ディクシー単科大学で経営学の準学士号を、ブリガム・ヤング大学で経営学の学士号をそれぞれ取得した。ユタ州セントジョージで、アンドリュー・O・マッカーサー、マール・サラ・ウォレス・マッカ

一サー夫妻の間に生まれた。デニス・ストーン姉妹と結婚し、7人の子供に恵まれている。ストーン姉妹は、召しを受けたとき若い女性会長の任にあった。これまでステーキ初等協会会長、扶助協会会長、初等協会会長および副会長、若い女性副会長、扶助協会教師、

初等協会教師などを務めてきた。ディクシー単科大学とブリガム・ヤング大学で学んだ。カリフォルニア州グレンデールで、アイラ・コーベット・ストーン・ジュニア、マーガレット・アイリーン・ルーテンソック・ストーン夫妻の間に生まれた。□

教会のインターネット・ホームページ開設

1996年12月上旬、教会は正式なホームページをインターネットに開設した（<http://www.lds.org>）。この画面を開けば、家族歴史や『モルモン書』、伝道プログラムに関する情報、さらに、教会の統計記録、教会の基本的な原則や信条の声明文などを見ることができる。4月9日には、1997年4月の総大会で話された説教も掲載された。

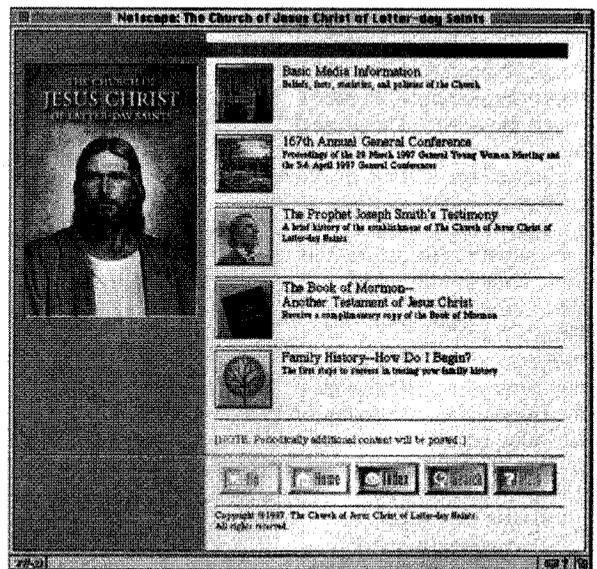
十二使徒定員会のジェフリー・R・ホルランド長老は、次のように述べている。「わたしたちはインターネットに毒されているわけでもありませんし、その可能性を過少評価しているわけでもありません。ただ、堅実に行動し、賢明に判断し、ほかの手段も考慮に入れつつ、教会員同士のコミュニケーションを図り、福音を教え、主の御業を推し進めていく努力をしているのです。」

12月の開設以来、教会のホームページには1日に平均1,600件のアクセスがある。アクセ

スすると、まずカラーで描かれたキリストの画像と、教会に関する読み物や情報を得るための選択肢が画面に映し出される。

ホルランド長老はこう説明している。「ホームページ開設当初の動機はメディアに教会の情報を提供することで。とはいえ、一般の方々にも情報を活用していただきたいと思っています。」

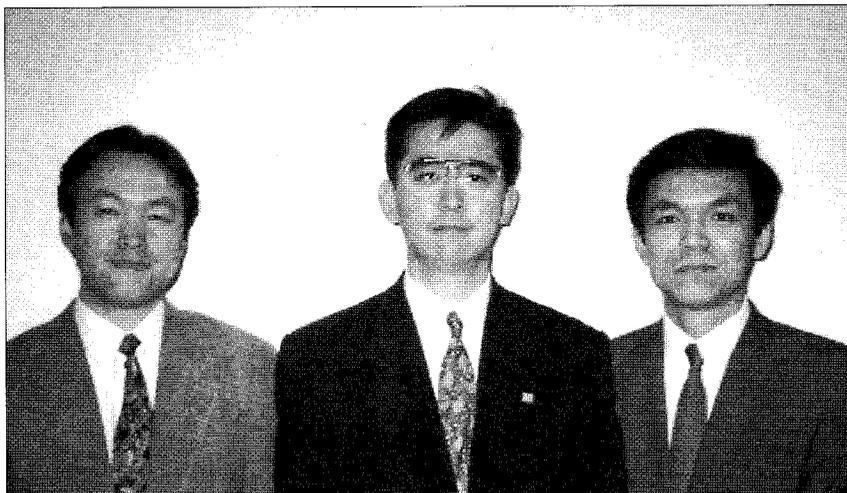
ホルランド長老はまた、インターネットにアクセスする人々に、義にかなった利用を心がけるよう呼びかけている。「すばらしい可能性を持つものは、ほとんどいつも、被害や危険を生じる可能性をも秘めているのです。」□



教会のインターネット・ホームページ。末日聖徒の基本的な原則と信条にアクセスすることができる。

再組織された石川地方部長会

去る4月6日、名古屋伝道部のJ・リード・マックレー部長管理の下に開催された石川地方部大会で、1992年より地方部長の責任を果たしてきた徳沢清兄弟が解任され、新たに徳沢清兄弟（写真中央）が召された。第一副地方部長には太田秀典兄弟（写真左）が、第二副地方部長には竹内章浩兄弟（写真右）が召され、その任に当たる。



信仰込めて一歩ずつ

——自分の周りの人たちにどんな援助ができるか、
手帳の名前を見ながら毎日祈りました——

石川地方部長
徳沢清児

1960年、室生犀生むろ おさいせいがこよなく愛した金沢の美しい犀川さいがわで、父はバプテスマを受けました。

1997年、美しく整えられた金沢の教会で、わたしの息子は8歳のバプテスマを受けました。

この間、40年近い歳月が流れています。わたしは、この教会の中で育った一人です。多くの指導者、教師、友人に恵まれ、助けられ、教えられ、愛されて生活できますことを、また勤勉な父、明るくいつも肯定的な母のもとで育てられたことを主に心から感謝しています。

地方部長に召された日

4月6日、この特別な日に、わたしは石川地方部の部長として召されました。前日の土曜日に、次々と地方部内の指導者が金沢の教会に召集され、名古屋伝道部のJ・リード・マックレー部長じんどうめい、神道裕副部長から面接を受けま

した。

再び夕方呼ばれ「あなたが主から召された地方部長です」と言われました。まさに晴天のへきれきでした。父の後ろを務めることがあり得ましようか。しかし「この召しを受け入れていただけますか」と尋ねられたときは、父の模範に従って「はい。喜んでお受けしたいと思います」と、お答えしました。

専任宣教師に召されるまで

初等協会時代のわたしはわんぱくで、愛らしい先生がたを悩ませ、随分ご迷惑をおかけしました。セミナーは、恵まれて本来の登録学年（中学3年）の1年前からレッスンに参加させていただき、高校3年まで5年間学びました。いつも愛と忍耐をもって教えてくださった教師の方々に心から感謝しています。このアロン神権の時期に様々な経験を通して、現在の力になる多くの良いものを受けられたと感じています。このことから特に青少年の子供たちには、時間と労力を注ぎたいといつも考えています。

東京の大学に進みましたが、2年間休学し伝道へ出ました。くしくも実家のある名古屋伝道部に召されました。わたしにとってこの伝道期間は、特にたくさんさんの宝石が思い出や経験という形でちりばめられています。

伝道中の貴重な経験

一つの宝石は、こんなふうでした。わたしが専任宣教師に召された当時のJMT C（日本宣教師訓練センター）は、管理本部の一室が当てられ、訓練が行われていました。ある土曜日の朝、玄関のベルが鳴りました。休業日で職員がいないために、わたしともう一人の長老とで対応し、40代半ばの身なりのきちんとした紳士を迎えました。

『モルモン書』を単に返しに来ただけだと言って帰ろうとされましたが、「少しお話ししましょう」と招き入れました。心の中では「まだレッスンプランも覚えていない宣教師の卵に、どうしろとおっしゃるのですか」と叫んでいましたが、彼から受け取った『モルモン書』を開いて驚きました。赤鉛筆でぎっしり線が引かれています。手あかの付いたこの本を、わずか2か月ほどで3回読んだと言われました。

読まれてどんな印象を持たれたかお尋ねすると、「わたしはこの本が確か

に神からのものであると知っています」と証されるのです。「それを知っていらっしやって、なぜこの書物をお返しになるのですか」と、お聞きしますと「わたしは過激派と呼ばれる組織に属していました。最近、組織に対して疑問を持つようになっていたところに出会ったのがこの本です。組織の幹部は『こんな本を読んで、変な影響を及ぼしてもらっちゃ困る』と言われ、わたしは今、命の危険さえ感じています。ですから皆さんがたにご迷惑がからないように、今日お返しに来たのです」と言われました。

神の子供として愛し、 主のメッセージを心から伝える

この方の話を聞きながら、とても温かい御霊を感じていました。わたしたちも、この『モルモン書』が神様が与えてくださった大切な書物であることを心からお伝えし、この本をお持ちになってぜひ読んでくださるようになり、また、わたしたちに迷惑がかかることは決してないと涙ながらに申し上げました。彼の目にも涙があふれていました。「このような組織にいたせい

か、もう何十年も涙というものを流したことがないのに、とても不思議な気持ちです。組織から離れてこの本をもっと読みたい」と言われました。

わたしたちは、この本を安心して読める所へ逃げてくださるようにお話しし、どこか遠くに知り合いがおられないかお聞きすると「このような立場なので、家族はもちろん、友人と呼べる人はほとんどいないが、二人だけ心を許せる友がいます」とのことでした。どこにいらっしやるか尋ねると、一人は金沢に、もう一人は新潟にいるとのことでした。わたしたちはお互いに顔を見合わせて言いました。「そこは、わたしたちの出身地ですよ。」彼も静かな土地で、この大切な書物を続けて読む約束をしてくれました。駅まで見送ったわたしたちに、何度も何度も頭を下げて彼は去って行きました。

ほかのどのような知識や経験よりも、その人を神の子供として愛し、主のメッセージを心から伝えることの大切さを学ばせてもらった宝石のような経験でした。

結婚10周年

伝道から帰還し、復学して間もなく、同じワードの辻井ひとえ姉妹と結婚しました。今年、わたしたちは結婚10周年を迎えましたが、年を重ねるに従い、ますます彼女のことがいとおしく、大切に感じています。わたしが疲れて聖典が読めないときも、隣で声を出して読んでくれます。神権者として支持し、助けてくれます。ですから霊性が落ちていくすきを与えず、お互いを引き上げ合う関係があれば、夫婦の霊

性に加速度がつくと感じています。神様からお預かりしている大切なこの姉妹に、もっとふさわしい者になりたいと思います。

会社の年間MVP賞に

昨年3月、転勤で金沢に十数年ぶりに帰ることになりました。昔から金沢に帰るときは、社会人として一旗揚げて帰ろうと思っていましたが、その年、恵まれて会社の年間MVP賞を頂くことができました。

通勤電車の中で、自分の周りの人たちにどんな援助ができるか、またどのように一緒に働けるか、手帳の名前を見ながら毎日祈りました。

転勤が決まって、皆から送別会をしていただいたとき、カラオケを歌う場所であるにもかかわらず、歌も歌わず一人一人がマイクを持って、わたしとの思い出を涙ながらに話してくれました。

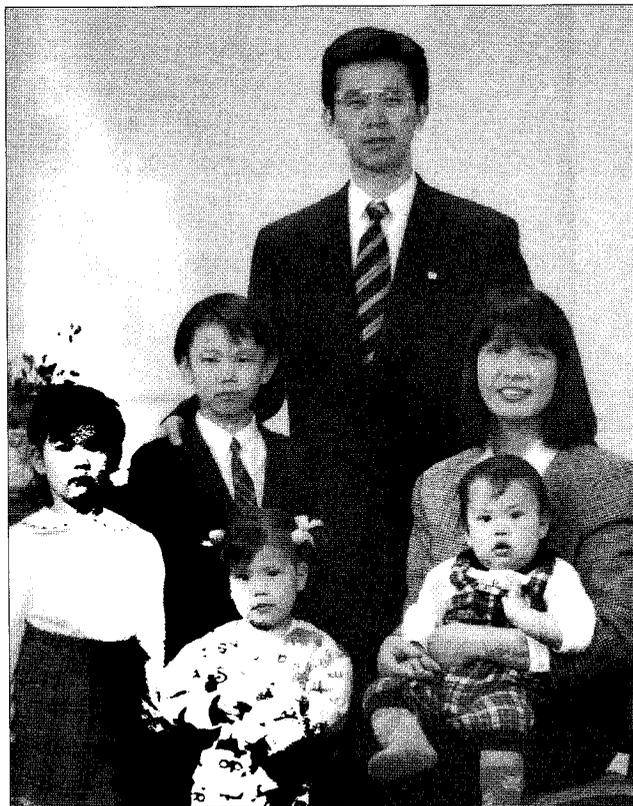
「天の恵み、豊かにあり」

いつもいつも主の助けがあったことに心から感謝します。末日聖徒であるからこそというものを、これからもたくさんつくりたいと思います。

この石川の地が好きです。この地が主の喜ばれるシオンとなるように全力で働き、「主のぶどう園での働き人を増やす」ために努力したいと思います。「戒めを守る人を 神は守り、導かん 天の恵み、豊かにあり 予言者に従い て み言葉を守らん」(『賛美歌』193番)(とくざわ・せいじ)

徳沢清児地方部長 の紹介

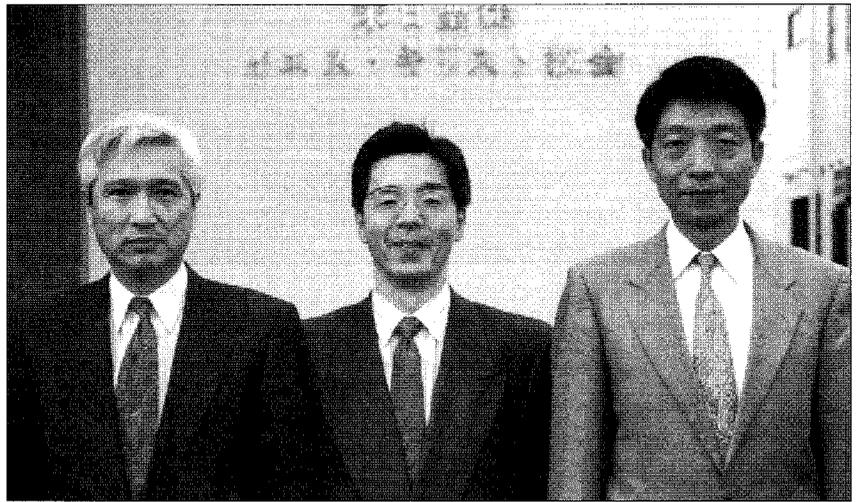
1964年、石川県金沢市生まれ。日本大学経済学部在学中、名古屋伝道部専任宣教師に召される。同大学卒業後、ソニー生命保険株式会社入社。現在、課長補佐。1988年、辻井ひとえ姉妹と結婚し、子供が5人いる。これまで監督、副支部長、長老定員会会長、伝道主任、セミナー一教師などを経験。石川地方部金沢支部所属。



徳沢ご家族

再組織された新潟地方部長会

去る3月23日、七十人第一定員会のレックス・D・ピネガー長老管理の下に開催された新潟地方部大会で、1993年より地方部長の責任を果たしてきた堀井哲二兄弟が解任され、新たに佐藤雄司兄弟（写真中央）が召された。第一副部長には加藤真一兄弟（写真右）が、第二副部長には錦沢三千男兄弟（写真左）が召され、その任に当たる。



思いを一つとなすとき、大いなる力が

新潟地方部長
佐藤雄司

前任の堀井地方部長さんの示された模範を指導を継承し、加藤兄弟と錦沢兄弟とともに引き続きこの神の業に励んでいきたいと思ひます。

18歳のとき、学校からの帰宅途中での宣教師との出会いが、この福音を学ぶきっかけとなりました。英会話にも参加し、優しい教会の兄弟姉妹たちからも助けていただき改宗することができました。

その後、埼玉、東京、神奈川、茨城と約20年間で13回の引っ越しをして新潟の地に戻って来ることができました。各地方において、たくさんの愛ある指導者と会員の模範に恵まれ教会生活を楽しむことができ、また、多くのこと学ぶことができました。

その経験を通じて強く感じたことは、「わたしたち一人一人は、いろいろな弱点や欠点を持っていますが、それらをお互いに補い合い、助け合い、認め合うときに神様の愛を強く感じる事ができる」ということです。水の一滴一滴には何の力もありませんが、

一つになると、電気を生み出すことも、物を切断することもできるようになります。大管長が教えているように、姑みを押さえて心一つとなるときシオンを作ることができ、大いなる力を生み出すことができることを証いたしました。

わたしたちが、できることをすべて行うときに主が助けてくださいます。この教会が真実であることを、また確かにジョセフ・スミスは神とキリストにお会いになったことを証いたします。（さとう・ゆうじ）

佐藤雄司地方部長 の紹介

1957年新潟県長岡市生まれ。1975年に改宗（18歳）。ビジネスカレッジで経理を学び、現在、化学メーカーで工場本部長を勤める。1980年に雨海淳子姉妹と結婚。3人の男の子がいる。長男・真士（15歳）、次男・弘康（11歳）、三男・裕貴（4歳）。これまで監督、長老定員会会長、伝道主任などの責任を果たしてきた。新潟支部所属。

地にまかれた一粒の種が……

—— 四国伝道30周年を記念して

～宣教師の記録より～



高松地方部活動委員会ディレクター
秋山真智子

1967年6月3日土曜日の朝、四国の地、高松に初めて福音は伝えられました。アドニー・Y・小松伝道部長の指示の下、補佐のリチャード・S・メング長老とロバート・S・

ダーベル長老は、巡回宣教師であるベン・S・マルクハム長老とその同僚であるフロイド・L・ネルソン長老とともに、本州の宇野から四国に向かう宇高連絡船に乗り、高松の地にその一歩を踏み出したのです。

四国に到着すると、これらの長老たちは市内観光をしながらアパートを探しました。主の助けがあり、3時間ほどで環境の良いアパートを見つけることができました。夜も遅くなってきたので、最初の夜はユースホステルに泊まることにしました。その部屋は栗林公園の隣にある日本ユースホステルの2階でした。そのうちの二人はその夕方、岡山に帰りました。

翌日の断食安息日の朝、長老たちは短い証会をそのホステルで開きました。たった二人だけの高松で初めての聖餐会。長老たちは、重大な責任が自分を待ち受けているのをひしひしと感じました。

一粒の福音の種が...

それから30年、最初二人の宣教師によってまかれた一粒の福音の種は、四国全土に広がりました。

最初、四国の教会は高松に一つだけでしたが、1969年2月には高知支部を開設しました。その翌年1970年から10年の間に松山、徳島、丸亀、宇和島、今治、新居浜、鳴門、中村（1982年閉鎖）の各支部へとその数を増やしていきました。

そして1981年4月21日、高松ステークが誕生したのです。それから教会は増え続け、南国、坂出、川之江（1994年閉鎖）、八幡浜、池田（1983年閉鎖）の各支部が設立されました。こ

の時期は、よく教会が成長した時期でした。まるで新芽が光と水を得て、勢いよく伸びるように。

けれどもやがて、日照りと激しい風雨によって、その芽が試される時が来ます。四国にもその時期はやって来ましたが、でもそれは、もっと根を張り、大きな実をつけるための備えの時でした。

た。

1991年6月2日、高松ステークは、将来二つの大きな実を結ぶ木になるために、松山と高松の両地方部に分けられました。

それから6年……。神の御心を完全に理解できないわたしたちは（教義と聖約78：17参照）時折、照りつける大



四国伝道初期のころの宣教師たち。
(高松支部)



松山で開催された地方部大会に出席した高松支部の会員と宣教師。後列左中央に中央伝道部のエドワード・Y・岡崎部長夫妻(1970-71)の姿があります。



民家を借りて集会をしていたころ教会の縁側にて。
(高松支部)



手作りの衣装と髪飾りで地方部主催のフォークダンスコンテストに優勝。小さな支部でもここまでやれたと全員でうれし泣きをしました。

民家の教会堂にてMIA(相互発達協会)の活動に集う独身成人。当時のバプテスマは近所の風呂屋を借りて行われました。

高松支部
初期からの会員
大村康子姉妹の
アルバムから

現在では地方部大会も開ける立派な建物に集っています。



陽の熱と激しい風雨に倒れそうになることもありました。昔、シオンを目指して進んだ開拓者がそうであったように……。

映画『レガシー』（『われらの遺産』）の中で、相次ぐ苦難と行けども行けども果てしない荒野の中で、主人公のエライザ・ウィリアムズ・ウォーカーが涙ながらにこのように叫びます。「シオンなんてどこにもないわ。…どこにもありゃしないのよ。こんな信仰なんて、もう、捨てるわ……」と。そのとき、預言者ジョセフ・スミスの語った言葉は、こうでした。「主は心の清い民を集めておられます。」やがて彼らは、長い旅路の末、ソルトレーク盆地へ到着し、そこでさふらんのように花咲きました。（イザヤ35：1参照）彼らの長い旅路は、清めの旅路となり、全世界に福音を携えて行くシオンの基となったのです。

福音の実を結ぶ木

昨年12月7日、高松で開かれたファイヤサイドの中で、井上龍一教育部長が、29年前に改宗された一人の姉妹にこのように質問されました。

「姉妹が改宗されたとき、何人の方が教会に集っていらっしゃいましたか。」

「宣教師を入れて5、6人です。」

「そのとき、今のようにこんなたくさんの方が集うようになると想像できましたか。」

「いいえ、夢のようです。」

時折、わたしたちは、神の計画の一部分だけを見て、意気消沈してしまうことがあります。けれども30年という年月の中で見るとき、着実に根を張り、花を咲かせていたのです。

そして、今年3月25、26日の地方部神殿訪問。高松地方部から総数60人、うち青少年27人の参加者がありました。ステーキのときでさえ、こんなに参加したことはありませんでした。多くの青少年が主の御霊に触れ、よいものをたくさん感じ取ってきました。

4月7日からは各地で早朝セミナーが始まりました。眠い目をこすりながら……学校に行くための荷物をいっば

いに抱え、遅れまいと自転車を飛ばし、階段を必死で駆け上って来る姿には感動を覚えずにいられません。彼らの心はとても清らかで物事に感じやすく、時には聖霊に感じて涙することもあります。そんな彼らの後ろには、朝早くから起きてお弁当を作り、彼らを送り出す姉妹たちの姿があり、福音に添って家族を導いてきた神権者たちの姿があります。今年9月、彼らは開拓者150周年記念と四国伝道30周年を兼ねた劇をすることになっています。シナリオは彼らの手によって書き始められています。

四国の教会はまだまだ小さく、一人一人が抱えている問題は大きいです。でも、30周年を迎える今、春の到来を告げるように無数の新たなつぼみが開き始めたのです。これから10年、20年とたつときに、確実に四国の教会は発展し、大きな福音の実を結ぶ木となるでしょう。

あるとき、主は、一人の僕をお呼びになって言われました。

「ここに一つの土地があります。行って種をまき、世話をしなさい。やがて多くの実を結ぶ園になるでしょう。」

その僕は、二人の僕を召し、その地に送り込みました。二人の僕は熱心に働き、土を耕し、種をまき、一生懸命、世話をしました。

やがてその種は芽を出し、地に広がっていきました。芽が生長し、花が咲くに従って、多くの僕たちが遣わされました。これらの僕たちは自分を捨てて働きました。

芽はまだ柔かく、時折襲ってくる風雨や太陽の暑さに何度も倒れそうになります。その度に、僕たちは精根を尽くして芽を支えます。ただ、芽がいつか多くの実を結ぶことだけを待ち望みながら……。

この30年の間、四国の地で働いてくださった宣教師の方々、伝道部長や指導者の方々、また四国の地に携わったすべての教会員の方々に心から感謝しています。皆様が示してくださった愛と信仰によって、わたしたちはどんなに助けられたことでしょう。わたしたちは皆様が精根を傾けた地、四国を心から愛しています。

「それで、わたしの同胞よ、そのときにあなたがたは、その木があなたがたのために実を結ぶのを待ちながら示した、あなたがたの信仰と熱意と忍耐と寛容の報いを刈り入れるのである。」（アルマ32：43）

わたしたちは確かにこの福音が真実であると知っています。確かに主は生きておられます。わたしたちはこの福音を知ってどんなに幸せでしょう。わたしたちの感謝と愛が皆様のところまで届きますように。（あきやま・まちこ）



四国伝道30周年を記念して作られたポスター

家族としての改宗への道筋

——「形ある物は必ず壊れる。
物に執着してもね……」——

宇都宮地方部小山支部

中手 章

昨年12月21日、東京神殿の年内最後のセッションの日に、わたしと妻はエンダウメントと夫婦の結び固め、そして息子たちとの家族の結び固めを受けることができました。思えば、小山支部の教会に足を運ぶようになって約2年がたっていました。

人生の迷い

1994年の秋、44歳の誕生日を迎えたわたしは、この人生についての迷いを感じていました。製薬会社の社員としてのわたしは、「人より遅れたくない、人に負けたくない、人並みでいたい」などの考えで人生を生きてきました。「これでよいのだろうか。44歳にもなって自分の家の宗教(浄土真宗)についても何も理解していない」などと考え、仏教関係の読書をするようになっていました。

年が明けて1995年、正月行事も終え、1月17日に阪神大震災が発生しました。悲惨なニュースが連日テレビで報道されていました。妻の妹家族が神戸に住んでおり、安否が気がかりでしたが、無事であることを確認できました。

ある晩、わたしと妻は「形ある物は必ず壊れる。物に執着してもね……」などと話し合っていました。そのとき、妻から「家族で教会の日曜学校へ行ってみない」と言われました。わたしは「日曜学校か……。どこの教会」と聞くと、妻はわたしに場所を教えてくださいました。わたしはすぐにモルモン教会だと分かりました。「モルモンって、アルコール、たばこ、コーヒーもだめな戒律が厳しい道徳的な教会だろう。一度行ったら抜けられないぞ。」妻は子供の今後の教育を心配していたのでした。この世の中、どうしたら正しい考えを子供たちに教えられ、守ることができるのかといろいろ話し合った結果、次の日曜日に教会へ行くことに決

めました。

家族で初めて教会へ

1995年1月22日、わたしたち家族4人は、初めて小山支部を訪問しました。教会員たちは皆、わたしたちを温かく迎え入れてくれましたが、何となくすべての人々が世間と違った過剰な清潔感を持っているような雰囲気を感じました。

当日はちょうど支部大会の日で、菊地神殿長ご夫妻、熊沢伝道部長(前東京北伝道部長)が訪問されておりました。アメリカ、カナダ、ブラジルなどの国籍の人々も参加されており、国際的な明るさの中ですばらしいお話を聞くことができました。

それから2か月半、毎日曜日、教会へ足を運ぶようになりました。小山支部の宣教師、クリスチャンセン姉妹とフィネガー姉妹が週2回ぐらい我が家を訪問して、たどたどしい日本語に情熱を込め、福音を教えてくださいました。

バプテスマのチャレンジ

長老たちのヒンシー長老、マルチネス長老もわたしたちを助けてくれ、常に祈ってくれました。そして、4月2日がバプテスマチャレンジの日になりました。「たばこをやめられるか。コーヒー、お茶をやめられるか。つきあいのお酒をやめられるか。什分の一を納められるか。これまで教わったことが信じられるのか。ジョセフ・スミス、『モルモン書』は……。母親のことは……。」バプテスマのための迷いがありました。このまま訪問者でいられないのか……。小山支部の兄弟姉妹より「入ってみて、いやなら後でやめれば」「つきあいのお酒をやめても、飲み会で今まで以上に友人に心を尽くせば通じるよ」などの激励のアドバイスを頂きました。わたしにとっては当時、教わった内容をよく理解できたわけではなかったのですが、教会のすばらしい

兄弟姉妹や宣教師を選び、ともに歩んで行く選択をしたのでした。

3月19日に地下鉄サリン事件などもあり、宗教に対する警戒心もありましたが、4月2日わたしと妻は小山支部でバプテスマを受けました。

これまでのこの世の人々と決別するような覚悟と不安、そしてたくさんの教会員の愛を感じ、姉妹宣教師が歌ってくれた「見いだそうマイフレンズ」を聞いたとき、涙が止まりませんでした。

教会員となつてからの歩み

それから1年8か月の間、アロン神権、メルキゼデク神権を受け、支部書記の召しを受け、妻は扶助協会第二副会長の召しを受けました。その間、宣教師の転任に涙を流したり、疑問を持つこともあったり、「神様と自分の関係をしっかりと持たなければ」と感じました。特に感銘を受けた言葉は、つくばワードの関谷兄弟姉妹より「わたしたちは神の子です。子犬は大きくなったら、立派な体格の犬になります。わたしたちは……。」これを聞いたときは、大きな衝撃を感じました。

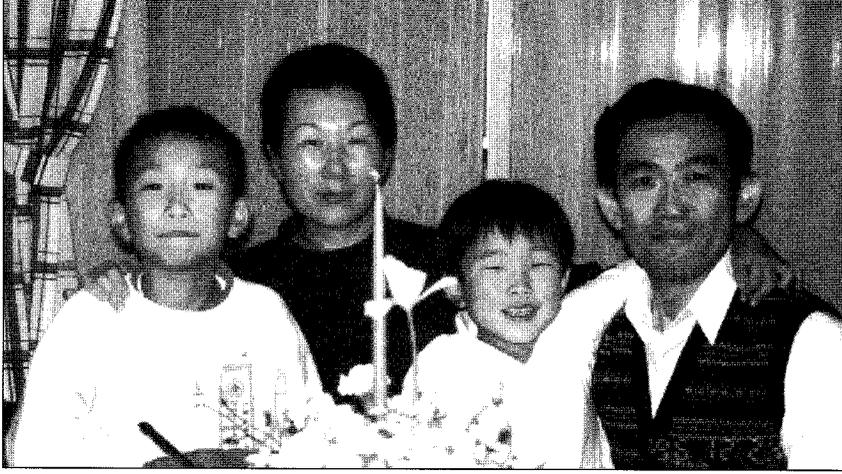
また、今年の宇都宮地方部のテーマ聖句(教義と聖約78:17-19)に天父の愛と感謝を知り、感銘を受けました。

感謝の念に満たされて

12月21日、東京神殿の礼拝堂でわたしは大いなる御霊に包まれ、感謝の涙が止まりませんでした。

わたしの父母、そして多くの先祖、わたしたちを見いだし導いてくれた多くの宣教師たち、小山支部の兄弟姉妹、東京神殿でわたしたちの儀式を手伝ってくれた方々、これまで出会った数多くの人々、これらの方々の一人でも欠けたら、わたしたちは、ここまで歩んでこられなかったでしょう。わたしの心は、感謝の気持ちで震えていました。

天のお父様とイエス様の愛、そしてこの教会が真実のまことの教会であることを知り、証することができます。これまで、わたしたちを導いてくれた方々に感謝をささげます。(なかて・あきら 支部書記)



中手ご家族

英会話サークルをきっかけに改宗、 家族の結び固めへ

——多くの兄弟姉妹との貴重な出会いに感謝——

宇都宮地方部小山支部
中手淳子

わたしは主人とともに、1995年4月2日に改宗しました。

1994年秋のある土曜日の昼下がり、主人や息子たちと小さなけんかをして、一人家にいたとき、ふと手にしたタウン情報誌に「やり直し英会話」というサークル紹介の記事を見つけました。そのときのわたしは、少し落ち込んでいましたので、何か前向きなことに飛び込みたい気持ちで、サークルの代表の方に電話しました。

当時、わたしは5歳の年中児と翌春入園を控えた3歳児の母親として忙しい毎日を送っていましたが、子育てだけに自分の時間が費やされるのを物足りなく思っていました。次男入園の暁にはぜひ、だれかと一緒に語学を学びたいと思っていました。

サークルの代表の方に、4月から参加したい旨お伝えしたところ、都合のよいときにいつでもいらしてくださいとのことでした。電話後、何だか心がパッと明るくなり、元気が出てきました。

宣教師との出会い

そして、11月19日、丁度我が家を訪れていた主人の母に次男を預け、先の代表の方と図書館で待ち合わせをして、サークルの見学へと出かけて行きました。ところが、この日から「近くの教会の宣教師が、ボランティアでわたしたちを教えてくださいることになったので、これからその教会へ行きますよ」と

のことで、ご一緒しました。この日が、初めてわたしが小山支部へ足を運んだ記念すべき日となりました。姉妹宣教師を紹介して下さった沖出姉妹(八千代ワード)とともに子供連れグループを新たに作り、数人のお母さんたちと楽しい英会話の時間が始まりました。

ある日、子供連れグループは、わたしと息子だけでした。クリスチャン姉妹から英会話を教わりましたが、途中から英会話を離れ、世界平和や子育てについて話が弾みました。彼女は、わたしの考えを熱心に聞いてくださり「中手さんの考えには、まったく同じとは言えませんが、わたしたちの学んでいる聖典の中の教えと一致する所が多くあります」と言われて、帰りに「ぜひ読んでみてください」と、幾つかの章に印を付けて『モルモン書』を下さいました。

その中で、特に印象に残った聖句が二つありました。それは「信仰とは物事を完全に知ることはない」(アルマ32:21)という聖句と、モロナイ書第7章です。中でも45節「慈愛は長く堪え忍び、親切であり、ねたまず、誇らず……」の聖句は、強く心に残りました。

家族で日曜学校へ

数日後、(日々流れている暗いニュースを耳にする度に息子たちを就学させることさえ不安に思っていたわたしは)家族で日曜学校へ行ってみようと思案しました。丁度、阪神大震災の直後で、人生のむなしさや形ある物のかなさを思い知らされたときでもあり

ました。主人も思うところがあったようで、すぐに賛成してくれました。

沖出姉妹からプログラムと時間を教わり、1995年1月22日に家族4人で出かけました。その日は、いみじくも支部大会の日であり、菊地良彦神殿長ご夫妻、熊沢伝道部長といった方々にお目にかかり、お話を伺う機会に恵まれました。今、思い起こしても、何もかもがあらかじめ準備されていたのではと思えるくらい多くの兄弟姉妹との貴重な出会いがありました。

このように、豊かに祝福されているとき、わたしはほんとうに神を求めていたのだと思います。そして、たくさんの方々の愛に導かれて、1995年4月2日にバプテスマを受けることができました。真実の教会に巡り会うことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

改宗後の時にかなった祝福

改宗後も、いつも元気いっぱいとはまいませんが、迷いがあるとき、寂しいときは必ずフェローシップを頂きます。あるとき、宣教師が訪ねて来られ、バプテスマのときの思い出の曲「見いだそうマイフレンド」を歌って下さいました。疲れて、悩んでいたときでしたので、うれしくて涙が止まりませんでした。お父様の愛を感じ、勇気がわいてきました。そして、とても温かな気持ちになりました。

時にかなった祝福をいつも受けてきましたが、1996年12月21日、わたしたちはたくさんの方々に見守られて、家族で神殿の儀式を受けることができました。当日も懐かしい方々の参列を得て、言葉に言い尽くせないほどの愛を頂き、無事にすべての儀式を終えることができました。心から感謝申し上げます。

モロナイ書第7章で示されているように、いつもイエス様の愛で満たされるように、御子に似た者となれるように、またこの希望を持てるように、さらに清く、主に近づくように、熱意を込めて祈り続けたいと思います。

そして、息子たちが同じ思いを持ってくれるように助けたいと思います。(なかて・じゅんこ 支部扶助協会第二副会長)

「子連れ英会話」サークルが 伝道のきっかけに

—— 家族の改宗を喜ぶ ——



東京東ステーク
八千代ワード
沖出秀子

19 96年12月21日は、愛する中手ご家族が東京神殿で結び固めの儀式を受けられた日です。わたしは、そこに中手姉妹の付添人として参加させていただき、身に余る祝福と喜びを感じていました。

「子連れ英会話」 サークルの出会い

中手ご家族との出会いは、2年前、わたしたち親子が小山に住んでいたときのことです。あるきっかけから始めた「子連れ英会話」のサークルに、中手姉妹が参加されたのが最初でした。この会は、一般の施設を借りて行いましたが、軌道に乗ったところに当時の東京北伝道部の熊沢部長の許可を得て宣教師からの英語はもちろんのこと、ベビーシッターやそのほかいろいろな助けを受けるようになり、集会所も教会へと移動しました。そして、中手兄弟姉妹は福音を受け入れる準備がよくなっていましたのでバプテスマを受けるに至りました。

英語を通して 伝道することを目標に

わたしは25年前に改宗し、そのころから英語を通して伝道することを一つの大きな目標としてきました。そして、今日まで主からたくさんの導きと祝福を受けましたが、中でも彼らの改宗は大きなプレゼントとなっています。

伝道の方法として英語を選んだのには次のような経験があったからです。バプテスマを受けた後、福音を伝えた

い思いが強くなり、そのための方法やわたしにできることは何だろうかといういろいろ模索しました。そのようなとき、働いていた幼稚園で園児の母親が、子供たちに家で英語を教えていることを耳にしました。子供好き、英語好き、結婚後も続けられる、それを通して情緒の触れ合いもしやすいなど、わたしの望んでいたこととの共通点を見だし、これが主の示してくださった答えであると感じました。

リックスカレッジで 幼児教育を学ぶ

英語を伝道に活用しようと思っても、アメリカ人宣教師のようにはすぐできませんし、彼らがすでに良い活動を行っていました。わたしが考えたのは、教会の英会話に時間的に、そのほかの制約で参加しにくい主婦や子供たちを対象にすることでした。専任宣教師としての召しを終えてから、このタラントを習得したいと考えてリックスカレッジに留学し、幼児教育を学びました。

帰国後は、ある英語関係の企業に就職し、そこで教材作りやインストラクターの指導、教室の開設、生徒募集、また自らも教えるなどして自分で教室を開けるようなことをいろいろ経験させていただきました。

その後は、結婚して5人の子育てに追われ、途中で体調を崩して生まれた子供とともに1年ほど床に伏すというつらいときもありましたが、元気になってからは家で英語を教える機会に恵まれました。

結婚後、7回目の引っ越し先である小山では、育児が一段落しましたので、2、3歳の末娘たちの手を引きながら「子供連れ英会話」をスタートさせたことが、今回の喜ばしいことにつながったと思います。

「一人でもわたしのもとに 導くならば……」

中手親子が永遠に結び固めを受ける儀式に立ち会わせていただいたとき、いろいろなことが頭をよぎりました。「小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられるのである。……主なる神は偉大な永遠の目的を達するために、様々な手段によって事を行われる。」(アルマ37:6-7)

「あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽くし、一人でもわたしのもとに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約18:15)

「新しい地には、福音を受け入れる準備ができていて、あなたを待っている人がいます。」これは宣教師の転任の際によく聞いた言葉ですが、神殿の中で奇跡的なことが幾つか起きました。中手姉妹とわたしは、血を分けた姉妹以上に、前世では親しい関係だったと強く感じました。まさしくわたしが彼女を教会へ導くために任されていた人だったと思います。そして、その責任を果たすことができた今は、深い安堵感を味わっています。また彼らのバプテスマ日は、偶然にもわたしの誕生日と同じ4月2日でしたので、決して忘れることはないと思います。

伝道から受ける喜び

ニーファイ第二書第2章25節では「人が存在するのは喜びを得るためである」と書かれていますが、わたしは伝道から受ける喜びほど大きいものはないと思っています。また、主のために行っているでも神様はそれ以上の祝福を与えてくださいます。いまだ英語は上達していませんが、これを通して多くの方々と親しく交わることができ、たくさんの祝福と喜びを頂きました。これからは、伝道の枠を広げるためにもほかのタラントを身に付けて主の業に献身したいと思います。

今では、中手ご家族からたくさんの模範と励ましを受けられますことに感謝しています。(おきで・ひでこ)

5月に召された専任宣教師

第211期生 20人



前列左から1~11, 後列左から12~20

〈名前〉

1. 石丸 裕美
2. 前田 和子
3. 寺田 恵
4. 村山 信子
5. 宮川 知子
6. 長濱百合子
7. 落合 園美
8. 中野 智子
9. 阪本早百合
10. 喜納 るつ
11. 横山 尚美
12. 玉屋 志門
13. 伊藤 栄亮
14. 榎本 義行
15. 佐藤 誠呼人
16. 松橋 基
17. 関口 暖
18. 神成 昭仁
19. 名嘉真尚也
20. 大嶺 義人

〈出身地〉

- 熊本地方部/佐世保支部
 東京東ステーク/千葉ワード
 京都ステーク/西京極ワード
 沖縄那覇ステーク/石垣支部
 札幌ステーク/厚別ワード
 神戸ステーク/神戸ワード
 東京南ステーク/渋谷ワード
 奈良地方部/大和郡山支部
 奈良地方部/大和郡山支部
 長野地方部/諏訪支部
 東京東ステーク/鎌ヶ谷ワード
 名古屋ステーク/豊橋ワード
 大阪堺ステーク/橋本支部
 東京東ステーク/鎌ヶ谷ワード
 札幌ステーク/滝川ワード
 札幌西ステーク/函館ワード
 東京東ステーク/鎌ヶ谷ワード
 東京東ステーク/鎌ヶ谷ワード
 沖縄那覇ステーク/那覇東ワード
 沖縄那覇ステーク/沖縄ワード

〈伝道地〉

- 名古屋伝道部
 札幌伝道部
 東京北伝道部
 神戸伝道部
 福岡伝道部
 札幌伝道部
 岡山伝道部
 福岡伝道部
 福岡伝道部
 名古屋伝道部
 福岡伝道部
 仙台伝道部
 札幌伝道部
 福岡伝道部
 名古屋伝道部
 福岡伝道部
 福岡伝道部
 東京北伝道部
 東京北伝道部

役員の変動

1997年3月15日から1997年4月14日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

- 静岡ステーク焼津支部
 支部長: 原川 藤夫
- 大阪ステーク枚方ワード
 監督: 平田 勝士
- 釧路地方部釧路支部
 支部長: 松山 紀章
- 青森地方部八戸支部
 支部長: 木村 秋夫

新刊のお知らせ



●『家庭のタベ』
 ビデオ補助教材
 (国際版)

カタログ番号
 53736 300

VHS 1,000円

既刊『家庭のタベアイデア集』

を補足するビデオ

オです。家庭のタベのレッスンに使用できる21プログラムを収録。『アイデア集』対応ページ番号付き。

皆さんの原稿を募集しています

◎ご投稿の際には連絡先(住所、電話番号)、教会での責任(役職名)、所属ユニット名を記入し、写真を同封のうえお送りください。原稿は一部手直しさせていただくことがあります。

◎お願い——海外に召される日本人宣教師を紹介します。伝道の召しを受け取り次第、編集室に写真を添えてお知らせください(氏名〔フリガナ〕、伝道部名、召された月を明記)。

◎あて先: 〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会 『聖徒の道』編集室

☎03(3440)2666 FAX 03(3440)3275

*

海外に召された日本人宣教師



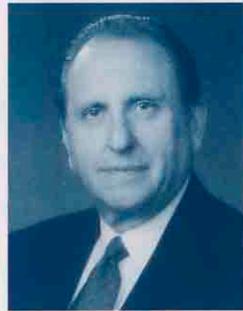
関口 奈津子
 ニュージーランド・オークランド伝道部
 1997年2月
 東京東ステーク/鎌ヶ谷ワード出身



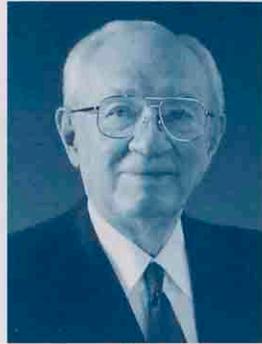
久保田 佳子
 ソルトレーク・テンブルスクウェア訪問者センター伝道部
 1997年5月
 大阪東ステーク/高槻ワード出身

末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

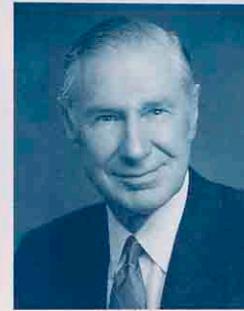
大管長会



第一副管長
トーマス・S・モンソン



大管長
ゴードン・B・ヒンクレイ



第二副管長
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会



ボイド・K・パッカー



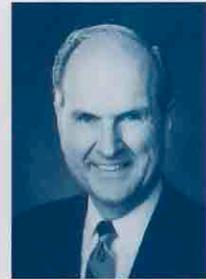
L・トム・ペリー



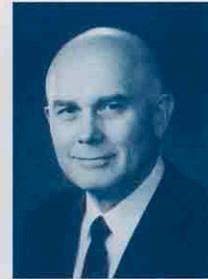
デビッド・B・ヘイト



ニール・A・マックスウェル



ラッセル・M・ネルソン



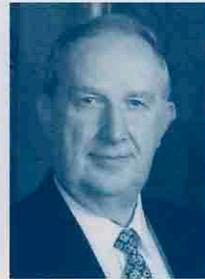
ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



ジョセフ・B・ワースリン



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



ヘンリー・B・アイリング

七十人会長会



L・アルヴィン・ポーター



ジョー・J・クリステンセン



モンティ・J・ブラフ



W・ユージン・ハンセン



ジャック・H・ゴズリング



ハロルド・G・ヒラム



アール・C・ティンギー

七十人第一定員会



アンヘル・アブレア
 カロス・H・アマーズ
 ニール・L・アンダーセン
 ダラス・N・アーチボルド
 ベン・B・バンクス
 メリル・J・ペイトマン
 ウィリアム・R・ブラッドフォード
 F・エンツィオ・ブッシュ
 ジョン・K・カーマック
 D・トッド・クリストファーソン
 J・リチャード・クラーク
 ゲーリー・J・コールマン
 スペンサー・J・コンティエー
 ジーン・R・クック
 ロバート・K・デレンバック
 ジョン・B・ディクソン
 チャールズ・ディディエ
 ローレン・C・ダン
 ボーン・J・フェザーストーン
 ジョン・H・グローバーク
 フルース・C・ヘーフェン
 F・メルビン・ハモンド
 F・バートン・ハワード
 ジェイ・E・ジェンセン
 マーリン・K・ジェンセン
 ケネス・ジョンソン
 L・ライオネル・ケンドリック
 ウィリアム・ロルフ・カー
 菊地良彦
 クリー・L・コッフオード
 ティーン・L・ラーセン
 ジョン・M・マドセン
 リン・A・ミケルセン
 アレクサンダー・B・モリソン
 デニス・B・ノイエンシュバンダー
 グレン・L・ペイス
 ジェームズ・M・バラモア
 アンドリュウ・W・ピーターズン
 レックス・D・ピネガー
 ヒュー・W・ピノック
 ロナルド・E・ポールマン
 カール・B・プラット
 セシル・D・サミュエルソン・ジュニア
 デビッド・E・ソレンセン
 ティーター・F・ワークトドルフ
 ロバート・E・ウエルズ
 W・クレイグ・ズウィック

七十人第二定員会



リチャード・D・オルレッド
 リン・アルバレス
 L・エドワード・ブラウン
 C・マックス・コールドウェル
 エラン・A・コール
 シェルドン・F・チャイルド
 リチャード・E・クック
 クエンティン・L・クック
 クラウディオ・R・M・コスタ
 ジョン・E・ファウラー
 デュエイン・B・ジェラード
 ウェイン・M・ハンコック
 J・ケント・ジョリー
 W・ドン・ラッド
 アウグスト・A・リム
 ジェームズ・O・メーンズ
 リチャード・J・メインズ
 V・ダラス・メルル
 デール・E・ミラー
 フルース・D・ポーター
 リン・G・ロビンズ
 デニス・E・シモンズ
 ドナルド・L・ステーリー
 F・デビッド・スタンレー
 戴國源 (タイクオック・ユン)
 ジェラルド・L・テラー
 リチャード・E・ターラー・シニア
 フランシスコ・J・ピーナス
 ランス・B・ウィックマン
 リチャード・B・ワースリン

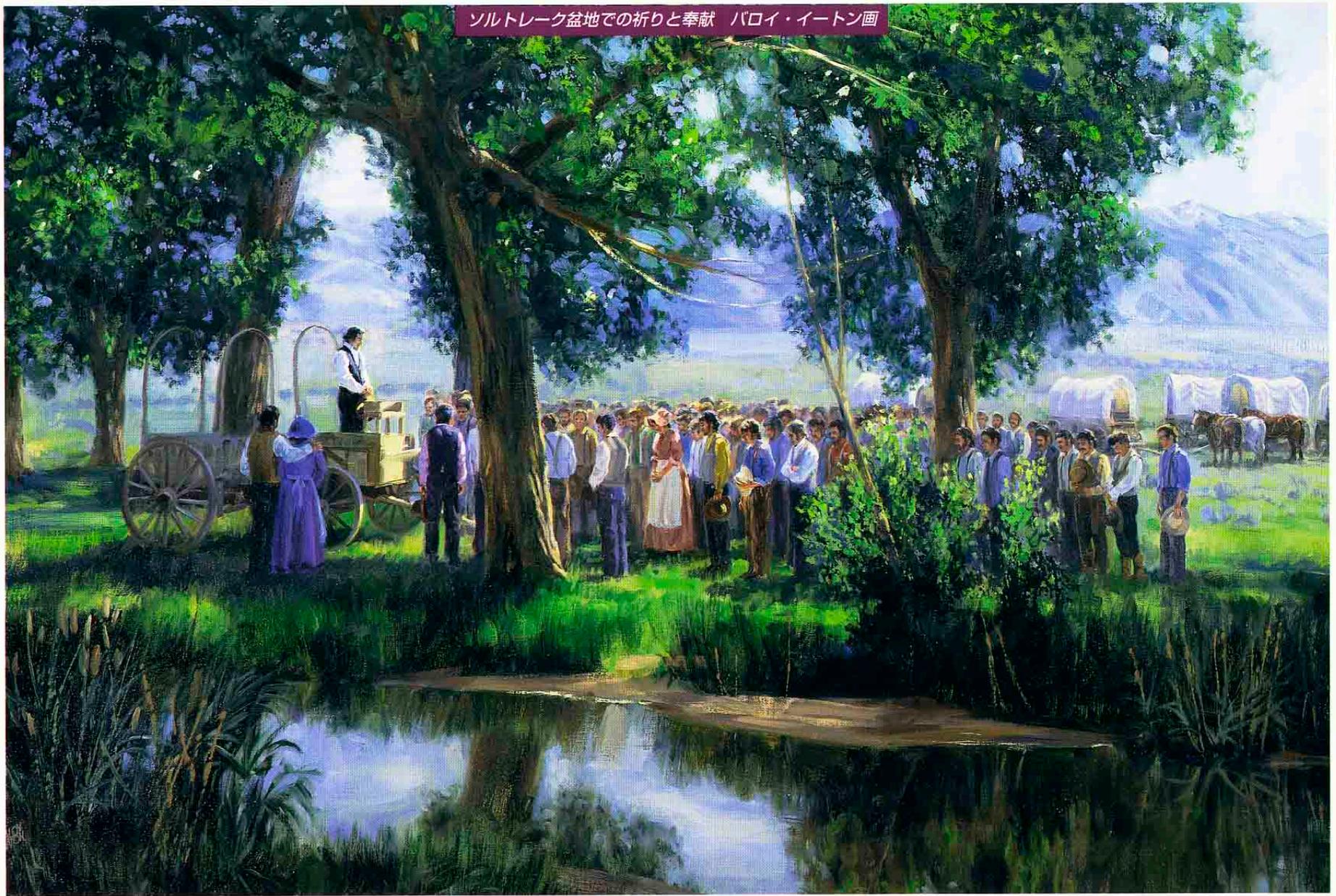
管理監督会



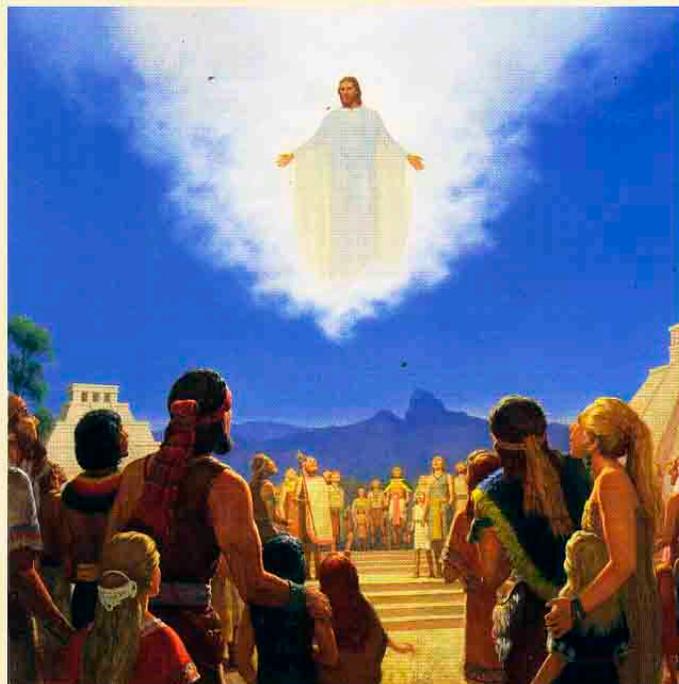
第一副監督 リチャード・C・エッジリー
 管理監督 H・デビッド・バートン
 第二副監督 キース・B・マクマリン

(1997年4月5日現在)

ソルトレーク盆地での祈りと奉献 パロイ・イートン画



1847年7月23日金曜日の朝、病気のため一日遅れでソルトレークに到着することになったプリガム・ヤング大管長から割り当てを受けた開拓者の一団は、主にその地を奉獻するため、シティークリークの南側の支流近くに集まった。十二使徒定員会のオーソン・プラット長老が次のような祈りをささげた。
「全能の神に感謝します。野営の日々を見守り、旅の間、繁栄を与え、無事到着させてくださったことを、感謝申し上げます。」



「天あめから一人の男の方が降くだって来られるのが見えた。この御方は白い衣を着ておられ、降って来て群衆の中に立たれた。……そこでこの御方は、片手を差し伸べて人々に言われた。『見よ、わたしはイエス・キリストであり、世に来ると預言者たちが証あかしした者である。』」（3ニーファイ11：8-10）

